



令和 6 年度

(2 0 2 4)

農作物有害動植物発生予察事業年報

北 海 道 農 政 部
北 海 道 病 害 虫 防 除 所
北海道立総合研究機構農業研究本部

目 次

A	事業の目的	1
B	事業実施の方針と重点	1
C	事業対象の病害虫	1
D	事業組織及び職員	2
E	事業成績	
I	気象経過と病害虫の発生状況	7
II	作物生育概況	22
III	指定及び指定外有害動植物に関する調査成績	
(I)	(I) 水稻の病害虫	33
(II)	(II) 小麦の病害虫	67
(III)	(III) とうもろこしの病害虫	77
(IV)	(IV) 大豆の病害虫	80
(V)	(V) 小豆の病害虫	85
(VI)	(VI) 菜豆の病害虫	89
(VII)	(VII) ばれいしょの病害虫	92
(VIII)	(VIII) てんさいの病害虫	100
(IX)	(IX) たまねぎの病害虫	110
(X)	(X) ねぎの病害虫	115
(X I)	(X I) ながいもの病害虫	117
(X II)	(X II) にんじんの病害虫	117
(X III)	(X III) だいこんの病害虫	118
(X IV)	(X IV) キャベツ・ブロッコリーの病害虫	120
(X V)	(X V) 野菜類の病害虫	126
(X VI)	(X VI) りんごの病害虫	127
(X VII)	(X VII) その他果樹の病害虫	143
IV	令和7年度に特に注意を要する病害虫並びに 令和6年度に新たに発生を認めた病害虫	145
V	令和6年度主要病害虫発生程度別面積及び防除面積	151
VI	侵入調査事業	154
VII	その他調査	154
F	諸報告、情報連絡、協議会等	155
G	B L A S T A Mによる葉いもちの広域発生期の判定結果	159
H	北海道農業試験会議において報告された以外の道内における新発生病害虫の記録	161

A 事業の目的

植物防疫法第22条、第23条及び第31条の定めるところにより、国が指定する有害動植物並びに国及び北海道が必要と認める指定外有害動植物につき、その発生状況、気象状況及び作物生育状況等を調査し、それらの有害動植物の発生時期、発生量、発生地域及び被害を予察し、その情報を関係機関に提供して損害を未然に防止または軽減する。

B 事業実施の方針と重点

「病害虫発生予察事業の実施について」に基づく調査を実施したほか、北海道独自で実施している調査の分担及び事業の効率化を図った。巡回調査の実施については、地域の重要作物等の推移に配慮し、内容の充実を図り、所期の目的達成に努めた。発生現況調査についても、地域における重要病害虫の発生動向の把握に努めた。また情報伝達の迅速化について検討した。

C 事業対象の病害虫

作物	指 定	指 定 外
水 稲	いもち病、縞葉枯病、苗立枯病、ばか苗病、紋枯病 イネドロオイムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類(アヒガホミドリカサメ、アサツカサメ)、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ	種子伝染性細菌病 イネミギワバエ、アウヨトウ
麦 類	うどんこ病、赤かび病、さび病類(赤さび病)	雪腐病、眼紋病 ムギクロハモグリバエ、ムギギモグリバエ、アブラムシ類(ムギヒガナアブラムシ、ムギビレアブラムシ)
とうもろこし	オオタバコガ(※)	アワノメイガ、ツマジロクサヨトウ
豆 類	アブラムシ類(ジャガイモアブラムシ)、吸汁性カメムシ類、マメシンクイガ	べと病、わい化病、菌核病、灰色かび病、茎疫病、落葉病、黄化病 食葉性鱗翅目幼虫、タネバエ、アズキノメイガ、マメアブラムシ
ばれいしょ	疫病 アブラムシ類(ジャガイモアブラムシ、モモアブラムシ、ワアブラムシ)	塊茎腐敗、黒あし病、軟腐病、そうか病、粉状そうか病
てんさい	褐斑病、黄化病(旧西部萎黄病) ヨトウガ(※)	根腐病(黒根病を含む)、そう根病 テンサイモグリハナバエ、テンサイトビハムシ、シロオビノメイガ
たまねぎ	アザミウマ類(ネギアザミウマ)	白斑葉枯病、軟腐病、乾腐病 タマネギバエ(タネバエを含む)、ネギハモグリバエ
ね ぎ	さび病、べと病 アザミウマ類(ネギアザミウマ)、ネギコガ、ネギハモグリバエ	
にんじん	黒葉枯病	
だいこん	アブラムシ類(モザイク病)	軟腐病 キスジトビハムシ
キャベツ	コナガ(※)、ヨトウガ(※)、モンシロチョウ	
ブロッコリー	コナガ(※)、ヨトウガ(※)	
野 菜 類	オオタバコガ(※)、ハスモンヨウトウ、シロイチモジヨトウ	タマナヤガ
りんご	黒星病、斑点落葉病 シンクイムシ類(モザイク病)、ハダニ類(リンゴハダニ、ナミハダニ)、ハマキムシ類(ミダレカクモンハマキ、リンゴカクモンハマキ、リンゴモンハマキ)	モニリア病、腐らん病 キンモンホソガ
ながいも	アブラムシ類	
そ の 他	指定・指定外病害虫に含まれないが、必要がある病害虫並びに突発性病害虫。	北海道として発生動向を把握しておく必要

(※)は、作物共通として指定されている有害動植物

D 事業組織及び職員

1. 道農政部関係職員

(令和6年4月1日現在)

所 属	職 名	氏 名
農 政 部 生産推進局 技術普及課	農 政 部 長	水戸部 裕
	食の安全・みどりの農業推進監	山口 和 海
	生産振興局長	牧野 充
	技術支援担当局長	丸子 剛 史
	技術普及課長	原 俊彦
	課長補佐(植物防疫)	高 谷 泰 範
	植物防疫係長	山 脇 豪 直
	上席普及指導員 [道総研農業研究本部駐在]	高 田 一 幸
	主査(普及指導) [道総研上川農試駐在]	直 井 美
	主査(普及指導) [道総研北見農試駐在]	飯 田 麻 衣

2. 病虫害防除所

(令和6年4月1日現在)

職 名	氏 名
所主 長 [技術普及課長兼務] 主 幹 査 主 査	原 俊彦 新 智之 中 村 圭 志

3. 病虫害発生予察調査委託業務処理担当者 (委託先：北海道立総合研究機構農業研究本部)

(令和6年4月1日現在)

所 属	職 名	氏 名
中央農業試験場病虫害部	病虫害部長	小 松 勉
	研究主幹(予察診断グループ)	西 脇 由 恵
	主査(予察)	野 津 あゆみ
	主査(診断システム)	山 名 一
	研究主任	美 濃 健 一
	研究主任	武 澤 友 二
	研究主任	荻 野 瑠 衣
	研究職員	佐々木 太陽
	研究主幹(病虫害グループ)	三 宅 規 文
	主任主査(防除技術)	新 村 昭 憲
	研究主査	橋 本 直 樹
	研究主任	齊 藤 美 樹
	研究職員	中 島 賢 音
	研究職員	佐 藤 翠
上川農業試験場研究部	主任主査(病虫)	長 濱 恵
	研究主任	栢 森 美 如
	研究職員	佐々木 大 介
	専門研究員	古 川 勝 弘
道南農業試験場研究部	研究主幹(作物病虫グループ)	三 澤 知 央
	主査(病虫)	青 木 元 彦
	研究主査	池 田 幸 子
	研究職員	松 原 慧
十勝農業試験場研究部	主査(病虫)	東 岱 孝 司
	研究主査	白 井 佳 代
	研究主任	丸 山 麻 理
	研究主任	村 田 暢 明

所 属	職 名	氏 名
北見農業試験場研究部	主査(病虫) 主査(センチュウ) 研究主任 研究主任	小倉玲奈 小澤徹 森万菜 下間悠 実士
花・野菜技術センター研究部	研究主幹 主査(病虫) 研究主任	小野寺鶴将 佐々木純 藤根統

4. 総合振興局・振興局発生子察事業担当職員

(令和6年4月1日現在)

所 属	職 名	氏 名
空知総合振興局産業振興部農務課	技専門主係	白上崎梨音
石狩総合振興局産業振興部農務課	門政主係	上野山幸雅
後志総合振興局産業振興部農務課	主主技主	丸坂山井千拵
日高総合振興局産業振興部農務課	主主技主	中飯沼千侑
渡島総合振興局産業振興部農務課	技専門主	飯沼澤伸一
檜山総合振興局産業振興部農務課	主主技主	國竹森井裕
上川総合振興局産業振興部農務課	主主技主	鳥山川友
留萌総合振興局産業振興部農務課	技専門主	石白川玲
宗谷総合振興局産業振興部農務課	技専門主	山本紗
十勝総合振興局産業振興部農務課	技専門主	山本紗
釧路総合振興局産業振興部農務課	技専門主	米山貴

5. 農業改良普及センター病害虫発生子察事業担当職員

(令和6年4月1日現在)

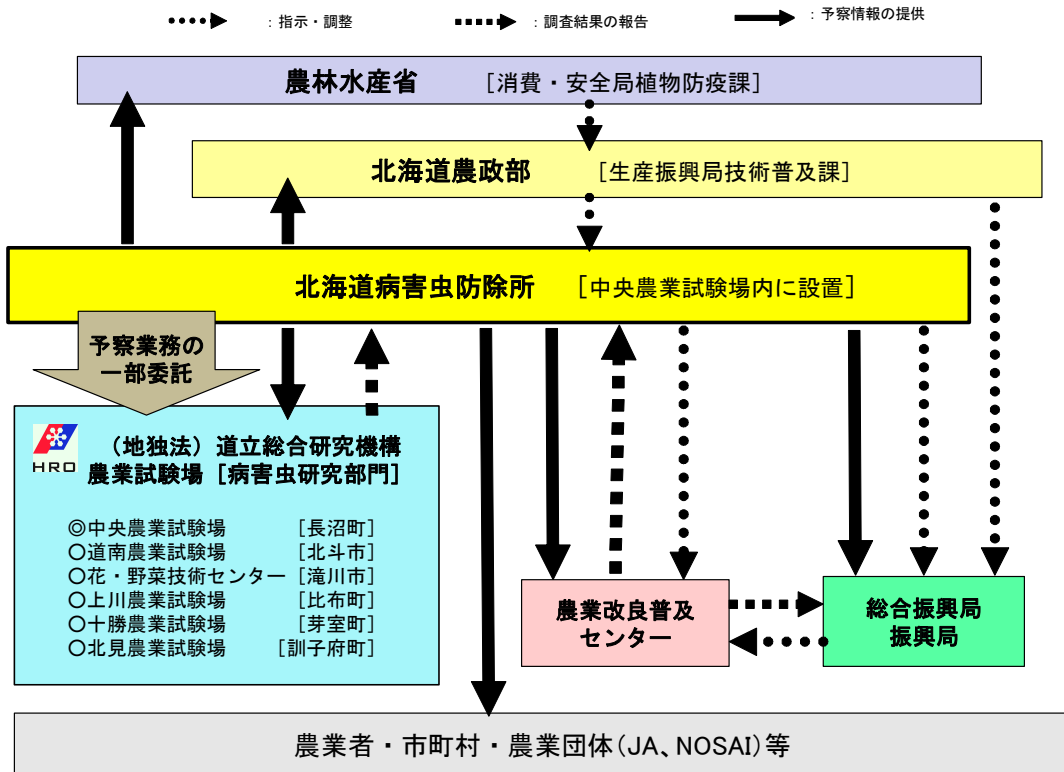
普及センター名	職 名	氏 名	担 当 市 町 村 名
空知農業改良普及センター	主任普及指導員	小柴潤一	全体窓口
空知本所	主 査	森 良 夫	岩見沢、三笠、美唄、月形
空知南東部支所	専門普及指導員	小 林 聡	由仁、栗山、夕張
空知南西部支所	専門普及指導員	坂 内 泰 輔	長沼、南幌
中空知支所	普及指導員	平 石 千 江	奈井江、浦臼、上砂川、歌志内、砂川、新十津川、芦別、赤平、滝川
北空知支所	専門主任	生 駒 幸 樹	妹背牛、深川、秩父別、雨竜、北竜、沼田
石狩農業改良普及センター	主 査	川 田 恒	全体窓口
石狩本所	専門主任	秋 元 美代子	千歳、恵庭、北広島、江別
石狩北部支所	専門主任	松 田 耕	石狩、新篠津、当別、札幌
後志農業改良普及センター	地域第三係長	大 平 誠	全体窓口
後志本所	専門普及指導員	笹 田 勇 也	ニセコ、蘭越、真狩、留寿都、喜茂別、京極、倶知安、岩内、共和、泊、神恵内、島牧、黒松内、寿都
北後志支所	地 域 係 長	平 田 修 一	赤井川、仁木、余市、小樽、古平、積丹

普及センター名	職名	氏名	担当市町村名
胆振農業改良普及センター	主任普及指導員	高松 砂織	全体窓口
胆振本所	主査	川岸 理恵	室蘭、登別、伊達、壮瞥、洞爺湖、豊浦
東胆振支所	地域第一係長	高田 和明	むかわ、厚真、安平、苫小牧、白老
日高農業改良普及センター	主査	小林 佐代	全体窓口
日高本所	主査	柿崎 由紀	新冠、新ひだか、えりも、様似、浦河
日高西部支所	主査	南辻 牧子	平取、日高
渡島農業改良普及センター	主査	竹内 正信	全体窓口
渡島本所	地域第一係長	齊田 純子	函館、北斗、七飯、鹿部、森、松前、福島、知内、木古内
渡島北部支所	専門普及指導員	山田 孝彦	八雲、長万部
檜山農業改良普及センター	主任普及指導員	羽賀 安春	全体窓口
檜山本所	主任普及指導員	羽賀 安春	上ノ国、江差、厚沢部、乙部、奥尻、八雲町熊石区
檜山北部支所	地域係長	新井 菊江	せたな、今金
上川農業改良普及センター	主査	草野 裕子	全体窓口
上川本所	地域第二係長	白井 淳	旭川、鷹栖、上川、当麻、比布、愛別
富良野支所	専門主任	南 忠	占冠、南富良野、富良野、中富良野、上富良野
大雪支所	地域第二係長	大沼 千佐子	美瑛、東川、東神楽
士別支所	地域第一係長	千川 明子	和寒、剣淵、士別、幌加内
名寄支所	地域係長	風間 基充	名寄
上川北部支所	専門主任	長谷 恵理	美深、音威子府、中川、下川
留萌農業改良普及センター	主任普及指導員	橋本 忠浩	全体窓口
留萌本所	専門普及指導員	田中 駿介	苫前、羽幌、初山別、遠別、天塩
南留萌支所	主査	近藤 智	増毛、留萌、小平
宗谷農業改良普及センター	主査	佐藤 康司	全体窓口
宗谷本所	主査	佐藤 康司	枝幸、中頓別、浜頓別、猿払
宗谷北部支所	主査	高木 啓詔	豊富、稚内、幌延、利尻、利尻富士、礼文

普及センター名	職名	氏名	担当市町村名
網走農業改良普及センター	主査	樋口 いずみ	全体窓口
網走本所	地域第二係長	千田 智子	置戸、訓子府、北見
清里支所	普及職員	萬歳 清幸	清里、斜里、小清水
網走支所	主査	松浦 大地	網走、大空（東藻琴）
美幌支所	地域係長	竹永 遵一	津別、美幌、大空（網走支所の担当区域除く）
遠軽支所	専門普及職員	上原 和也	遠軽、佐呂間、湧別
紋別支所	専門普及指導員	斉藤 真弥	紋別、滝上、西興部、興部、雄武
十勝農業改良普及センター	主査	坂本 祥一	全体窓口
十勝本所	普及指導員	眞鍋 朋彦	更別、中札内、帯広、芽室
十勝東部支所	普及指導員	藤本 万里	豊頃、浦幌、幕別、池田
十勝東北部支所	専門主任	森 貞美智子	本別、足寄、陸別
十勝北部支所	専門普及指導員	赤津 哲也	音更、士幌、上士幌
十勝西部支所	普及職員	石山 志穂	清水、鹿追、新得
十勝南部支所	普及職員	東 健太郎	広尾、大樹、幕別町忠類
釧路農業改良普及センター	主査	山田 城也	全体窓口
釧路本所	主査	山田 城也	釧路町、標茶、弟子屈
釧路東部支所	地域係長	中村 亘	浜中、厚岸
釧路中西部支所	主査	水上 志穂	釧路市、白糠、鶴居
根室農業改良普及センター	主任普及指導員	犬飼 厚史	全体窓口
根室本所	専門普及指導員	植月 奈穂子	根室、別海
北根室支所	主査	阿部 毅	中標津、標津、羅臼、別海（大成、本別の区域に限る）

《参 考》

北海道における病害虫発生予察事業実施体制図



E 事業成績

I 気象経過と病害虫の発生状況

春季

3月：高気圧に覆われて晴れた日多く、かなりの多照だったが、寒気の影響で気温は平年並。

3月は、高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、北からの寒気の影響を受けた日もあったため、北海道地方の平均気温は3月としては7年ぶりに平年並となり、日照時間はかなり多かった。また、オホーツク海側では降水量がかなり少なく、降雪量も少なかった。一方、太平洋側では低気圧の影響で大雨となった日があったため、降水量は平年並となった。

上旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間は多かった。また、降水量はオホーツク海側で少なかった。一方、北からの寒気の影響を受けやすかったため、気温は低く、日本海側の降雪量は多かった。中旬：低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わった。日本海側では晴れた日が多く、日照時間は多かった。一方、太平洋側とオホーツク海側では、北海道の南を通過した低気圧の影響を受けやすかったため、降水量は太平洋側で多く、日照時間はオホーツク海側で少なかった。下旬：高気圧に覆われて晴れた日が多く、南から暖かい空気が流れ込む日が多かった。このため、日照時間が多く、気温は高かった。また、北海道地方の降雪量はかなり少なかった。特に、太平洋側及び北海道地方の降雪量の平年比は、1961年の統計開始以降、3月下旬として少ない方から第1位の記録となった。降水量は、オホーツク海側でかなり少なく、旬降水量の平年比は、1946年の統計開始以降、3月下旬として少ない方から第2位の記録となった。太平洋側では、29日に低気圧の影響により広い範囲で大雨となったため、多かった。

4月：暖かい空気に覆われやすく、歴代1位の高温

4月は、月を通して暖かい空気に覆われやすく、中旬と下旬には上空1500m付近が6月下旬並の暖気に覆われる日もあった。また高気圧に覆われて晴れた日が多く、日本海側を中心に日照時間が多かった。これらの要因により、気温は全道的にかなり高かった。月平均気温の平年差は、日本海側、オホーツク海側、太平洋側及び北海道地方で、1946年の統計開始以降4月として高い方から第1位の記録となった。降水量は、低気圧の影響を受けにくかった日本海側でかなり少なく、オホーツク海側で少なかった。

上旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日本海側を中心に日照時間がかなり多かった。日本海側の日照時間の平年比は、1961年の統計開始以降、4月上旬として多い方から第1位の記録となった。降水量は日本海側でかなり少なかったが、9日に北海道の南を北東に進んだ低気圧の影響により、太平洋側では多かった。気温は、暖かい空気に覆われやすく、低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込んだ日もあったため、かなり高かった。中旬：高気圧の圏内となることが多く、低気圧の影響を受けにくかったため、降水量は少なかった。また、暖かい空気に覆われやすく、北海道の北を通過する低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込んだ日もあったため、気温はかなり高かった。旬平均気温の平年差は、日本海側、オホーツク海側、太平洋側及び北海道地方で、1946年の統計開始以降4月中旬として高い方から第1位の記録となった。下旬：天気は数日の周期で変わったが、21日から23日にかけてオホーツク海からの湿った気流の影響を受けたため、オホーツク海側では、曇りの日が多く日照時間はかなり少なかった。24日から25日にかけては低気圧の影響により、太平洋側では局地的に大雨となったため、太平洋側の旬降水量は多かった。気温は、暖かい空気に覆われやすかったため、高かった。特に太平洋側の気温はかなり高く、旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降4月下旬として高い方から第1位の記録となった。

5月：暖かい空気に覆われた日が多かったが、たびたび寒気が流入し気温の変動大

5月は、中旬を中心に暖かい空気に覆われやすかったため、月平均気温は太平洋側でかなり高く、日本海側や北海道地方で高かった。一方、低気圧の通過後は、北から寒気が流れ込んだ日もあったため、オホーツク海側で平年並となった。降水量は、低気圧の影響を受けやすかった日本海側とオホーツク海側で多くなったが、太平洋側では少なかった。

上旬：高気圧に覆われて晴れた日が多く、日照時間は多かった。降水量は太平洋側で少なかったが、6日から7日にかけて北海道付近を通過した低気圧により、まとまった雨が降ったため、オホーツク海側では多かった。気温は、暖かい空気に覆われた時期もあったが、北から寒気が流れ込んだ影響によりオホーツク海側で低かった。なお、7日21時に稚内の上空1500m付近で氷点下5.1℃を観測するなど、7日から8日にかけては4月上旬並の寒気が入り、オホーツク海側を中心に雪が降って積雪状態となった所もあった。中旬：高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は短い周期で変わったが、高気圧の圏内となった日が多かったため、日照時間は多かった。また、降水量はオホーツク海側で少なかったが、低気圧や前線の影響を受けやすかった日本海側では多かった。気温は、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、かなり高かった。特に、日本海側と太平洋側及び北海道地方では旬平均気温の平年差が、1946年の統計開始以降、5月中旬として高い方から第1位の記録となった。下旬：高気圧に覆われて晴れた日もあったが、低気圧や前線の影響により、曇りや雨の日が多かった。このため、降水量は日本海側と北海道地方で多く、オホーツク海側でかなり多かった。また、日照時間は北海道地方で少なく、日本海側とオホーツク海側でかなり少なかった。気温は、南から暖かい空気が流れ込んだ日もあったが、北から寒気の影響を受けた日が多かったため、日本海側で低かった。なお、25日には寒気の影響により、オホーツク海側を中心に峠や山間部で雪の降った所があった。

3月は晴れた日が多かったことから融雪が順調に進み、秋まき小麦の雪腐病は発生が少なかった。

大豆では土壌水分の高い条件で播種した一部地域でタネバエの被害が目立った。近年多発が続いているりんごの腐らん病は、伝染源が多く残存しており令和6年も多発した。

高温の影響により、早発する病害虫が目立った。秋まき小麦の赤さび病が早発したほか、前年の発生量が多かった春まき小麦のムギキモグリバエは、注意報を発表して注意喚起したものの、初冬まで多発した。

夏季

6月：南から暖かい空気が流れ込みやすく、晴れた日も多く顕著な高温。

6月は、低気圧が北海道の北を通過することが多く、高気圧に覆われやすかったため、晴れた日が多かった。このため日照時間が多く、降水量は少なかった。さらに、低気圧に向かう南からの暖かい空気が流れ込みやすかったため気温はかなり高く、月平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降6月として高い方から第2位となった。一方で、一時的にオホーツク海付近に位置する高気圧から冷たい空気が流れ込み、オホーツク海側を中心に気温の低い日もあった。

上旬：千島近海や日本の東に位置する高気圧の圏内となることが多く、オホーツク海側では晴れた日が多かったため、日照時間がかなり多かった。一方で、太平洋側では東からの冷たく湿った気流の影響を受けたため、日照時間は少なかった。また、低気圧の影響を受けにくかったため、太平洋側では降水量が少なかった。中旬：低気圧が北海道の北を通過することが多く、低気圧の影響を受けにくかった。このため降水量は少なく、太平洋側では日照時間は多かった。また、低気圧に向かう南からの暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温はかなり高かった。旬平均気温の平年差は、日本海側、太平洋側及び北海道地方で、1946年の統計開始以降6月中旬として高い方から第1位の記録となった。下旬：北海道付近を低気圧が通過することが多かったが、旬の後半は高気圧に覆われた日が多かった。このため、低気圧の影響を受けやすかったオホーツク海側では降水量が多く、高気圧に覆われやすかった太平洋側では日照時間が多かった。低気圧に向かう南からの暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温は高く、太平洋側ではかなり高かった。

7月：太平洋側で昨年に次ぐ記録的な高温。下旬は日本海側で顕著な大雨。

7月は、高気圧に覆われやすい時期があり、太平洋側では湿った気流による低い雲の影響を受けにくかったため、北海道地方と太平洋側で日照時間がかなり多かった。日照時間の多さに加えて、暖かい空気に覆われやすく、さらに南から暖かい空気が流れ込みやすい時期もあったため、北海道地方と全ての地域で気温はかなり高くなった。太平洋側の月平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降高い方から第2位となり、昨年に次ぐ記録的な高温となった。一方で、下旬には低気圧と前線の影響により日本海側を中心に大雨となった日があったため、北海道地方の月降水量は多かった。

上旬：発達した低気圧や上空の寒気の影響でまとまった雨の降った所もあったが、低気圧や湿った空気の影響を受けにくかった。このため、日照時間はオホーツク海側と太平洋側で多かった。気温は、暖かい空気が流れ込みやすかったため、北海道地方、オホーツク海側、太平洋側でかなり高くなった。太平洋側の旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降7月上旬として高い方から第1位となった。中旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間はかなり多かった。さらに暖かい空気に覆われやすかったため、気温はかなり高かった。太平洋側の旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降7月中旬として高い方から第1位となった。また、低気圧や湿った空気の影響を受けにくかったため、北海道地方と日本海側の降水量は少なく、太平洋側ではかなり少なかった。下旬：低気圧や前線の影響を受けやすく、日本海側と太平洋側西部を中心に広い範囲で大雨となった日があった。特に24日は旭川市江丹別で日降水量が180.5mmと、1977年の統計開始以降多い方から第1位を観測した。このため、北海道地方と全ての地域で降水量はかなり多く、特に、日本海側の旬降水量の平年比は、1946年の統計開始以降7月下旬として多い方から第2位となった。気温は、低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、太平洋側でかなり高かった。

8月：暖かい空気に覆われやすく高温。低気圧や前線の影響で多雨・曇照。

8月は、暖かい空気に覆われやすかったため気温は高く、太平洋側ではかなり高かった。太平洋側の月平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降、高い方から第2位の記録的な高温となった。一方でオホーツク海側では、たびたび北海道の北に位置する高気圧からの冷涼な空気の影響を受け、平年を下回る気温となる日もあり、気温の変動が大きかった。また、低気圧や前線の影響を受けやすかったため、北海道地方の日照時間は少なく、下旬は大雨となった日もあり、北海道地方と太平洋側で降水量は多かった。上旬：低気圧や前線の影響を受けやすかったため、曇りや雨の日が多く、日照時間は北海道地方及び日本海側とオホーツク海側で少なかった。気温は、暖かい空気に覆われやすかったため、太平洋側でかなり高く、北海道地方及び日本海側で高かった。中旬：11日から15日にかけては、台風第5号が南から近づき、熱帯低気圧に変わって北海道を通過したが、その後は北海道の北に位置する高気圧からの冷涼な空気の影響を受けやすかった。このため東からの湿った気流により雨となることが多く、山影となった日本海側では降水量が少なかった。気温は、暖かい空気に覆われやすかったため、太平洋側でかなり高く、北海道地方と日本海側で高かった。下旬：低気圧や前線の影響を受けやすかったため曇りや雨の日が多く、日降水量として27日には胆振地方厚真で122.5mm、31日には釧路地方標茶で104.0mmを観測するなど、太平洋側を中心に大雨となった日があった。このため、降水量は北海道地方及び日本海側と太平洋側でかなり多く、オホーツク海側で多かった。また、日照時間は北海道地方及び太平洋側で少なかった。気温は、低気圧に向かって暖かい空気が流れ込みやすかったため、かなり高かった。

前年に引き続き、夏季高温が、多くの病害虫の発生に影響した。

病害では、6月の高温で水稻のいもち病、てんさいの褐斑病が早発し、注意報を発表して注意喚起した。水稻のいもち病は、近年発生が少なく一次伝染源が少なかったことや適切な防除が実施されたことにより、平年並の発生にとどまった。てんさいの褐斑病は初期防除の適切な実施などにより被害が少なく抑えられた地域もあったも

の、全道的に発生量は多くなった。また、高温に加えて雨の少ない期間があったことにより、秋まき小麦の赤さび病、ばれいしょのそうか病の発生量が多くなった。特に秋まき小麦の赤さび病では、通常は被害の少ない道東地域での被害が目立った。

虫害では、春季から続く高温経過により発生が早まったり、急激な増殖が認められる害虫が目立った。水稻のアカヒゲホソミドリカスミカメ、小豆のマメアブラムシ、アブラナ科のコナガで注意報を発表したが、7月下旬に記録の大雨があったことなどから増殖が抑制され、被害に至る地域は少なかった。水稻のアカヒゲホソミドリカスミカメでは追加防除が適切に実施されたため、被害を抑制することができた。

秋季

9月：高気圧に覆われやすく記録的な多照。太平洋側では記録的な少雨。

9月は、高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間はかなり多かった。北海道地方と日本海側の日照時間の平年比は1946年の統計開始以降、それぞれ多い方から第1位と第2位の記録となった。また、低気圧や前線の影響を受けにくかったため、降水量はかなり少なく、特に太平洋側の降水量の平年比は1946年の統計開始以降、少ない方から第2位の記録となった。暖かい空気に覆われやすく、日照時間も多かったため、日本海側とオホーツク海側の気温は高く、太平洋側ではそれらに加えて海面水温が高いこともあり、気温はかなり高かった。このため、北海道地方でもかなり高かった。

上旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間はかなり多く、北海道地方の旬日照時間の平年比は1946年の統計開始以降、多い方から第1位の記録となった。また、降水量は太平洋側でかなり少なく、北海道地方及び日本海側とオホーツク海側で少なかった。気温は、晴れた日が多く、暖かい空気に覆われやすかったため、太平洋側でかなり高く、北海道地方及び日本海側とオホーツク海側で高かった。中旬：太平洋側では、低気圧や前線の影響を受けにくかったため、降水量は少なかった。気温は、暖かい空気に覆われやすかったため太平洋側でかなり高く、北海道地方及び日本海側とオホーツク海側で高かった。下旬：高気圧に覆われやすく日本海側を中心に晴れた日が多かった。このため、降水量は北海道地方と日本海側でかなり少なく、オホーツク海側、太平洋側では少なかった。また、日照時間は日本海側でかなり多くオホーツク海側でも多かったが、気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすかった太平洋側では少なかった。気温は、21日から24日にかけて寒気の影響を受けて平年を下回ったが、その後は暖かい空気に覆われて平年を上回り、旬平均気温としては北海道地方、日本海側、太平洋側で高かった。

10月：暖かい空気に覆われやすく、歴代1位の記録的な高温。中旬・下旬の大雨により多雨。

10月は、暖かい空気に覆われやすく、寒気の影響を受けることが少なかった。また、高気圧に覆われて晴れた日が多く、日照時間が多かった。これらの要因により北海道地方とすべての地域で気温がかなり高く、月平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降10月として、高い方から第1位の記録となった。中旬と下旬には、太平洋側を中心に広範囲に大雨となった日があり、日本海側、太平洋側、及び北海道地方の月降水量は多かった。

上旬：太平洋側では低気圧や前線、湿った空気の影響で曇りの日が多かったため、日照時間は少なく、北海道地方としても少なかった。気温は、暖かい空気に覆われやすく寒気の影響を受けにくかったため、かなり高かった。太平洋側の旬平均気温の平年差は、10月上旬として1946年の統計開始以降、高い方から第1位の記録となった。中旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間はオホーツク海側でかなり多く、その他の地域は多かった。一方、19日には発達した低気圧の影響により、日本海側や太平洋側で大雨となった。このため、降水量は日本海側と太平洋側、北海道地方で多かった。気温は、暖かい空気に覆われやすかったため太平洋側でかなり高く、その他の地域で高かったが、19日から20日にかけては低気圧の通過後に強い寒気が流入し、各地で初雪を観測した。下旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間は太平洋側でかなり多く、日本海側と北海道地方で多かった。一方、23日には前線を伴う低気圧の通過により、えりも町目黒では日降水量221.0mmを観測し、1978年の統計開始以降10月として多い方から第1位の記録となるなど、太平洋側を中心に大雨となった。このため、降水量は太平洋側で多く、北海道地方としても多かった。気温は、暖かい空気に覆われやすかったため北海道地方とすべての地域でかなり高く、オホーツク海側と太平洋側では、旬平均気温の平年差が、1946年の統計開始以降10月下旬として高い方から第1位の記録となった。

令和6年の農耕期間の天候と農作業経過の特徴としては、気温は春季から秋季まで高温に経過した。作物の生育は早まり、播種から収穫までの農作業は期間を通して順調に進んだ。

高温経過により、病虫害の発生・飛来や増殖が早くから認められた。特に、前年の発生量が多かった春まき小麦のムギキモグリバエやてんさいの褐斑病では初発が大幅に早く、その後の発生も多かったため被害が多発した。主要病虫害で多発となったのは、秋まき小麦の赤さび病、大豆のタネバエ及びりんごの腐らん病であった。やや多発となったものは、水稻の縞葉枯病、斑点米カメムシ類、秋まき小麦の眼紋病、大豆のわい化病、ばれいしょのそうか病、てんさいのヨトウガであった。

一方、低温や湿潤条件下で発生しやすい病害の発生は少なかった。小豆・菜豆の菌核病や灰色かび病、ばれいしょの疫病、小麦の赤かび病、積雪期間が長い年に被害が目立つ小麦の雪腐病では少発生にとどまった。

なお、これら以外に飛来性の害虫による被害が多発した。前年に道内初確認されたトマトキバガは、令和6年も全道各地で飛来が確認された。ハウス内で越冬したと考えられる発生により春季から加害が確認されるとともに、夏季には全道各地のトマト・ミニトマトで被害が確認され、二度の注意報発令による注意喚起を行った。前年、道南・道央を中心に全道各地域で認められた小豆のマメノメイガは、令和6年も発生し加害が認められた。また、高温性の病害であるぶどうの晩腐病が多発した。

以上のように令和6年は、本州では被害が大きいものこれまで道内では発生が少なかった病害による被害や、各種病虫害の早発、ヨトウガの秋季の発生期間が長引くなど、気象の高温化を反映する発生様相の変化が認めら

れるようになってきている。

(各月の気象は札幌管区気象台発表「北海道地方の天候のまとめ」月の天候3～10月より引用)

気象季節（各場定期作況報告）

	初霜*		根雪始*		根雪終		降雪終		耕鋤始		晩霜		降雪始	
	(月日)		(月日)		(月日)		(月日)		(月日)		(月日)		(月日)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
北斗	11. 5	10. 21	11. 1.7	12. 13	2. 13	3. 11	4. 9	4. 17	4. 8	4. 8	4. 10	4. 27	11. 7	11. 10
長沼	10. 30	10. 19	12. 13	12. 8	3. 30	3. 30	4. 9	4. 8	4. 15	4. 10	5. 9	4. 19	11. 7	11. 7
岩見沢	10. 24	10. 17	12. 11	11. 30	4. 3	4. 2	4. 9	4. 21	5. 2	5. 3	5. 9	4. 28	11. 6	10. 30
比布	10. 24	10. 9	11. 25	11. 23	4. 8	4. 7	5. 8	4. 22	4. 26	4. 18	-	-	10. 19	10. 26
訓子府	10. 17	10. 13	12. 16	12. 10	4. 4	4. 5	5. 8	4. 24	4. 17	4. 22	5. 9	5. 10	10. 20	11. 7
芽室	10. 9	10. 12	12. 12	12. 10	4. 3	3. 29	3. 31	4. 19	4. 8	4. 14	5. 10	5. 3	11. 7	11. 10
中標津	10. 9	10. 15	12. 12	12. 20	3. 31	4. 4	4. 9	4. 20	4. 23	5. 5	5. 9	5. 30	11. 7	11. 11

*：初霜・根雪始は前年秋。

長沼町(中央農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	4.2	3.1	9.7	7.6	-0.5	-1.3	1.5	6.9	37.3	27.5
4.2	7.8	4.2	13.3	8.8	3.7	-0.3	2.5	7.0	38.8	27.0
4.3	11.3	5.2	19.0	10.1	5.4	0.6	1.5	8.3	40.5	27.0
4.4	10.2	6.3	13.4	11.4	7.8	1.6	25.5	9.7	7.9	27.2
4.5	9.0	7.4	13.3	12.6	5.3	2.6	18.0	10.2	23.2	27.5
4.6	12.1	8.4	17.4	13.8	7.7	3.5	4.5	10.8	38.1	28.2
5.1	11.5	9.3	18.0	14.7	4.6	4.5	0.0	12.5	55.6	28.9
5.2	10.3	10.0	14.9	15.3	5.4	5.2	22.5	14.4	22.4	29.7
5.3	14.6	10.7	19.8	16.0	8.6	6.1	6.5	14.6	34.0	30.2
5.4	15.8	11.7	21.3	17.0	10.4	7.2	11.0	13.0	49.2	30.1
5.5	12.3	12.6	16.8	17.9	7.9	8.3	21.5	11.5	24.3	30.0
5.6	13.3	13.4	17.9	18.7	9.4	9.1	3.0	14.3	15.8	36.0
6.1	13.8	14.0	18.5	19.2	9.7	9.9	3.0	12.5	31.2	28.9
6.2	16.7	14.6	21.4	19.7	13.0	10.7	6.5	12.9	27.5	27.0
6.3	18.9	15.3	24.0	20.2	15.7	11.5	4.0	13.9	27.6	24.9
6.4	19.5	15.9	25.1	20.8	15.2	12.3	17.5	13.8	29.4	24.1
6.5	19.3	16.6	24.5	21.6	16.0	12.9	1.0	12.8	15.3	25.3
6.6	20.0	17.4	26.1	22.4	14.1	13.7	11.0	13.3	50.6	26.2
7.1	20.0	18.0	26.3	22.9	14.4	14.5	9.5	15.5	31.3	25.2
7.2	21.2	18.6	24.1	23.2	19.1	15.2	13.5	17.7	15.4	23.5
7.3	22.2	19.1	28.4	23.6	17.0	15.8	0.0	17.8	47.5	23.0
7.4	24.2	19.6	28.8	24.1	21.0	16.4	0.5	17.0	32.4	22.8
7.5	25.1	20.3	30.9	24.8	21.4	17.1	26.5	17.5	26.4	22.5
7.6	22.2	21.1	25.8	25.5	19.8	17.9	99.5	22.5	17.6	27.6
8.1	22.9	21.5	27.0	26.0	20.4	18.2	3.0	20.3	14.6	24.1
8.2	24.8	21.5	29.9	25.9	21.8	18.2	11.0	24.1	25.1	23.8
8.3	25.6	21.2	30.8	25.6	21.8	18.0	6.5	27.0	27.6	22.4
8.4	22.7	20.9	27.5	25.3	19.7	17.6	2.5	28.2	18.7	22.4
8.5	23.9	20.6	28.1	25.1	19.9	17.0	16.5	26.8	26.9	24.1
8.6	23.3	20.3	27.3	25.0	20.1	16.4	85.5	27.6	18.6	31.2
9.1	22.1	19.8	28.0	24.5	16.2	15.7	0.5	23.1	42.9	26.1
9.2	21.4	19.0	27.4	23.7	15.6	14.8	6.5	25.1	41.8	25.5
9.3	18.2	17.9	24.1	22.8	13.0	13.5	37.0	23.6	19.9	25.7
9.4	17.8	16.7	24.1	21.8	12.2	12.0	1.5	20.0	32.1	26.7
9.5	14.1	15.6	19.7	20.8	8.1	10.6	0.0	19.3	29.7	27.0
9.6	18.0	14.6	23.4	19.8	14.1	9.6	46.5	20.0	35.1	26.4
10.1	15.8	13.5	19.7	18.7	11.9	8.5	41.5	19.1	19.1	24.9
10.2	13.6	12.4	19.1	17.6	7.9	7.3	0.0	17.4	29.3	24.1
10.3	13.4	11.3	19.3	16.4	6.3	6.1	1.5	15.1	40.5	24.7
10.4	11.3	10.2	16.8	15.4	4.0	4.9	54.5	14.0	27.8	24.7
10.5	13.3	9.2	17.3	14.3	8.1	4.1	31.0	14.3	23.2	23.0
10.6	8.9	8.3	14.9	13.0	3.1	3.4	7.5	17.4	32.9	24.9

長沼のアメダスデータによる。

岩見沢市(中央農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	4.2	3.3	9.3	7.8	0.1	-1.0	2.0	7.0	41.4	29.8
4.2	8.0	4.4	14.4	9.1	1.9	-0.1	0.5	7.7	42.9	29.3
4.3	11.8	5.4	19.4	10.4	4.5	0.8	0.0	8.9	40.4	29.0
4.4	10.7	6.6	14.7	11.9	7.5	1.8	8.0	9.8	12.7	29.0
4.5	9.6	7.8	14.5	13.3	5.3	2.7	22.5	10.5	17.6	29.1
4.6	12.9	8.9	18.1	14.5	7.9	3.7	1.0	11.1	34.5	29.6
5.1	12.3	9.9	19.0	15.5	5.1	4.7	0.0	13.4	58.0	30.2
5.2	10.5	10.5	15.1	16.2	5.5	5.5	18.5	15.4	20.8	30.8
5.3	15.8	11.3	20.4	17.0	9.5	6.3	10.5	14.9	36.2	31.3
5.4	16.0	12.4	21.7	18.0	10.1	7.4	12.5	13.0	53.2	31.8
5.5	12.6	13.3	17.1	19.0	7.9	8.4	23.5	11.6	28.9	32.2
5.6	13.0	14.1	17.4	19.9	9.1	9.2	6.5	14.3	16.1	39.4
6.1	13.8	14.8	19.3	20.5	9.4	10.0	4.0	11.3	39.6	31.9
6.2	17.3	15.4	22.7	20.9	13.7	10.9	8.0	11.1	35.4	29.9
6.3	19.8	16.0	25.1	21.3	15.6	11.8	0.0	11.9	35.4	27.9
6.4	19.7	16.6	24.8	21.9	15.4	12.5	16.5	12.0	28.5	27.1
6.5	19.4	17.3	24.7	22.6	15.8	13.2	16.0	12.0	15.1	27.9
6.6	20.2	18.0	26.3	23.4	14.2	13.9	10.5	13.1	47.5	28.5
7.1	20.3	18.7	26.3	24.0	14.3	14.8	3.5	15.5	34.9	27.5
7.2	21.6	19.2	24.9	24.3	19.3	15.5	10.5	18.0	17.4	25.8
7.3	22.2	19.7	28.4	24.7	16.7	16.1	0.5	18.6	49.1	25.0
7.4	24.8	20.3	30.4	25.2	20.8	16.7	0.5	18.1	39.3	25.4
7.5	25.1	21.0	30.3	25.8	21.3	17.4	31.5	18.0	25.6	25.1
7.6	22.3	21.7	26.1	26.5	19.9	18.2	67.5	21.9	16.4	30.1
8.1	23.1	22.0	27.6	26.8	20.2	18.4	11.0	20.7	13.3	26.1
8.2	25.0	21.9	29.7	26.7	21.5	18.3	56.5	25.4	26.0	26.1
8.3	25.8	21.6	30.9	26.2	21.8	18.1	6.5	28.2	31.1	24.7
8.4	22.6	21.2	27.8	25.9	19.3	17.6	7.5	28.9	21.2	24.5
8.5	23.9	20.9	27.9	25.7	19.8	17.0	26.0	27.4	23.5	25.8
8.6	23.1	20.5	27.2	25.4	19.8	16.5	116.0	29.8	22.5	32.2
9.1	22.1	20.0	28.0	24.8	16.9	15.8	0.0	24.8	44.6	26.7
9.2	21.3	19.1	27.4	24.0	15.3	14.9	10.0	25.5	44.6	26.5
9.3	18.2	18.0	23.5	22.9	13.2	13.6	44.0	24.2	18.7	26.6
9.4	17.7	16.8	23.4	21.9	12.5	12.2	2.0	22.6	33.2	27.0
9.5	13.9	15.6	19.7	20.8	8.7	10.9	0.0	22.7	34.5	26.9
9.6	17.8	14.6	23.4	19.7	13.4	9.9	35.0	22.7	38.3	25.9
10.1	15.5	13.6	19.6	18.6	11.5	8.9	55.0	21.8	19.6	24.4
10.2	13.6	12.4	18.7	17.4	8.3	7.7	0.0	20.7	29.9	23.5
10.3	13.4	11.3	19.3	16.3	6.7	6.6	2.5	17.7	39.0	23.5
10.4	11.5	10.3	16.8	15.2	4.5	5.5	56.0	15.3	26.5	23.3
10.5	13.6	9.4	17.4	14.1	8.4	4.8	29.5	15.9	22.6	21.5
10.6	8.9	8.4	14.7	12.8	3.6	4.0	3.5	19.8	28.4	23.0

岩見沢のアメダスデータによる。

比布町(上川農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	1.9	1.6	6.7	6.6	-3.2	-3.6	3.5	7.1	24.8	24.8
4.2	5.8	2.7	13.1	7.9	-1.3	-2.5	0.5	8.3	44.0	25.3
4.3	8.8	3.8	17.4	9.3	0.8	-1.4	0.0	8.5	40.1	26.1
4.4	9.8	5.1	17.3	11.0	4.1	-0.4	0.0	8.2	23.4	26.5
4.5	8.3	6.5	14.0	12.7	3.3	0.7	15.5	8.3	17.9	26.2
4.6	11.4	7.8	18.1	14.3	4.1	1.7	9.5	9.5	31.6	26.6
5.1	11.1	9.0	18.4	15.4	2.3	2.8	0.0	11.8	45.1	27.5
5.2	7.9	9.8	13.1	16.3	3.4	3.7	30.0	13.0	21.2	28.8
5.3	15.6	10.9	21.7	17.4	8.2	4.8	18.5	12.1	38.8	30.1
5.4	16.3	12.2	22.6	18.7	9.3	6.2	0.5	10.4	43.0	31.0
5.5	11.4	13.4	16.8	19.9	5.3	7.4	21.0	10.2	22.2	31.7
5.6	12.4	14.3	17.3	20.9	8.5	8.3	9.0	13.6	14.7	39.5
6.1	14.0	15.0	20.2	21.5	8.1	9.2	8.0	11.5	38.8	32.0
6.2	17.0	15.7	23.7	22.0	11.8	10.3	8.0	11.7	26.6	29.5
6.3	19.8	16.4	25.7	22.5	14.7	11.2	3.5	12.4	28.8	27.7
6.4	18.7	17.0	23.8	23.0	14.8	11.9	26.0	12.4	24.8	27.5
6.5	16.2	17.6	20.5	23.6	12.6	12.4	21.5	12.2	9.5	28.3
6.6	19.5	18.3	26.1	24.3	13.0	13.2	0.5	13.6	49.3	28.5
7.1	19.5	19.0	26.1	24.9	13.6	14.0	14.0	16.6	33.1	27.8
7.2	21.1	19.5	25.3	25.3	17.9	14.7	19.0	19.5	19.9	27.0
7.3	21.3	19.9	27.6	25.6	15.6	15.2	8.0	21.2	50.7	27.4
7.4	24.2	20.4	31.6	26.2	18.5	15.7	1.0	22.5	45.3	28.2
7.5	24.2	21.1	29.6	26.9	20.1	16.4	173.5	25.3	21.6	27.5
7.6	21.8	21.6	27.3	27.3	18.0	17.1	22.0	31.9	26.9	31.8
8.1	23.4	21.7	28.7	27.4	18.9	17.2	4.5	25.1	18.6	27.2
8.2	24.2	21.4	30.0	27.1	19.6	16.9	5.0	25.6	28.7	27.2
8.3	24.6	21.0	31.5	26.5	18.9	16.6	2.0	27.8	43.8	25.6
8.4	21.3	20.5	28.4	26.0	17.2	16.0	37.0	28.4	31.8	24.5
8.5	22.2	19.9	27.5	25.6	17.2	15.2	20.5	26.4	23.2	25.3
8.6	21.7	19.4	26.8	25.2	18.0	14.5	80.5	29.4	23.9	31.2
9.1	20.0	18.7	26.8	24.5	13.5	13.8	1.0	26.5	34.0	25.5
9.2	19.0	17.7	26.0	23.5	12.0	12.8	14.5	27.2	45.2	24.7
9.3	16.0	16.4	21.7	22.3	9.8	11.4	38.0	24.9	14.5	24.2
9.4	15.1	15.1	22.1	21.1	9.4	9.9	5.5	22.4	31.2	24.0
9.5	11.4	13.9	19.3	20.0	4.9	8.6	0.0	21.6	41.1	24.0
9.6	15.4	12.9	22.7	19.0	9.6	7.7	14.0	21.1	40.0	23.2
10.1	12.8	11.8	17.7	17.7	8.7	6.6	34.5	20.1	17.6	21.9
10.2	11.1	10.5	17.6	16.4	5.3	5.4	2.5	18.8	24.7	20.6
10.3	10.2	9.3	17.7	15.2	2.0	4.2	3.0	17.1	37.0	20.0
10.4	8.6	8.2	14.8	14.0	1.3	3.1	51.5	16.0	18.9	19.5
10.5	10.6	7.2	16.7	12.9	4.7	2.3	27.0	17.1	18.6	18.0
10.6	6.6	6.3	12.4	11.4	0.5	1.7	8.5	21.7	22.4	17.7

比布のアメダスデータによる。

北斗市(道南農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	5.4	4.2	11.0	8.9	-0.5	-0.6	0.0	8.5	37.2	26.2
4.2	7.3	5.1	13.9	10.0	0.0	0.2	1.5	9.3	44.6	27.7
4.3	10.8	6.0	18.4	11.1	3.8	1.0	0.0	10.8	48.2	29.2
4.4	11.5	7.0	16.1	12.1	7.3	1.9	8.5	12.7	23.0	29.5
4.5	11.0	8.0	15.5	13.2	7.6	2.8	18.0	14.1	29.4	29.3
4.6	13.2	9.0	19.3	14.3	8.0	3.7	0.0	15.2	31.7	29.7
5.1	12.0	9.9	19.4	15.2	4.3	4.6	0.0	16.0	51.8	30.0
5.2	11.4	10.4	16.0	15.7	6.8	5.4	32.0	15.2	28.8	29.6
5.3	14.7	11.1	21.1	16.2	8.2	6.2	26.5	13.1	37.0	29.5
5.4	15.4	12.0	21.0	17.0	10.0	7.3	21.5	12.5	36.3	30.0
5.5	14.0	12.9	19.6	17.9	7.4	8.4	7.0	12.5	39.4	31.1
5.6	14.0	13.7	17.9	18.7	10.7	9.2	12.5	14.7	18.7	38.4
6.1	12.9	14.3	16.1	19.3	9.3	9.9	4.5	11.6	7.5	31.0
6.2	16.4	14.8	21.0	19.6	12.7	10.6	5.5	12.8	29.0	28.5
6.3	19.8	15.5	25.0	20.1	15.1	11.5	0.0	14.3	39.4	26.2
6.4	20.3	16.2	26.0	20.7	15.3	12.4	10.5	14.5	39.0	24.8
6.5	19.9	16.9	24.3	21.3	16.1	13.2	5.0	14.3	28.2	24.5
6.6	20.3	17.6	26.5	22.0	14.5	13.9	43.5	15.5	38.2	23.9
7.1	20.6	18.2	26.0	22.4	15.6	14.7	10.0	18.7	22.8	21.3
7.2	21.2	18.8	24.8	22.9	18.8	15.4	22.0	21.1	12.4	19.3
7.3	22.1	19.4	27.5	23.4	16.8	16.1	0.0	20.0	51.0	18.6
7.4	24.0	20.0	28.5	24.0	20.9	16.8	3.5	17.6	34.7	18.5
7.5	24.9	20.7	29.2	24.8	21.7	17.4	3.5	19.2	18.6	19.2
7.6	23.3	21.4	26.1	25.7	21.1	18.1	108.0	26.5	13.7	24.3
8.1	24.8	21.9	28.8	26.1	21.8	18.5	1.0	23.2	9.2	21.3
8.2	25.7	21.9	30.2	26.0	22.5	18.5	0.5	25.5	24.9	21.4
8.3	25.9	21.7	29.4	25.8	23.7	18.3	30.5	26.7	20.1	21.0
8.4	23.4	21.5	26.9	25.6	20.3	17.9	0.5	27.0	22.5	21.4
8.5	24.1	21.2	29.2	25.6	19.0	17.4	34.0	27.4	32.2	23.3
8.6	23.5	20.8	27.6	25.3	20.1	16.8	117.0	31.5	17.8	29.2
9.1	22.9	20.3	28.6	24.8	17.0	16.2	1.5	26.0	55.1	23.5
9.2	21.7	19.5	28.2	24.1	14.3	15.2	2.5	25.8	46.2	23.1
9.3	20.0	18.6	25.1	23.4	14.8	14.0	9.5	24.5	19.7	24.3
9.4	19.0	17.5	25.4	22.6	14.0	12.7	4.0	23.5	28.1	26.1
9.5	15.9	16.4	19.9	21.6	11.5	11.4	7.0	23.5	17.8	27.0
9.6	19.8	15.5	25.3	20.6	15.4	10.4	0.0	23.0	37.0	26.2
10.1	17.2	14.5	22.0	19.6	12.9	9.3	32.5	22.0	16.8	25.2
10.2	15.6	13.3	20.2	18.5	11.2	8.1	0.0	20.6	18.0	24.8
10.3	14.4	12.0	21.2	17.4	7.9	6.8	11.0	19.1	40.9	25.6
10.4	12.1	10.9	18.4	16.3	5.0	5.6	50.5	17.2	31.9	25.3
10.5	13.1	10.0	18.1	15.2	7.6	4.8	46.0	15.7	20.1	23.5
10.6	10.4	9.0	16.7	14.0	4.3	4.0	0.0	18.6	38.8	25.3

北斗(大野)のアメダスデータによる。

芽室町(十勝農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	3.9	2.5	9.1	8.1	-2.1	-3.0	0.0	9.0	43.9	32.3
4.2	6.8	3.6	13.3	9.4	0.5	-1.9	20.5	9.2	41.5	31.6
4.3	10.6	4.6	19.5	10.6	2.8	-1.0	0.0	9.8	39.9	31.0
4.4	10.2	5.7	14.9	12.0	6.7	-0.1	1.0	10.7	22.0	31.0
4.5	8.1	6.9	13.5	13.5	3.6	0.7	14.0	11.2	21.8	31.3
4.6	13.6	8.2	21.2	15.0	6.3	1.6	7.0	11.9	40.0	32.0
5.1	10.3	9.3	18.2	16.0	1.4	2.7	0.0	13.4	50.4	31.6
5.2	9.0	9.9	14.4	16.5	2.8	3.5	6.0	14.0	12.8	30.4
5.3	13.9	10.5	20.7	17.1	6.7	4.2	0.0	13.5	38.9	29.3
5.4	15.9	11.4	22.4	18.0	8.9	5.3	5.0	13.0	32.9	28.7
5.5	11.7	12.2	18.5	18.8	3.7	6.3	18.5	13.0	35.2	28.0
5.6	13.7	12.9	19.1	19.5	8.0	7.1	9.0	15.6	30.5	33.9
6.1	10.8	13.5	16.0	20.0	5.7	8.0	3.0	13.2	20.9	27.3
6.2	14.7	14.1	20.9	20.3	9.9	8.9	3.5	14.3	22.7	24.8
6.3	18.9	14.7	25.5	20.6	12.7	9.8	0.0	15.6	27.9	22.1
6.4	19.0	15.3	24.6	21.1	13.3	10.6	5.5	15.5	30.6	21.2
6.5	17.4	16.0	22.3	21.9	13.7	11.1	13.0	13.7	14.0	22.9
6.6	20.3	16.7	28.1	22.6	11.6	11.8	6.5	12.9	50.6	23.9
7.1	21.6	17.2	29.1	23.0	14.0	12.6	8.0	15.3	45.4	22.4
7.2	22.0	17.7	26.5	23.2	18.2	13.4	2.0	19.7	14.8	20.6
7.3	22.0	18.3	29.3	23.7	16.6	14.0	0.0	21.2	33.4	19.5
7.4	23.3	18.8	30.3	24.1	17.6	14.7	5.5	18.2	41.1	18.7
7.5	25.5	19.4	32.6	24.7	18.9	15.4	3.5	15.8	27.7	18.5
7.6	20.4	20.2	24.4	25.5	17.9	16.0	48.5	18.2	9.1	23.1
8.1	22.8	20.5	28.5	26.0	19.5	16.3	5.0	18.1	11.9	20.0
8.2	23.7	20.4	28.9	25.7	20.8	16.3	16.5	24.7	11.5	19.3
8.3	23.1	20.0	27.4	25.1	20.4	16.1	13.0	28.5	3.4	17.8
8.4	20.5	19.7	25.4	24.8	17.5	15.7	20.5	27.0	11.4	18.2
8.5	22.0	19.4	27.3	24.6	17.7	15.2	12.0	24.8	22.3	20.5
8.6	21.2	19.0	24.5	24.3	18.4	14.6	46.0	29.6	4.1	26.4
9.1	21.3	18.5	27.6	23.7	15.0	14.1	0.0	25.7	37.8	21.6
9.2	20.1	17.8	27.1	23.0	12.2	13.3	1.0	26.9	37.7	21.5
9.3	18.0	16.8	24.3	22.1	10.7	12.1	17.0	27.0	18.1	22.4
9.4	17.0	15.6	24.4	21.2	9.7	10.6	0.0	26.2	35.4	23.8
9.5	12.5	14.4	17.6	20.1	7.2	9.2	0.0	25.2	17.7	24.9
9.6	16.1	13.4	21.7	19.1	11.3	8.1	9.0	23.4	27.5	25.0
10.1	15.0	12.3	20.5	18.1	9.5	6.9	18.5	20.6	26.1	25.0
10.2	13.0	11.1	17.3	17.1	9.2	5.5	4.5	17.9	17.6	25.5
10.3	10.4	9.9	17.7	16.1	2.2	4.1	0.0	14.8	43.3	27.0
10.4	10.0	8.8	16.4	14.9	1.8	3.0	20.5	12.3	26.0	27.5
10.5	11.1	7.9	17.5	13.8	4.2	2.1	27.5	11.2	34.9	26.9
10.6	7.4	6.9	14.2	12.7	1.0	1.2	0.0	12.2	41.4	31.3

芽室のアメダスデータによる。

訓子府町(北見農試)

月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	2.6	1.3	9.2	6.8	-2.6	-4.2	0.0	7.5	36.5	28.0
4.2	6.3	2.5	13.7	8.1	-2.2	-3.0	19.5	7.2	46.2	27.6
4.3	11.8	3.6	20.7	9.5	2.8	-1.9	0.0	7.0	42.3	28.0
4.4	9.5	4.8	15.7	11.0	4.0	-0.9	2.0	7.5	31.3	28.0
4.5	6.3	6.2	11.1	12.6	2.1	0.1	8.0	8.3	11.1	28.0
4.6	12.8	7.5	19.9	14.2	6.0	1.1	1.0	8.7	37.9	27.7
5.1	10.0	8.4	17.3	15.2	2.1	2.0	0.0	9.6	46.4	27.4
5.2	6.8	8.9	11.9	15.6	1.9	2.7	14.5	10.4	18.9	27.0
5.3	14.9	9.8	21.7	16.3	6.7	3.6	11.5	9.8	35.6	27.1
5.4	15.9	10.9	24.0	17.6	7.9	4.7	14.0	8.8	46.7	27.5
5.5	10.4	11.9	16.3	18.5	4.1	5.7	24.5	8.7	20.9	27.8
5.6	10.5	12.7	15.6	19.3	5.5	6.6	6.0	11.2	13.6	34.8
6.1	11.5	13.5	17.6	19.9	5.3	7.4	4.0	9.8	43.1	29.3
6.2	15.6	14.1	21.4	20.3	9.6	8.4	5.5	10.9	32.6	27.5
6.3	16.8	14.6	22.5	20.5	11.6	9.3	8.0	12.3	27.0	25.2
6.4	18.6	14.9	24.5	20.7	12.5	10.0	3.0	12.4	27.9	24.0
6.5	14.7	15.5	18.7	21.4	11.7	10.5	23.0	11.6	4.5	25.3
6.6	20.0	16.4	28.3	22.3	11.4	11.2	0.0	11.4	48.9	26.5
7.1	21.5	17.1	29.9	22.9	13.5	12.1	2.5	13.7	55.2	25.4
7.2	21.3	17.6	27.8	23.2	17.7	12.8	12.5	17.2	10.0	23.7
7.3	20.3	18.0	27.2	23.5	15.7	13.4	12.0	18.4	29.3	23.0
7.4	23.8	18.5	31.3	24.0	17.5	13.9	19.0	16.7	47.6	23.9
7.5	24.2	19.3	30.8	24.8	19.2	14.7	24.0	15.7	28.7	24.8
7.6	19.8	20.0	24.1	25.5	16.7	15.5	40.0	19.3	10.4	29.6
8.1	22.2	20.3	28.0	25.8	17.8	15.7	30.5	17.3	22.5	24.5
8.2	22.8	20.1	28.4	25.4	18.4	15.6	102.0	21.0	25.6	23.8
8.3	23.0	19.7	28.0	24.9	18.8	15.4	7.0	24.4	31.6	22.4
8.4	19.5	19.3	24.0	24.5	16.5	14.9	22.0	24.9	19.0	22.5
8.5	22.2	18.9	28.6	24.3	16.8	14.3	9.5	23.0	30.8	23.5
8.6	21.8	18.5	26.9	23.9	17.6	13.8	49.5	25.4	21.0	28.8
9.1	21.1	17.9	28.5	23.4	14.2	13.1	0.0	22.2	49.4	23.5
9.2	19.3	17.1	26.7	22.6	11.8	12.2	0.5	23.4	41.0	23.5
9.3	17.0	16.0	23.3	21.6	10.9	11.0	32.0	22.0	14.6	23.7
9.4	15.7	14.7	23.1	20.5	9.3	9.5	0.0	19.7	36.8	24.4
9.5	11.5	13.5	17.2	19.4	5.4	8.1	0.0	19.0	27.1	25.1
9.6	15.0	12.5	20.5	18.5	10.3	7.1	34.0	18.2	22.1	25.5
10.1	13.2	11.5	18.4	17.6	8.6	6.0	35.5	16.7	23.8	25.2
10.2	11.4	10.3	16.4	16.5	7.0	4.7	3.5	14.8	16.5	24.7
10.3	11.0	9.0	17.3	15.4	4.0	3.4	0.0	12.1	40.1	25.1
10.4	9.4	7.9	15.7	14.3	2.5	2.2	29.0	9.8	29.4	25.5
10.5	11.9	6.9	18.1	13.3	5.5	1.3	19.5	9.0	31.2	25.1
10.6	5.9	6.0	12.4	12.2	0.4	0.4	1.0	10.3	27.3	28.6

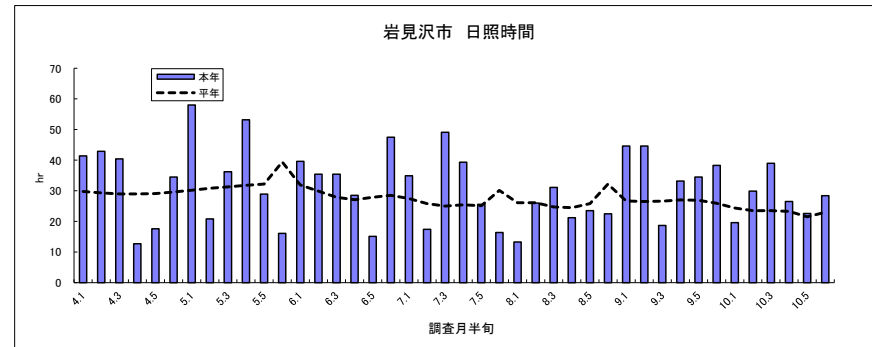
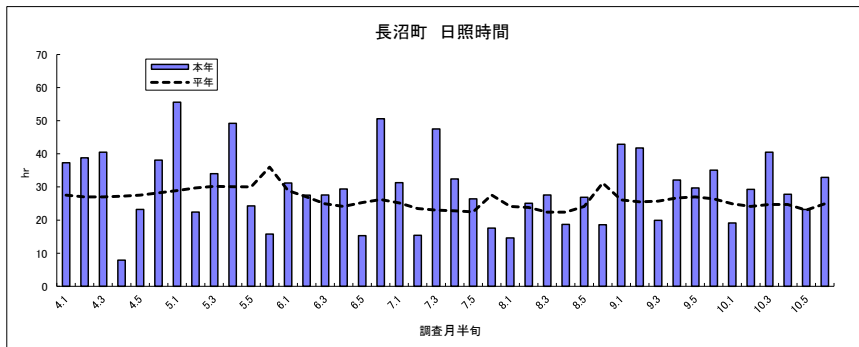
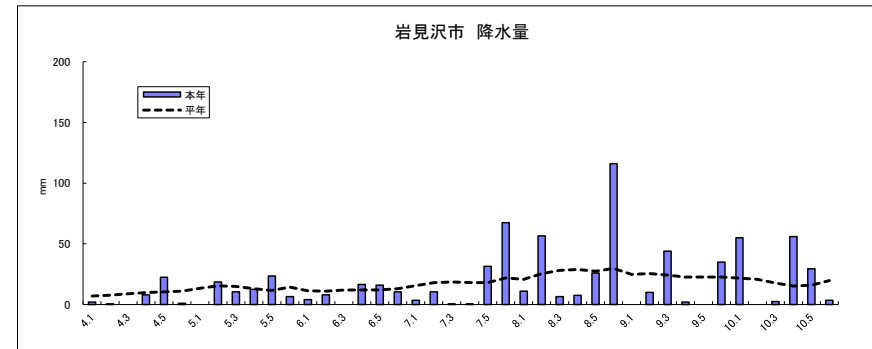
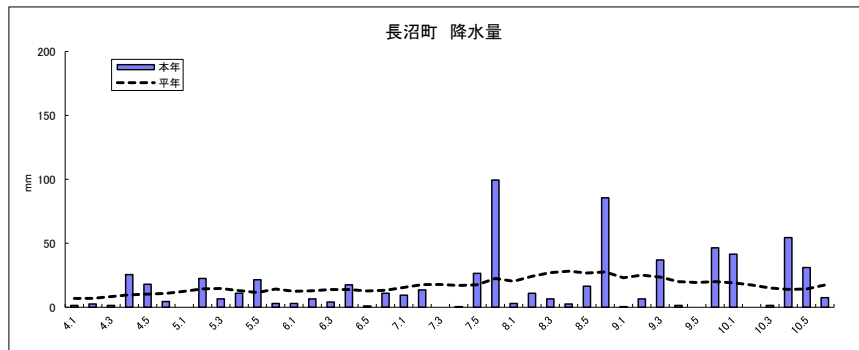
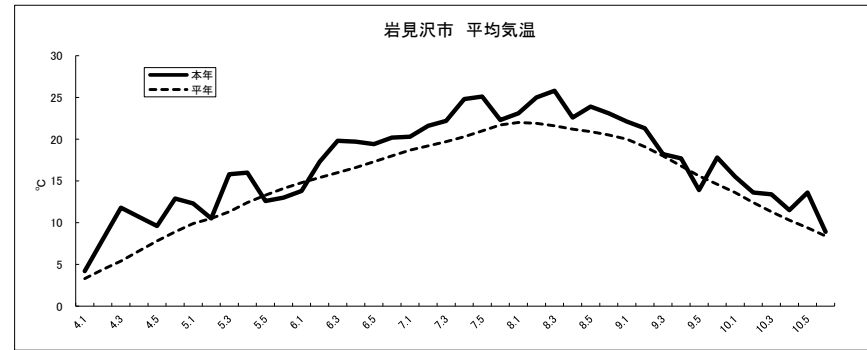
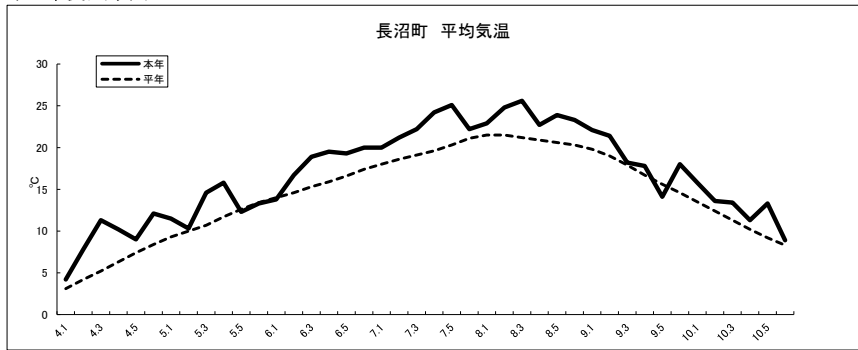
置戸町境野のアメダスデータによる。

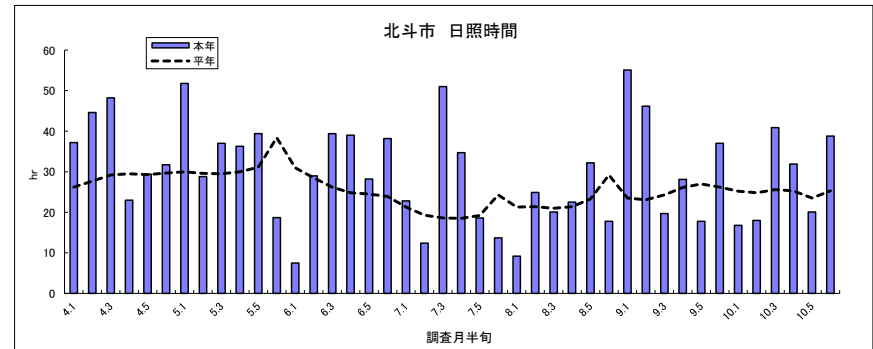
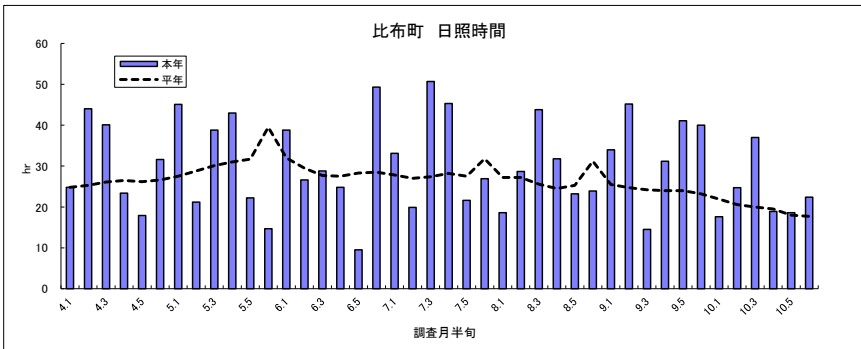
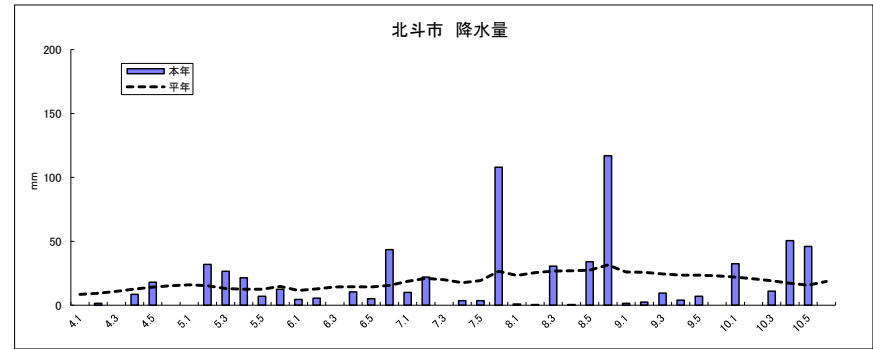
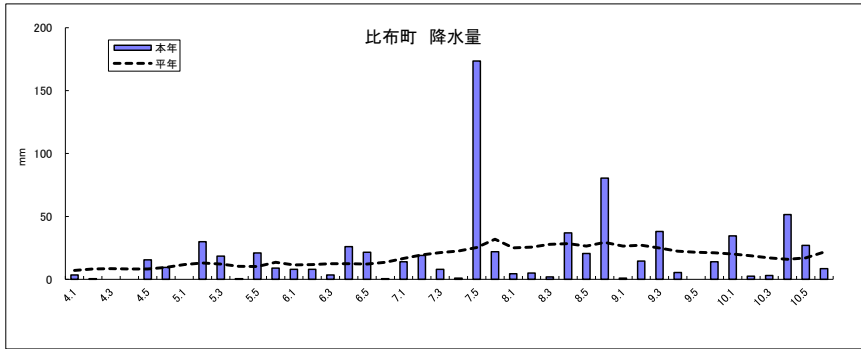
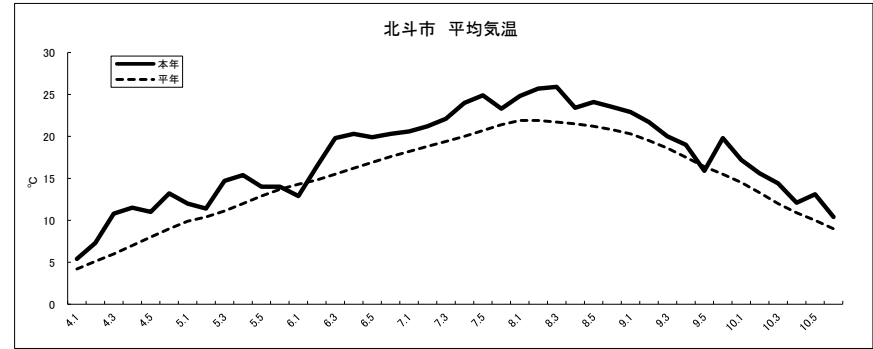
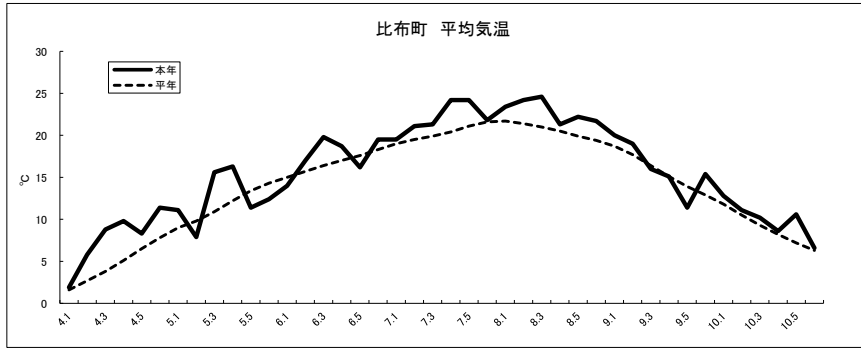
滝川市(花・野菜技術センター)

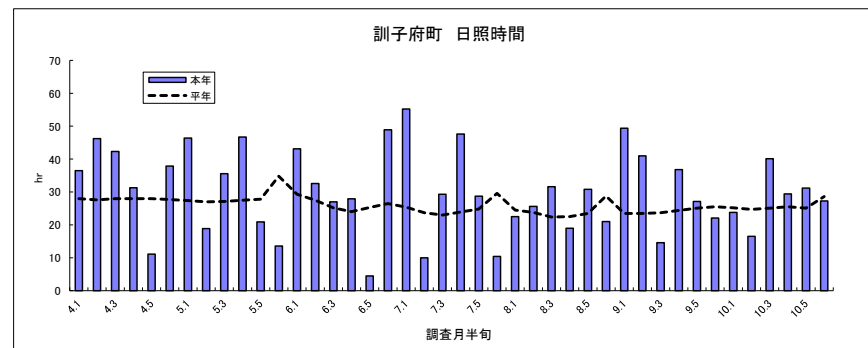
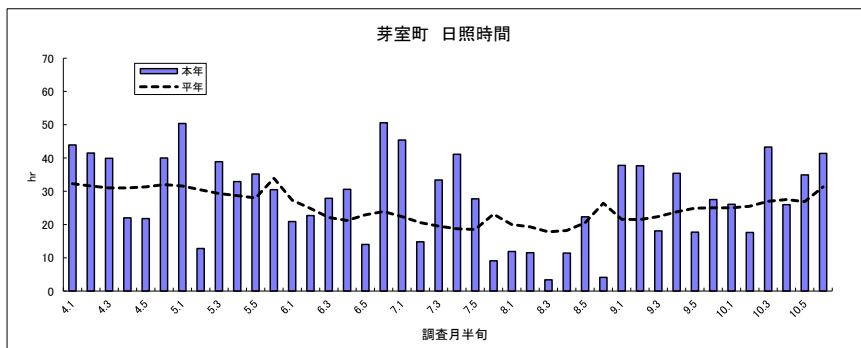
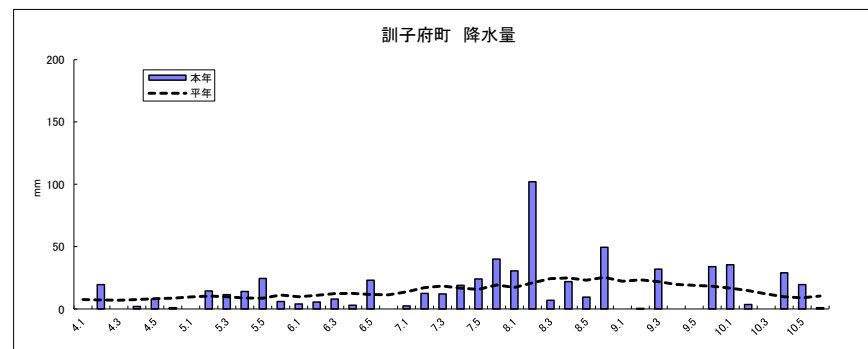
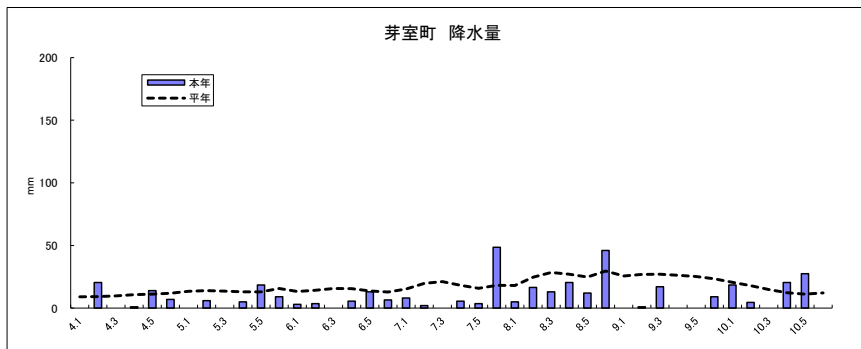
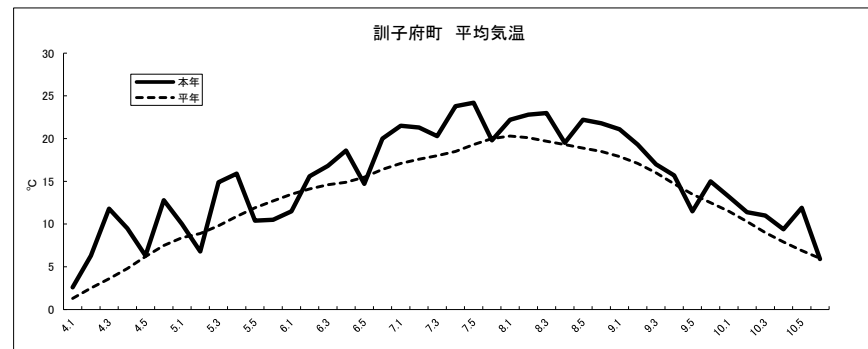
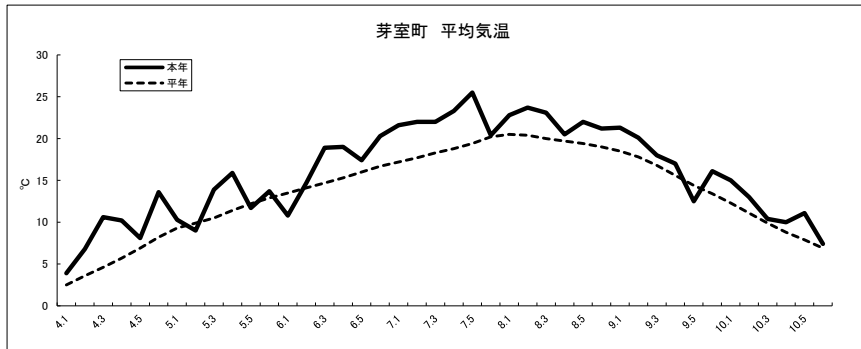
月半旬	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		降水量 (mm)		日照時間 (hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	2.8	2.0	7.8	6.4	-1.6	-2.5	2.0	6.9	35.2	26.5
4.2	6.8	3.1	13.0	7.8	0.0	-1.6	0.0	7.9	45.2	27.0
4.3	10.3	4.3	18.5	9.3	2.6	-0.5	0.0	8.8	38.1	27.5
4.4	10.6	5.6	16.1	11.0	5.9	0.5	1.0	9.6	15.5	27.5
4.5	8.3	6.9	13.5	12.6	3.6	1.4	32.0	10.6	18.8	27.7
4.6	11.7	8.2	17.6	14.0	5.8	2.5	8.0	12.3	34.7	28.3
5.1	11.2	9.2	18.0	15.1	3.4	3.5	0.0	14.1	47.9	29.1
5.2	9.5	10.0	14.8	15.9	4.1	4.4	26.5	14.1	24.7	30.0
5.3	15.1	10.8	20.0	16.7	8.2	5.4	17.5	12.0	31.4	30.6
5.4	15.9	12.0	21.9	18.0	10.4	6.7	6.0	10.1	48.2	31.0
5.5	12.0	13.1	18.1	19.1	7.2	7.8	26.5	9.7	22.3	31.4
5.6	12.2	13.9	17.0	20.1	8.7	8.7	9.5	12.8	15.9	38.9
6.1	14.0	14.6	19.6	20.6	9.4	9.6	4.0	10.6	43.7	31.8
6.2	17.1	15.3	23.3	21.1	12.1	10.5	2.0	10.5	33.1	29.5
6.3	19.7	15.9	25.3	21.6	15.3	11.4	0.5	11.0	34.1	27.3
6.4	19.1	16.5	24.7	22.1	14.9	12.1	11.0	11.0	21.3	26.7
6.5	18.2	17.2	22.6	22.9	15.0	12.8	14.0	11.2	5.4	28.0
6.6	19.7	18.0	26.3	23.6	13.4	13.5	9.5	12.2	47.0	29.0
7.1	19.9	18.6	26.6	24.2	13.9	14.3	9.0	14.7	36.0	28.3
7.2	21.1	19.1	25.0	24.5	18.7	15.0	12.0	18.6	18.2	27.2
7.3	21.3	19.6	28.1	24.9	15.8	15.6	0.5	21.2	51.3	26.7
7.4	24.5	20.1	31.2	25.4	19.6	16.1	0.0	20.8	43.8	27.0
7.5	24.7	20.8	29.7	26.1	20.7	16.9	48.0	21.2	26.1	26.1
7.6	22.1	21.4	26.1	26.6	19.7	17.6	26.5	26.9	16.9	30.2
8.1	22.9	21.6	28.1	26.8	19.8	17.7	7.5	22.7	14.2	26.1
8.2	24.5	21.4	29.9	26.6	20.9	17.5	29.5	24.2	23.3	26.3
8.3	25.6	21.1	31.2	26.2	20.8	17.1	1.5	26.3	38.0	24.9
8.4	22.1	20.6	28.6	25.7	18.0	16.5	21.0	28.2	31.3	24.8
8.5	23.1	20.1	27.9	25.4	18.1	15.9	22.5	27.8	24.9	25.8
8.6	22.5	19.7	27.5	25.1	19.2	15.2	86.5	30.8	26.2	31.8
9.1	21.0	19.0	27.3	24.5	15.5	14.5	0.5	26.9	34.4	26.0
9.2	20.3	18.1	26.6	23.6	13.5	13.5	12.5	27.3	45.6	25.3
9.3	17.1	16.9	23.0	22.5	11.8	12.2	50.0	25.0	17.8	25.0
9.4	16.3	15.7	22.6	21.4	11.1	10.7	4.5	23.6	33.1	25.5
9.5	12.7	14.5	19.6	20.3	6.1	9.4	0.0	23.8	36.8	25.5
9.6	16.3	13.5	22.8	19.3	10.9	8.5	13.5	24.0	38.6	24.9
10.1	14.5	12.5	19.1	18.1	10.3	7.5	39.5	23.7	13.8	23.4
10.2	12.4	11.3	18.3	16.9	6.6	6.3	0.5	22.0	24.9	22.2
10.3	12.0	10.2	18.7	15.6	4.4	5.1	5.0	19.5	34.5	22.0
10.4	9.9	9.0	15.7	14.5	3.1	4.0	45.5	18.7	22.2	21.6
10.5	12.0	8.1	17.2	13.4	7.0	3.3	58.5	20.5	20.4	19.8
10.6	7.9	7.2	13.3	12.1	2.0	2.6	12.5	26.8	25.1	20.3

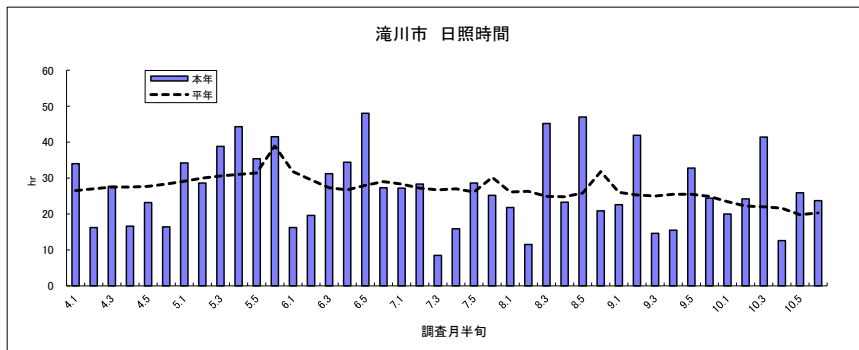
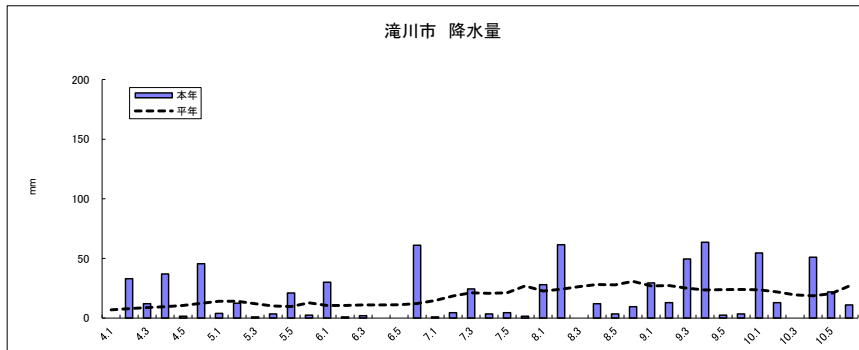
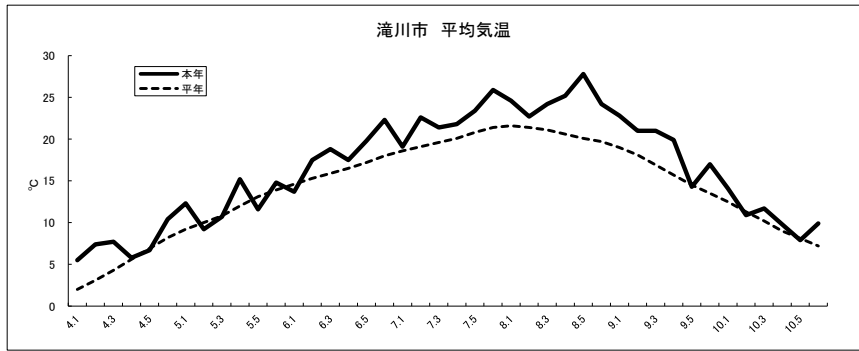
滝川のアメダスデータによる。

1. 令和6年度気象図









Ⅱ 作物生育概況

令和6年の農作物の作柄（営農改善指導基本方針より抜粋）

（1）水稻

各地の根雪終日（平年対比）は、旭川4月6日（早1日）、岩見沢4月2日（早4日）、函館2月13日（早25日）と平年より早かったが、留萌4月8日（遅8日）など一部地域では局地的な大雪に見舞われ、融雪期が遅れた。

耕起盛期は平年並の4月28日（早2日）となった。

は種作業は平年並に行われ、出芽期も平年並の4月24日（早1日）となった。苗質は、平年並の生育を確保した。

活着期は5月27日（遅1日）、分けつ始は平年並の6月5日（遅1日）であったが、5月下旬から6月上旬にかけての低温、寡照、強風による植え傷みが発生したため、6月15日現在の茎数は199本/㎡（平年比81%）と平年よりかなり少なかった。しかし、6月中旬からは高温、多照で推移したため、分けつ発生が旺盛となり、7月1日現在の茎数は平年並の572本/㎡（平年比101%）まで回復した。

幼穂形成期は、6月27日（早1日）と平年並であった。前歴期間（6月6半旬～7月2半旬頃）及び冷害危険期（7月2半旬～4半旬頃）の気温は平年以上であったことから、稔実への影響はなかった。

その後も高温で経過したため生育は進み、出穂期は7月22日（早3日）とやや早かった。穂揃い性はおおむね良好であったが、移植後の低温・寡照により生育が遅滞した一部のほ場では不良となった。

8月12日の台風5号接近により風雨があり、各地でなびきや倒伏が発生した。その後も降雨の度に倒伏面積の拡大が見られた。

8月中旬以降も気温が平年より高く推移したため、登熟は進み、成熟期は9月5日（早5日）と早かった。収穫作業も早く、収穫始は9月8日（早7日）、収穫期は9月16日（早6日）、収穫終は9月26日（早6日）となった。

成熟期における穂数は、全道平均では597本/㎡（平年比101%）とほぼ平年並で、稔実歩合も平年並であったが、一穂粒数は平年より2%程度多く、㎡当たり稔実粒数では平年より3%多かった。

いもち病は、6月下旬、7月中旬に全道各地で感染好適条件が出現し、その後、葉いもちが発生し、一部地域で穂いもちによる被害も確認された。また、紋枯病（疑似紋枯症含む）の初発期は平年並であり、発生量も並となった。一部で節いもち、紋枯病が要因で、倒伏したほ場があった。

アカヒゲホソミドリカスミカメは初発期がやや早く、発生量も平年よりやや多くなったが、斑点米による被害は少なかった。イネドロオイムシ、フタオビコヤガの初発期は平年並で、発生量は少なかった。ヒメトビウンカは初発期がやや早く、発生量はやや少なかった。

（2）小麦

1）秋まき小麦

令和5年秋のは種期は9月22日（遅2日）で、出芽は良好であった。は種後は気温が平年より高く経過したことから、過繁茂ほ場が見られた。一方で、降雨の影響により一部では種が大幅に遅れ、越冬前の生育量が不足したほ場も見られた。

令和6年3月の気温は平年並に推移し、起生期は4月3日（遅2日）であった。4～5月の気温はおおむね平年より高く経過したため、幼穂形成期は4月27日（早3日）、止葉期は5月20日（早4日）、出穂期は5月31日（早3日）となった。6～7月の気温も平年より高く、成熟期は7月14日（早4日）となった。

出穂期から成熟期までの登熟期間は44日で、平年より1日短かった。収穫始は7月17日（早5日）、収穫期は7月20日（早6日）、収穫終は7月24日（早6日）となった。

成熟期の穂数は平年並（平年比99%）であったが、は種の早晩等によりほ場間差が大きかった。稈長は平年並（同104%）、穂長は平年並（同101%）となった。

収量（農林水産統計・令和6年11月26日公表）は、全道平均で平年並であった。ただし、縞萎縮病、赤さび病、眼紋病や穂数過多による倒伏等により子実が充実不足となり、製品歩留が低下したほ場もあった。品質は、タンパク質含有率、容積重等は全道平均で基準値内であった。

雪腐病は平年より少なく、菌種別では紅色雪腐病又は雪腐褐色小粒菌核病の割合が高い地域が多かった。赤さび病は平年より多かったが、「多発傾向に対応した秋まき小麦の赤さび病防除対策」（令和6年北海道指導参考事項）に基づいた防除を実施した地域では昨年よりも被害が少なかった。赤かび病は平年より少なく、うどんこ病は平年並であった。眼紋病は平年よりやや多かった。コムギなまぐさ黒穂病の発生面積は、平成28年と比較して大幅に減ったものの、一部で発生が見られた。道東地域を中心にコムギ縞萎縮病の発生が目立ち、病徴は例年より早くから見られた。また、一部地域では立枯病が散見された。

(3) 豆類

1) 大豆

は種期は5月20日(±0日)、出芽期は6月1日(±0日)と平年並で、出芽はやや良好であった。6月中旬～7月中旬の高温により、生育はやや早まり、開花期は7月14日(早3日)となった。太平洋側の地域では7月中旬までの少雨により、草丈は平年より短かった。

8月上旬～9月上旬の高温により登熟は早まり、成熟期は9月18日(早5日)となった。平年と比べて、草丈はやや短く、葉数は平年並、着莢数は多かった。

収穫始は10月2日(早5日)と平年より早く、収穫作業は順調に経過し、収穫終は10月22日(早5日)となった。収量は平年並～やや多い傾向で、品質は平年並であった。

各病害虫の発生量は平年と比べて、べと病はやや少なく、わい化病はやや多かった。また、マメシクイガはやや少なく、食葉性鱗翅目幼虫は平年並、タネバエは多かった。

2) 小豆

は種期は5月22日(遅1日)、出芽期は6月5日(遅1日)と平年並で、出芽は良好であった。

6月中旬～7月中旬の高温により、草丈・葉数は平年を上回る生育で経過し、開花期は7月20日(早5日)となった。

8月上旬～9月上旬の高温により登熟が早まり、成熟期は9月8日(早7日)となった。平年と比べて、草丈はやや長く、葉数は平年並、着莢数は多かった。

収穫始は9月18日(早7日)と平年より早く、収穫終は10月14日(早7日)となったが、一部地域では葉落ちが不良なため、収穫作業が停滞した。収量・品質は平年並であったが、一部地域では小粒傾向のため、品質はやや不良だった。

各病害虫の発生量は平年と比べて、菌核病・灰色かび病・茎疫病はやや少なく、落葉病は平年並だった。また、食葉性鱗翅目幼虫は平年並であった。

3) 菜豆

は種期は5月29日(遅1日)、出芽期は6月11日(遅2日)と平年並で、出芽は良好であった。

6月中旬～7月中旬の高温により、生育はやや早まり、開花期は7月10日(早4日)となった。太平洋側の地域では7月中旬までの少雨により、草丈は平年より短かった。

8月上旬～中旬の高温により登熟が早まり、成熟期は8月26日(早6日)となった。平年と比べて、草丈は短く、葉数は平年並、着莢数は多かった。

収穫始は8月30日(早3日)と平年よりやや早く、収穫作業は順調に経過し、収穫終は9月15日(早9日)となった。収量は平年並～やや少ない傾向で、品質は平年並であった。一部地域では、6月上旬～7月中旬の高温少雨により葉落ちが不良で、未熟莢が多かった。当該地域では、登熟が不良なため、収量は平年よりやや少ない傾向で、品質は発芽粒、腐敗粒、屑粒の発生によりやや不良だった。

各病害虫の発生量は平年と比べて、菌核病は少なく、灰色かび病はやや少なく、黄化病は平年並、タネバエは少なかった。

(4) ばれいしょ

植付期は5月1日(±0日)と平年並で、萌芽期も5月26日(早1日)と平年並だった。植え付け後、適度な降雨があり気温も高めに経過したため、萌芽のばらつきはおおむね少なかった。茎数は多く、茎長は長かった(6月1日時点)。6月上～中旬の気温は平年並で推移し、着蕾期は6月15日(±0日)、開花期は6月27日(早2日)と平年並だった。

その後7～8月の気温は平年より高く経過し、茎葉黄変期は8月13日(早4日)と平年より早く経過した。茎長はやや短く、茎数は平年並だった(8月15日時点)。

収穫作業は、収穫始が8月24日(早2日)と平年並で、収穫期は9月11日(早2日)、収穫終は10月2日(早4日)だった。1株当たりの上いも数(20g以上)は、全道平均で10.7個(平年比96%)、上いも1個重は全道平均で99.0g(平年比102%)といずれも平年並で、規格内収量、でんぷん価も平年並だった。

そうか病は平年よりやや多かった。軟腐病、黒あし病の発生は平年並だった。疫病、塊茎腐敗、粉状そうか病、アブラムシの発生は平年より少なかった。

(5) てんさい

移植栽培：は種期は3月9日(±0日)、出芽期は3月16日(±0日)と平年並であった。移植作業は、順調に進み、移植始4月24日(早1日)、移植期5月2日(±0日)、移植終5月10日(遅1日)と平年並であった。活

着は問題なく、6月上中旬以降、高温で経過したため、生育は順調に推移した。草丈、葉数、根周は平年を上回ったが、8月は、断続的な降雨により一部ほ場が過湿状態となり、根部の肥大が緩慢になった（根周の平年比：8月1日現在 107%、9月1日現在 106%、10月1日現在 104%）。

直播栽培：は種作業は順調に進み、は種始4月20日（遅1日）、は種期4月27日（遅1日）、は種終5月2日（早1日）と平年並だった。出芽は「良」であった。本年は、強風による種子の飛散や植物体の損傷等の風害あるいは霜害は少なかった。6月中旬以降も高温で経過したため、生育は順調に推移した。草丈、葉数、根周は平年並～平年を上回ったが、8月は、断続的な降雨により一部ほ場で過湿状態となり、根部の肥大が緩慢になった（根周の平年比：8月1日現在 109%、9月1日現在 105%、10月1日現在 104%）。

移植栽培では収穫始10月8日（早2日）、収穫期10月24日（早1日）、収穫終11月5日（±0日）と平年並であった。直播栽培では収穫始が10月8日（早3日）と平年よりやや早かったが、収穫期10月25日（±0日）、収穫終11月4日（±0日）と平年並であった。

移植、直播栽培総体の収量は平年を上回ったが、根中糖度は高温及び褐斑病の影響を受け、昨年ほどではないものの平年を下回った。早かったほ場を中心に被害が認められ、被害面積率は平年を上回った（本年 31.2%、昨年 47.4%、平年 7.9%）。根腐病・黒根病の発生量は平年より少なかった。

ヨトウガの第1回発生量は平年並、第2回はやや多かった。テンサイモグリハナバエは平年並であった。

（6）露地野菜（トンネルを含む）

1）たまねぎ

は種作業は、2月12日（早3日）から始まった。出芽期は3月8日（早2日）となり、育苗期間中の生育はおおむね順調に推移した。

移植作業は一部の地域で遅れが見られたが、移植始は4月16日（早4日）、移植期は4月24日（早2日）、移植終は5月3日（早4日）で、おおむね順調に進んだ。

移植後の生育は、好天により、球肥大期前後まで草丈、葉数、葉鞘径が平年並で推移した。7～8月にかけては気温がかなり高く、平年より早く枯葉となった。

球肥大始は7月2日（早2日）、球肥大期は7月5日（早3日）、倒伏期は7月23日（早5日）、枯葉期は8月14日（早4日）となった。

根切り作業は平年よりやや早く進み、根切り期は8月18日（早3日）となった。

収穫作業は、一部で降雨の影響があったが、枯葉が早く進んだことにより、収穫始は8月5日（早2日）、収穫期は8月31日（±0日）、収穫終は9月15日（早3日）となった。球径は 7.7 cm（平年比 96%）で平年並となった。

全体としてはおおむね平年並の収量であるが、主に中生以降の品種で7～8月の高温の影響から、小玉傾向であった。また、一部で日焼け球や腐敗球が発生した。

白斑葉枯病の初発は平年並であり、発生量は少なかった。軟腐病及び乾腐病の発生量は少なかった。タマネギバエ・タネバエの発生量は少なかった。ネギアザミウマの初発は平年より早く、発生量はやや少なかった。ネギハモグリバエの初発は平年よりやや早く、発生量はやや少なかった。

2）根菜類

は種や植付作業は、一部の地域で降雨の影響により遅れが見られたが、その他はおおむね順調であった。生育期間中の5～9月中旬は、気温が平年より高く推移したため、生育は前進した。9月以降は高温・降雨の影響で、だいこん、にんじんでは裂根等の生理障害が発生した。

品目によって9月収穫作型で、歩留まりの低下が見られたが、根菜類全般に、収量は高く、歩留まりも高かった。

価格では、だいこんについては、8月中旬以降高値で推移した。にんじんは、7月まで高値であったがその後安価に転じた。

だいこん：春まきトンネル作型のは種作業は、3月上旬に降雪があった影響により7～10日程度遅れたが、4～5月の高温と適度な降雨により肥大は進み、収穫作業は平年より早い5月下旬から始まった。根長は全体的に長めとなった。

春まき作型のは種作業は計画どおり順調に進み、は種後の好天により初期生育はおおむね順調に進んだ。地域によっては、高温により生育が早まった。

品質はおおむね良好であった。一部では、少雨による乾燥の影響で、形状不良、横しま症、亀裂褐変症が見られ

た。

初夏まき作型、夏まき作型、晩夏まき作型のは種作業は、おおむね順調に進んだ。気温が高く、生育は順調に進んだが、高夜温により根部肥大が緩慢となった地域もあった。また、9月以降は降雨の影響により裂根が見られた。収穫作業は順調に進んだ。収穫量は9月どりで平年を下回ったが、10月どりでは品質は良好であり、製品率も高かった。

軟腐病の発生は8月中旬から見られたが発生は平年並であった。キスジトビハムシによる被害は平年より少なかった。

にんじん：春まきトンネル作型（道南）では、3月上旬の降雪による融雪遅れにより、は種作業も遅れたが、4～5月の高温と適度な降雨により肥大が順調に進み、収穫は早まった。収穫は6月中旬から始まり、収穫作業は順調に進んだ。品質はしみ症の発生もなく良好であった。

春まき作型のは種作業は、計画通り順調に進んだ。は種後は、好天により出芽も順調に進み、草丈、葉数ともに平年を上回った。

晩春まき作型、初夏まき作型のは種作業は、計画通り進み、出芽・初期生育ともに順調であった。出芽以降は高温により生育は進んだ。

8月上旬までの病害発生は少なく、製品歩留まりが高かった。

その後は、一部地域で、高温・降雨の影響で曲がり等の変形、腐れ、しみ症等が増加した。

9月以降では、生理障害（短根・変形・岐根・曲がり・割れ）が見られ、また、まとまった降雨後により、裂根や腐敗が増加したことで、歩留まりは低下した。

10月以降は平年に比べ、多収かつ歩留まりは高く推移した。

8月収穫で、軟腐病、しみ腐病の発生が見られた。

ごぼう：春まき作型のは種作業は、計画通りおおむね順調に進んだが、降雨の影響により遅れた地域もあった。

出芽は平年並であり、6～7月が高温で推移したこともあり、生育は平年よりも進み、根部肥大も良好であった。収穫は平年並の8月下旬より開始し、収量・品質ともに良好であった。

晩春まき作型のは種作業は、降雨の影響を受け他作物の作業が遅れたことにより、計画より遅れたが、出芽は順調であった。生育は好天の影響もあって順調に進み、根部肥大も良好であった。収穫作業は平年並に順調に進んだ。

収量は平年よりも多く、品質は良好であった。

病害による影響はほとんど見られなかった。

ながいも：春掘りの収穫作業は、平年並に始まった。腐敗は少なく収量は平年より多かった。前年の生育が影響し、乾物率が低く、折れ等の発生も多かった。

植付作業は平年並に進んだが、天候不順の影響を受けた地域は、植付作業が遅れ、6月上旬までかかった。

萌芽は平年並に進んだが、一部では地温が低く、生育も緩慢であった。

6月中旬以降は、適度な降雨と高温、多照条件で生育は順調に進み、茎葉の伸長は平年よりも早かった。

新しいもの肥大は良好であり、いも重は平年よりも重く推移したが、乾物率は平年よりも低めに経過した。一部の地域では、8月の日照不足により、肥大が鈍化した。

収穫作業は平年並に始まり、いも長は長く、いも重は重く、収量は平年より多かった。乾物率は前年に比べると高いが、平年よりやや低かった。

春掘りで、出荷後の腐敗が一部地域で発生した。

3) 葉茎菜類

春まき作型は、育苗、定植作業とも計画どおり進み、定植後の活着及び生育はおおむね良好であった。6月どりの収量は平年並～上回った。

7、8月どりは、6～7月の少雨により一時的な生育の遅れや生理障害の発生が見られたが、気温が高く推移して生育が進み、収穫作業は平年より早い開始となった。7～8月の高温により、生理障害や病害が発生し収量・品質は平年～やや下回った。

9、10月どりでは、定植作業は計画どおり進んだ。一部の品目では、7～8月の高温・少雨により、定植後の枯死・萎れ、活着不良、生理障害が見られた。高温のため生育は前進傾向となり、収穫作業も早まった。品目によっては、8月の高温により9月中旬にかけて生理障害の発生が見られたが、収量・品質はおおむね平年並であった。

ねぎ：露地作型の定植作業は、平年並に始まり、天候に恵まれ順調に進んだ。定植後の活着は良好で、一定間隔

で降雨があり、生育は順調に推移した。一部の地域では、7～8月の高温と7月中旬の少雨により、葉先枯れが見られたほか、葉鞘肥大が緩慢となった。また、7月下旬の大雨で生育が停滞した地域もあったが、生育終盤の好天で生育が進んだ。収穫作業は順調に進み、収量・品質は平年並であった。

べと病は平年より早く発生し、7月にやや多く見られた。葉枯病が8～9月に見られた。また、一部の地域では9月に軟腐病の発生が見られた。アザミウマ類は7月から発生が見られた。

はくさい：春～夏まき作型（7～10月どり）の育苗・定植作業は計画どおり～早く進み、定植後の活着及び生育はおおむね良好であった。

春まき作型の生育は、平年より早く進み、収穫作業も早く始まった。球肥大は順調に進んだが、一部の地域では、6～7月の少雨により一時的に小球傾向となり、その後8月下旬にかけて芯腐れなどの生理障害が見られた。収量は、平年並～やや下回った。

夏まき作型は、定植後に適度な降雨があり、生育は順調に進み、結球の状態も良好であった。総体の収量は、平年並であった。

8～9月収穫では、8月に軟腐病の発生が多く見られた。

キャベツ：春まき作型（6、7月どり）の定植作業は、計画どおりに進み、定植後の活着及び生育は良好であった。一部の地域では、5月下旬の低温による生育停滞が見られた。気温が平年より高く経過し、出荷は平年よりやや早い開始となった。収量は平年並～上回った。

晩春まき作型（8、9月どり）の定植作業は、計画どおりに進んだ。定植後の気温が高く経過し、生育は前進傾向となり、平年より早い出荷開始となった。一部の地域では、7月の少雨により一時的に小球傾向となった。収量・品質は平年並～上回った。

初夏まき作型（10～11月どり）の定植作業は、計画どおり進んだ。定植後の生育は好天により順調に推移した。収量・品質は平年並～上回った。

晩春まき～初夏まき作型は、一部の地域で、9月に軟腐病、菌核病の発生が見られた。6月以降はコナガの被害が見られたものの、発生量は少なく、被害程度も低かった。

レタス：春夏まき作型（7、8月どり）のは種、定植作業は計画どおり行われ、定植後の活着及び生育は良好であった。一部の地域では、6月上～7月中旬にかけての少雨により葉先枯れが見られた。球肥大はおおむね順調で、収穫作業も計画どおり進んだ。高温の影響により、一部で8月に小球傾向となったほか、乳管破裂、葉先枯れが見られた。

夏まき作型（9、10月どり）の定植作業は計画どおり進んだが、7～8月の高温・少雨により、定植後の枯死・萎れ、活着不良、葉先枯れが見られた。その後の生育は、平年並に経過した。

全体の収量は、平年並であった。

病害虫の目立った発生はなかった。

ブロッコリー：春まきべたがけ作型は、育苗中の生育が良好で、定植作業は順調に進んだ。定植後の生育は順調に進み、平年より早い5月下旬からの収穫となった。収量・品質は平年並であった。

春～晩春まき作型（7～8月どり）の育苗及び定植作業は、計画どおりに進んだ。7月どりでは、5月上旬の低温により一部で葉の黄化や生育に遅れが見られた。また、高温少雨により、不整形花蕾の発生が見られた。8月どりは、一部の地域で定植時の乾燥により活着遅れが見られたが、その後の降雨で回復した。高温のため生育は前進傾向となり、不整形花蕾、リーフィー、一部で茎空洞などの生理障害の発生が見られた。

初夏まき作型（9～10月どり）の育苗及び定植作業は、計画どおり進んだ。定植後の生育は良好であった。高温のため生育は前進傾向となり、収穫作業も早まった。9月上旬を中心に不整形花蕾、リーフィーの発生が見られた。10月は、気温の急激な低下により花蕾形成の遅れやアントシアニンの発生が見られた。

全体の収量・品質は、地域差は見られるが、おおむね平年並であった。

春まきべたがけ作型では、目立った発生はなかった。

春～晩夏まき作型では、7月中旬以降、黒すす病の発生が続いたものの、昨年より少なかった。7月中～9月中旬まで花蕾腐敗病、軟腐病の発生が見られた。また、一部の地域では根こぶ病の被害が多く見られた。6月中～9月中旬にかけてコナガなどの鱗翅目害虫が発生したが、大きな被害はなかった。

アスパラガス：露地作型の萌芽、出荷開始は、融雪が平年より早く推移したため、平年並～早かった。5月下旬の低温・曇天により若茎の伸びが緩慢となり出荷量も少なくなったが、6月上旬の気温上昇で回復した。出荷規格は平年並であったが、収量は平年を下回った。

収穫打ち切りは、平年並の6月末となった。その後の生育は順調に進み、茎葉繁茂は平年並で、強風による影響

もなく倒伏は少なかった。

8月以降に斑点病の発生が見られた。害虫では、ジュウシホシクピナガハムシの被害が散見された。また、一部の地域では7月以降にツマグロアオカスミカメの発生が見られた。

4) 果菜類

トンネル作型の定植作業は平年よりやや早い～早く、活着及びその後の生育は順調に進んだ。着果及び果実肥大とも良好であった。7、8月収穫では、5月下～6月上旬の低温による一時的な生育停滞や着果にばらつきが見られたが、果実肥大は良好であった。

露地作型のは種作業は平年並で、出芽はおおむね良好であった。定植作業は平年並～やや早かった。7、8月の高温により、生育は前進傾向となり、収穫作業は平年より早まった。果実肥大、品質はおおむね良好であったが、品目によっては、高温の影響により生理障害が発生した。収量は平年並～やや下回った。

メロン：トンネル早熟作型の定植作業は平年並～やや早く、7月下旬収穫作型は4月下旬、8月下旬収穫作型は6月上旬であった。活着は、7月下旬収穫作型は良好であったが、8月下旬収穫作型では少雨の影響によりやや遅れた。その後の生育は順調に進んだ。開花期、着果、収穫時期は平年並であった。7月下旬収穫作型では、6月上旬の天候不順により、一部で着果のばらつきが見られた。両作型とも果実の肥大は5玉中心と良好であった。

病害虫の目立った発生はなかった。

すいか：トンネル早熟作型の定植作業は、平年並の4月下旬となり、活着及びその後の生育は順調に進んだ。5月下旬の低温により一時的な生育停滞が見られたが、開花期は平年並であった。6月上旬の低温により着果にばらつきがみられたが、果実肥大は順調に進んだ。収穫期は平年並であった。果実肥大、内部品質ともに良好であった。

病害虫の目立った発生はなかった。

かぼちゃ：トンネル早熟作型の定植は、平年並の5月上旬で作業も順調に進んだ。その後の生育も順調に進み着果は良好で、果実肥大もおおむね順当であった。定植後からの気温が高く成熟が進み、収穫作業は平年より早い開始となった。収量・品質は平年並であった。

露地作型のは種作業は、各地域で平年並の開始となり、育苗中の生育は順調であった。定植作業は平年並～早く始まったが、6月上旬の降雨によりやや遅れた地域もあった。一部の地域では、5月下～6月上旬の低温により生育が緩慢となった。7、8月の高温により生育が進み、収穫作業は平年並～早く始まり、順調に進んだ。一部の地域を除き、果実肥大はおおむね良好だった。8～9月どりでは、高温・多照の影響により、一部で日焼け果発生が見られた。全体の収量は、平年並であった。

7月上旬から果実斑点細菌病の発生が見られた。また、7月下旬からうどんこ病が発生した。一部の地域では、9月以降、疫病とうどんこ病の発生が平年より多く見られた。

スイートコーン：露地作型のは種作業は、主産地では平年並～早く開始となった。出芽はおおむね良好であったが、一部の地域では、5月下～6月上旬の低温により、出芽や生育が遅れた。その後は気温が高く経過して生育が進み、収穫作業は平年より早い開始となった。8月下～9月中旬の出荷では高温の影響により、一部でしなびが発生した。収量・品質は地域差が見られ、平年並～やや下回った。

一部の地域で8月にアブラムシの発生が多く見られた。

(7) 施設野菜

1) 果菜類

促成作型は、定植作業が計画的に進み、活着、初期生育とも良好であった。5月下～6月上旬にかけての一時的な低温・日照不足により、生育や果実肥大が緩慢となった。また、6月中旬以降の高温により一部で生理障害が見られた。収量は平年並であった。

半促成作型、ハウス夏秋どり作型の定植作業は平年並～やや早く、活着、初期生育とも良好であった。6月中旬～9月中旬の高温により、遮光資材の活用などを行ったものの、生育は前進し収穫作業が早まった。果実は各種生理障害が多発した。9月下旬以降は、気温の低下に伴い緩慢な生育となった。収量は平年並、果実品質は品目及び地域差が見られた。

トマト：促成作型は、定植後の活着やその後の生育が良好であった。4月中～下旬の日照時間はやや少ないものの気温が高く、平年並の出荷開始となった。一部の地域で収穫開始時に尻腐れ果や黄変果、6月に軟果が見られたものの、収量は平年並であった。

半促成作型（長期どりを含む）は、定植後の活着が良好で生育は順調であった。一部の地域では、5月下～6月上旬の一時的な日照不足により、果実の着色が遅れた。

ハウス夏秋どり作型は、定植作業及び初期生育がおおむね順調であった。一部の地域では、葉先枯れが見られた。

半促成、ハウス夏秋どり作型とも、7、8月の高温により落花（落果）が見られた。また、着色が進み収穫が早まった。

7～9月を中心に着色不良果（黄変果、グリーンバック含む）や軟果、尻腐れ果、心腐れ果、空洞果のほか、一部の地域では裂果が発生した。全体に小玉傾向であったが、収量・品質は地域差が見られ平年並～やや下回った。

6月から灰色かび病、トマトキバガの発生が見られた。また、7月以降にうどんこ病、アザミウマ類、8月以降にすすかび病の発生が見られた。トマトキバガは、発生地域の拡大が見られる。

ミニトマト：促成作型の生育はおおむね順調で、平年並の出荷開始となった。一部の地域では、5月中旬に葉先枯れが見られたほか、6月下旬の高温により上段果房で落花（落果）が見られたものの、収量は平年並であった。

半促成長期どり作型は、定植・整枝作業が計画どおりに進み、生育はおおむね順調であった。5月下～6月上旬の日照不足により生育が緩慢となった地域も見られたが出荷開始は平年並であった。7月以降の高温により、生育や収穫作業はやや前倒しとなった。軟果、グリーンバック果が発生したが、収量・品質は地域差が見られ平年並～やや下回った。

ハウス夏秋どり作型の定植作業は順調で、活着も良好であった。一部の地域では、7月中旬に着果負担による葉先枯れが見られた。出荷開始は平年並であった。7、8月の高温の影響により、8月を中心に着果不良の発生が見られた。グリーンバック果、裂果が発生したが、収量・品質は地域差が見られ平年並～やや下回った。

病害虫は、7月から斑点病、灰色かび病、葉かび病、アザミウマ類、8月からうどんこ病の発生が見られた。害虫は、7月から飛来性チョウ目、アザミウマ類、アブラムシ類の発生が見られた。

きゅうり：半促成作型の定植は、平年並の4月中～下旬に始まり、その後の好天により生育は順調に進んだ。収穫始は平年より早かった。一部の地域では、5月下旬と6月下旬の天候不良でそれぞれ草勢が緩慢となったが、天候の回復とともに生育も回復した。また、7～8月の高温の影響により、9月に草勢の低下や着色不良果、曲がり果の発生が見られたものの、全体の収量は平年並であった。

ハウス抑制作型は、定植後の高温により生育は前進傾向となった。生育は順調に経過し、収量は平年並であった。

ハウス抑制作型は、9月以降にべと病、うどんこ病の発生が見られた。

ピーマン：半促成作型の生育はおおむね順調で、平年並の出荷開始となった。一部の地域では、5月下～6月上旬の低温により6月中～7月中旬にかけて細長果の発生が見られた。7、8月は着果負担により一部で草勢が低下した。また、高温・強日射の影響により、一部で尻腐れ果や日焼け果の発生が見られたものの、10月中旬までの生育は早く推移し、総体の収量は平年並～やや上回った。

一部の地域では、5月からアブラムシ類、アザミウマ類、8月から灰色かび病、ハダニ類、9月以降に鱗翅目害虫（幼虫）の発生が見られた。

メロン：加温半促成作型の定植は、平年並に始まった。3月下旬の定植以降、生育は順調に経過し、開花は平年並であった。着果は良好で、果実肥大、ネット形成とも良好～やや良好となり、品質もおおむね良好であった。

半促成作型の定植期は、平年並～やや早く、その後も地温が確保され生育は順調に経過し、開花はやや早まった。一部の地域では、5月下旬の低温により、着果のばらつきが見られたほか、果実肥大がやや緩慢となった。全般に果実肥大は順調に進み、ネット形成も順調であった。果実は5玉中心と肥大は良好で、品質はおおむね良好であった。

一部の地域では、6月から菌核病、ハダニ類、アザミウマ類、7月からハモグリバエ類、8月にうどんこ病の発生が見られた。

すいか：加温促成作型の定植は、平年並に始まった。4月以降の好天により、生育は順調に進んだ。開花は平年並となり、着果、肥大とも順調であった。収穫期は平年並となり、果実肥大、品質とも良好であった。

半促成作型の定植は、平年並に始まった。4月以降の好天により、生育は順調に進み、開花は平年並となり、着果も良好であった。収穫期は平年よりやや早く、果実肥大は平年並であった。

病害虫の目立った発生は無かった。

いちご：一季成り性品種の半促成作型は、おおむね順調な生育となった。開花時期は地域差が見られ、平年よりやや早い～やや遅くなった。出荷開始も地域差が見られ、平年並～やや遅くなった。収量は平年よりやや少なかった。次年度産の定植作業は計画どおりに進み、高温の影響により一部で活着がやや緩慢であったが、生育はおおむね順調に経過した。

四季成り性品種の夏秋どり作型は、2月下旬～3月下旬の定植以降、活着は良好で、生育はおおむね順調に経過した。収穫作業は5月下旬～6月上旬の低温・日照不足の影響で平年よりやや遅れ、6月中旬から開始となった。主産地では、8月の高温や株疲れによる草勢低下により、果実は小玉傾向となり、乱形果やまだら果の発生が見られた。9月中旬以降は株疲れから徐々に回復したが、気温の低下に伴い生育は緩慢となった。総体の収量は平年をやや下回った。

一季成り性品種では、5～6月に灰色かび病、アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類の発生が見られた。

四季成り性品種では、5月にアブラムシ類、5～10月にハダニ類、7～10月にアザミウマ類、9～10月にうどんこ病の発生が一部で見られた。

2) 葉茎菜類

融雪が平年より早く、ほ場の乾きも早かったため、は種・定植作業は順調に進んだ。発芽、活着、初期生育とも良好で、品目によっては3～4月の乾燥と5月上旬の低温によって、一時的な生育遅延が見られたものの、おおむね順調に経過した。6～7月どりの収量は平年並で、品質は良好であった。

しかし、7～9月は高温による発芽不良や生育停滞、一部の品目で病害の発生が多く見られた。高温の影響は10月まで見られ、収量・品質は平年並～やや下回った。

ねぎ：早春まきハウス作型（7月どり）の定植作業は平年並で、活着、初期生育とも良好であった。一部で3～4月の乾燥と一時的な低温により生育の停滞が見られたが、その後の好天で回復し、出荷量は平年並で、品質は良好であった。

簡易軟白作型（9月どり）の定植作業は平年並で、その後の生育もおおむね順調に進んだ。しかし、7、8月の高温により葉鞘の肥大は緩慢となり、やや細い傾向であった。この傾向は10月まで続いた。収量・品質は平年を下回った。

早春まきハウス作型では、7月にべと病、葉枯病、アザミウマ類の発生が一部で見られた。簡易軟白作型では、8月からアザミウマ類の発生が見られた。

ほうれんそう：晩春～秋まき（雨よけ）作型は、融雪が早く、ほ場の乾きも早かったため、は種作業が順調に進んだ。発芽揃いは良好で、生育も順調に経過した。5月下旬～6月上旬の低温の影響もなく、6月の出荷量は平年並で、品質はおおむね良好となった。

夏まき～晩夏まき作型は、7～8月の高温の影響を受け、出芽不良による生育ムラ、葉先枯れや地際の葉が枯死した。その後、9月上旬まで生育が停滞して葉部の伸長が緩慢となり、地域によっては収穫までの生育日数が長くなった。出荷量の減少は9月中旬まで続いた。その後は気温の低下に伴い生育は回復したが、総体の収量は平年を下回った。

7～9月まで萎凋病、立枯病の発生が見られた。

害虫では、8月を除く期間全体を通してハウレンソウケナガコナダニの発生が見られた。また、7～10月はヨトウガが発生し、9月にはシロオビノメイガの幼虫による被害が見られた。

アスパラガス：ハウス立茎作型（周年被覆）は、萌芽、出荷開始とも平年並であった。3月下旬～4月下旬の高温により生育が進み、春芽の収穫終了は平年より早まった。春芽の収穫量は、MS規格が中心で、平年を下回った。立茎は平年より早い4月中旬より始まり、その後の生育は順調に推移した。

6月以降、夏芽の収穫量は徐々に増加したが、7月は平年より少なく、8月は平年並、9月は平年よりやや少なかった。夏芽収穫中の茎葉の生育はおおむね順調であった。収量は平年を下回ったが、品質は割れや空洞も少なく平年並であった。

8月以降に灰色かび病、斑点病、アザミウマ類の発生が見られた。

(8) 花き

3月は日照時間が多く、4月の気温も高く経過したため、ほ場の乾燥は早く、春先の作業、生育は順調だった。その後の生育は、6月中旬～9月下旬までの高温により前進傾向になり、品目によっては短茎開花など品質の低下が見られた。

病害は、高温の影響から土壌病害の発生が見られ、害虫はオオタバコガの発生が早かった。

生育に高温の影響は見られたが、高温対策（遮光資材の展張他）や防除の実施により、令和5年のような極端な

品質低下、生理障害の多発、病害虫の多発生等の被害は最小限に抑えられた。

スターチス類：

シヌアータ：加温促成作型（3～4月中旬定植）の定植作業は3月の好天により順調に進み、活着・初期生育も順調だった。その後の生育はやや早く進み、開花・出荷時期は平年に比べやや早かった。抽苔本数は平年並だった。

8月旧盆向け作型は、生育は5月の好天によりやや早く進んだが、6月下旬の一時的な低温の影響により平年並となった。その後の生育は高温の影響からやや早かった。1番花の草丈は平年並だったが、2番花は短茎傾向だった。抑制作型の生育も同様にやや早かった。抽苔本数は平年並だった。シヌアータの輸送で問題となる黄化症の発生は平年並だったが、蒸れの発生の多い時期があった。

シネンシス系：越年栽培の株枯れは平年並だった。萌芽は、3月の好天によりほ場の乾きが良く順調だった。半促成作型（5～6月定植）は、定植作業は順調で初期生育は平年並だったが、開花は高温の影響からやや早かった。2番花も高温の影響から開花がやや早かった。草丈・抽苔本数は平年並だった。

灰色かび病、ハダニ類、アザミウマ類の発生は平年並だった。シネンシス系でうどんこ病の発生がやや多かった。

カーネーション：越年株は6月上旬（道南・道央）から出荷が始まった。生育は、春の日照が多く、気温が高かったことからやや早く、草丈・品質はともに良好だった。

3～4月定植の作型や2番花は、6月中旬以降の高温の影響により生育は7日程度早まったが、令和5年のような需要期前の集中出荷はなかった。

品質は、生育の前進により短茎傾向となった。一部品種で葉先枯れなどの生理障害が発生した。また、高温の影響により日持ち性の短い時期があった。

病害の発生は少なかった。

害虫は、高温の影響からアザミウマ類の発生が見られた。また、一部で8月中旬よりオオタバコガの発生が見られた。

ゆり類：越年作型は、4月の気温が高く経過したこともあり、萌芽・生育とも良好で、出荷時期は平年並だった。その後、6月中旬以降の高温により生育がやや早まり、出荷は8月旧盆の需要期の前にピークを迎えた。令和5年の高温の影響により、出荷量は減少した。

春植え作型は、定植作業は順調に行われ、生育はおおむね順調だった。品質は、高温の影響により生育が進み、やや短茎で蕾もやや小さい傾向だった。

9月の彼岸の需要期向けの作型も、高温の影響により生育が早まり、やや短茎で蕾もやや小さい傾向だった。また、一部で奇形花、スミ症の発生が見られた。

病害の発生は少なかった。害虫では、アブラムシ類の発生は少なかった。

デルフィニウム類：加温作型は4月下旬から出荷され、3月は日照時間が多く、4月の気温も高く経過したため生育は早かった。

無加温作型は7月上旬から出荷された。生育はおおむね順調だったが、5月中旬以降の高温により、やや短茎傾向だった。

品質は、高温の影響により草丈の長い上位規格が減少した。また、花卉が変色する生理障害が発生した（青色の花色に赤みが入る）。

一部で輸送中の蒸れによる花傷みが発生した。

病害虫の発生は少なかったが、一部でうどんこ病の被害が見られた。

トルコギキョウ：無加温作型の定植作業は4月下旬から開始され、生育は順調だった。定植の終了は6月末となり、平年並の時期に終了した。定植後の気温が高く経過したため、ロゼット株の発生が見られた。その後は、高温の影響により生育及び開花は早まり、やや短茎傾向となった。9月の彼岸の需要期向けの作型では、生育は14日程度早まり彼岸の需要期の前に出荷が始まった。品質は、葉先枯れ（チップバーン）などの生理障害の発生が見られた。

病害は、高温の影響により立枯病の発生が平年に比べやや多かった。害虫は、ハスモンヨトウ、オオタバコガの発生が見られた。

アルストロメリア：通年採花作型の生育は、2・3月は日照時間が多く、4月の気温も高く経過したため、春からおおむね順調だった。出荷量は令和5年の高温の影響により株が弱り、平年並～少ない状況で経過した。品質

は、高温の影響から、花卉に焼け症状が発生した。

病害は、一部ほ場で灰色かび病の発生が見られた。害虫は、コナジラミ、アブラムシ類、ハダニ類の発生が見られ、発生量は平年並だった。

きく：高温の影響により、8月旧盆向け作型、9月の彼岸の需要期向け作型とも生育はやや早く進み、開花・出荷時期は平年に比べやや早かった。草丈は平年並だった。高温の影響は見られたものの、令和5年のような極端な開花抑制、品質低下は見られなかった。

全国的に品薄状態だったため単価は高かった。

病害の発生は少なかった。害虫はアブラムシ類、アザミウマ類の発生が見られた。

宿根かすみそう：加温作型の生育はおおむね順調だったが、出荷は平年に比べやや遅く5月上旬から始まった。無加温作型の出荷は平年並の6月中旬から始まった。品質は平年並だった。

新植作型は、出荷は平年並の7月上旬から始まったが、高温の影響により、8月以降はやや短茎傾向となり、上位規格の出荷が少なかった。短茎のため、枝の出荷が少なく、加工・量販へのお荷に影響が見られた。

病害虫の発生は平年並だった。

りんどう：4月の気温が高く経過したため、ほ場の乾燥は早く、萌芽・生育はおおむね順調で、生育は平年に比べ早かった。高温の影響から、出荷は平年に比べ7日程度早く7月上旬から開始された。8月、9月とも生育・出荷は前進傾向で、9月の彼岸向け作型（品種）では10日程度出荷が早まった。出荷量は平年並だった。

キタネグサレセンチュウの被害が一部で見られた。

しゃくやく：4月の気温は高く経過したため、ほ場の乾燥は早く、萌芽・生育はおおむね順調で、生育は平年に比べ早かった。出荷は平年に比べやや早く5月下旬から開始された。品質は、平年並だった。

害虫は、カメムシ類の発生が見られたが発生程度は平年並だった。

おもちゃかぼちゃ：5月下旬の曇雨天により定植後の生育はやや遅れたが、6月以降の高温の影響により開花・着果後の生育は早く、開花から収穫までの日数は短い傾向だった。収穫は、平年並の8月上旬から開始された。収量は平年並で、果実の腐敗は少なかった。

病害は、うどんこ病の発生が見られた。害虫の発生は平年並だった。

（9）果樹

春先からの高温により、発芽期・展葉期・満開期は平年より早く、収穫時の果実肥大は平年並～やや大きかった。収穫作業は平年より早かった。

収量は平年並～少なかった。少なかった園地は、花芽不足、結実不良、病害などにより減収した。品質は平年並～良好だった。

春先、エゾシカ、野ウサギなどの樹体被害が多く、昨年多発した果実の野鳥害は少なかった。

りんご：発芽期は4月13日（早3日）、展葉期は4月22日（早5日）、満開期は5月14日（早6日）、落花期は5月19日（早6日）と平年より早くなった。

花芽率は中、品種によって隔年結果があった。結実率は多、摘果期は6月28日（早3日）となった。摘果後の着果量は平年並となった。果実肥大は、7月1日の体積は33.7 cm³（131%）と大きく、8月1日は123.7 cm³（110%）、9月1日は254.5 cm³（107%）となり、収穫時は平年並～やや大きくなった。

収穫始は9月16日（早4日）と平年よりやや早く、収穫期は10月13日（早4日）、収穫終は11月8日（±0日）となった。

収量は平年並、隔年結果した園地では少なかった。中生種の品質は着色・糖度・酸度は平年並、晩生種は糖度がやや高く着色も良かった。

病害では、腐らん病が多く、一部で炭疽病が発生した。虫害では、一部でアブラムシ類などが発生した。

生理障害では、「つがる」などの黄変落葉、一部でサビ果が発生した。

鳥獣害では、春先、エゾシカ、野ウサギ、野ネズミなどの樹皮・枝先・芽の食害が多かった。昨年多発した野鳥害は少なかった。

気象災害では、一部で晩霜による花器損傷や10月24日の低気圧通過により落果・枝ずれが発生した。

ぶどう：生食用の無加温ハウス栽培では、春の被覆作業は順調に進み、発芽期・展葉期・満開期は平年より早く、結実・果粒肥大は良好だった。収穫始は平年より早く、収量・品質は平年並だった。

生食用の露地栽培では、発芽期・満開期は平年より早く、結実は平年並だった。収穫始は平年より早く、収量は

病害により平年より少なかった。

醸造専用種では、発芽期・展葉期・満開期は平年より早く、結実は、一部で花振るいがあったが、全体的には良好だった。収穫始は平年より早く、10月中旬以降の品種は平年並となった。収量は平年並、病害の多かった園地では少なかった。品質は糖度が高く、酸度の低下もなかった。

病害では、一部で晩腐病、べと病、灰色かび病が多かった。

虫害では、一部でコガネムシ類、スズメバチ類が発生した。

鳥獣害では、昨年多発した野鳥害は少なかった。

気象災害では、醸造用専用種で、芽の晩霜害、日焼け果が発生した。

おうとう：発芽期・満開期は平年より早く、結実は開花期の強風・降雨、訪花昆虫不足、晩霜の影響により全体では少なかった。果実肥大は良好で、収穫始は早い地域と収穫前半の天候不順により平年並となった地域があった。

収量は結実不足により少なかった。

品質は露地での裂果は少なく、肥大・着色・糖度は良好だった。

一部の地域で、6月下旬のガス・降雨で品質が低下した園地があった。

病害虫では、雨よけハウスの一部で、ハダニ類が発生した。

鳥獣害では、一部でエゾシカなどの樹皮・枝先・芽の食害があった。

気象災害では、一部で晩霜による花器損傷が発生した。

西洋なし：発芽期・満開期は平年より早く、結実は良好だった。果実肥大は平年並～やや大きかった。収穫始は平年より早かった。

収量は平年並～やや多かった。

品質は糖度が高く良好だった。

目立った病害虫の発生はなかった。

ブルーン：発芽期・満開期は平年より早く、花芽率は、品種により隔年結果があった。収穫始は平年より早かった。収量は隔年結果によりやや少なかった。

病害虫では、一部でハダニ類が発生した。

生理障害では、一部の品種でサビ果が発生した。

鳥獣害では、一部でエゾシカ、野ウサギなどの枝先・芽の食害があった。

ハスカップ：満開期は平年よりやや早く、結実は花芽が少なく、強風などにより少なかった。収穫始は平年並だったが、収穫終は早かった。収量は全体では少なかった。

病害虫では、一部で灰色かび病、アブラムシ類が発生した。

(10) 牧草

萌芽期は、平年よりやや早い4月11日（早4日）で、その後の生育は順調に進んだ。

1番草の出穂期は平年並の6月14日（早1日）で、収穫作業は平年並の6月13日（早1日）に始まった。収穫終は平年並の7月10日（早2日）となったものの、一部地域（道北）では天候不順により収穫作業が遅れた。

2番草の生育はやや早く推移した。

2番草の収穫作業は平年並の8月19日（遅2日）に始まり、途中、天候不順による作業の停滞があったものの、収穫終は平年並の9月18日（遅1日）となった。

病害虫の目立った発生はなかった。

(11) とうもろこし（サイレージ用）

は種作業は、平年並の5月7日（早1日）に始まり、は種終も平年並の5月22日（±0日）であった。出芽期は平年並の5月25日（±0日）であり、その後の生育は順調に推移したことから、絹糸抽出期は平年より早い7月26日（早5日）となった。

糊熟期は平年より早い8月29日（早7日）で、好天により登熟は順調に進み、黄熟期は平年より早い9月12日（早7日）となった。

収穫作業は、平年より早い9月10日（早5日）に始まり、収穫終は平年より早い9月28日（早8日）となった。

Ⅲ 指定及び指定外有害動植物に関する調査成績

(I) 水稲の病害虫

予察田における水稲の生育期

地点	品種名	播種期		移植期		幼穂形成期		出穂期		成熟期		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢	きらら397	4月23日	4月25日	5月24日	5月26日	7月3日	7月11日	7月27日	8月2日	9月13日	9月18日	10
	ななつぼし	4月23日	4月25日	5月24日	5月26日	7月3日	7月10日	7月28日	8月2日	9月10日	9月16日	10
比布	きらら397	4月26日	4月24日	5月24日	5月24日	6月26日	6月30日	7月26日	7月30日	9月10日	9月15日	10
	ななつぼし	4月26日	4月26日	5月24日	5月25日	6月26日	7月1日	7月28日	7月30日	9月10日	9月15日	8
北斗	きらら397	4月26日	4月26日	5月24日	5月26日	6月28日	7月2日	7月20日	7月26日	9月6日	9月14日	10
	ななつぼし	4月26日	-	5月24日	-	6月28日	-	7月20日	-	9月6日	-	

- 1) いもち病
- | | | | | |
|------|-------------------------|-----|------|------------------------|
| 葉いもち | 発生期 | 並 | 発生量 | 並 |
| 発生面積 | 256 ha (0.3% : 平年 0.5%) | | 被害面積 | 79 ha (0.1% : 平年 0.0%) |
| 穂いもち | 発生期 | やや早 | 発生量 | 並 |
| 発生面積 | 235 ha (0.3% : 平年 0.4%) | | 被害面積 | 79 ha (0.1% : 平年 0.0%) |

発生経過の概要

1) 葉いもち

- 予察田における葉いもちの本田初発期は、平年よりやや早いから早かった。発生量は、比布町で平年より多く、北斗市で平年よりやや多く、岩見沢市で平年より少なかった。
- 一般田の初発期は平年並だった。発生面積率、被害面積率はいずれも平年並だった。

2) 穂いもち

- 予察田の首いもちの初発期は、いずれの地点も平年より早く、発生量は平年よりやや多い～多かった。
- 一般田の初発期は平年並だった。発生面積率、被害面積率はいずれも平年並だった。

発生原因の解析

1) 葉いもち

- BLASTAM による葉いもち発生時期の予測では、7月上旬に全道的に感染好適条件が認められた。近年少発生が続いており伝染源が少なく、早期の発生につながらなかった。
- 適切な防除により発生量を低く抑えることができた。
- 7月23日付注意報第8号発表。

2) 穂いもち

- 一般田では葉いもちの発生も平年並に抑えられており、適切な防除により発生量を低く抑えることができた。

予察田におけるいもち病の初発期 (月日)

地点	品種名	取り置き苗		葉		枝梗		首		節		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢	きらら397	7月1日	6月25日	7月16日	7月20日	8月6日	8月12日	8月7日	8月17日	8月24日	8月22日	10
	ななつぼし	6月28日	6月25日	7月19日	7月18日	8月4日	8月11日	8月9日	8月16日	8月17日	8月18日	10
比布	きらら397	6月16日	6月23日	7月10日	7月14日	8月1日	8月5日	8月3日	8月9日	8月5日	8月11日	10
	ななつぼし	6月15日	6月24日	7月12日	7月13日	7月31日	8月6日	8月1日	8月11日	8月2日	8月13日	8
北斗	きらら397	6月14日	6月20日	7月5日	7月12日	7月30日	8月7日	8月2日	8月10日	8月7日	8月18日	10
	ななつぼし	6月13日	-	7月5日	-	7月30日	-	8月2日	-	8月7日	-	

予察田におけるいもち病の最盛期（月・半旬）

地点	品種名	葉		枝梗		首		節		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢	きらら397	8.2	7.6	9.2	8.6	8.6	9.2	8.6	9.2	9
	ななつぼし	7.6	8.1	9.2	8.4	9.2	9.1	9.2	9.2	9
比布	きらら397	7.6	8.1	8.2	8.5	8.6	9.1	8.4	9.1	10
	ななつぼし	7.6	7.6	8.2	8.6	8.6	9.1	8.2	9.1	8
北斗	きらら397	7.4	7.6	8.2	8.5	8.4	9.1	9.2	9.2	9
	ななつぼし	7.4	-	8.2	-	8.4	-	8.6	-	

予察田におけるいもち病の発生状況

地点	岩見沢											
品種名	きらら397											
調査 月半旬	葉いもち				穂いもち						節いもち	
	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病莖率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0								
7.2	0	0.4	0	0.1								
7.4	4.0	10.8	1.0	2.7								
7.6	12.0	44.6	3.0	11.6								
8.2	36.0	60.4	9.0	16.8	0.2	1.2	0	0	0.2	1.2	0	0
8.4	40.0	62.6	10.0	18.6	2.0	10.3	0.1	2.4	2.1	11.8	0	1.6
8.6	40.0	64.8	10.0	21.4	7.1	19.8	2.7	5.1	9.8	27.2	7.7	5.6
9.2					36.1	20.4	5.0	14.0	41.1	34.4	10.9	13.1
9.4					-		-		-		-	

注) 空欄は調査対象外

注2) -は成熟のため調査不能

地点	岩見沢											
品種名	ななつぼし											
調査 月半旬	葉いもち				穂いもち						節いもち	
	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病莖率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0								
7.2	0	2.4	0	0.6								
7.4	0	11.6	0	2.9								
7.6	72.0	60.2	18.0	15.6								
8.2	88.0	76.8	25.0	26.2	0.5	1.3	0	0.4	0.5	1.8	0	0.3
8.4	92.0	81.0	26.0	29.1	13.0	18.3	2.0	3.7	15.0	21.0	2.0	5.0
8.6	92.0	82.4	29.0	32.2	21.9	24.6	7.1	12.1	28.9	36.7	13.0	13.0
9.2					47.4	17.0	27.5	22.8	74.8	41.8	30.9	23.1
9.4					-		-		-		-	

注1) 空欄は調査対象外

注2) -は成熟のため調査不能

地点	比布											
品種名	きらら397											
調査 月半旬	葉いもち				穂いもち						節いもち	
	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病莖率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0								
7.2	4.0	5.6	1.0	1.4								
7.4	100.0	32.8	25.0	11.1								
7.6	100.0	79.8	63.0	25.0								
8.2	100	99.6	69.0	34.9	49.0	6.9	4.9	2.9	53.9	9.8	10.1	1.8
8.4	100	99.2	75.0	36.8	59.5	8.9	20.5	6.1	80.0	15.0	26.2	5.8
8.6	100	98.0	79.0	40.0	27.9	21.3	72.1	14.5	100.0	35.8	38.2	8.9
9.2					11.0	21.9	89.0	31.5	100.0	53.4	45.4	15.4
9.4					-	9.9	-	54.8	-	64.6	-	18.3

注1) 空欄は調査対象外

注2) -は成熟のため調査不能

地点	比布											
品種名	ななつぼし											
調査 月半旬	葉いもち				穂いもち						節いもち	
	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病莖率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0								
7.2	0	9.0	0	2.3								
7.4	100.0	33.3	25.0	12.1								
7.6	100	78.8	75.0	26.9								
8.2	100	99.8	78.0	37.7	56.1	6.7	8.9	2.1	65.0	8.7	22.7	3.6
8.4	100	100	80.0	42.5	38.2	8.9	34.9	5.9	73.1	14.8	42.9	6.7
8.6	100	100	84.0	41.6	19.1	24.5	80.9	10.0	100.0	34.5	52.8	11.1
9.2					12.1	25.5	87.9	25.2	100.0	50.8	67.5	17.9
9.4					-	15.7	-	53.1	-	68.7	-	15.5

注1) 空欄は調査対象外

注2) -は成熟のため調査不能

地点	北斗											
品種名	きらら397											
調査 月半旬	葉いもち				穂いもち						節いもち	
	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病莖率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0		0								
7.2	8.0	6.2	2.0	1.6								
7.4	96.0	29.4	24.0	7.5								
7.6	100.0	63.6	25.0	17.3								
8.2	100.0	73.8	25.0	21.7	60.4	6.9	21.2	1.1	81.6	7.9	9.2	0.1
8.4	100.0	74.4	26.0	23.3	26.8	22.1	71.6	6.7	98.4	28.6	23.2	1.3
8.6	100.0	74.8	27.0	23.7	10.8	24.1	89.2	22.5	100.0	46.5	34.0	4.4
9.2					-	20.7	-	32.9	100.0	53.6	48.8	13.8
9.4					-		-		-		57.6	

注1) 空欄は調査対象外

注2) -は成熟のため調査不能

注3) R6調査開始のため平年値なし

地点	北斗											
品種名	ななつぼし											
調査 月半旬	葉いもち				穂いもち						節いもち	
	発病株率(%)		発病度		発病枝梗率(%)		発病首率(%)		発病穂率(%)		発病莖率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0											
7.2	20.0		5.0									
7.4	100.0		25.0									
7.6	100.0		36.0									
8.2	100.0		36.0		66.8		23.6		90.4		22.0	
8.4	100.0		36.0		18.0		82.0		100.0		34.0	
8.6	100.0		36.0		1.6		98.4		100.0		52.8	
9.2					-		-		100.0		65.2	
9.4					-		-		-		72.8	

注1) 空欄は調査対象外

注2) -は成熟のため調査不能

注3) R6調査開始のため平年値なし

巡回調査結果

一般田におけるいもち病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	葉いもち発病株率 (%)			穂いもち発病株率 (%)	振興局	普及センター 本所・支所	葉いもち発病株率 (%)			穂いもち発病株率 (%)
		7月3半旬	7月6半旬	8月3半旬	8月6半旬			7月3半旬	7月6半旬	8月3半旬	8月6半旬
空知	本所	0	0	0	0	渡島	本所	0	0	0	0
	南東部	0	0	0	0		檜山	本所	0	0	0
	南西部	0	0	0	0	上川	北部	0	0	0	0
	中空知	0	0	0	0		本所	0	0	0	0
	北空知	0	0	0	0		富良野	0	0	0	0
石狩	本所	0	0	0	0	大雪山	0	0	0	0	
	北部	0	0	0	0	士別	0	0	0	0	
後志	本所	0	0	0	0	名寄	0	0	0	0	
胆振	東胆振	0	0	0	0	留萌	本所	0	0	0	0
日高	西部	0	0	0	0		南留萌	0	0	0	0

2 紋枯病 発生期 並 発生量 並

発生面積 18,210 ha (19.5% : 平年 21.5%) 被害面積 1,218 ha (1.3% : 平年 2.6%)

発生経過の概要

- ・予察田での初発期は岩見沢市で平年より早く、北斗市で平年並だった。発生量は岩見沢市では平年よりやや多く、北斗市では平年よりやや少なかった。
- ・一般田における初発時期は平年並だった。発生面積率、被害面積率とも平年並だった。

発生原因の解析

- ・前年多発しており水田内の菌密度は高まっていたものの、被害の多かった地域や常発地帯では防除が徹底された。

予察田における紋枯病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢	きらら397	7月19日	8月8日	8.4	8.6	10
	ななつぼし	7月24日		8.4		
北斗	きらら397	7月30日	7月30日	8.4	8.5	10
	ななつぼし	7月30日		8.4		

注1) ななつぼしはR6調査開始のため平年値なし

予察田における紋枯病の発生状況

地点	岩見沢							
品種名	きらら397							
調査 月半旬	発病株率(%)		発病茎率(%)		最上発病葉鞘位		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7.4	4.0	0	0.1	0			0.2	0
7.6	4.0	0.4	0.1	0			0.2	0.1
8.2	28.0	7.4	1.1	0.5	3.0	2.8	1.4	1.9
8.4	72.0	30.4	6.0	5.4	2.0	2.4	10.4	8.7
8.6	84.0	62.8	24.4	12.6	2.0	1.8	20.0	18.3
9.2	92.0	76.9	37.9	18.4	1.0	1.5	26.4	22.2
9.4	96.0	83.7	38.7	21.4	1.0	1.7	27.2	25.2

注1) 空欄は調査対象外

地点	岩見沢							
品種名	ななつぼし							
調査 月半旬	発病株率(%)		発病茎率(%)		最上発病葉鞘位		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7.4	0		0				0	
7.6	8.0		0.2			-	0.4	
8.2	16.0		1.4		3.0	-	0.8	
8.4	68.0		9.6		2.0	-	12.0	
8.6	84.0		21.6		1.0	-	19.2	
9.2	88.0		24.1		1.0	-	20.8	
9.4	-		-		-	-	-	

注1) 空欄は調査対象外

注2) 9月4半旬はいもち病多発により調査不能

注3) R6調査開始のため平年値なし

地点	北斗							
品種名	きらら397							
調査 月半旬	発病株率(%)		発病茎率(%)		最上発病葉鞘位		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7.4	0	0	0	0			0	0
7.6	4.0	5.4	0.8	1.5	3.0		1.0	1.0
8.2	12.0	17.6	6.4	9.0	2.0	2.0	4.0	5.7
8.4	28.0	27.2	16.8	15.9	1.0	1.6	13.0	11.5
8.6	28.0	44.6	17.6	24.4	1.0	1.0	13.0	19.9
9.2	28.0	48.2	17.6	27.7	1.0	1.0	13.0	22.8
9.4	-	28.0	-	20.7	-	1.0	-	18.3

注1) 空欄は調査対象外

注2) 9月4半旬はいもち病多発により調査不能

地点	北斗							
品種名	ななつぼし							
調査 月半旬	発病株率(%)		発病茎率(%)		最上発病葉鞘位		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7.4	0		0				0	
7.6	20.0		6.8		3.0		5.0	
8.2	40.0		34.0		2.0		18.0	
8.4	60.0		51.2		1.0		33.0	
8.6	60.0		51.2		1.0		33.0	
9.2	60.0		51.2		1.0		33.0	
9.4	-		-		-		-	

注1) 空欄は調査対象外

注2) 9月4半旬はいもち病多発により調査不能

注3) R6調査開始のため平年値なし

3 縞葉枯病 発生期 — 発生量 やや多
発生面積 1,639 ha (1.8% : 平年 0.5%) 被害面積 23 ha (0.0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

・一般田における発生面積率は平年より多かった、被害面積率は平年並であった。

発生原因の解析

・5、6月は気温が高く推移し媒介虫の活動に好適だった。常発地域では防除が実施されており、被害は平年並みに抑えられた。

4 ばか苗病 発生期 — 発生量 並
発生面積 720 ha (0.8% : 平年 1.1%) 被害面積 45 ha (0.0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要・発生原因の解析

・一般田における発生面積率は平年並に低く、被害を認めた地域は限定的だった。
・健全種苗が使用され、適切な種子消毒、育苗管理が実施されている。

5 苗立枯病 発生期 — 発生量 並
発生面積 1,074ha (1.2% : 平年 1.0%) 被害面積 190ha (0.2% : 平年 0.0%)

発生経過の概要・発生原因の解析

・一般田における発生面積率、被害面積率とも平年並だった。
・育苗期間の天候が良好に経過し、適切に育苗管理が実施された。

6 種子伝染性細菌病 発生期 — 発生量 並
発生面積 107 ha (0.1% : 平年 0.2%)被害面積 0 ha (0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要・発生原因の解析

・一般田における発生面積率は平年並に低く、被害を認めた地域はなかった。
・種子消毒が適切に実施されていることに加え、育苗期間の天候が良好に経過し、適切に育苗管理が実施された。

7 ニカメイガ 発生期 並 発生量 並
 発生面積 777ha(0.8% : 平年 0.6%) 被害面積 0ha(0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

- ・予察田における被害茎率は長沼町で平年より高かった。
- ・一般田における発生面積率は0.8%と平年並であり、被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・前年は平年並に発生し、越冬密度も平年並だったと推測される。7月は高温に経過したため虫の産卵活動に好適な条件となった。
- ・一般田では防除が適切に行われた。

予察田におけるニカメイガの発生状況と被害状況

	長 沼	
	本 年	平 年
被 害 株 率 (%)	58	39.1
調 査 茎 数	2342	1245.0
被 害 茎 率 (%)	10.4	5.0
在 虫 茎 率 (%)	3.5	1.5
生 幼 虫 数 (頭)	64	18.5
死 幼 虫 数 (頭)	14	2.4
蛹 数 (頭)	0	0.0
切 断 虫 数 (頭)	4	1.6
死 虫 率 (%)	17.9	16.7
10a当り幼虫数 (頭)	59040	5616.9
幼虫平均体重 (mg)	82.3	74.3
調査月日	9月20日	10月1日
調査品種	ななつぼし	
栽培密度(/m ²)	36	
平 年 数	10	

注) 100株当りの数値を示した。

8 セジロウンカ 発生期 早 発生量 並
 発生面積 1,940ha(2.1%：平年1.7%) 被害面積 0ha(0%：平年0.0%)

発生経過の概要

- ・予察田における水田すくい取りによる初発期は比布町及び北斗市で平年より早く、長沼町で平年よりやや早かった。
- ・予察田におけるすくい取り数は長沼町で平年よりやや少なく、比布町で平年並、北斗市では平年より多かった。予察灯による誘殺数は長沼町で平年よりやや少なく、比布町で平年より少なく、北斗市では平年並だった。
- ・一般田における発生面積率は2.1%と平年よりやや高かったが、被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・飛来時期が平年より早く、7～9月は高温に経過し、本田での増殖に好適であったと推測される。
- ・一般田では、防除が適切に行われた。

予察灯及び予察田すくい取りによるセジロウンカ成虫の発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
予察田 すくい取り	初発期	7. VI	8. I	7. II	8. II	6. VI	7. III
	最盛期	8. II	9. II	8. VI	9. III	8. VI	9. II
予察灯 誘殺	初発日	7月20日	7月30日	7月22日	7月31日	7月6日	7月14日
	最盛日	7月29日	8月12日	8月7日	8月16日	8月15日	8月19日

注) 表記のうちローマ数字は半旬を示す。
 平年数は10年。

予察田におけるセジロウンカ成虫のすくい取り虫数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
7. 1	0	0.0	0	0.0	0	3.0
2	0	0.0	2.5	0.0	2.5	5.0
3	0	0.3	0	0.5	10.0	3.0
4	0	0.0	0	0.0	1.7	2.0
5	0	0.1	10.0	0.0	7.5	0.8
6	3.8	2.0	0	1.0	0	2.0
8. 1	1.3	7.9	0	2.0	50.0	11.6
2	5.0	2.0	5.0	3.3	22.5	18.3
3	2.5	3.1	2.5	3.5	10.0	22.5
4	5.0	1.4	20.0	7.0	50.0	28.0
5	0	1.4	12.5	4.4	207.5	39.8
6	1.3	9.0	37.5	14.5	220.0	62.3
9. 1	0	19.1	15.0	12.5	120.0	74.8
2	0	7.4	35.0	5.3	97.5	109.3
3	0	5.1	5.0	43.9	85.0	180.5
4	0	2.5	-	56.7	20.0	154.4
5	-	3.2	-	28.0	-	25.0
6	-	0.6	-	37.5	-	-
平年数	10		10		10	

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

予察灯によるセジロウンカ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	3.9
7. 1	0	0.0	0	0.0	0	3.9
2	0	0.0	0	0.0	35	1.6
3	0	0.0	0	0.2	2	0.6
4	7	0.0	0	0.0	61	1.1
5	0	0.7	2	0.2	50	2.4
6	31	1.7	1	14.2	123	49.4
8. 1	0	7.5	4	5.9	70	105.3
2	3	17.1	25	4.0	160	78.4
3	3	26.7	7	6.1	229	57.4
4	0	15.4	1	6.9	75	185.6
5	1	6.6	2	8.2	15	56.8
6	5	5.4	5	2.0	169	103.7
9. 1	1	2.0	2	0.5	22	69.1
2	1	1.5	1	0.3	15	22.6
3	0	0.3	0	0.2	92	10.6
4	0	3.3	0	0.6	2	17.1
5	0	0.4	0	0.0	0	1.5
6	-	0.0	0	0.0	0	2.7
平年数	10		10		10	

注1) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

9 ヒメトビウンカ 発生期 やや早 発生量 やや少

発生面積 9,809ha(10.5% : 平年 16.9%) 被害面積 230ha(0.2% : 平年 0.2%)

発生経過の概要

- ・畦畔すくい取りによる越冬幼虫及び第1回成虫の発生期は平年よりやや早かった。
- ・予察田の水田すくい取りによる成虫数は、北斗市で平年より多く、長沼町では平年並、比布町で平年より少なかった。予察灯による誘殺数は、北斗市で平年より多く、長沼町では平年よりやや少なく、比布町で平年より少なかった。
- ・一般田における発生面積率は10.5%と平年よりやや低く、上川地方で発生が目立った地域があった。

発生原因の解析

- ・4月、5月の高温経過により初発はやや早まった。
- ・前年秋の発生がやや少なく越冬密度はやや低かったと推測される。春季、夏季とも高温に経過したが、降雨により発生は抑制され、発生量は平年並に止まった。
- ・縞葉枯病常発地域においては箱施用剤による防除が行われているものの、上川地方で発生が目立った地域もあった。

予察田におけるすくい取りによるヒメトビウカ成虫の発生期

世 代		長 沼		比 布		北 斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
第 1 回	初発日	-	-	-	6月16日	-	-
	最盛期	-	-	-	6. III	-	-
	終息日	-	-	-	6月26日	-	-
第 2 回	初発日	7月9日	7月11日	7月13日	7月9日	6月28日	7月6日
	最盛期	7. V	7. V	7. IV	7. VI	7. V	7. VI
	終息日	7月30日	8月1日	8月2日	8月8日	7月30日	8月2日
第 3 回	初発日	8月1日	8月7日	8月9日	8月12日	8月1日	8月8日
	最盛期	8. IV	8. VI	8. VI	8. VI	9. II	9. II
	終息日	-	9月20日	-	9月20日	-	-
平年数		10		10		10	

注) 表記のうちローマ数字は半旬を示す。

予察灯によるヒメトビウカ成虫の発生期

世 代		長 沼		比 布		北 斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
第 1 回	初発日	-	-	6月12日	5月31日	6月18日	6月23日
	最盛期	-	-	-	6月4日	-	-
	終息日	-	-	6月12日	6月8日	6月21日	6月30日
第 2 回	初発日	7月9日	7月10日	7月4日	7月6日	7月3日	7月13日
	最盛期	7月18日	7月22日	7月16日	7月29日	7月18日	7月28日
	終息日	7月25日	7月29日	7月27日	8月9日	7月26日	8月9日
第 3 回	初発日	7月29日	8月2日	8月1日	8月13日	7月28日	8月16日
	最盛期	8月10日	8月18日	8月28日	8月28日	8月17日	9月2日
	終息日	9月17日	9月16日	9月10日	9月15日	9月26日	9月22日
平年数		10		10		10	

予察田におけるすくい取りによるウンカ類幼虫の発生期

	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
初発期	7. V	8. II	7. V	7. VI	7. V	7. VI
最盛期	9. IV	9. I	9. III	9. I	8. V	9. I

注) 表記のうちローマ数字は半旬を示す。

予察田におけるヒメトビウンカ成虫のすくい取り虫数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 5	-	-	-	-	0	-
6	-	0.0	-	0.0	0	0.5
6. 1	0	0.0	0	0.4	0	0.3
2	0	0.0	0	2.8	0	0.0
3	0	0.0	0	1.5	0	0.0
4	0	0.0	0	1.0	0	0.0
5	0	0.0	0	1.7	0	0.5
6	0	0.5	0	1.8	7.5	1.0
7. 1	0	3.0	0	2.5	0	1.5
2	8.8	8.3	0	3.8	0	2.3
3	12.5	6.6	10.0	5.3	2.5	2.8
4	2.5	9.4	12.5	27.0	5.0	3.5
5	30.0	18.4	90.0	49.8	27.5	8.0
6	18.0	15.3	30.0	132.5	10.0	7.1
8. 1	25.0	25.8	40.0	115.0	25.0	11.5
2	74.0	17.3	75.0	46.9	22.5	17.3
3	10.0	81.8	37.5	122.5	60.0	9.5
4	115.0	39.9	190.0	155.5	90.0	27.8
5	63.0	109.1	187.5	366.9	180.0	47.5
6	54.0	123.7	200.0	764.0	100.0	48.8
9. 1	63.0	152.4	82.5	515.8	72.5	78.0
2	35.0	50.2	35.0	248.1	240.0	87.0
3	30.0	32.2	5.0	166.4	97.5	182.0
4	10.0	9.4	-	38.3	40.0	48.4
5	-	32.0	-	6.5	-	17.5
6	-	53.0	-	-	-	-
平年数	10		10		10	

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

畦畔におけるヒメトビウンカのすくい取り虫数

月半旬	長 沼				比 布				北 斗			
	成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
3. 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4. 1	-	0.0	-	22.1	-	0.0	-	10.8	0	0.0	0	19.2
2	0	0.0	2.5	32.1	0	0.0	0	10.0	0	0.0	0	5.0
3	0	0.0	5.0	8.8	0	0.0	7.5	10.8	0	0.0	2.5	5.3
4	0	0.0	0	18.0	0	0.0	2.5	19.2	0	0.0	0	3.8
5	0	0.0	0	23.6	0	0.0	5.0	10.8	0	0.0	0	0.8
6	0	0.0	0	14.3	0	0.0	2.5	9.2	0	0.0	0	1.5
5. 1	0	1.9	0	4.0	0	0.0	5.0	8.1	10.0	0.5	0	1.5
2	2.5	12.8	0	4.2	0	0.0	2.5	2.2	0	0.3	0	1.3
3	7.5	20.0	0.8	1.1	10.0	1.1	7.5	6.7	27.5	1.6	0	0.5
4	0	13.5	0	0.4	122.5	23.1	12.5	1.9	7.5	4.8	0	0.0
5	2.5	6.3	0	0.3	5.0	61.3	5.0	1.5	0	3.0	0	0.3
6	0	5.6	0	1.8	10.0	48.9	0	1.0	0	3.8	0	0.5
6. 1	0	2.1	0	0.6	5.0	33.6	0	1.9	0	3.3	0	0.3
2	0	0.6	0	0.1	25.0	28.5	0	0.3	0	1.3	0	0.3
3	0	1.8	0	0.0	5.0	8.0	0	0.0	0	1.3	0	0.0
4	0	0.5	0	0.0	0	2.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.3	0	0.0	0	0.6	0	1.7	0	0.3	0	0.0
6	0	0.4	0	0.3	0	1.5	0	1.6	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	7.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	10.0	7.5	0	0.2	2.5	1.0	2.5	2.8	0	0.0	0	0.0
3	25.0	11.9	0	0.0	0	0.5	0	2.0	0	0.5	0	0.0
4	0	20.9	0	0.0	0	0.5	2.5	0.5	0	1.5	0	0.0
5	22.0	24.5	0	0.0	0	4.0	0	1.0	0	1.5	0	0.0
6	8.8	16.5	0	0.3	0	6.3	0	0.5	0	1.5	0	0.0
8. 1	15.0	10.9	0	0.3	0	8.0	0	1.0	0	2.0	0	0.3
2	35.0	11.0	1.3	0.7	0	8.1	0	1.1	0	1.8	0	0.0
3	28.0	75.4	0	0.3	5.0	12.0	0	5.0	5.0	5.8	0	0.8
4	48.0	66.4	0	0.6	55.0	44.0	0	1.5	2.5	6.8	0	0.8
5	30.0	92.7	0	1.6	147.5	103.3	0	2.5	25.0	12.0	0	3.8
6	56.0	102.8	0	2.1	165.0	301.3	0	5.0	20.0	17.8	0	2.8
9. 1	133.0	85.6	0	13.9	247.5	205.8	0	5.6	20.0	50.3	5.0	4.8
2	23.0	37.0	0	3.8	182.5	122.2	5.0	8.3	37.5	72.3	0	4.8
3	18.0	22.8	0	11.9	80.0	122.8	0	2.5	15.0	85.5	2.5	2.8
4	13.0	8.0	0	9.7	40.0	40.4	255.0	7.1	2.5	47.8	0	1.3
5	5.0	2.4	0	62.8	37.5	17.2	337.5	17.2	0	19.8	0	0.3
6	0	1.7	0	6.9	0	2.5	355.0	35.7	0	5.0	10.0	1.3
10. 1	2.5	3.2	0	6.6	0	0.0	220.0	146.0	0	1.9	0	6.9
2	2.5	0.9	0	15.3	0	0.0	1165.0	1157.5	0	0.8	0	27.2
3	0	0.4	0	16.5	0	0.0	2105.0	505.5	0	0.0	0	20.6
4	0	0.0	2.5	53.0	0	-	1860.0	559.4	0	0.0	0	21.7
5	0	0.0	0	25.9	0	-	1945.0	765.6	0	0.0	0	19.7
6	0	0.0	0	23.6	0	-	2280.0	1042.5	0	0.0	0	33.4
平年数	10				10				10			

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

予察灯によるヒメトビウンカ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	0.0	-	-	0	0.0
2	0	0.0	-	-	0	0.0
3	0	0.0	-	0.0	0	0.0
4	0	0.0	-	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6. 1	0	0.0	0	13.0	0	0.0
2	0	0.1	0	5.5	0	0.0
3	0	0.0	8	1.2	0	0.1
4	0	0.0	0	0.1	1	0.2
5	0	0.0	0	0.0	2	0.2
6	0	0.1	0	0.2	0	0.5
7. 1	0	0.1	5	1.6	3	1.6
2	6	2.4	13	4.3	24	10.6
3	0	12.2	59	12.6	132	4.2
4	186	153.6	130	104.6	320	35.1
5	21	49.6	29	198.6	44	24.8
6	8	212.3	44	1641.4	61	36.6
8. 1	21	175.6	56	404.8	226	38.0
2	290	402.2	46	229.4	296	22.3
3	648	458.5	308	113.1	503	13.8
4	108	540.6	39	645.7	1871	155.1
5	44	239.2	248	2257.5	123	217.0
6	319	304.0	2193	6447.6	840	337.7
9. 1	49	68.7	208	3836.0	381	248.4
2	10	181.6	7	1664.8	474	3677.3
3	8	108.2	0	49.1	73	338.3
4	2	23.1	0	4.9	14	91.4
5	0	0.3	0	0.0	0	6.3
6	-	0.3	0	0.0	2	0.6
平年数	10		10		10	

注) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

予察田におけるウンカ類幼虫のすくい取り虫数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	1.5	0	0.0
3	0	0.0	0	3.5	0	0.0
4	0	0.0	0	23.3	0	0.3
5	28.0	0.0	2.5	12.5	7.5	0.5
6	116.0	29.1	0	37.3	7.5	5.3
8. 1	139.0	243.7	5.0	354.8	125.0	25.0
2	219.0	220.8	60.0	488.1	50.0	30.3
3	103.0	264.1	205.0	1571.5	297.5	59.8
4	145.0	235.4	650.0	1905.5	437.5	121.3
5	120.0	178.8	397.5	1699.2	752.5	442.3
6	109.0	241.1	507.5	2195.8	712.5	538.8
9. 1	198.0	174.5	602.5	1629.7	460.0	394.3
2	273.0	207.3	1322.5	1626.4	412.5	317.5
3	105.0	252.1	1705.0	2151.9	275.0	307.3
4	428.0	424.0	-	1724.2	222.5	270.6
5	-	472.6	-	2032.0	-	181.7
6	-	256.9	-	-	-	-
平年数	10		10		10	

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。セジロウンカ幼虫を含む数値。

巡回調査結果

一般田におけるすくい取りによるヒメトビウンカの発生状況

振興局	普及センター	調査地点数	7月6半旬	8月3半旬
空知	本所	6	0	10.0
	南東部	2	0	0
	南西部	3	0	6.0
	中空知	4	0	8.8
	北空知	7	2.7	3.0
石狩	本所	2	0.5	0.5
	北部	7	0	0
後志	本所	4	0	1.8
胆振	東胆振	4	0	0
日高	西部	2	0	5.5
渡島	本所	1	0	0
檜山	本所	2	0	8.5
	北部	2	0	2.8
上川	本所	7	2.1	24.0
	富良野	3	1.0	3.3
	大雪	4	3.0	0
	士別	3	0	3.0
	名寄	3	0	0
留萌	本所	4	0	0
	南留萌	2	0	0

注) 20回振りの合計頭数を示した。

ヒメトビウンカのイネ繭葉枯病ウイルス (RSV) 保毒検定

ヒメトビウンカのRSV保毒検定結果 (渡島振興局管内)

採集地点	採取方法	採取時期	RSV保毒虫検定結果						
			検定虫数		保毒虫数		保毒虫率(%)		
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	
	水田すくい取り	8月1日	5	-	0	-	0	-	
	水田すくい取り	8月3日	5	-	0	-	0	-	
	水田すくい取り	8月6日	5	-	0	-	0	-	
	水田すくい取り	8月8日	4	-	0	-	0	-	
	水田すくい取り	8月11日	20	-	0	-	0	-	
	水田すくい取り	8月15日	4	-	0	-	0	-	
	水田すくい取り	8月18日	12	-	0	-	0	-	
	水田すくい取り	8月19日	24	-	0	-	0	-	
	水田すくい取り	8月24日	16	-	0	-	0	-	
	水田すくい取り	8月26日	23	-	0	-	0	-	
	水田すくい取り	8月28日	17	-	0	-	0	-	
	水田すくい取り	9月1日	15	-	0	-	0	-	
北斗市	道南農試	水田すくい取り	9月3日	14	-	0	-	0	-
		水田すくい取り	9月6日	38	-	0	-	0	-
		水田すくい取り	9月9日	58	-	0	-	0	-
		水田すくい取り	9月11日	31	-	0	-	0	-
		水田すくい取り	9月16日	11	-	0	-	0	-
		畦畔すくい取り	8月21日	6	-	0	-	0	-
		畦畔すくい取り	8月24日	4	-	0	-	0	-
		畦畔すくい取り	8月26日	3	-	0	-	0	-
		畦畔すくい取り	8月28日	5	-	0	-	0	-
		畦畔すくい取り	9月1日	6	-	0	-	0	-
		畦畔すくい取り	9月6日	11	-	0	-	0	-
		畦畔すくい取り	9月9日	4	-	0	-	0	-
		畦畔すくい取り	9月11日	5	-	0	-	0	-

注1) 採集は20回振り。

注2) 10月30～11月2日に簡易ELISAにより検定。

ヒメトビウンカのRSV保毒検定結果 (上川振興局管内)

地点番号	採集市町村・地点	採集月日	すくい取り 調査結果 (幼虫数/20回振)	RSV保毒虫検定結果			
				供試虫数 (幼虫)	保毒虫数 (幼虫)	保毒虫率(幼虫、%)	
						本年	前年
A	旭川市	10月11日	9	17	0	0.0	1.0
B	東川町	10月11日	178	96	5	5.2	4.2
C	美瑛町	10月11日	127	96	2	2.1	0.0
D	当麻町	10月11日	612	96	12	12.5	9.4
E	旭川市	10月11日	105	96	2	2.1	3.1
	比布町 農試	10月11日	421	96	3	3.1	5.2

注1) 採集は20～40回振り。

注2) A～Eは定点。

注3) 10月24日に簡易ELISAにより検定。

10 イネドロオイムシ 発生期 並 発生量 少

発生面積 2,154ha(2.3% : 平年 7.1%) 被害面積 21ha(0.0% : 平年 0.3%)

発生経過の概要

- ・予察田における産卵初発期は、長沼町で平年よりやや早く、北斗市で平年より遅かった。比布町では産卵が認められなかった。
- ・予察田における幼虫の発生量および被害は、長沼町では平年よりやや少なく、比布町および北斗市では平年より少なかった。

・一般田における発生面積率は2.3%と平年より低く、被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

・近年、効果の高い箱施用剤の使用が増えており、地域内の発生密度が低めに推移している。

予察田におけるイネドロオイムシの発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
成 虫	初発期	6. I	6. I	-	6. I	6. II	6. I
	最盛期	6. I	6. VI	-	-	-	6. III
	終息期	6. IV	7. III	-	-	-	7. I
卵塊	初発期	6. I	6. II	-	6. IV	7. I	6. II
	最盛期	6. III	7. II	-	6. V	-	6. IV
	終息期	7. I	7. VI	-	7. II	-	7. III
幼 虫	初発期	6. IV	6. IV	-	6. V	6. V	6. IV
	最盛期	6. V	7. II	-	7. III	7. II	6. VI
	終息期	7. VI	7. VI	-	7. V	7. III	7. VI
蛹	初発期	6. V	7. I	-	7. II	7. II	7. I
	最盛期	7. III	7. V	-	7. III	-	7. III
	終息期	7. VI	8. II	-	7. V	-	7. VI
新成虫	初発期	7. III	7. III	-	7. V	-	7. V
	最盛期	7. III	7. V	-	-	-	7. V
	終息期	7. III	8. II	-	-	-	8. I
幼虫被害	初発期	6. IV	6. IV	-	6. V	6. V	6. IV
	最盛期	7. II	7. III	-	7. III	7. III	7. I
平年数		10		10		10	

注) ローマ数字は半月を示す。

予察田におけるイネドロオイムシ成虫のすくい取り虫数

月半月	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 6	-	2.3	-	0.0	-	0.5
6. 1	3.8	1.6	0	2.5	0	1.3
	3.3	3.2	0	0.6	0	4.8
	7.5	6.7	0	0.8	2.5	3.0
	3.8	12.1	0	1.0	2.5	9.0
	15.0	6.1	0	2.2	0	8.0
	5.0	9.8	0	1.5	0	5.5
7. 1	5.0	15.6	0	0.6	0	2.8
	12.5	12.5	2.5	0.5	0	1.0
	5.0	8.0	0	0.5	0	2.5
	0	14.8	0	4.5	0	2.0
	0	12.2	0	5.5	0	0.5
	0	10.3	0	5.3	0	2.3
8. 1	2.5	6.5	0	1.3	0	1.3
	0	0.8	0	0.0	0	2.0
	0	0.6	0	1.0	0	0.8
	0	1.0	0	0.0	0	0.0
	0	0.3	0	0.6	0	0.5
	0	0.0	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10	

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況と被害推移

	月半旬	成虫数		卵塊数		幼虫数		蛹数		被害株率(%)		平年数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年		
長 沼	6.	1	9	5.3	9	2.2	0	0.0	0	0.0	0	7.0	10
		2	2	6.7	18	6.7	0	2.3	0	0.0	0	18.8	
		3	2	4.7	21	11.5	0	15.9	0	0.0	0	32.8	
		4	1	3.7	15	15.6	68	28.5	0	0.0	48	42.0	
		5	0	4.0	4	20.1	72	56.8	4	0.1	76	74.5	
		6	0	4.0	4	20.8	48	80.2	9	1.9	84	91.0	
	7.	1	0	3.4	1	20.3	35	110.7	10	6.5	96	97.2	
		2	0	2.6	0	17.1	4	86.0	15	18.4	100	100.0	
		3	1	2.6	0	12.5	2	61.7	22	26.4	100	100.0	
		4	0	8.5	0	17.7	6	34.8	5	32.2	92	100.0	
		5	0	5.0	0	7.5	0	18.5	5	28.1	100	98.8	
		6	0	4.3	0	6.2	2	3.6	7	18.7	96	99.2	
8.	1	0	2.5	0	2.2	0	0.7	0	10.8	96	99.2		
	2	0	1.4	0	1.7	0	0.7	0	5.5	96	88.0		
比 布	6.	1	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10
		2	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
		3	0	0.1	0	0.4	0	0.4	0	0.0	0	0.0	
		4	0	0.3	0	1.2	0	1.0	0	0.0	0	0.5	
		5	0	0.0	0	0.8	0	4.8	0	0.0	0	2.0	
		6	0	0.3	0	1.1	0	5.4	0	0.4	0	3.5	
	7.	1	0	0.0	0	1.0	0	9.2	0	0.5	0	5.0	
		2	0	0.0	0	0.7	0	8.2	0	1.2	0	11.4	
		3	0	0.1	0	0.2	0	7.0	0	3.1	0	16.6	
		4	0	0.4	0	0.3	0	3.2	0	3.8	0	18.9	
		5	0	0.2	0	0.0	0	0.7	0	3.0	0	18.3	
		6	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	1.1	0	10.9	
8.	1	0	0.1	0	0.0	0	0.2	0	0.3	0	13.5		
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	10.3		
北 斗	6.	1	0	0.2	0	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10
		2	0	1.1	0	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
		3	0	1.3	0	3.3	0	1.6	0	0.0	0	1.6	
		4	0	0.9	0	4.7	0	4.5	0	0.0	0	3.6	
		5	0	0.4	0	5.0	0	16.6	0	0.0	0	15.1	
		6	0	0.4	0	2.7	0	36.4	0	0.0	0	25.8	
	7.	1	0	0.1	1	1.9	1	46.3	0	1.5	4	38.0	
		2	0	0.3	0	0.8	1	32.7	0	5.4	6	44.4	
		3	0	0.2	0	0.6	0.5	16.9	0	10.2	8	48.9	
		4	0	1.0	0	0.5	0	8.3	0.5	10.0	6	52.2	
		5	0	2.3	0	0.3	0	4.9	0	7.2	2	53.1	
		6	0	3.4	0	0.4	0	1.2	0	4.0	4	50.4	
8.	1	0	0.7	0	0.2	0	0.5	0	1.7	2	47.3		
	2	0	0.2	0	0.1	0	0.0	0	0.3	2	42.4		

注) 数値は25株の合計を示した。

巡回調査結果

一般田におけるイネドロオイムシの発生状況と被害推移

振興局	普及センター	調査地点数	卵塊数		幼虫数		被害葉率(%)
			6月3半旬	6月6半旬	6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬
空知	本所	6	0	1.0	2.5	8.8	6.7
	南東部	2	0	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0	0
	中空知	4	8.3	0	6.8	4.8	0
	北空知	7	0	0	0.1	0.3	0.9
石狩	本所	2	0	0	0	0	0
	北部	7	0	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	0	0
胆振	東胆振	4	0	0	0	0	0
日高	西部	2	0	0	0	0	0
渡島	本所	1	0	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	0	0	0	0
	北部	2	0	0	0	0	0
上川	本所	7	0	0	0	0	0
	富良野	3	0	0	0	0	0
	大雪	4	0	0	0	0	0
	士別	3	0	0	0	0	0
	名寄	3	0	0	0	0	0
留萌	本所	4	0	0	0	0	0
	南留萌	2	0	0	0	0	0

注) 数値は調査を行った25株の合計を示した。

1.1 斑点米カメムシ類 発生期 やや早 発生量 やや多

発生面積 29,462ha(31.6%： 平成 28.7%) 被害面積 1,139ha(1.2%： 平成 0.5%)

発生経過の概要

- ・アカヒゲホソミドリカスミカメの予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町で平成より早く、比布町及び北斗市で平成並であった。
- ・予察灯による第2回成虫誘殺数は、北斗市で平成より多く、比布町で平成よりやや多く、長沼町では平成よりやや少なかった。7月下旬から8月の水田すくい取りによる成虫捕獲頭数は、長沼町で平成よりやや多く、比布町及び北斗市では平成並であった。
- ・アカスジカスミカメの北斗市における発生状況は、予察灯による初誘殺日は平成より早く、7月下旬から8月の予察灯誘殺数と水田すくい取りによる成虫捕獲数はいずれも平成より多かった。
- ・割れ籾率は長沼町及び北斗市で平成より低く、比布町では平成並だった。斑点米率は、長沼町で平成より低く、比布町で平成並、北斗市では平成よりやや高かった。
- ・一般田における発生面積率は31.6%と平成よりやや高く、被害面積率は1.2%で、空知と檜山地域で平成より高かった。

発生原因の解析

- ・前年の発生は平成並で越冬密度も平成並であったと推測される。春季、夏季とも高温に経過したため増殖に好適であり、水田への飛び込みは多かったものと推測される。
- ・一般田では、防除が適切に行われた。
- ・7月23日付 注意報第7号発表

予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第 1 回	初発期	6月14日	6月9日	6月8日	6月13日	6月10日	6月10日
	最盛期	6月16日	6月19日	6月11日	6月18日	6月13日	6月18日
	終息期	6月23日	6月27日	6月30日	6月22日	6月29日	6月22日
	総誘殺数	43	45	42	12	61	17
第 2 回	初発期	6月29日	7月4日	7月6日	7月8日	7月3日	7月3日
	最盛期	7月18日	7月21日	7月17日	7月27日	7月25日	7月23日
	終息期	7月23日	7月29日	8月3日	8月7日	8月24日	8月12日
	総誘殺数	1272	2105	349	236	2331	895
第 3 回	初発期	7月24日	7月31日	8月4日	8月14日	8月26日	8月16日
	最盛期	8月10日	8月9日	8月14日	8月31日	9月10日	8月25日
	終息期	9月27日	9月26日	9月11日	9月18日	10月1日	9月19日
	総誘殺数	3760	2388	739	212	166	425
平年数		10		10		10	

水田すくい取りによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長沼町		比布町		北斗市	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第 1 回	初発期	-	-	-	-	-	6月30日
	最盛期	-	-	-	-	-	7. I
	終息期	-	-	-	-	-	7月4日
第 2 回	初発期	7月22日	7月27日	8月2日	7月19日	7月10日	7月26日
	最盛期	7. V	7. VI	8. II	7. IV	8. I	8. I
	終息期	8月1日	8月12日	8月13日	8月5日	8月15日	8月13日
第 3 回	初発期	8月7日	8月19日	8月28日	8月27日	8月24日	8月27日
	最盛期	8. II	8. V	9. II	9. I	8. V	9. I
	終息期	-	9月15日	9月9日	9月18日	8月26日	9月12日
平年数		10		10		10	

注) ローマ数字は半旬を示す。

畦畔すくい取りによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長沼町		比布町		北斗市	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第 1 回	初発期	6月6日	6月4日	6月8日	6月14日	6月16日	6月8日
	最盛期	6. V	6. IV	6. II	6. IV	6. IV	6. V
	終息期	6月28日	6月23日	6月15日	6月22日	6月23日	6月25日
第 2 回	初発期	7月9日	7月12日	7月9日	7月18日	-	7月23日
	最盛期	7. VI	7. VI	7. IV	7. IV	-	7. V
	終息期	8月15日	8月13日	7月19日	7月26日	-	7月29日
第 3 回	初発期	8月19日	8月16日	8月22日	9月10日	8月19日	8月28日
	最盛期	8. V	8. VI	9. II	9. III	-	9. I
	終息期	-	9月27日	9月19日	9月22日	-	9月30日
平年数		10		10		10	

注) ローマ数字は半旬を示す。

水田フェロモントラップによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	6月22日	6月14日	-	6月17日	6月15日	6月20日
	最盛期	6月22日	6月20日	-	6月21日	6月23日	6月30日
	終息期	6月22日	6月25日	-	6月27日	7月2日	7月7日
	総誘殺数	1	4.6	0	4.3	15	17.3
第2回	初発期	7月8日	7月11日	7月15日	7月15日	7月7日	7月12日
	最盛期	7月25日	7月25日	7月28日	7月29日	7月25日	7月26日
	終息期	8月4日	8月5日	8月5日	8月6日	8月5日	8月11日
	総誘殺数	67	29.9	55	66.9	69	63.2
第3回	初発期	8月6日	8月11日	8月6日	8月17日	8月8日	8月16日
	最盛期	8月8日	8月22日	8月20日	9月4日	8月23日	8月25日
	終息期	-	9月21日	9月17日	9月14日	9月8日	9月13日
	総誘殺数	31	41.6	57	22.9	22	33.3
平年数		10		10		10	

畦畔フェロモントラップによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	6月2日	6月5日	6月2日	6月11日	6月9日	6月13日
	最盛期	6月23日	6月19日	6月11日	6月13日	6月13日	6月23日
	終息期	7月1日	7月6日	6月13日	6月24日	6月25日	6月25日
	総誘殺数	59	38.3	14	4.9	6	3.3
第2回	初発期	7月8日	7月13日	7月8日	7月19日	7月5日	7月15日
	最盛期	7月26日	7月27日	7月16日	7月29日	7月17日	7月23日
	終息期	8月14日	8月16日	7月26日	8月7日	8月1日	8月1日
	総誘殺数	112	85	26	25.3	14	10.6
第3回	初発期	8月18日	8月21日	8月1日	8月15日	-	8月13日
	最盛期	8月19日	8月29日	8月13日	9月3日	-	8月24日
	終息期	-	10月5日	9月26日	9月26日	-	9月15日
	総誘殺数	109	59.6	52	37.5	0	12.3
平年数		10		10		10	

予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	-	-	-	0	-
2	0	-	-	-	0	-
3	0	0	-	-	0	0
4	0	0	-	-	0	0
5	0	0	0	-	0	0
6	0	0	0	-	0	1
6. 1	0	1	0	2	0	1
2	0	3	15	2	3	2
3	13	7	19	3	30	3
4	17	10	2	1	10	2
5	13	5	1	1	10	2
6	9	10	5	3	8	6
7. 1	20	9	0	1	59	28
2	321	56	6	4	366	59
3	280	235	69	9	198	43
4	627	725	150	24	348	157
5	215	568	16	33	163	225
6	322	1028	77	125	302	178
8. 1	188	704	34	38	261	117
2	1209	384	98	17	199	55
3	1226	329	437	9	229	45
4	226	185	49	22	179	124
5	70	174	10	53	27	124
6	165	100	126	33	73	73
9. 1	57	22	13	12	43	52
2	37	47	2	35	43	37
3	21	20	1	6	5	8
4	24	13	0	27	0	5
5	0	2	0	1	0	0
6	-	3	0	0	1	0
平年数	10		10		10	

注1) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

予察田におけるアカヒゲホソミドリカスミカメのすくい取り虫数

月半旬	長 沼				比 布				北 斗			
	成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.5	0	0
7. 1	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	1.3	0	0
2	0	0.3	0	0	0	0	0	0	2.5	0.3	0	0
3	0	0	0	0.4	0	1.0	0	0	0	0.8	0	0
4	0	3.1	0	0	0	5.5	0	0	0	0.3	0	0
5	13.0	5.9	2.5	0.1	0	2.8	0	0	7.5	1.8	0	0
6	6.3	6.5	2.5	1.1	0	2.8	0	3.0	2.5	4.4	0	0.4
8. 1	0	4.0	1.3	0.5	5.0	1.0	0	1.5	7.5	6.3	2.5	0
2	14.0	4.6	13.0	0.6	5.0	0	0	2.2	0	3.3	15.0	0.8
3	5.0	6.6	0	2.7	0	0.5	0	11.3	5.0	2.8	2.5	1.0
4	7.5	2.7	0	0.9	0	2.5	0	12.5	0	2.3	0	4.5
5	5.0	4.1	0	1.0	0	0.6	2.5	2.8	5.0	2.3	0	8.0
6	0	3.2	1.3	2.0	2.5	5.3	0	9.0	2.5	1.0	5.0	9.8
9. 1	0	4.5	2.5	2.5	0	3.3	0	3.9	0	3.0	0	6.0
2	0	1.4	0	1.8	2.5	1.9	2.5	1.1	0	4.0	0	5.5
3	2.5	0.1	0	0.5	0	2.8	5.0	0	0	3.8	0	1.8
4	2.5	0.8	0	0	-	3.3	-	3.3	0	1.6	0	1.9
5	-	0	-	0	-	1.5	-	0	-	0.8	-	0
6	-	0.2	-	0.2	-	0	-	0	-	-	-	-
平年数	10				10				10			

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

畦畔におけるアカヒゲホソミドリカスミカメのすくい取り虫数

月半旬	長 沼				比 布				北 斗			
	成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫		成 虫		幼 虫	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	17.1	0	0	2.5	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0.4	0	0	5.0	0	0	0	0	0
5	0	1.1	0	11.6	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	5.4	0	0	0	2.5	0	0.8	0	0
6. 1	0	4.5	0	1.7	0	0	185.0	1.1	0	0.3	0	0.1
2	2.5	7.5	0	3.3	50.0	3.3	400.0	1.0	0	1.5	0	0
3	1.3	22.8	0	0.4	8.3	4.0	0	0	0	0.8	0	0
4	5.0	8.6	0	0.7	0	4.5	0	0	15.0	2.5	0	1.3
5	5.0	1.7	0	0	0	1.7	0	0	2.5	0.5	0	0
6	3.8	4.3	0	0.5	0	0.5	0	0	0	1.5	0	0
7. 1	0	7.4	0	0.1	0	0	0	0	0	2.0	0	1.0
2	6.3	6.8	3.8	1.6	2.5	0.3	2.5	5.5	0	0.5	0	0.8
3	10.0	2.9	2.5	0.5	0	0.8	0	6.5	0	1.0	0	1.0
4	7.5	18.8	2.5	3.3	22.5	6.0	0	7.5	0	2.0	0	2.0
5	22.0	19.3	9.2	2.4	0	2.8	0	0	0	6.3	0	5.5
6	48.0	25.7	11.0	2.6	0	0.5	0	0	0	6.0	0	1.8
8. 1	36.0	12.1	19.0	3.4	0	1.0	0	0	0	2.0	0	0.5
2	26.0	9.3	25.0	3.9	0	0	0	0	0	4.5	0	7.0
3	18.0	12.6	2.5	1.8	0	0	0	1.5	0	1.8	0	2.3
4	20.0	14.4	13.0	1.9	0	0	0	0	2.5	7.5	0	1.8
5	23.0	16.9	20.0	3.6	22.5	1.7	0	0	0	14.5	0	3.5
6	16.0	12.6	10.0	2.8	22.5	5.5	0	0	0	8.0	0	1.8
9. 1	23.0	15.6	10.0	3.3	15.0	7.5	0	0	0	5.0	0	2.3
2	10.0	9.3	2.5	3.4	22.5	5.0	0	0	0	1.8	0	0.3
3	7.5	7.4	0	3.1	15.0	6.9	0	0	0	1.8	0	1.3
4	5.0	4.3	0	3.3	0	10.0	0	1.4	0	2.8	0	0.5
5	0	6.9	0	3.3	0	2.9	0	0	0	1.8	0	0.8
6	5.0	3.3	0	0.6	0	5.7	0	0.7	0	1.3	0	0
平年数	10				10				10			

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

水田フェロモントラップによるアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.1	0	0.3	0	0
2	0	0.6	0	0	0	0
3	0	0.6	0	0.3	1	0.2
4	0.5	2.3	0	1.3	2	1.0
5	0.5	0.7	0	1	5	3
6	0	0.8	0	1.4	6	4.3
7. 1	0.6	0.8	0	0.6	1	6.1
2	0.4	1.7	0	1.4	6	4.2
3	3	2.4	1	2.7	9	6.4
4	3.3	3.4	6	5.1	7	4.9
5	28.7	3.5	15.5	7.1	33	8.1
6	21	7.5	21.5	10.9	5	19.1
8. 1	11.5	10.6	11	8.8	9	16.9
2	11.5	4.9	6	2.2	3	9.4
3	8.8	10.2	7	2.4	7	6.6
4	5.3	9.3	8	1.8	2	4.4
5	1	5.3	23	3.2	7	6.8
6	1	2.7	3	4.1	1	4.8
9. 1	0	3.3	4	4.8	0	4.3
2	1.7	2.0	3	3	2	2.7
3	0.3	1.7	1	1.6	0	2.3
4	0	1.4	2	1.1	-	0.4
5	-	0.5	-	0.7	-	0
6	-	0	-	-	-	-
平年数	10		10		10	

畦畔フェロモントラップによるアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	2.7	7.6	6	1.3	0	0.2
2	11	6.3	3	0.7	1	0.1
3	11.8	6.7	5	1.2	3	0.4
4	9.3	4.9	0	1.3	1	0.5
5	12.7	4.6	0	1	1	1
6	9.8	5.3	0	0.5	0	0.2
7. 1	7.2	7.4	0	0.2	1	0.6
2	6.3	5.6	6	0	3	1
3	10	7.5	4	1.2	3	1.6
4	13.3	9.8	13	3.3	4	1.2
5	20.7	12.7	2	4.2	1	2.1
6	17	18.5	1	8.7	0	3.1
8. 1	17	13.2	5	6.0	2	3
2	14.6	14.1	3	4.2	0	1.2
3	10.9	8.8	10	4.0	0	1.3
4	22.5	7.9	7	4.3	0	1
5	18	9.4	7	3.6	0	1.7
6	15	6.6	4	4.7	0	1.3
9. 1	8	8.1	5	4.3	0	1.7
2	10.8	8.0	1	4.8	0	1
3	9.5	4.9	4	3.0	0	0.6
4	7.5	4.9	4	2.6	0	0.6
5	5.9	3.5	1	2.4	0	0.3
6	4.2	3.2	0	1.9	0	0.4
平年数	10		10		10	

予察灯によるアカスジカスミカメ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	-	-	-	0	0
2	0	-	-	-	0	0
3	0	-	-	-	0	0
4	0	-	-	-	0	0
5	0	-	0	-	0	0
6	0	-	0	-	0	0
6. 1	0	-	0	-	0	0
2	0	-	0	-	0	0
3	0	-	0	-	8	0
4	0	-	0	-	2	1
5	0	-	0	-	17	1
6	0	-	0	-	29	8
7. 1	0	-	0	-	31	3
2	0	-	0	-	53	8
3	0	-	0	-	66	2
4	0	-	0	-	38	9
5	0	-	0	-	52	26
6	0	-	0	-	146	58
8. 1	0	-	0	-	264	60
2	0	-	0	-	111	5
3	0	-	0	-	53	3
4	0	-	0	-	56	88
5	1	-	0	-	13	184
6	0	-	0	-	137	103
9. 1	0	-	0	-	149	44
2	0	-	0	-	578	28
3	0	-	0	-	89	33
4	0	-	0	-	13	17
5	0	-	0	-	0	0
6	-	-	0	-	1	0
平年数	-		-		5	

注1) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

割れ粳率およびカメムシによる粗玄米の斑点米率

	長 沼		比 布		北 斗	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
割れ粳率(%)	0.74	3.60	11.56	10.70	4.01	10.86
斑点米率(%) 頂部	0.07	0.07	0.05	0.02	1.34	0.20
側部	0.08	0.23	0.11	0.10	0.58	0.70
合計	0.14	0.30	0.16	0.11	1.92	0.90
調査品種	ななつぼし		ななつぼし		ななつぼし	
平年数	9		10		9	

注) 北斗市平年品種、2016年以前は「きらら397」、2017年以降は「ななつぼし」

巡回調査結果

一般田におけるすくい取りによるアカヒゲホソミドリカスミカメの発生状況

振興局	普及センター	調査地点数	畦畔すくい取り成幼虫数			水田すくい取り成幼虫数	
			6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬	7月6半旬	8月3半旬
空知	本所	6	0.2	0.2	0.2	2.7	0
	南東部	2	0.5	0.5	0.5	0	0
	南西部	3	0	0	2.0	0	0.7
	中空知	4	0.8	1.5	0.8	0.8	0.3
	北空知	7	0	2.1	8.9	6.9	0.3
石狩	本所	2	0.5	0	0	0.5	0
	北部	7	0	0	0	0	0
後志	本所	4	0	2.0	0.3	0.5	0.5
胆振	東胆振	4	0.8	0.3	0.3	0.3	0
日高	西部	2	0	0	0	0.5	0.5
渡島	本所	1	0	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	0.5	8.5	0	0
	北部	2	0	0	0.3	0	0
上川	本所	7	0.3	3.4	1.4	1.3	0.3
	富良野	3	0	1.3	2.7	0.7	0.3
	大雪	4	0	1.5	1.5	1.3	0
	士別	3	0.3	1.7	5.3	1.0	0
	名寄	3	0	0	0	0	1.0
留萌	本所	4	0	1.3	0.8	1.0	0
	南留萌	2	0	0	0.5	1.0	0

注) 20回振りの合計頭数を示した。畦畔には牧草地・小麦畑を含む。

12 イネミギワバエ 発生期 並 発生量 少

発生面積 248ha(0.3% : 平年 2.2%) 被害面積 0ha(0% : 平年 0.6%)

発生経過の概要

- ・予察田畦畔すくい取りによる初発期は、北斗市で平年より早く、長沼町では平年よりやや遅かった。水田すくい取りによる捕獲数は長沼町で平年より少なく、北斗市では平年よりやや多かった。
- ・一般田における発生面積率は0.3%と平年より低く、被害も認められなかった。

発生原因の解析

- ・本種による被害は地域差が大きい。檜山地方は常発地であるが本年は発生量が少なかった。
- ・一般田では、防除が適切に行われた。

予察田におけるイネミギワバエの発生期

		長 沼		比 布		北 斗	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
畦畔すくい取り 成虫	初発期	5月21日	6月24日	-	-	5月16日	5月25日
	最盛期	5. V	8. III	-	-	5. VI	6. V
	終息期	5月21日	8月8日	-	-	7月26日	7月23日
水田すくい取り 成虫	初発期	6月23日	6月29日	-	-	6月4日	6月13日
	最盛期	6. V	7. IV	-	-	6. VI	6. VI
	終息期	6月23日	8月2日	-	-	6月28日	7月5日
産卵	初発期	-	-	-	-	-	-
幼虫被害	初発期	-	6. IV	-	-	6. I	6. II
平年数		10		4		4	

注) ローマ数字は半旬を示す。

予察田及び畦畔におけるイネミギワバエ成虫のすくい取り虫数

月半旬	長 沼				比 布		北 斗			
	畦 畔		本 田		本 田		畦 畔		本 田	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
4. 1	—	0.0	—	—	—	—	0	0.0	—	—
2	0	0.0	—	—	—	—	0	0.0	—	—
3	0	0.0	—	—	—	—	0	0.0	—	—
4	0	0.2	—	—	—	—	0	0.3	—	—
5	0	0.0	—	—	—	—	0	0.0	—	—
6	0	0.0	—	—	—	—	0	0.0	—	—
5. 1	0	0.0	—	—	—	—	0	0.0	—	—
2	0	0.0	—	—	—	—	0	0.4	—	—
3	0	0.0	—	—	—	—	0	0.1	—	—
4	0	0.0	—	—	—	0.0	2.5	0.0	—	—
5	1.3	0.5	—	—	—	—	2.5	0.4	—	—
6	0	0.2	—	—	—	—	5	1.3	—	—
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.3	2.5	0.4
2	0	0.0	0	0.0	0	0.8	2.5	1.3	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	4.2	0	0.4
4	0	0.0	0	0.3	0	0.0	0	2.9	15	7.5
5	0	0.3	1.3	0.3	0	1.7	5	27.5	27.5	21.7
6	0	0.4	0	1.1	0	8.3	0	20.4	65	9.6
7. 1	0	0.7	0	2.4	0	0.0	0	12.5	0	9.6
2	0	0.3	0	1.2	0	0.0	0	7.5	0	5.0
3	0	0.4	0	1.1	0	0.8	0	2.1	0	0.8
4	0	0.5	0	1.1	0	0.0	0	0.4	0	0.0
5	0	0.3	0	0.6	0	0.0	0	0.7	0	0.0
6	0	0.7	0	0.8	0	0.8	2.5	0.4	0	0.0
8. 1	0	0.6	0	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.4	0	0.1	0	0.0	0	0.8	0	0.0
3	0	1.8	0	0.6	0	0.0	0	0.4	0	0.0
4	0	0.5	0	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.8	0	0.4
平年数	10				6		6			

注) 20回振りの5日あたり換算虫数を示した。

13 コブノメイガ 発生期 - 発生量 並

発生経過の概要

・北斗市において、予察灯による初誘殺日は8月31日と平年より遅かったものの、8月から9月の誘殺数は7頭と平年より多かった。北斗市の予察田における被害株率は平年並であった。

発生原因の解析

・主たる成虫の飛来時期は8月下旬以降だったと考えられる。水稻の成熟は平年より早く、9月上旬には成熟期を迎えており被害は平年並に留まったと推測される。

予察灯によるコブノメイガの第1回発生期（北斗）

	本年	平年
初飛来日	8月31日	8月12日
終息日	9月2日	8月14日
誘殺数	7	0.8
平年数	10	

注) 予察灯は乾式の100W水銀灯による。

予察灯によるコブノメイガ成虫の誘殺数および予察田における被害推移（北斗）

月半旬	成虫誘殺数		被害株率(%)		
	本年	平年	本年	平年	
6.	1	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0
7.	1	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0
8.	1	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.2	0	0.0
	3	0	0.4	2	0.0
	4	0	0.2	4	0.2
	5	0	0.0	4	0.2
	6	2	0.0	4	1.0
9.	1	5	0.0	4	1.0
	2	0	0.0	4	2.6
	3	0	0.2	0	4.4
	4	0	0.3	-	0.0
	5	0	0.1	-	0.0
	6	0	0.0	-	-
平年数	10				

14 フタオビコヤガ 発生期 並 発生量 少

発生面積 1,049ha(1.1%：平年6.2%) 被害面積 0ha(0%：平年0.1%)

発生経過の概要

- ・予察灯による第2～3回成虫の誘殺数は北斗市で平年並、長沼町及び比布町では平年より少なかった。予察田における被害率は、長沼町及び比布町で平年並、北斗市では被害が認められなかった。
- ・一般田における発生面積率は平年より低く、被害も認められなかった。

発生原因の解析

- ・近年発生は減少傾向で、越冬密度は低かったと推測される。
- ・一般田では、箱処理剤成分による併殺効果もあったと推測される。

予察灯によるフタオビコヤガ成虫の発生期

世代		長 沼		比 布		北 斗	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回成虫	初発日	-	-	-	-	6月4日	-
	最盛日	-	-	-	-	-	-
	50%誘殺日	-	-	-	-	-	-
	終息日	-	-	-	-	-	-
	総誘殺数	0	0.0	0	0.0	1	0.0
	性比(♀/♀+♂)	-	-	-	-	1.00	-
第2回成虫	初発日	7月9日	7月9日	7月11日	7月4日	-	-
	最盛日	7月9日	7月12日	-	7月9日	-	-
	50%誘殺日	7月9日	7月11日	-	7月11日	-	-
	終息日	7月9日	7月13日	7月11日	7月18日	-	-
	総誘殺数	1	2.2	1	20.5	0	1.2
	性比(♀/♀+♂)	1.00	0.81	1.00	0.84	-	-
第3回成虫	初発日	7月31日	7月31日	7月29日	7月26日	8月30日	8月12日
	最盛日	8月9日	8月6日	8月2日	8月2日	9月2日	8月20日
	50%誘殺日	8月10日	8月7日	8月6日	8月3日	9月2日	8月21日
	終息日	9月11日	8月31日	9月6日	8月23日	9月7日	8月23日
	総誘殺数	7	75.4	114	348.8	8	8.5
	性比(♀/♀+♂)	1.00	0.76	0.90	0.85	0.38	0.52
平 年 数		10		10		10	

注) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

フェロモントラップによるフタオビコヤガ成虫の発生期

世代		長 沼		比 布		北 斗	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回成虫	初発日	5月11日	-	-	-	5月26日	-
	最盛日	5月20日	-	-	-	-	-
	50%誘殺日	5月18日	-	-	-	-	-
	終息日	6月22日	-	-	-	-	-
	総誘殺数	687	-	0	-	1	-
第2回成虫	初発日	6月24日	-	7月11日	-	-	-
	最盛日	6月30日	-	-	-	-	-
	50%誘殺日	7月1日	-	-	-	-	-
	終息日	7月24日	-	7月15日	-	-	-
	総誘殺数	122	-	2	-	0	-
第3回成虫	初発日	7月25日	-	7月24日	-	8月4日	-
	最盛日	8月30日	-	8月5日	-	8月19日	-
	50%誘殺日	8月18日	-	8月2日	-	8月19日	-
	終息日	-	-	9月11日	-	8月29日	-
	総誘殺数	290	-	26	-	4	-
平 年 数		-		-		-	

予察灯によるフタオビコヤガ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼				比 布				北 斗			
	雌	雄	合 計	平 年	雌	雄	合 計	平 年	雌	雄	合 計	平 年
5. 1	0	0	0	0.0	-	-	-	-	0	0	0	0.0
2	0	0	0	0.0	-	-	-	-	0	0	0	0.0
3	0	0	0	0.0	-	-	-	0.0	0	0	0	0.0
4	0	0	0	0.0	-	-	-	0.0	0	0	0	0.0
5	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
6	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
6. 1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	1	0	1	0.0
2	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
3	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
4	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
5	0	0	0	0.0	0	0	0	0.9	0	0	0	0.0
6	0	0	0	0.0	0	0	0	2.8	0	0	0	0.0
7. 1	0	0	0	0.0	0	0	0	6.7	0	0	0	0.2
2	1	0	1	1.0	0	0	0	5.2	0	0	0	0.1
3	0	0	0	0.7	1	0	1	2.6	0	0	0	0.9
4	0	0	0	0.5	0	0	0	2.8	0	0	0	0.0
5	0	0	0	0.1	0	0	0	4.3	0	0	0	0.4
6	2	0	2	2.6	4	3	7	71.1	0	0	0	0.2
8. 1	0	0	0	30.8	43	1	44	176.6	0	0	0	0.9
2	2	0	2	20.0	35	5	40	29.3	0	0	0	1.6
3	0	0	0	12.0	21	1	22	17.3	0	0	0	0.3
4	0	0	0	3.4	0	0	0	12.0	0	0	0	0.1
5	1	0	1	1.5	0	0	0	2.4	0	0	0	0.1
6	1	0	1	0.9	0	0	0	1.1	1	0	1	0.5
9. 1	0	0	0	0.2	0	0	0	1.5	3	2	5	3.1
2	0	0	0	0.3	0	1	1	0.7	0	1	1	1.3
3	1	0	1	0.0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1
4	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
5	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
6	停電	停電	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
平年数	10				10				10			

注1) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

フェロモントラップによるフタオビコヤガ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗	
	本年	平 年	本年	平 年	本年	平 年
5. 1	-	-	-	-	0	-
2	34	-	-	-	0	-
3	175	-	-	-	0	-
4	198	-	-	-	0	-
5	102.5	-	0	-	0	-
6	61.8	-	0	-	1	-
6. 1	38.7	-	0	-	0	-
2	36	-	0	-	0	-
3	32.8	-	0	-	0	-
4	8.3	-	0	-	0	-
5	4	-	0	-	0	-
6	49	-	0	-	0	-
7. 1	15	-	0	-	0	-
2	16	-	0	-	0	-
3	20	-	2	-	0	-
4	11.7	-	0	-	0	-
5	9.3	-	1.5	-	0	-
6	19	-	2.5	-	0	-
8. 1	41	-	11	-	1	-
2	43.1	-	4	-	0	-
3	30.9	-	1	-	0	-
4	15	-	0	-	2	-
5	32	-	0	-	0	-
6	71.8	-	2	-	1	-
9. 1	30.3	-	2	-	0	-
2	2.5	-	1	-	0	-
3	0.5	-	1	-	0	-
4	0	-	0	-	0	-
5	0.2	-	0	-	0	-
6	0.8	-	0	-	0	-
平年数	-		-		-	

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況と被害推移

地点	月半旬	幼虫数		被害株率(%)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	6. 1	0	0.1	0	0.0	10
	2	0	0.1	0	0.0	
	3	0	0.7	0	1.0	
	4	1	0.7	8	5.0	
	5	2	0.4	12	11.0	
	6	0	0.6	12	13.5	
	7. 1	0	0.2	16	13.5	
	2	0	0.2	12	19.0	
	3	0	0.2	36	21.0	
	4	0	0.8	64	41.3	
	5	0	1.0	68	45.3	
	6	0	0.7	68	62.7	
	8. 1	0	0.5	40	62.7	
	2	1	0.1	48	62.7	
	3	0	0.4	-	49.3	
	4	0	0.5	-	42.0	
	5	0	0.3	-	41.3	
	6	0	0.6	-	20.0	
比布	6. 1	0	0.0	0	0.0	10
	2	1	0.0	4	0.0	
	3	1	0.1	8	0.0	
	4	0	0.1	24	0.0	
	5	0	0.0	24	0.0	
	6	0	0.0	20	1.0	
	7. 1	0	0.0	20	1.0	
	2	0	0.0	12	1.0	
	3	0	0.3	12	5.1	
	4	0	0.2	12	8.0	
	5	0	0.0	4	11.3	
	6	0	0.1	0	8.7	
	8. 1	0	0.2	0	11.4	
	2	0	0.1	4	16.0	
	3	0	0.2	20	22.7	
	4	0	0.6	32	44.7	
	5	0	1.1	44	64.7	
	6	0	0.2	56	66.7	

注) 数値は25株の合計を示した。

15 アワヨトウ 発生期 - 発生量 少

発生経過の概要

・長沼町、比布町及び北斗市いずれの地点においても予察灯による誘殺は認められなかった。

発生原因の解析

・飛来は少なかったと考えられる。

予察灯によるアワヨトウ成虫の発生期

世 代		北 斗	
		本 年	平 年
第 1 回	初発日	-	-
	最盛期	-	-
	終息日	-	-
第 2 回	初発日	-	-
	最盛期	-	-
	終息日	-	-
平年数		10	

予察灯によるアワヨトウ成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		比 布		北 斗		
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	
5.	1	0	0.0	-	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	-	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	-	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	-	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.5
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.1
8.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	-	0.0	0	0.0	0	0.0
10.	1	0	0.0	-	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	-	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	-	0.0	0	0.0
	4	-	0.0	-	-	0	0.0
	5	-	0.0	-	-	0	0.0
	6	-	0.0	-	-	0	0.0
平年数	10		10		10		

注1) 予察灯はいずれも乾式の100W水銀灯による。

(II) 小麦の病害虫

予察ほにおける小麦の生育期

秋まき小麦

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		起生期(月日)		止葉期(月日)		出穂期(月日)		開花始(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	きたほなみ	9月25日	9月21日	10月1日	9月29日	3月29日		5月20日	5月24日	5月29日	6月2日	6月7日	6月9日	7月11日	7月16日	10
芽室	きたほなみ	9月21日	9月21日	9月27日	9月28日	4月7日		5月19日	5月25日	5月28日	6月4日	6月8日	6月9日	7月13日	7月20日	10
訓子府	きたほなみ	9月24日	9月21日	9月30日	9月28日	4月5日		5月23日	5月29日	6月6日	6月8日	6月11日	6月14日	7月19日	7月22日	10

起生期は令和6年度調査開始のため平年値なし

春まき小麦

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		止葉期(月日)		出穂期(月日)		開花始(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	春よ恋	4月11日	4月19日	4月21日	5月3日	6月3日	6月12日	6月11日	6月20日	6月18日	6月25日	7月12日	7月30日	10
比布	春よ恋	4月16日	4月18日	4月26日	4月30日	6月7日	6月11日	6月15日	6月20日	6月20日	6月25日	7月24日	7月29日	9

1 赤さび病 発生期 早 発生量 多

発生面積 59,055 ha (44.6% : 平年 18.1%) 被害面積 17,081 ha (13.9% : 平年 3.1%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は長沼町、芽室町、訓子府町のいずれの地点においても平年より早く、発生量は平年より多かった。
- ・一般ほでは発生面積率、被害面積率ともに平年より高かった。オホーツク地方及び十勝地方では初発期が早く、発生量が多かった。

発生原因の解析

- ・春季の気象が高温多照傾向で本病の発生に好適であった。
- ・これまで本病の発生リスクが低いとされていた地域でも発生が多く、他病害との同時防除主体では発生を抑えきれなかったほ場があると推察される。
- ・5月17日付 注意報第2号発表

予察ほにおける赤さび病の発生期

地点	品種名	初発期		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	きたほなみ	4月11日	4月18日	6.4	6.5	10
芽室	きたほなみ	4月18日	5月14日	6.4	6.6	10
訓子府	きたほなみ	4月25日	5月18日	6.6	7.1	10

予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	長沼					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0.05	0	0	0.03	0	0
5.2	0.82	0	0	0.05	0	0.01
5.4	1.54	0	0.02	0.11	0	0.00
5.6	5.52	0.04	0.82	0.78	0.02	0.26
6.2	17.02	5.14	21.63	3.20	0.38	2.29
6.4	34.00	34.00	—	12.96	4.69	14.13
6.6	—	—	—	28.23	19.62	35.59

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

注2) —は葉の枯凋により調査不能。

地点	芽室					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0.00	0	0	0.00	0	0
5.2	0.00	0	0	0.00	0	0
5.4	0.00	0	0	0.01	0	0
5.6	0.03	0	0	0.01	0	0
6.2	0.49	0.01	0.06	0.35	0.00	0.13
6.4	4.52	0.54	2.90	1.42	0.19	0.84
6.6	14.96	8.80	19.00	6.43	5.06	6.47
7.2				9.76	8.19	9.30

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

注2) -は葉の枯凋により調査不能。

地点	訓子府					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0	0	0	0.00	0	0
5.2	0	0	0	0.00	0	0
5.4	0.09	0	0	0.01	0	0
5.6	0.89	0	0.04	0.00	0	0
6.2	1.03	0.00	0.20	0.03	0.00	0.02
6.4	7.43	1.30	2.83	0.28	0.02	0.14
6.6	35.70	17.50	18.20	2.95	1.00	2.22
7.2				4.52	3.46	5.31

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

巡回調査結果

一般ほにおける赤さび病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	上から2葉目の発病葉率(%)			振興局	普及センター 本所・支所	上から2葉目の発病葉率(%)		
		5月3半旬	5月6半旬	6月3半旬			5月3半旬	5月6半旬	6月3半旬
空知	本所	0	0	—	留萌 オホーツク	本所	0	0	0
	南東部	0	0	—		本所	—	1.0	1.0
	南西部	0	0	—		清里	—	9.3	40.2
	北空知	0	0	—		網走	—	0	0
石狩	本所	0	0	10.0	十勝	美幌	—	0	0
	北部	0	0	0		遠軽	—	0	0
後志	本所	0	0	0		紋別	—	0	0
胆振	本所	0	0	2.7		本所	本所	0	0.6
	東胆振	0	0	—	東部		0	13.3	—
檜山	本所	0	0	—	東北部		0	0	—
	北部	0	0	—	北部		0	0.3	—
上川	本所	0.5	0	—	西部	0	0	—	
	富良野	0	0	—	南部	0	0.6	—	
	大雪	0	0	—	注1) -は調査対象外				
	士別	0	0	—					
	名寄	0	6.7	—					

2 うどんこ病 発生期 並 発生量 並

発生面積 10,770 ha (8.1 % : 平年 4.7%) 被害面積 34 ha (0.0 % : 平年 0.2%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は長沼町では平年より遅く、訓子府町では平年よりやや早かった。発生量は訓子府町で平年よりやや多く、長沼町では平年より少なかった。芽室町では発生が認められなかった。
- ・一般ほにおける初発期は平年並であった。発生面積率は平年よりやや高く、被害面積率は平年より少なかった。

発生原因の解析

- ・主要作付品種が本病に対し抵抗性を有するため、また、他病害との同時防除が実施されており、平年並に発生は少なかった。

予察ほにおけるうどんこ病の発生期

地点	品種名	初発期		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	きたほなみ	5月30日	5月1日	-	6.2	9
芽室	きたほなみ	-	5月18日	-	6.2	10
訓子府	きたほなみ	5月6日	5月10日	5.6	6.1	10

注1) -は未発生もしくは、発生が少なく解析不能。

予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	長 沼					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0	0	0	0.02	0	0.01
5.2	0	0	0	0.08	0	0.01
5.4	0	0	0	0.08	0	0.00
5.6	0	0	0	0.08	0.00	0.03
6.2	0	0	0	0.25	0.00	0.07
6.4	0	0	-	0.29	0.01	0.12
6.6				0.29	0.08	0.25

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

地点	芽 室					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0	0	0	0.01	0	0
5.2	0	0	0	0.00	0	0
5.4	0	0	0	0.01	0	0.00
5.6	0	0	0	0.03	0	0.00
6.2	0	0	0	0.04	0.00	0.00
6.4	0	0	0	0.05	0.01	0.01
6.6	0	0	0	0.01	0	0.00
7.2	-	-	-	0.03	0.01	0.03

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

注2) -は赤さび病の被害または葉の枯凋により調査不能。

地点	訓子府					
品種名	きたほなみ					
調査	病斑面積率(%)					
	本年			平年		
月半旬	全葉	最上位葉	最上-1	全葉	最上位葉	最上-1
4.6	0	0	0	0.01	0	0.00
5.2	0.01	0	0	0.04	0	0.00
5.4	0.15	0	0	0.04	0	0.01
5.6	0.30	0	0	0.01	0	0
6.2	0.15	0	0.03	0.01	0	0.00
6.4	0.11	0	0	0.02	0	0.01
6.6	0	0	0	0.02	0.02	0.01
7.2	—	—	—	0.01	0.00	0.01

注1)「最上-1」は最上位葉から1枚下の葉。

注2) —は赤さび病の被害または葉の枯凋により調査不能。

巡回調査結果

一般ほにおけるうどんこ病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	上から2葉目の発病率率 (%)			振興局	普及センター 本所・支所	上から2葉目の発病率率 (%)			
		5月3半旬	5月6半旬	6月3半旬			5月3半旬	5月6半旬	6月3半旬	
空知	本所	0	0	—	留萌	本所	0	0	0	
	南東部	0	0	—		オホーツク	本所	—	0	0
	南西部	0	0	—			清里	—	0	0
	北空知	0	0	—			網走	—	0	0
石狩	本所	0	0	0	美幌		—	0	0	
	北部	0	0	0	遠軽	—	0	0		
後志	本所	0	0	0	紋別	—	0	0		
胆振	本所	0	0	0	十勝	本所	0	0	—	
	東胆振	0	0	—		東部	0	0	—	
檜山	本所	0	0	—		東北部	0	0	—	
	北部	0	0	—		北部	0	0	—	
上川	本所	0	0	—	西部	0	0	—		
	富良野	0	0	—	南部	0	0	—		
	大雪	0	0	—	注1) —は調査対象外					
	士別	0	0	—						
	名寄	0	0.7	—						

3 雪腐病 発生期 — 発生量 少

発生面積 19,458 ha (14.7% : 平年 28.7%) 被害面積 1,926 ha (1.5% : 平年 3.7%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける発病度は長沼町で平年並、芽室町で平年より低く、訓子府町では平年より高かった。発生菌種割合は長沼町では褐色小粒菌核病及び紅色雪腐病が、芽室町では紅色雪腐病が、訓子府町では雪腐大粒菌核病が優占した。
- ・一般ほでは発生面積率は14.7%、被害面積率は1.5%といずれも平年より低かった。優占菌種は地域により異なった。

発生原因の解析

- ・根雪前の防除が適切に実施されている。春季が温暖で融雪が順調に進んだことから、積雪下での過湿状態が続かなかったと推測される。

小麦予察ほ場における気象季節

地点	根雪始		融雪期		積雪期間	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼	12月13日	12月11日	3月29日	3月25日	108	106
芽室	12月12日	12月7日	4月7日	4月1日	118	116
訓子府	12月13日	12月13日	3月29日	3月29日	108	106

予察ほにおける雪腐病の発生状況

地点	品種名	発病度		平年数
		本年	平年	
長沼	きたほなみ	15.7	11.1	10
芽室	きたほなみ	16.1	30.7	10
訓子府	きたほなみ	51.2	29.6	10

予察ほにおける病原菌別割合

地点	長沼	
品種名	きたほなみ	
病原菌種名	本年	平年
雪腐大粒菌核病	0	0
黒色小粒菌核病	0	3.1
褐色小粒菌核病	47	56.3
紅色雪腐病	38	39.2
褐色雪腐病	15	1.5

地点	芽室	
品種名	きたほなみ	
病原菌種名	本年	平年
雪腐大粒菌核病	0.4	30.8
黒色小粒菌核病	0	12.5
褐色小粒菌核病	0	2.7
紅色雪腐病	99.6	54.0
褐色雪腐病	0	0

地点	訓子府	
品種名	きたほなみ	
病原菌種名	本年	平年
雪腐大粒菌核病	95	49.8
黒色小粒菌核病	0	29.7
褐色小粒菌核病	0	2.0
紅色雪腐病	5	18.5
褐色雪腐病	0	0

4 眼紋病 発生期 — 発生量 やや多

発生面積 8,159 ha (6.2% : 平成 4.2%) 被害面積 1,527 ha (1.2% : 平成 0.4%)

発生経過の概要

・一般ほでは発生面積率、被害面積率ともに平成よりやや多かった。空知、石狩及び上川地方で被害が認められた。

発生原因の解析

- ・春季の気象は全般に温暖傾向であったものの、5月上旬に低温の期間があり、本病の発生に好適となった。
- ・小麦の過作傾向により発病が助長されている。

5 赤かび病

秋まき小麦 発生期 — 発生量 少

発生面積 8,163 ha (6.2% : 平成 22.8%) 被害面積 0ha (0% : 平成 4.6%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける発生量は長沼町、芽室町及び訓子府町のいずれも平成より少なかった。いずれの地点においても発生菌種は *Fusarium graminearum* が優占した。
- ・一般ほにおける発生面積率は平成より少なく、被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・本病の感染に重要な開花期前後の降雨が少なく、感染に好適ではなかった。
- ・適期防除が実施された。

予察ほにおける赤かび病の発生状況(秋まき小麦)

地点	品種名	調査月日	病穂率(%)		発病小穂率(%)		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼	きたほなみ	7月4日	3.0	6.8	0.23	—	10
芽室	きたほなみ	7月7日	0.3	8.7	0.17	—	10
訓子府	きたほなみ	7月4日	0.2	10.4	0.02	—	10

注1) —は平年値なし

予察ほにおける病原菌割合

地点	長沼		芽室		訓子府	
品種名	きたほなみ		きたほなみ		きたほなみ	
病原菌種名	本年	平年	本年	平年	本年	平年
<i>M.nivale</i>	15.0	35.1	0	64.4	25.0	47.8
<i>F.avenaceum</i>	0	1.2	0	9.0	5.0	8.3
<i>F.graminearum</i>	85.0	63.3	100	24.3	70.0	43.4
<i>F.culmorum</i>	0	0.5	0	1.9	0	0.6
調査穂数	20		1		20	

春まき小麦(春まき栽培) 発生期 — 発生量 少

発生面積 1,092 ha (6.2% : 平成 18.7%) 被害面積 53 ha (0.3% : 平成 3.1%)

春まき小麦(初冬まき栽培) 発生期 — 発生量 少

発生面積 20 ha (2.4% : 平成 33.4%) 被害面積 0 ha (0% : 平成 10.0%)

発生経過の概要

1) 春まき栽培

- ・予察ほにおける発生量は、比布町では平成並、長沼町では平成よりやや少なかった。発生菌種は両地点とも *Fusarium graminearum* が優占していた。
- ・一般ほにおける発生面積率は6.2%、被害面積率は0.3%といずれも平成より低かった。

2) 初冬まき栽培

- ・一般ほにおける発生面積率は2.4%、被害面積率は0.0%と平年より低かった。

発生原因の解析

1) 春まき栽培

- ・開花期の降雨が少なかったことと、防除が適切に行われたことにより、発生量は平年より少なかった。

2) 初冬まき栽培

- ・開花期の降雨が少なかったことと、防除が適切に行われたことにより、発生量は平年より少なかった。

予察ほにおける赤かび病の発生状況（春まき栽培）

地点	品種名	調査月日	病穂率(%)		発病小穂率(%)		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼	春よ恋	7月18日	17.7	32.4	1.8	8.5	10
比布	春よ恋	7月8日	2.0	2.3	0.0	0.2	9

予察ほにおける病原菌別割合（春まき栽培）

地点	長沼		比布	
	春よ恋		春よ恋	
病原菌種名	本年	平年	本年	平年
<i>M.nivale</i>	15.2	4.8	0	0.6
<i>F.avenaceum</i>	12.1	3.6	25.0	3.2
<i>F.graminearum</i>	72.7	91.6	75.0	96.2
<i>F.culmorum</i>	0	0	0	0
調査穂数	23		8	

6 ムギクロハモグリバエ 発生期 やや早 発生量 並

発生経過の概要

- ・予察ほにおける成虫すくい取りによる初発期は、訓子府町では平年より早く、長沼町では平年並であった。成虫すくい取り捕獲数は、いずれの地点においても平年並であった。幼虫被害は長沼町で平年より多く、訓子府町では認められなかった。

発生原因の解析

- ・4～5月の高温により発生期はやや早まった。

予察ほ秋まき小麦におけるムギクロハモグリバエの発生期（春季）

		成虫すくい取り		成虫食痕		幼虫被害		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	初発期	5月16日	5月16日	-	5. VI	6. III	6. II	10
	最盛期	5月20日	5月28日	-	6. II	6. IV	6. IV	
	終息期	6月7日	6月13日	-	6. IV	6. VI	6. V	
訓子府	初発期	5月16日	5月26日	-	-	6. III	6. IV	10
	最盛期	-	5月30日	-	-	-	-	
	終息期	6月14日	6月21日	-	-	-	6. V	

注) ローマ数字は半月を示す。

品種は「きたほなみ」

予察ほ秋まき小麦におけるムギクロハモグリバエ成虫すくい取り頭数

月半旬	長 沼		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.1	0	0.0
3	0	3.9	0	0.0
4	21.7	6.5	1.3	0.1
5	20.0	8.0	0	0.4
6	2.5	14.4	0	2.1
6. 1	6.3	5.9	0.8	1.1
2	1.3	5.5	0	0.8
3	0	0.3	1.3	0.3
4	0	0.3	0	0.0
5	0	0.4	0	0.1
6	0	0.8	0	0.1
7. 1	0	0.1	0	0.0
2	0	0.0	0	0.3
3	-	0.0	0	0.0
4	-	0.0	0	0.0
5	-	0.4	-	0.0
6	-	-	-	0.0
平年数	10		10	

注) 20回振りすくい取りの5日あたり換算虫数。

品種は「きたほなみ」

予察ほ秋まき小麦におけるムギクロハモグリバエの発生状況と被害推移

	月半旬	成虫食痕葉率(%)		被害葉率(%)		生幼虫数		平年数
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	
長 沼	5. 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	5	0	0.3	0	0.0	0	0.0	
	6	0	0.4	0	0.0	0	0.0	
	6. 1	0	0.3	0	0.2	0	0.1	
	2	0	0.3	0	0.3	0	0.3	
	3	0	0.4	1.3	1.0	0	0.6	
	4	0	0.2	5.3	1.4	2.0	0.3	
	5	0	0.1	2.7	1.1	0	0.2	
	6	0	0.2	4.0	1.3	0	0.0	
	7. 1	-	0.0	-	0.8	-	0.0	
	2	-	0.0	-	0.2	-	0.0	
3	-	0.0	-	0.0	-	0.0		
4	-	-	-	-	-	-		
訓 子 府	5. 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	6	0	0.0	0	0.1	0	0.1	
	6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
	3	0	0.0	0	0.3	0	0.2	
	4	0	0.0	0	0.1	0	0.1	
	5	0	0.3	0	0.9	0	0.2	
	6	0	0.1	0	0.7	0	0.0	
	7. 1	0	0.0	0	0.4	0	0.0	
	2	-	0.0	-	0.1	-	0.0	
3	-	0.0	-	0.5	-	0.0		
4	-	-	-	-	-	-		

注) 生幼虫数は75葉当りの合計を示した。

品種は「きたほなみ」

7 ムギキモグリバエ

春まき小麦（春まき栽培）	発生期	早	発生量	並
発生面積	1,000ha（5.7%：平年 5.5%）		被害面積	0ha（0%：平年 0.2%）
春まき小麦（初冬まき栽培）	発生期	早	発生量	多
発生面積	95ha（11.5%：平年 2.5%）		被害面積	0ha（0%：平年 0.1%）

発生経過の概要

- ・予察ほのすくい取りによる成虫の初発期は、長沼町で平年より早く、比布町で平年よりやや早かった。成虫の発生量は長沼町及び比布町で平年並であった。出すくみ被害率は、比布町で平年よりやや高く、長沼町で平年より低かった。きず穂被害は比布町で平年並、長沼町で平年よりやや少なく、白穂の発生は両地点において認められなかった。
- ・春まき栽培において、一般ほにおける発生面積率は平年並、被害に至ったほ場は認められなかった。
- ・初冬まき栽培において、一般ほにおける発生面積率は平年より高く、被害に至ったほ場は認められなかった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量はやや多く、秋季も高温で経過したため越冬密度はやや高かったものと推測される。
- ・春季は高温に経過したため、成虫初発は平年より早かった。高温経過により、比布町の予察ほでは早期の加害による出すくみ被害がやや多かった。
- ・常発地域では防除がおこなわれている。近年は春季の高温で防除適期が早まる傾向がある。

予察ほ春まき小麦におけるムギキモグリバエ成虫すくい取り発生期

	長沼		比布	
	本年	平年	本年	平年
初発期	5月9日	5月16日	5月14日	5月19日
最盛期	5月19日	6月1日	6月8日	6月8日
終息期	6月8日	6月27日	6月27日	6月18日
平年数	10		10	

注) 品種は「春よ恋」(比布の平年値の2017年以前は「ハルユタカ」)

予察ほ春まき小麦におけるムギキモグリバエ成虫すくい取り頭数

月半月	長沼		比布	
	本年	平年	本年	平年
5. 2	7.5	2.5	0	0.0
3	57.5	16.8	17.5	2.5
4	64.2	25.5	27.5	15.9
5	22.5	68.9	5.0	95.8
6	10.0	77.6	145.0	201.3
6. 1	23.8	75.4	305.0	236.1
2	3.8	55.7	470.0	439.5
3	0	46.4	211.7	176.8
4	0	12.8	30.0	56.5
5	0	9.2	10.0	29.7
6	0	5.3	0	31.4
7. 1	0	4.2	20.0	44.2
2	0	16.1	37.5	102.8
3	45.0	52.5	145.0	221.8
4	87.5	119.3	472.5	443.3
5	-	134.2	-	392.8
6	-	100.2	-	523.0
平年数	10		10	

注) 20回振りすくい取りの5日あたり換算虫数。

品種は「春よ恋」(比布の平年値の2017年以前は「ハルユタカ」)

予察ほ春まき小麦におけるムギキモグリバエの被害状況

	長沼		比布	
	本年	平年	本年	平年
出すくみ	2.7	13.5	52.8	38.4
きず穂	0.5	4.0	0.9	1.3
白穂	0	1.2	0	1.8
平年数	10		10	

注) 畦長30cm、5か所の被害穂率(%)を示した。

品種は「春よ恋」(比布の平年値は「ハルユタカ」)

8 アブラムシ類 発生期 やや早 発生量 少

発生経過の概要

- ・予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの初発期は、訓子府町で平年よりやや早く、長沼町では平年並であった。ムギクビレアブラムシの発生は、いずれの地点においても認められなかった。
- ・ムギヒゲナガアブラムシの発生量は、訓子府町で平年より多く、長沼町では平年より少なかった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量は平年より少なく、越冬量は平年より少なかったと推測される。
- ・春季は高温に経過し、初発は早まった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生期

		ムギヒゲナガアブラムシ		ムギクビレアブラムシ		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	初発期	6. IV	6. IV	-	6. VI	10
	最盛期	6. IV	6. VI	-	6. VI	
	終息期	6. IV	7. I	-	7. I	
訓子府	初発期	6. III	6. IV	-	6. IV	10
	最盛期	6. IV	6. VI	-	6. VI	
	終息期	6. V	7. III	-	7. II	

注) ローマ数字は半月を示す。

品種は「きたほなみ」

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

	月半月	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ				平年数
		有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年	
長沼	6. 1	0	0	0	0	0	0	0	0	10
	2	0	0	0	1.4	0	0	0	0.1	
	3	0	0	0	0.8	0	0	0	0.1	
	4	0	0.3	0.3	2.0	0	0	0	0.9	
	5	0	0	0	2.0	0	0	0	0.5	
	6	0	0	0	3.6	0	0	0	3.5	
長沼	7. 1	0	0	0	3.5	0	0	0	1.6	10
	2	0	0	0	1.3	0	0	0	1.0	
	3	-	-	-	0.2	-	-	-	0.3	
	4	-	-	-	0.0	-	-	-	0.0	
	5	-	-	-	-	-	-	-	0.0	
訓子府	6. 1	0	0	0	-	0	0	0	-	10
	2	0	0	0	0.3	0	0	0	11.7	
	3	1	11	12	5.7	0	0	0	9.0	
	4	0	44	44	4.3	0	0	0	3.9	
	5	0	33	33	10.5	0	0	0	6.6	
	6	0	0	0	10.2	0	0	0	10.6	
訓子府	7. 1	0	0	0	26.5	0	0	0	5.3	10
	2	0	0	0	10.9	0	0	0	2.4	
	3	0	0	0	3.1	0	0	0	0.4	
	4	0	0	0	3.6	0	0	0	1.3	
	5	-	-	-	-	-	-	-	-	

注) 5茎5カ所(計25穂)の合計頭数を示した。

品種は「きたほなみ」

(Ⅲ) とうもろこしの病害虫

1 アワノメイガ 発生期 早 発生量 多

発生経過の概要

- ・北斗市の子察ほにおけるフェロモントラップ初誘殺は、第1回、第2回ともに平年より早かった。
- ・誘殺数は第1回、第2回ともに平年より多かった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量は平年より多く、越冬量も多かったと推察される。春季以降高温に経過したため発生は早まった。

フェロモントラップによるアワノメイガ成虫の発生期

		北斗	
		本年	平年
第1回	初発期	5月18日	6月4日
	最盛期	6月16日	6月29日
	50%誘殺日	6月27日	6月29日
	終息期	7月20日	7月16日
	総誘殺数	368	41.5
第2回	初発期	7月28日	8月5日
	最盛期	8月21日	8月31日
	50%誘殺日	9月2日	8月31日
	終息期	10月6日	9月27日
	総誘殺数	678	44.1

注) ローマ数字は半月を示す。

フェロモントラップによるアワノメイガ成虫の誘殺頭数

月半月	北斗	
	本年	平年
6. 1	0	0.4
2	9	1.2
3	19	2.3
4	78	6.2
5	50	4.7
6	55	9.2
7. 1	59	6.3
2	33	5.0
3	32	3.3
4	29	2.1
5	0	0.6
6	5	0.6
8. 1	24	1.0
2	24	1.6
3	7	4.6
4	84	4.2
5	109	5.2
6	78	4.5
9. 1	97	6.6
2	99	6.5
3	19	3.5
4	75	4.1
5	31	1.4
6	17	0.5
平年数	10	

2 オオタバコガ 発生期 早 発生量 多

発生経過の概要

- ・フェロモントラップへの初誘殺は比布町および北斗市で平年より早く、長沼町で平年より遅かった。
- ・誘殺数は、比布町、北斗市、訓子府町では平年より多く、長沼町で少なかった。芽室町では誘殺が認められなかった。

発生原因の解析

- ・5月中旬に道内への初飛来が比布町および北斗市で認められた。
- ・夏季の高温経過により飛来次世代以降の増殖が多かったものと推測される。

フェロモントラップによるオオタバコガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
5.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.2	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6.	1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.2	1	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.3	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.8	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.6	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.2	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0
7.	1	0	2.2	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.5	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.8	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.4	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.5	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0
8.	1	0	2.1	11	2.2	1	0.9	0	0.0	2	0.3
	2	1	5.5	2	2.6	0	0.8	0	0.0	2	0.5
	3	0	1.8	5	1.9	0	1.2	0	0.0	2	0.1
	4	1	0.8	1	0.8	13	0.2	0	0.0	0	0.0
	5	5	1.6	3	0.1	8	1.3	0	0.0	21	0.0
	6	1	0.9	0	1.4	16	6.6	0	0.0	7	0.3
9.	1	5	12.3	10	2.5	16	12.2	0	0.0	5	0.6
	2	1	3.4	28	1.6	7	3.8	0	0.0	0	0.5
	3	4	6.8	26	0.4	14	2.8	0	0.0	0	0.0
	4	4	5.4	33	1.0	20	3.3	0	0.0	0	0.0
	5	2	1.2	5	0.8	7	0.8	0	0.0	0	0.0
	6	0	1.8	13	0.7	11	0.4	0	0.3	0	0.0
平年数	10		10		9		9		8		

3 ツマジロクサヨトウ 発生期 早 発生量 やや多

発生経過の概要

- ・フェロモントラップへの初誘殺は北斗市で早く、比布町で平年より遅かった。
- ・誘殺数は訓子府町で平年より多く、比布町で平年並、北斗市で平年より少なかった。長沼町および芽室町では誘殺は認められなかった。

発生原因の解析

- ・7月上旬に道南地方に飛来があったものと推測される。次世代以降の成虫発生時期に道内の他の地点へ成虫が移動したものと推察される。

フェロモントラップによるツマジロクサヨトウ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年
5. 4	0	0	0	-	0	-	-	-	-	-
5. 5	0	0	0	-	0	0	-	-	-	-
5. 6	0	0	0	-	0	0	-	-	-	-
6. 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 6	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	0
7. 1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
7. 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7. 3	0	0	0	0	1	0.3	0	0	0	0
7. 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7. 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7. 6	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0	0
8. 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 2	0	0.3	0	0	0	0.3	0	0	0	0
8. 3	0	1.3	0	0	0	1.3	0	0	0	0
8. 4	0	0.8	0	0	0	1.3	0	0	0	0.3
8. 5	0	0.3	0	0.5	4	2.5	0	0	0	0
8. 6	0	0	0	0	5	5.3	0	0	0	0.3
9. 1	0	0.8	0	0.3	0	3	0	0	5	0.1
9. 2	0	0.3	0	1.3	0	2.3	0	0	0	0.1
9. 3	0	2.3	0	0.4	1	1.5	0	0	0	0
9. 4	0	3.3	2	0.6	2	28.3	0	0	0	0
9. 5	0	2.3	0	0.3	2	17	0	0	0	0.3
9. 6	0	0.3	1	0.4	16	23.8	0	0	0	0.7
10. 1	-	-	3	0.9	5	2.7	0	-	-	-
10. 2	-	-	0	-	5	3	-	-	-	-
10. 3	-	-	0	-	1	-	-	-	-	-
平年数	4		4		4		4		4	

(IV) 大豆の病害虫

予察ほにおける大豆の生育期

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		開花始(月日)		莢伸長始期(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	トヨムスメ	5月20日	5月24日	6月4日	6月7日	7月13日	7月18日	7月25日	—	9月30日	10月3日	10
	ユキホマレR	5月20日	—	6月10日	—	7月11日	—	7月22日	—	9月12日	—	—
訓子府	トヨムスメ	5月23日	5月25日	6月5日	6月6日	7月15日	7月20日	7月27日	—	9月28日	10月5日	10
	とよまどか	5月22日	—	6月6日	—	7月15日	—	7月27日	—	9月18日	—	—

注1) —は平年値なし

1 ベと病 発生期 並 発生量 やや少

発生面積 8,057 ha (17.8% : 平年 21.2%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.3%)

発生経過の概要

- ・長沼町の予察ほにおける初発期は平年より遅く、発生量は平年より少なかった。
- ・一般ほでの発生面積率は平年よりやや低く、被害に至ったほ場は認められなかった。

発生原因の解析

- ・近年発生が少なく、健全種子が使用されている。
- ・7月下旬、8月下旬を除き多雨の期間が続かなかったことから、本病のまん延に好適な条件にならなかった。
- ・適切な防除が実施されている。

予察ほにおけるべと病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	トヨムスメ	7月26日	7月20日	8.2	8.2	10

予察ほにおけるべと病の発生状況

地点	長沼				
	品種名	トヨムスメ			
		発病株率(%)		発病度	
月半旬	本年	平年	本年	平年	
6.6	0	0	0	0	
7.2	0	0.8	0	0.2	
7.4	0	6.4	0	1.6	
7.6	2	42.1	0.5	10.6	
8.2	6	64.9	1.5	16.4	
8.4	6	71.1	1.5	18.6	
8.6	4	78.0	1.0	21.0	
9.2	4	77.6	1.0	21.2	
9.4	—	66.0	—	17.6	

注1) —は枯葉や落葉が進み調査不能

2 わい化病 発生期 — 発生量 やや多

発生面積 7,142 ha (15.8% : 平年 11.3%) 被害面積 183 ha (0.4% : 平年 0.1%)

発生経過の概要

- ・長沼町の予察ほにおける発生量は平年より少なかった。
- ・一般ほにおける発生面積率及び被害面積率は平年よりやや高かった。

発生原因の解析

- ・効果的な種子塗沫剤の使用により、発生量は平年よりやや多いものの、低いレベルに抑えられている。
- ・春季の気象が温暖であったことから、媒介虫の飛来、吸汁活動が活発であった。

予察ほにおけるわい化病の発生状況

地点	長沼		訓子府	
品種名	トヨムスメ		とよまどか	
調査 月.半旬	発病株率(%)		発病株率(%)	
	本年	平年	本年	平年
7.4	12.0	18.0	6.0	—
8.6	16.0	33.4	18.0	—

注1) —は平年値なし

3 マメシクイガ

発生期 やや早 発生量 やや少

発生面積 8,340ha(18.4%：平年 18.5%) 被害面積 0ha(0%：平年 0.9%)

発生経過の概要

- ・フェロモントラップによる成虫の初誘殺日は、長沼町、比布町及び訓子府町で平年より早く、北斗市及び芽室町では平年並であった。
- ・フェロモントラップ誘殺数は、比布町及び訓子府町で平年より多く、芽室町で平年よりやや多く、長沼町で平年並、北斗市では平年よりやや少なかった。被害粒率は、長沼町、芽室町、訓子府町いずれの地点も平年より高かった。
- ・一般ほにおける発生面積率は平年並で、被害に至ったほ場は認められなかった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量は平年よりやや少なかったが、降雨が少なく産卵に適していたものと推察される。
- ・一般ほでは防除が適切におこなわれた。

フェロモントラップによるマメシクイガ成虫の発生期

		長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
第一回成虫	初飛来日(月日)	7月13日	7月20日	7月5日	7月15日	8月6日	8月3日	7月22日	7月25日	7月28日	8月2日
	最盛期(月日)	8月19日	8月9日	7月19日	7月31日	8月21日	8月21日	8月18日	8月7日	8月15日	8月13日
	50%誘殺日(月日)	8月21日	8月10日	7月19日	8月1日	8月21日	8月20日	8月16日	8月11日	8月15日	8月15日
	終息日(月日)	9月12日	9月6日	8月22日	8月22日	9月2日	9月10日	9月5日	9月3日	9月5日	8月31日
	総誘殺数(頭)	136	125.6	1355	163.2	31	61.2	98	64.4	114	30.9
平年数		10		10		10		10		10	

フェロモントラップによるマメシクイガ成虫の誘殺数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
7.	1	0	0.0	2	—	—	—	—	—	—	
	2	0	0.5	9	—	—	—	—	—	—	
	3	11	0.3	161	8.8	0	0.0	0	0.0	—	0.0
	4	4	2.4	580	31.3	0	0.0	0	0.2	0	0.0
	5	11	5.4	216	24.7	0	0.1	3	1.3	0	0.0
	6	3	13.3	89	43.0	0	0.2	7	8.4	5	1.5
8.	1	23	23.1	14	24.1	0	1.5	15	13.9	14	3.4
	2	9.8	24.7	10	16.4	6	9.0	15	10.6	14	4.2
	3	25.8	24.5	2	8.7	1	8.2	6	10.5	46	6.6
	4	29.9	14.9	1	5.1	4	12.8	45	10.6	19	6.2
	5	12.5	7.7	1	1.5	14	12.1	5	6.0	8	3.6
	6	0	5.3	0	0.1	5	8.7	1	1.7	7	4.4
9.	1	2.4	1.7	0	0.0	1	4.5	1	0.9	1	0.7
	2	2.3	1.7	—	0.0	0	3.1	0	0.2	0	0.3
	3	1.3	0.5	—	0.0	0	0.9	0	0.1	0	0.0
	4	0	0.1	—	—	0	0.1	—	0.2	—	0.0
平年数		10		10		10		10		10	

予察ほにおけるマメシクイガの被害状況

地点	長沼		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
被害粒率(%)	28.0	13.8	12.3	4.8	46.8	3.4
被害莢率(%)	28.9	16.4	12.4	5.1	49.0	3.7
品種	ユキホマレ		トヨムスメ		とよまどか	
調査月日	9月17日		10月2日		9月20日	
調査株数	10		10		10	
平年数	10		10		10	

4 食葉性鱗翅目幼虫 発生期 やや早 発生量 並
 発生面積 10,898ha(24.1%：平年 32.3%) 被害面積 283ha(0.6%：平年 0.8%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける食害程度は、訓子府町で平年よりやや高く、長沼町で平年並であった。
- ・一般ほにおける初発期は平年よりやや早かった。発生面積率は平年よりやや低く、被害面積率は平年並であった。

発生原因の解析

- ・6月から7月は高温で経過したため発生が早まった。加害期間である7月下旬、8月上旬の多雨により、密度上昇が抑制された。
- ・一般ほでは防除が適切に行われた。

予察ほにおける食葉性鱗翅目幼虫の被害程度

月. 半旬	長 沼		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	-	-	-	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.1	0	0.0
4	0	0.8	0	0.0
5	3	2.1	1	0.2
6	3	6.4	1	0.9
7. 1	3	8.7	4	4.2
2	3	13.0	9	7.2
3	4	17.4	12	11.2
4	9	21.2	22	16.4
5	29	29.0	26	22.8
6	31	34.1	29	26.4
8. 1	34	35.2	32	29.0
2	37	37.6	33	30.8
3	41	40.0	40	33.1
4	44	41.7	44	35.3
5	47	42.2	47	36.5
6	44	44.0	49	38.1
9. 1	-	45.4	50	39.4
2	-	44.7	50	39.2
3	-	43.6	-	33.3
4	-	44.3	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
平年数	10		10	

5 タネバエ 発生期 ー 発生量 多
 発生面積 1,372ha(3.0%：平年 0.6%) 被害面積 68ha(0.2%：平年 0.0%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける被害個体率は、長沼町、芽室町及び訓子府町いずれの地点においても平年並であった。
- ・一般ほにおける発生面積率、被害面積率ともに平年より高かった。
- ・空知地方で発生が目立った地域があった。

発生原因の解析

- ・播種時期にあたる5月下旬は曇りや雨の日が多く、幼虫の生存に好適な条件であった。
- ・予察ほでの被害は平年より多かったものの、一般ほでは効果的な種子塗沫剤の使用により被害が抑えられた。

予察ほにおけるタネバエの被害状況

	長 沼		芽 室		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
被害個体率(%)	60.0	57.1	16.3	12.2	15.4	15.6
平年数	10		9		10	

6 ジャガイモヒゲナガアブラムシ 発生期 早 発生量 少

発生経過の概要

- ・黄色水盤におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの初発期は、長沼町及び芽室町で平年より早く、訓子府町では平年よりやや早かった。
- ・黄色水盤による捕獲数は、訓子府町で平年よりやや多く、長沼町及び芽室町では平年より少なかった。
- ・予察ほの大豆における寄生虫数は、長沼町及び訓子府町では平年並、芽室町では平年より少なかった。

発生原因の解析

- ・春季は高温に経過し、飛来成虫の発生は早まった。
- ・7月は降雨が多かったため、増殖が抑制された。

黄色水盤によるジャガイモヒゲナガアブラムシ有翅虫の誘殺数

月半月	長 沼		芽 室		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 5	1	0.3	2	0.0	0	0.3
6	0	1.6	1	0.3	0	0.8
6. 1	0	1.0	0	0.0	1	1.7
2	0.5	3.5	0	0.3	1	2.0
3	2.5	1.9	0	0.1	4	0.5
4	0	2.2	0	0.0	2	0.1
5	0	1.5	0	0.1	1	0.7
6	0	0.9	0	0.0	1	1.1
7. 1	2	0.5	0	0.1	0	0.6
2	0	0.5	0	0.3	0	1.3
3	0	0.2	0	0.1	0	1.6
4	0	0.0	0	1.1	0	3.2
5	0	0.0	0	0.6	0	1.6
6	0	0.0	0	0.2	0	2.3

注) 長沼・芽室は3台の合計値、訓子府は1台の値で示す。
 平年数は10年。

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月半旬	長 沼				芽 室				訓 子 府			
	本 年			平 年 (合 計)	本 年			平 年 (合 計)	本 年			平 年 (合 計)
	有翅虫	無翅虫	合 計		有翅虫	無翅虫	合 計		有翅虫	無翅虫	合 計	
6. 1	-	-	-	1.5	-	-	-	0.0	-	-	-	0.7
2	0	1	1	2.6	0	0	0	0.4	0	0	0	4.0
3	4	7	11	3.2	0	0	0	0.0	0	2	2	3.5
4	0	8.5	8.5	5.1	0	2	2	2.2	0	5.5	5.5	2.4
5	1.5	0	1.5	5.4	1	1	2	1.3	2	7	9	2.8
6	0	1	1	2.1	0	0	0	1.3	0.5	5	5.5	1.7
7. 1	0	0	0	2.0	0	1	1	2.7	0	0	0	3.2
2	0	0	0	1.8	0	0	0	4.4	0	0.5	0.5	1.4
3	0	0	0	0.5	0	0	0	7.8	0	0	0	2.8
4	0	0	0	0.0	0	0	0	7.8	0	0	0	3.1
5	0	0	0	0.3	0	0	0	3.6	0	0	0	1.1
6	0	0	0	0.4	0	0	0	2.6	0	0	0	1.0
平年数	10				10				10			

注) 数値は、50小葉(25株各2小葉)当りの寄生虫数を示す。

巡回調査結果

大豆一般ほにおけるアブラムシ類の寄生株率 (%)

振興局	普及センター	調査地点数	6月3半旬	6月6半旬
空知	本所	4	0	0
	南東部	2	0	0
	南西部	3	0	0
	中空知	1	0	0
	北空知	3	0	0
石狩	本所	3	0	0
	北部	2	0	0
後志	本所	2	0	0
胆振	東胆振	3	0	1.3
渡島	本所	1	0	0
檜山	本所	2	0	2
	北部	1	0	0
上川	本所	4	0	0
	富良野	2	0	0
	士別	3	0	0
	名寄	3	0	0
留萌	本所	2	0	1
網走	清里	2	0	0
	美幌	3	0	0
十勝	本所	4	0	0
	東部	6	0	0.7
	東北部	2	0	0
	北部	3	0	0
	西部	2	0	0

注) 25株・50小葉調査

7 吸汁性カメムシ 発生期 — 発生量 —

発生経過の概要

・予察ほの大豆における被害粒率は、長沼町で6.9%、芽室町で0.5%、訓子府町では1.8%であった。

(V) 小豆の病害虫

予察ほにおける小豆の生育期

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		開花始(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	しゅまり	5月20日	5月24日	6月10日	6月11日	7月18日	7月24日	9月17日	9月14日	10
芽室	きたのおとめ	5月23日	5月25日	6月8日	6月8日	7月16日	7月24日	9月9日	9月18日	10
訓子府	きたのおとめ	5月22日	5月24日	6月10日	6月8日	7月21日	7月25日	9月13日	9月20日	10
	きたるまん	5月22日	-	6月11日	-	7月21日	-	9月15日	-	-

1 菌核病 発生期 並 発生量 やや少

発生面積 1,128 ha (5.4% : 平年 8.4%) 被害面積 3 ha (0.0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

- ・一般ほにおける発生期は平年並であった。発生面積率は平年よりやや低く、被害面積率は 0.1%未滿で平年並であった。

発生原因の解析

- ・夏季が高温に推移したことから、本病の発生に好適な条件とならなかった。
- ・適切な防除が実施された。

2 灰色かび病 発生期 並 発生量 やや少

発生面積 1,937 ha (9.3% : 平年 15.5%) 被害面積 8 ha (0.0% : 平年 0.5%)

発生経過の概要

- ・長沼町の予察ほにおける初発期は平年よりやや早く、発生量は平年よりやや多かった。
- ・一般ほにおける発生期は平年並で、発生面積率、被害面積率ともに平年よりやや低かった。

発生原因の解析

- ・夏季が高温に推移し、7月下旬及び8月下旬を除き降雨が続かなかったことから、本病の発生に好適な条件とはならなかった。
- ・適切な防除が実施された。

予察ほにおける灰色かび病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	しゅまり	7月31日	8月3日	8.6	8.4	10

予察ほにおける灰色かび病の発生状況

地点	長沼			
	しゅまり			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
7.4	0	0	0	0
7.6	4.0	2.8	1.0	0.7
8.2	8.0	6.4	2.0	1.6
8.4	14.0	16.6	3.5	4.2
8.6	34.0	21.6	8.5	5.4
9.2	30.0	15.7	7.5	4.0

巡回調査結果

一般ほにおける灰色かび病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)		振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)	
		7月6半旬	8月3半旬			7月6半旬	8月3半旬
石狩	本所	0	0	オホーツク	本所	0	2.00
後志	本所	0	0		網走	0	0
胆振	本所	0	0		美幌	1.67	0
	東胆振	0	0	十勝	本所	0.8	2.4
檜山	本所	0	10.5		東部	0	0
	北部	0	10.0		東北部	3.3	6.5
上川	大雪	0	0		北部	1.3	10.7
	士別	2.0	2.0		西部	0	0
留萌	本所	0	0		南部	0	0

3 茎疫病 発生期 — 発生量 やや少

発生面積 248 ha (1.2% : 平年 3.8%) 被害面積 41 ha (0.2% : 平年 0.5%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率、被害面積率はともに平年よりやや低かった。

発生原因の解析

・ほ場が湛水するような降雨がほとんど無く、本病の発生に好適ではなかった。

4 落葉病 発生期 — 発生量 並

発生面積 340 ha (1.6% : 平年 3.5%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.1%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は平年並に低く、被害は認められなかった。

発生原因の解析

・夏季が高温で、さらに降雨が続くような条件がほとんど無く、本病の発生に好適ではなかった。

5 アズキノメイガ 発生期 早 発生量 やや多

発生経過の概要

・予察灯における成虫の初発期は、長沼町、及び芽室町で平年より早く、訓子府町では平年よりやや早かった。
誘殺数は、芽室町で平年より多く、訓子府町で平年よりやや多く、長沼町では平年並であった。
予察ほにおける被害率は、マメノメイガが混発しており評価は不可能である。

発生原因の解析

・7月上旬は高温で経過し発生が早まった。いずれ地点でもマメノメイガによる被害も認められ、両種は混発していた。

予察灯によるアズキノメイガ雄成虫の発生期

	長 沼		芽 室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初 発 期	6月20日	7月2日	6月30日	7月9日	6月29日	7月3日
最 盛 期	6月20日	8月3日	8月27日	8月10日	-	-
終 息 期	8月28日	8月9日	9月8日	8月13日	9月16日	9月12日
平年数	10		10		10	

注) 予察灯は、長沼および訓子府は100W高圧水銀灯、芽室は20W青色蛍光灯。

予察灯によるアズキノメイガ雄成虫の誘殺数

月半旬	長 沼		芽 室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.1	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.5	0	0.0
4	2	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.2	0	0.2
6	0	0.2	1	0.3	0	0.2
7. 1	0	0.1	3	0.7	1	0.1
2	0	0.4	1	0.7	3	0.1
3	0	0.7	0	0.2	0	0.4
4	0	0.1	0	0.2	0	0.2
5	0	0.2	0	0.3	0	0.3
6	0	0.3	0	0.2	0	0.0
8. 1	0	0.5	0	0.1	0	0.0
2	0	0.3	0	0.0	0	0.0
3	0	0.7	0	0.0	0	0.0
4	0	0.2	3	0.0	0	0.0
5	1	0.1	9	0.3	0	0.0
6	1	0.2	9	1.0	0	0.0
9. 1	0	0.1	6	1.8	0	0.0
2	0	0.0	1	1.9	0	0.0
3	0	0.0	0	1.2	1	0.0
4	0	0.0	0	0.7	0	0.0
5	0	0.0	0	0.4	0	0.0
6	-	0.0	0	0.1	0	0.0
平年数	10		10		10	

予察ほにおけるアズキノメイガの被害状況

	長沼		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
被害株率(%)	94.0	74.5	86.0	56.4	66.0	46.6
被害莢率(%)	5.5	7.4	4.1	3.4	7.2	4.8
品 種	しゅまり		きたのおとめ		きたるまん	
調査月日	9月12日		9月5日		9月17日	
調査株数	50		50		50	
平年数	10		10		10	

6 食葉性鱗翅目幼虫 発生期 やや早 発生量 並
 発生面積 4,107ha (19.7% : 平年 18.8%) 被害面積 186ha (0.9% : 平年 0.4%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける食害程度は、長沼町及び訓子府町で平年並であった。
- ・一般ほにおける初発期は平年よりやや早かった。発生面積率は平年並、被害面積率は平年よりやや高かった。

発生原因の解析

- ・6月から7月は高温で経過したため発生が早まった。加害期間である7月下旬、8月上旬の多雨により、密度上昇が抑制された。
- ・一般ほでは防除が適切におこなわれた。

予察ほにおける食葉性鱗翅目幼虫の被害推移

半旬	長沼		訓子府	
	本年	平年	本年	平年
6.1	-	-	-	-
2	0	0.0	-	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.2	0	0.2
5	1	0.8	0	0.2
6	2	3.7	0.5	0.3
7.1	2	4.9	1	0.5
2	3	6.0	1	1.4
3	3	7.7	4	2.9
4	5	9.8	5	5.3
5	8	13.0	5	8.7
6	10	16.3	7	12.4
8.1	12	18.6	7	15.1
2	15	19.5	13	17.4
3	18	21.6	15	19.9
4	21	23.9	21	20.9
5	26	25.2	22	22.2
6	26	25.5	24	23.3
9.1	26	26.3	25	24.7
2	26	26.4	25	26.1
3	26	25.4	25	27.2
4	-	24.7	25	30.3
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
平年数	10		10	

注) 数値は食害程度を示す。

7 マメアブラムシ 発生期 やや早 発生量 多

発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は、長沼町で平年よりやや早く、芽室町及び訓子府町では平年並であった。
- ・寄生株率は、長沼町、芽室町及び訓子府町とも平年より高かった。

発生原因の解析

- ・6月から7月にかけて高温傾向で経過し、飛来および増殖に好適な条件となった。

予察ほにおけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月半旬	長 沼		芽 室		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	-	-	-	-	-	0.0
2	0	0.0	0	0.2	-	0.0
3	20	2.4	0	0.3	0	0.4
4	56	12.3	4	2.3	0	0.8
5	0	19.6	24	7.5	0	1.2
6	8	13.6	56	19.1	4	4.8
7. 1	4	10.9	96	23.8	28	9.6
2	0	10.7	84	29.2	52	12.8
3	0	5.3	72	22.8	72	17.2
4	0	0.9	56	16.4	44	18.4
5	0	0.0	0	7.6	16	13.2
6	0	0.0	0	3.6	4	10.4
平年数	9		10		10	

注) 25株調査の寄生株率を示す。

(VI) 菜豆の病害虫

予察ほにおける菜豆の生育期

地点	品種名	播種期(月日)		発芽期(月日)		開花始(月日)		成熟期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室	大正金時	5月23日	5月25日	6月5日	6月6日	7月3日	7月11日	8月30日	8月30日	10

1 菌核病 発生期 やや遅 発生量 少

発生面積 274 ha (5.0% : 平年 15.6%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.6%)

発生経過の概要

- ・芽室町の予察ほでは発生が認められなかった。
- ・一般ほにおける発生期は平年よりやや遅かった。発生面積率は平年より低く、被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・夏季が高温に推移したことから、本病の発生に好適な条件とならなかった。
- ・適切な防除が実施された。

予察ほにおける菌核病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
芽室	大正金時	-	7月18日	-	8.3	10

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	芽室			
品種名	大正金時			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
7.4	0	4.0	0	0.9
7.6	0.0	17.1	0.0	3.0
8.2	0.0	30.9	0.0	8.1
8.4	0.0	36.1	0.0	12.0
8.6	0.0	33.0	0.0	12.1

巡回調査結果

一般ほにおける菌核病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)
		7月6半旬
胆振	本所	0
上川	士別	0
オホーツク	美幌	0
十勝	本所	0
	東部	0
	東北部	0
	北部	0
	西部	0

2 灰色かび病 発生期 やや早 発生量 やや少

発生面積 385 ha (6.7% : 平年 14.3%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.2%)

発生経過の概要

- ・芽室町の予察ほにおける初発期は平年より早く、7月中の発生量は平年より多く推移したが8月以降落葉により見かけ上の発生量は低く推移した。
- ・一般ほにおける発生期は平年並であった。発生面積率は平年より少なく、被害面積率は平年並であった。

発生原因の解析

- ・夏季が高温に推移し、7月下旬及び8月下旬を除き降雨が続かなかったことから、本病の発生に好適な条件とはならなかった。
- ・適切な防除が実施された。

予察ほにおける灰色かび病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
芽室	大正金時	7月11日	7月18日	7.6	8.3	10

予察ほにおける灰色かび病の発生状況

地点	芽室			
品種名	大正金時			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
7.4	34.0	10.0	8.5	3.1
7.6	56.0	39.4	14.0	6.3
8.2	30.0	58.4	7.5	10.0
8.4	22.0	72.8	5.5	15.6
8.6	14.0	63.5	3.5	14.2

巡回調査結果

一般ほにおける灰色かび病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)
		7月6半旬
胆振	本所	0
上川	士別	14.0
オホーツク	美幌	0
十勝	本所	1.3
	東部	0
	東北部	1.0
	北部	3.7
	西部	0

3 黄化病 発生期 ー 発生量 並

発生面積 85ha (1.6% : 平年 2.0%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は平年並に低かった。被害は認められなかった。

発生原因の解析

・効果的な種子処理剤で近年発生が低く抑えられている。

4 タネバエ 発生期 ー 発生量 少

発生面積 13ha (0.2% : 平年 0.8%) 被害面積 0ha (0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は平年よりやや低く、被害に至ったほ場は認められなかった。

発生原因の解析

・一般ほでは効果的な種子塗沫剤の使用により被害が抑えられた。

(Ⅶ) ばれいしょの病害虫

予察ほにおけるばれいしょの生育期

地点	品種名	植付期(月日)		萌芽期(月日)		開花始(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	とうや	5月2日	5月8日	5月20日	5月24日	6月16日	6月20日	10
	スノーマーチ	5月2日	5月9日	5月20日	5月29日	6月21日	6月26日	10
北斗	とうや	4月23日	4月26日	5月11日	5月18日	6月3日	6月10日	10
芽室	とうや	5月3日	5月11日	5月26日	5月30日	6月17日	6月25日	10
	スノーマーチ	5月3日	5月11日	5月27日	6月1日	6月26日	7月1日	10
訓子府	とうや	5月15日	5月11日	6月3日	5月31日	6月20日	6月26日	10
	スノーマーチ	5月15日	5月11日	6月3日	6月1日	7月1日	7月2日	10

1 疫病 発生期 やや遅 発生量 少

発生面積 1,578 ha (3.3% : 平年 11.3%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 1.3%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は、長沼町の「スノーマーチ」で平年より遅く、訓子府町の「とうや」では平年よりやや早く、「スノーマーチ」では平年よりやや遅かった。発生量は長沼町、訓子府町ともに平年並であった。北斗市及び芽室町では発生が認められなかった。
- ・一般ほにおける初発期は檜山地方で平年より早かったものの全道的には平年よりやや遅い地域が多かった。発生面積率は檜山地方では高かったが、全道的には平年より低かった。被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・夏季が高温に推移し、7月下旬及び8月下旬を除き降雨が続かなかったことから、本病の発生に好適な条件とはならなかった。

予察ほにおける疫病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月半旬)		茎葉枯凋期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	とうや	8月5日	7月15日	-	7.6	-	8月8日	7
	スノーマーチ	8月5日	7月19日	8.5	8.2	8月29日	8月15日	9
北斗	とうや	-	7月8日	-	7.4	7月24日	7月26日	10
芽室	とうや	-	7月12日	-	7.5	8月5日	8月5日	10
	スノーマーチ	-	7月14日	-	7.6	8月15日	8月15日	10
訓子府	とうや	7月16日	7月14日	8.2	7.6	8月13日	8月6日	8
	スノーマーチ	7月23日	7月16日	8.2	7.6	8月18日	8月12日	8

注)-は発生が認められない、または自然枯凋により最盛期が評価できない

予察ほにおけるFLABSの予測初発日と適合性

地点	品種名	萌芽日	初発日	予測初発日	70%信頼区間	判定
長沼	とうや	5月20日	8月5日	7月4日	6/23-7/14	×
	スノーマーチ	5月20日	8月5日	7月4日	6/23-7/14	×
北斗	とうや	5月11日	未発生	6月29日	-	未発生
芽室	とうや	5月26日	未発生	7月17日	7/12-7/21	未発生
	スノーマーチ	5月27日	未発生	7月17日	7/12-7/21	未発生
訓子府	とうや	6月3日	7月16日	7月19日	7/14-7/24	○
	スノーマーチ	6月3日	7月23日	7月19日	7/14-7/24	○

注1) 基準日は萌芽日からの累積危険値が21に到達した日

注2) ○: 初発日が70%信頼区間内、×: 初発日が70%信頼区間外

注3) -: 予測初発日が7月3日より以前の場合、70%信頼区間の計算式がない

予察ほにおける疫病の発生状況

地点	長沼							
品種名	とうや				スノーマーチ			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度		発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.5	0	0	0	0	0	0	0	0
6.6	0	0	0	0	0	0	0	0
7.1	0	0	0	0	0	0	0	0
7.2	0	0.6	0	0.2	0	0.4	0	0.1
7.3	0	2.6	0	0.7	0	3.6	0	0.9
7.4	0	25.8	0	6.6	0	23.4	0	5.9
7.5	0	52.6	0	22.6	0	47.2	0	17.5
7.6	-	63.4	-	39.4	0	63.2	0	30.6
8.1	-	65.8	-	50.8	2	65.2	0.5	42.3
8.2	-	65.8	-	61.1	28	68.0	7	50.2
8.3	-	65.8	-	61.7	96	71.4	24.0	58.5
8.4	-	65.8	-	61.7	100	71.4	27	63.3
8.5	-	65.8	-	61.7	100	71.4	63	63.6
8.6	-	65.8	-	61.7	100	71.4	100	63.6

注3) -: 枯凋により調査不能

地点	北斗			
品種名	とうや			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
6.5	0	3.6	0	1.0
6.6	0	11.8	0	4.4
7.1	0	29.0	0	13.4
7.2	0	43.2	0	27.1
7.3	0	52.4	0	45.4
7.4	0	52.8	0	50.1
7.5	-	60.0	-	52.6
7.6	-	64.0	-	55.0
8.1	-	67.0	-	61.7
8.2	-	69.2	-	62.5

注1) -: 枯凋により調査不能

地点	芽室							
品種名	とうや				スノーマーチ			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度		発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.5	0	0	0	0	0	0	0	0
6.6	0	0	0	0	0	0	0	0
7.1	0	2.8	0	0.7	0	3.6	0	0.9
7.2	0	16.4	0	4.3	0	15.2	0	3.8
7.3	0	22.0	0	10.8	0	22.2	0	8.9
7.4	0	43.0	0	24.2	0	39.4	0	18.9
7.5	0	70.6	0	50.9	0	71.6	0	39.7
7.6	0	79.4	0	61.1	0	80.0	0	57.9
8.1	0	81.4	0	61.6	0	80.8	0	63.7
8.2	-	82.6	-	61.9	0	83.6	0	68.6
8.3	-	82.6	-	61.9	-	83.0	-	72.5
8.4	-	82.6	-	61.9	-	83.6	-	76.2
8.5	-	82.6	-	61.9	-	83.6	-	78.5
8.6	-	82.6	-	61.9	-	83.6	-	80.6

注1) - : 枯凋により調査不能

地点	訓子府							
品種名	とうや				スノーマーチ			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度		発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.5	0	0	0	0	0	0	0	0
6.6	0	0	0	0	0	0	0	0
7.1	0	0	0	0	0	0.2	0	0.1
7.2	0	2.6	0	0.7	0	2.4	0	0.6
7.3	2	12.2	0.5	3.1	0	10.4	0	2.7
7.4	2	25.0	0.5	6.7	0	20.4	0	5.4
7.5	18	48.0	4.5	18.2	10	41.4	2.5	12.6
7.6	74	64.8	19	40.8	80	68.8	20	33.8
8.1	100	69.4	58	59.8	100	77.2	40	50.9
8.2	100	69.4	100	62.4	100	80.0	93	64.8
8.3	-	69.4	-	62.4	100	80.0	100	69.9
8.4	-	69.4	-	62.4	-	80.0	-	73.1
8.5	-	69.4	-	62.4	-	80.0	-	73.1
8.6	-	69.4	-	62.4	-	80.0	-	73.1

注1) - : 枯凋により調査不能

巡回調査結果

一般ほにおける疫病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率%			振興局	普及センター 本所・支所	発病株率%		
		6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬			6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬
空知	南東部	0	0	0	オホーツク	本所	0	0	0
後志	本所	0	0	0		清里	0	1.0	0
胆振	本所	0	0	0		網走	0	0	0
渡島	本所	0	0	0		美幌	0	0	0
檜山	本所	3.0	5.0	5.0	十勝	本所	0	0	0
	北部	0.5	3.5	5.0		東部	0	0	0
上川	富良野	0	0	0		東北部	0	0	0
	大雪	0	0	0		北部	0	0	2.3
	士別	0	0	0		西部	0	0	0
	名寄	0	0	0	南部	0	0	0.6	
					釧路	本所	0	0	0
					根室	北根室	0	0	0

2 塊茎腐敗 発生期 — 発生量 少

発生面積 2,097 ha (4.3% : 平年 7.5%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.7%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般ほにおける発生面積率は平年より低く、被害は認められなかった。
- ・伝染源となる疫病の発生が少なく、収穫期前の降雨も少なく気温も高かったため、発病に好適な条件にならなかった。

3 軟腐病 発生期 — 発生量 並

発生面積 8,547 ha (17.6% : 平年 20.4%) 被害面積 970 ha (2.0% : 平年 2.2%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般ほにおける発生面積率及び被害面積率はともに平年並だった。
- ・7月下旬、8月下旬の降雨が多く発病に好適な条件となったが、適切な防除の実施により発病が抑えられた。

4 黒あし病 発生期 — 発生量 並

発生面積 1,163 ha (2.4% : 平年 2.2%) 被害面積 15 ha (0.0% : 平年 0.1%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般ほにおける発生面積率は平年並で、被害面積率も0.1%未満と平年並であった。
- ・適切な種子が用いられ、種いも消毒も実施されており、本病の発生は低いレベルに抑えられている。

5 そうか病 発生期 — 発生量 やや多

発生面積 13,787 ha (28.4% : 平年 23.4%) 被害面積 3,641 ha (7.5% : 平年 5.2%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般ほにおける発生面積率及び被害面積率はともに平年よりやや高かった。
- ・塊茎肥大時期が高温に推移し、降雨も少なかったことから、本病の発生に好適な条件となった。

6 粉状そうか病 発生期 — 発生量 少

発生面積 1,646 ha (3.4% : 平年 6.7%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.3%)

発生経過の概要・発生原因の解析

- ・一般ほにおける発生面積率は平年より低く、被害は認められなかった。
- ・多雨となった時期が少なく、土壌水分が高くならなかったため、本病の発生に好適ではなかった。

7 アブラムシ類 発生期 早 発生量 少

発生面積 6,202ha (12.8% : 平成 18.4%) 被害面積 9ha (0.02% : 平成 1.1%)

発生経過の概要

- ・ジャガイモヒゲナガアブラムシは、黄色水盤での有翅虫初発は長沼町及び芽室町で平成より早く、訓子府町では平成よりやや早かった。(大豆のアブラムシ類の項を参照)。
- ・寄生初発は、いずれの地点においても平成よりやや早かった。発生量は、長沼町で平成並、芽室町及び訓子府町で平成より少なかった。
- ・ワタアブラムシの寄生初発は長沼町では平成より早く、芽室町では平成よりやや早く、訓子府町では平成並であった。発生量は、長沼町および芽室町で平成よりやや少なく、訓子府町で平成より少なかった。
- ・一般ほにおける発生面積率は12.8% (平成 18.4%)、被害面積率は0.02% (平成 1.1%) と平成より少なかった。

発生原因の解析

- ・5月下旬から6月の高温でアブラムシ類の発生が早まった。7月は高温で経過し増殖に好適であったが、一般ほでは防除が適切に行われた。

黄色水盤によるアブラムシ類の発生期

	発生期	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ		モモアカアブラムシ		平年数
		本 年	平 年	本 年	平 年	
長 沼	初発期	5. V	6. I	7. III	6. III	10
	最盛期	6. III	6. IV	7. III	7. III	
	終息期	7. I	7. III	7. IV	8. I	
芽 室	初発期	5. V	6. III	9. I	7. V	10
	最盛期	5. V	7. VI	-	7. VI	
	終息期	5. VI	7. VI	9. III	8. IV	
訓 子 府	初発期	6. I	6. II	-	7. IV	10
	最盛期	6. III	7. III	-	8. III	
	終息期	6. VI	8. III	-	8. V	

注) ローマ数字は半月を示す。

黄色水盤によるアブラムシ類有翅虫の誘殺状況

月半月	長 沼		芽 室		訓 子 府							
	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ		モモアカ アブラムシ		ジャガイモヒゲナガ アブラムシ		モモアカ アブラムシ					
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年				
5. 5	1	0.3	0	-	2	0.0	0	0.0	0	0.3	0	0.0
6	0	1.6	0	0.3	1	0.3	0	0.0	0	0.8	0	0.0
6. 1	0	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	1	1.7	0	0.0
2	0.5	3.5	0	0.1	0	0.3	0	0.0	1	2.0	0	0.0
3	2.5	1.9	0	0.3	0	0.1	0	0.0	4	0.5	0	0.2
4	0	2.2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	2	0.1	0	0.1
5	0	1.5	0	1.2	0	0.1	0	0.0	1	0.7	0	0.0
6	0	0.9	0	0.6	0	0.0	0	0.0	1	1.1	0	0.1
7. 1	2	0.5	0	0.8	0	0.1	0	0.0	0	0.6	0	0.3
2	0	0.5	0	0.8	0	0.3	0	0.0	0	1.3	0	0.0
3	0	0.2	2.7	2.1	0	0.1	0	0.0	0	1.6	0	0.7
4	0	0.0	0.3	1.0	0	1.1	0	0.1	0	3.2	0	0.2
5	0	0.0	0	0.6	0	0.6	0	0.2	0	1.6	0	1.0
6	0	0.0	0	0.4	0	0.2	0	0.7	0	2.3	0	3.5
8. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.4	0	0.7	0	4.7
2	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.3	0	0.2	0	1.3
3	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	0.1	0	0.2	0	2.4
4	0	0.2	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	1.2
5	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.7
6	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.4
9. 1	0	0.1	0	0.7	0	0.0	1	0.2	0	0.0	0	0.0
2	0	0.1	0	0.4	0	0.0	1	0.1	0	0.1	0	0.5
3	0	0.2	0	0.4	0	0.1	1	0.1	0	0.1	0	0.2
4	0	0.7	0	1.0	0	0.2	0	0.0	0	0.4	0	0.5
平年数	10				10				10			

注) 3台の誘殺頭数の合計値を示す。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生期

	発生期	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		平年数
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	
長 沼	初発期	6. I	6. II	-	6. V	6. III	6. V	10
	最盛期	6. III	6. V	-	7. I	7. IV	7. IV	
	終息期	7. III	7. III	-	7. III	7. VI	8. II	
芽 室	初発期	6. III	6. V	-	-	7. II	7. III	10
	最盛期	7. II	7. IV	-	-	7. II	7. IV	
	終息期	7. II	8. I	-	-	7. IV	8. I	
訓 子 府	初発期	6. II	6. III	6. II	-	7. I	7. I	10
	最盛期	6. IV	7. II	-	-	7. II	7. VI	
	終息期	7. II	8. I	-	-	8. I	8. III	

注) 各地とも品種は「スノーマーチ」。ローマ数字は半月を示す。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況（長沼）

虫種	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ				モモアカアブラムシ				ワタアブラムシ			
	有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年
6.1	0	0	0	0.2	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
2	0	1	1	0.3	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0
3	0	2	2	1.6	0	0	0	0.0	1.5	7.5	9	0.2
4	0	1.5	1.5	1.6	0	0	0	0.0	0	8	8	0.3
5	0	1	1	1.0	0	0	0	0.4	0	5	5	1.1
6	0	0	0	1.2	0	0	0	0.3	0	1.5	1.5	3.0
7.1	0	0	0	0.6	0	0	0	0.2	0	0	0	3.1
2	0	0	0	0.5	0	0	0	0.1	0	0.5	0.5	7.3
3	0	1	1	0.4	0	0	0	0.3	0	1	1	11.7
4	0	0	0	0.3	0	0	0	0.2	0	2.5	2.5	16.9
5	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	1.5	1.5	8.6
6	0	0	0	0.0	0	0	0	0.1	0	2	2	2.1
8.1	0	0	0	0.3	0	0	0	0.0	0	0	0	2.1
2	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.4
3	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.5
4	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.2
虫数計	6.5			7.9	0			1.6	31			57.4

注) 数値は、20複葉(10株各2複葉)当りの寄生頭数を示した。

平年値は有翅虫数と無翅虫数の合計。品種は「スノーマーチ」。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況（芽室）

虫種	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ				モモアカアブラムシ				ワタアブラムシ			
	有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年
6.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
2	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
3	0	0.5	0.5	0.2	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
4	0	0.5	0.5	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.1
5	0	0	0	0.4	0	0	0	0.0	0	0	0	0.4
6	0	0.5	0.5	1.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.3
7.1	0	0	0	1.9	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
2	0	2	2	4.7	0	0	0	0.0	0	2.5	2.5	0.9
3	0	0	0	6.3	0	0	0	0.0	0	0.5	0.5	0.1
4	0	0	0	6.2	0	0	0	0.0	0	0.5	0.5	1.1
5	0	0	0	4.8	0	0	0	0.0	0	0	0	2.9
6	0	0	0	2.1	0	0	0	0.0	0	0	0	2.3
8.1	0	0	0	1.5	0	0	0	0.0	0	0	0	1.0
2	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
3	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.6
4	-	-	-	0.2	-	-	-	0.0	-	-	-	0.1
虫数計	3.5			29.3	0			0.0	3.5			9.6

注) 数値は、20複葉(10株各2複葉)当りの寄生頭数を示した。

平年値は有翅虫数と無翅虫数の合計。品種は「スノーマーチ」。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況（訓子府）

虫種	ジャガイモヒゲナガ アブラムシ				モモアカアブラムシ				ワタアブラムシ			
	有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年	有翅	無翅	合計	平年
6.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
2	1	0	1	0.6	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
3	0	1	1	0.4	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
4	0	5.2	5.2	0.4	0	0	0	0.0	0	0	0	0.6
5	0.4	0.8	1.2	2.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.3
6	0.8	2.4	3.2	3.0	0	0	0	0.3	0	0	0	2.9
7.1	0.8	4	4.8	4.9	0	0	0	0.0	0	2	2	3.8
2	0.6	0.6	1.3	6.6	0	0.6	0.6	0.0	0	6.3	6.3	8.0
3	0	0	0	6.2	0	0	0	0.0	0	1.6	1.6	17.6
4	0	0	0	6.3	0	0.6	0.6	0.0	0	0.6	0.6	26.5
5	0	0	0	4.7	0	0	0	0.0	0	0	0	50.5
6	0	0	0	1.7	0	0	0	0.0	0	5.2	5.2	27.2
8.1	0	0	0	0.6	0	0	0	0.0	0	0.6	0.6	13.3
2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.0	0	0	0	10.5
3	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	20.9
4	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	4.7
虫数計	17.7			37.7	1.2			0.3	16.3			186.5

注) 数値は、20複葉(10株各2複葉)当りの寄生頭数を示した。

平年値は有翅虫数と無翅虫数の合計。品種は「スノーマーチ」。

巡回調査結果

一般ほにおけるばれいしょのアブラムシ類寄生虫数

振興局	普及センター	地点数	6月3半旬		6月6半旬		7月3半旬		7月6半旬	
			本年	優占種	本年	優占種	本年	優占種	本年	優占種
空知	南東部	1	0		0		0		0	
後志	本所	4	0		0		1.0		0.3	
胆振	本所	2	0		3.0	モモ	9.0	ワタ	12.0	ワタ
渡島	本所	1	0		0		13.0	ヒゲ	5.0	ヒゲ
檜山	本所	2	0		1.0	ヒゲ	0		0	
	北部	2	0		3.0	ヒゲ	0		156.0	ワタ
上川	富良野	3	0		0.3	ヒゲ	0		0	
	大雪	2	0		0		0		0	
	士別	1	0		0		0		0	
	名寄	1	0		0		0		0	
オホーツク	本所	8	0.5	ヒゲ	1.3	ヒゲ	4.5	ヒゲ、ワタ	5.6	ワタ
	清里	6	0		0.2	ヒゲ	0.2	ヒゲ	2.0	ワタ
	網走	2	0		0		0.5	ヒゲ	0	
	美幌	2	0		0		0		0	
十勝	本所	5	0		1.0	ヒゲ	0.4	ヒゲ	0.2	ヒゲ
	東部	6	0		0		0		0	
	東北部	4	0		0.5	ヒゲ	0		0	
	北部	3	0		0		0		0	
	西部	2	0		1.5	ヒゲ	0.5	モモ	0	
	南部	7	0		0		4.3	ヒゲ	3.0	ヒゲ
釧路	本所	2	0		0		0		0	
根室	北根室	1	0		0		2.0	ヒゲ	0	

10株20複葉調査

ヒゲ：ジャガイモヒゲナガアブラムシ、モモ：モモアカアブラムシ、ワタ：ワタアブラムシ

(Ⅷ) てんさいの病害虫

予察ほにおけるてんさいの生育期

地点	品種名	播種期(月日)		出芽期(月日)		移植期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	ライエン	3月14日	3月16日	3月21日	3月24日	4月24日	4月29日	9
	あまいぶき	3月14日	3月16日	3月22日	3月25日	4月24日	4月29日	10
芽室	ライエン	3月13日	3月16日	3月22日	3月24日	4月23日	4月28日	9
	あまいぶき	3月13日	3月16日	3月22日	3月25日	4月23日	4月28日	10
	スタウト	3月13日	3月16日	3月23日	3月25日	4月23日	4月28日	10
訓子府	ライエン	3月23日	3月23日	3月28日	3月28日	5月1日	5月4日	10

1 褐斑病 発生期 早 発生量 多

発生面積 44,511 ha (86.9% : 平年 36.2%) 被害面積 15,975 ha (31.2% : 平年 7.9%)

発生経過の概要

・予察ほの「あまいぶき(抵抗性”弱”)」における初発期は、長沼町および芽室町で平年より早かった。訓子府町の「ライエン(抵抗性”やや強”)」においては平年よりやや早かった。発生量はいずれの地点も平年より多かった。

・一般ほにおける発生期は道東で平年より早く、6月中から下旬に初発となった圃場も認められた。発生面積率、被害面積率はいずれも平年より高かった。全道各地で被害が認められた。

発生原因の解析

・前年の多発を受けて一次伝染源が多かった。6月中旬からの気温が平年より高く、初発時期が早まった。7月も気温が高く、病勢の進展が速かった。全道各地で被害に至るほ場が認められた。

・QoI 剤や DMI 剤の耐性菌が発生しており、防除薬剤が限られている。

・7月5日付注意報第4号発表。

予察ほにおける褐斑病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月.半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	ライエン	7月11日	7月8日	8.6	8.6	9
	あまいぶき	7月2日	7月7日	8.4	8.6	10
芽室	ライエン	6月27日	7月4日	8.2	8.5	9
	あまいぶき	6月26日	7月4日	8.2	8.5	10
	スタウト	6月27日	7月6日	8.2	8.5	10
訓子府	ライエン	7月8日	7月11日	8.4	8.6	10

注)「ライエン」の平年値は「リッカ」の平年値を継承

予察ほにおける褐斑病の発生状況

地点	長沼			
品種名	ライエン		あまいぶき	
調査	発病度		発病度	
月半旬	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0	0	0.1
7.2	0	0.2	0.4	1.0
7.4	1.6	1.9	1.2	2.9
7.6	6.4	5.7	15.6	10.9
8.2	23.2	16.9	29.2	25.3
8.4	36.4	30.6	54.4	39.2
8.6	67.2	46.8	73.6	59.3
9.2	82.0	60.0	90.8	73.4
9.4	86.0	72.6	94.0	85.5
9.6	86.4	82.1	94.0	92.7

地点	芽室					
品種名	ライエン		あまいぶき		スタウト	
調査	発病度		発病度		発病度	
月半旬	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0.4	0.1	0.4	0.2	0	0.2
7.2	7.2	2.2	3.6	2.1	4.0	2.3
7.4	18.8	5.1	14.8	5.6	15.2	4.8
7.6	30.0	8.9	24.8	13.7	28.0	9.2
8.2	46.8	21.1	50.0	27.9	49.2	21.2
8.4	73.6	31.6	78.4	38.6	79.2	31.7
8.6	85.2	42.9	88.0	56.3	86.8	42.8
9.2	90.4	56.6	91.6	73.3	88.8	56.9
9.4	92.0	64.2	92.4	81.3	90.4	65.9
9.6	92.4	77.0	92.4	90.0	90.8	78.1

地点	訓子府	
品種名	ライエン	
調査	発病度	
月半旬	本年	平年
6.6	0	0
7.2	0.4	0.5
7.4	4.0	1.8
7.6	20.4	6.1
8.2	36.0	13.6
8.4	48.4	25.6
8.6	80.4	40.1
9.2	81.6	55.4
9.4	86.4	64.2
9.6	95.6	74.4

巡回調査結果

一般ほにおける褐斑病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)			
		7月3半旬	7月6半旬	8月3半旬	8月6半旬
空知	南東部	0	0	0	1.0
石狩	本所	0	1.7	4.7	41.7
後志	本所	0	1.3	4.7	65.3
胆振	本所	3.0	4.3	10.8	38.0
	東胆振	2.7	1.0	4.3	12.0
上川	富良野	0	0	0	0
	大雪	0	0	0	0
	士別	0	40.0	50.0	56.0
	名寄	0	0	0	13.0
オホーツク	本所	6.2	12.3	39.1	68.2
	清里	3.5	24.0	51.3	97.8
	網走	2.5	33.0	93.0	100.0
	美幌	0	3.2	9.0	55.0
	遠軽	0.7	4.0	18.0	41.3
十勝	本所	1.6	7.4	32.3	75.9
	東部	3.4	3.8	21.0	64.6
	東北部	2.0	7.3	27.3	62.5
	北部	5.3	37.7	51.7	88.3
	西部	1.0	7.0	33.0	75.0
	南部	0.3	3.6	6.1	17.1

2 根腐病（黒根病を含む） 発生期 — 発生量 少

発生面積 2,713 ha (5.3% : 平成 10.0%) 被害面積 54 ha (0.1% : 平成 1.0%)

発生経過の概要

・一般ほでは発生面積率、被害面積率とも平成より低かった。

発生原因の解析

・気温が高かったものの多雨となった時期は少なく、発病に好適な条件ではなかった。常発地では抵抗性品種が導入されていることや、防除の実施により、被害に至るほ場は少なかった。

3 そう根病 発生期 — 発生量 少

発生面積 10 ha (0.0% : 平成 0.4%) 被害面積 0 ha (0% : 平成 0%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生は平成より低かった。被害は認められなかった。

発生原因の解析

・抵抗性品種の導入が進み、近年発生はほとんど認められない。

4 黄化病（旧 西部萎黄病） 発生期 — 発生量 少

発生面積 752 ha (1.5% : 平成 5.7%) 被害面積 0 ha (0% : 平成 0.3%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は1.5%と平成より低く、被害は認められなかった。

発生原因の解析

・冬期間のハウスクリーニングが実施され、越冬する媒介虫密度が抑えられていることに加え、媒介虫に対する薬剤防除も実施されている。

5 ヨトウガ	第1回	発生期：並	発生量：並
	発生面積	10,107 ha(19.7%：平年 15.2%)	被害面積 441 ha(0.9%：平年 0.7%)
	第2回	発生期：並	発生量：やや多
	発生面積	9,206 ha(18.0%：平年 13.5%)	被害面積 374 ha(0.7%：平年 0.4%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける産卵の初発期は、長沼町で平年並、芽室町では平年よりやや遅かった。訓子府町では産卵は認められなかった。
- ・卵塊数は長沼町および芽室町で平年より少なかった。
- ・予察ほにおける食害程度は、芽室町及び訓子府町で平年並、長沼町で平年よりやや低かった。
- ・予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町で平年より早く、比布町及び芽室町では平年より遅かった。予察ほにおける産卵初発期は訓子府町で平年よりやや早く、長沼町及び芽室町で平年並であった。
- ・卵塊数は、3 地点とも平年より少なかった。幼虫による食害程度は、長沼町および芽室町で平年より高く、訓子府町では平年並であった。
- ・フェロモントラップによる第1回成虫初誘殺期は、芽室町で平年より早く、長沼町で平年よりやや早く、比布町で平年並、北斗市で平年より遅く、訓子府町では誘殺は認められなかった。誘殺数は比布町で平年並であったが、他の地点では平年より少なかった。
- ・フェロモントラップによる第2回成虫初誘殺期は、長沼町および北斗市で平年より早く、芽室町および訓子府町で平年並、比布町で平年よりやや遅かった。誘殺数は、比布町で平年よりやや多く、長沼町、芽室町および訓子府町で平年並、北斗市で平年より少なかった。
- ・一般ほにおける発生面積率、被害面積率は1回目は平年並、2回目は平年よりやや多かった。

発生原因の解析

- ・前年、第2回目の発生量はやや多かったため、越冬密度はやや多かったと推測される。
- ・4月～6月の気温は高く経過したものの、産卵数が少なかったため、みかけ上の産卵初発は早くはならなかった。
- ・第1回の発生時期は高温で経過し、産卵加害に好適な条件となったものの、第2回の卵塊初発期は平年並であった。夏季は高温に経過し夏休眠により第2回成虫の発生は長引き加害も長く続いたものと推測される。

予察灯によるヨトウガ成虫の発生期及び予察ほにおける産卵期

		長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
第一回成虫	初飛来日 (月日)	6月2日	6月10日	-	6月7日	-	5月23日	-	6月9日	-	6月2日
	最盛期 (月日)	6月2日	6月10日	-	-	-	-	-	-	-	-
	50%誘殺日 (月日)	6月2日	6月10日	-	-	-	-	-	-	-	-
	終息日 (月日)	6月12日	6月12日	-	6月13日	-	6月4日	-	6月19日	-	6月16日
	総誘殺数 (頭)	3	0.8	0	1.3	0	1.0	0	1.0	0	0.9
	産卵初発 (月半旬)	6. II	6. II	-	-	-	6. IV	6. III	6. II	-	6. IV
第二回成虫	初飛来日 (月日)	8月2日	8月8日	8月26日	8月8日	-	8月17日	9月13日	8月12日	-	8月12日
	最盛期 (月日)	9月24日	8月11日	-	8月13日	-	-	-	8月17日	-	8月13日
	50%誘殺日 (月日)	9月22日	8月14日	-	8月13日	-	-	9月17日	8月24日	-	8月16日
	終息日 (月日)	10月6日	9月9日	9月7日	8月28日	-	8月31日	9月24日	9月2日	-	8月30日
	総誘殺数 (頭)	33	6.9	2	8.5	0	1.5	5	6.4	0	5.8
	産卵初発 (月半旬)	8. I	8. I	-	-	-	8. VI	8. III	8. III	8. II	8. III
平年数	10		10		10		10		10		

注) ローマ数字は半旬を示す。

予察灯によるヨトウガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5. 3	0	0.0	-	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	-	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0
6	0	0.1	0	0.1	0	0.3	0	0.1	0	0.3
6. 1	2	0.2	0	0.1	0	0.1	0	0.1	0	0.0
2	0	0.1	0	0.6	0	0.2	0	0.1	0	0.3
3	1	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.2	0	0.0
4	0	0.1	0	0.2	0	0.2	0	0.2	0	0.1
5	0	0.2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.2
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0
6	0	0.2	0	0.4	0	0.2	0	0.0	0	0.1
8. 1	3	0.4	0	0.5	0	0.1	0	0.1	0	0.1
2	0	1.9	0	0.7	0	0.4	0	0.4	0	1.0
3	0	0.8	0	2.3	0	0.2	0	1.1	0	1.4
4	0	1.0	0	1.9	0	0.0	0	1.6	0	1.6
5	0	1.1	0	1.0	0	0.2	0	1.1	0	1.2
6	0	0.5	1	0.5	0	0.1	0	0.6	0	0.2
9. 1	0	0.3	0	0.3	0	0.0	0	0.8	0	0.1
2	5	0.1	1	0.6	0	0.1	0	0.1	0	0.0
3	7	0.1	0	0.0	0	0.0	2	0.2	0	0.1
4	1	0.4	0	0.1	0	0.1	2	0.2	0	0.0
5	7	0.2	0	0.0	0	0.1	1	0.0	0	0.0
6	-	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10		10		10	

注) 予察灯は、長沼・比布・北斗・訓子府は100W高圧水銀灯、芽室は20W青色蛍光灯による。

予察ほにおけるヨトウガの産卵状況と被害推移

月半旬	卵塊数				食害程度		平年数		
	大	中	小	合計	平年	本年		平年	
長 沼	5. 5					0.0	0	0.0	10
	6					0.0	0	0.0	
	6. 1					0.8	0	0.0	
	2					1.7	0	0.2	
	3					2.9	0	0.6	
	4					2.5	8	2.1	
	5					1.5	14	6.0	
	6					0.8	16	13.1	
	7. 1					0.2	20	26.4	
	2					0.4	30	37.1	
	3					0.2	34	48.4	
	4					0.0	38	53.0	
	5					0.0	41	58.4	
	6					0.5	44	60.3	
	8. 1	1			1	1.0	46	61.7	
	2					1.5	48	59.0	
	3					2.4	54	60.1	
	4					1.8	59	59.2	
	5					1.7	72	57.7	
	6					0.6	81	62.6	
	9. 1					0.5	87	65.5	
	2					0.6	92	72.0	
	3					0.2	92	77.6	
	4					0.1	91	80.1	
5					0.1	91	81.8		
6					0.0	93	84.3		
芽 室	5. 5					0.0	0	0.0	10
	6					0.3	0	0.0	
	6. 1					0.2	0	0.0	
	2					0.9	0	0.0	
	3			1	1	1.3	0	0.1	
	4					1.2	0.5	0.5	
	5					0.6	1	3.4	
	6					0.2	10	8.0	
	7. 1					0.0	21	15.3	
	2					0.0	24.5	20.0	
	3					0.0	27.5	25.6	
	4					0.0	28.5	30.1	
	5					0.0	34.5	33.4	
	6					0.1	36	35.0	
	8. 1					0.3	42	36.3	
	2					0.7	42.5	36.7	
	3		2		2	1.3	47	36.5	
	4					1.3	56	38.1	
	5					1.5	55.5	38.0	
	6					0.5	58.5	41.5	
	9. 1					0.2	67	43.9	
	2	1			1	0.0	67	47.3	
	3					0.0	69	48.7	
	4					0.0	72	52.1	
5					0.0	69	55.0		
6					0.0	70	56.1		
訓 子 府	5. 5					0.0	0.0	0.0	10
	6					0.0	0.0	0.0	
	6. 1					0.0	0	0.0	
	2					0.0	0	0.0	
	3					0.1	0	0.0	
	4					0.7	0	0.0	
	5					0.1	1	0.3	
	6					0.2	3	1.8	
	7. 1					0.0	3	2.7	
	2					0.0	6	5.6	
	3					0.1	12	9.2	
	4					0.0	13	13.4	
	5					0.0	17	18.1	
	6					0.0	18	20.9	
	8. 1					0.0	20	23.3	
	2	1			1	0.5	22	25.6	
	3					1.1	24	27.2	
	4					0.5	24	29.4	
	5					0.6	24	31.6	
	6					0.4	26	34.9	
	9. 1					0.0	35	39.2	
	2					0.4	45	44.3	
	3					0.0	54	49.2	
	4					0.0	62	53.8	
5					0.0	64	58.3		
6					0.0	68	61.0		

注) 卵塊数は50株調査、食害程度は25株調査

フェロモントラップによるヨトウガ成虫の発生期

		長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
第一回	初飛来日 (月日)	5月25日	5月29日	5月25日	5月23日	5月25日	5月11日	5月4日	5月19日	-	6月5日
	最盛期 (月日)	-	6月15日	6月8日	6月15日	5月31日	6月4日	-	6月12日	-	-
	終息日 (月日)	-	6月24日	6月18日	6月29日	6月18日	6月23日	6月15日	6月28日	-	6月23日
	総誘殺数 (頭)	2.0	7.8	12	16.6	7	19.3	3	22.6	0	3.7
第二回	初飛来日 (月日)	7月26日	8月8日	8月1日	7月28日	7月23日	7月30日	8月5日	8月4日	8月14日	8月12日
	最盛期 (月日)	9月10日	8月18日	8月6日	8月10日	7月31日	8月25日	9月18日	8月17日	8月15日	8月23日
	終息日 (月日)	9月23日	9月13日	9月16日	9月10日	9月21日	9月14日	9月20日	8月26日	9月20日	9月3日
	総誘殺数 (頭)	13.0	17.0	33	24.5	18	36.9	14	19.6	9	10.5

フェロモントラップによるヨトウガ成虫の誘殺頭数

月半旬		長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5.	1	-	0.0	0	0.3	0	0.1	1	0.1	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	0.1	0	0.1
	3	0	0.1	0	0.2	0	1.1	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.1	0	0.3	0	0.7	1	0.4	0	0.0
	5	1	0.3	2	0.8	0	1.7	0	1.3	0	0.0
	6	1	0.5	1	1.3	4	2.7	0	1.9	0	0.3
6.	1	0	0.9	2	1.9	0	2.8	1	4.6	0	0.5
	2	0	1.2	3	2.4	2	3.1	0	5.7	0	0.5
	3	0	1.7	1	2.3	0	2.7	1	4.1	0	0.5
	4	0	2.2	3	3.4	1	1.3	0	0.4	0	0.3
	5	0	0.4	0	3.1	0	1.6	0	0.7	0	0.2
	6	0	0.3	0	0.2	0	0.2	0	0.9	0	0.6
7.	1	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	1.6	0	0.1
	2	0	0.0	0	0.2	0	0.2	0	0.6	0	0.4
	3	0	0.0	0	0.1	0	0.3	0	0.0	0	0.2
	4	0	0.1	0	0.4	0	0.4	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.1	0	1.6	2	0.4	0	0.0	0	0.0
	6	1	0.4	0	1.3	3	1.3	0	0.0	0	0.0
8.	1	0	1.4	8	4.6	3	1.6	4	4.6	0	1.2
	2	0	2.3	4	5.4	1	3.7	0	5.7	0	1.0
	3	0	3.8	2	4.1	2	5.4	0	0.7	4	1.0
	4	0	2.3	2	2.4	0	2.7	0	0.7	3	0.6
	5	0	0.8	3	0.2	0	3.3	0	0.6	0	1.3
	6	0	1.6	1	1.9	0	3.3	0	0.1	1	1.6
9.	1	0	2.9	1	1.6	0	3.0	0	4.9	0	2.5
	2	5	0.5	9	0.2	1	3.3	0	1.7	0	0.5
	3	3.3	0.3	1	0.1	2	3.9	4	0.6	0	0.3
	4	2	0.2	3	0.4	3	5.0	6	0.0	1	0.0
	5	1.8	0.1	0	0.2	1	0.7	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.2	0	0.0	0	0.3	0	0.0	0	0.0
平年数		10		10		9		7		10	

巡回調査結果

一般ほにおけるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

振興局	普及センター	地点数	被害株率 (%)				食害程度 7月6半旬
			6月6半旬	7月3半旬	8月6半旬	9月3半旬	
空知	南東部	1	2.0	2.0	0	0	0
石狩	本所	3	1.3	2.7	16.7	23.3	8.7
後志	本所	3	6.3	2.0	23.3	25.3	3.0
胆振	本所	4	0	0	0.3	1.8	0.5
	東胆振	3	18.3	12.7	13.7	47.3	15.0
上川	富良野	2	0	2.0	2.0	2.0	2.0
	大雪	2	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0
	士別	1	0	4.0	2.0	9.0	1.0
	名寄	1	10.0	25.0	18.0	10.0	6.0
オホーツク	本所	9	8.0	36.4	16.4	25.0	9.0
	清里	6	3.7	20.3	12.7	17.3	10.3
	網走	2	1.0	14.0	7.0	11.0	11.5
	美幌	5	3.4	5.2	3.4	5.0	4.4
	遠軽	3	8.7	6.7	17.0	25.3	11.0
十勝	本所	7	1.7	4.7	3.9	7.4	3.6
	東部	5	1.2	0	0.6	0.8	0.4
	東北部	4	10.0	12.5	18.8	26.3	13.8
	北部	3	2.7	7.7	13.3	13.3	13.3
	西部	3	1.0	4.3	2.3	5.3	1.7
	南部	8	4.0	6.6	0.8	9.9	5.1

注) 被害株率：50株調査、食害程度：25株調査

6 テンサイモグリハナバエ 発生期 並 発生量 並
 発生面積 468 ha (0.9% : 平年 0.5%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は平年並で、被害も認められなかった。

発生原因の解析

・近年は少発生が続いており、越冬密度は低かった。

7 テンサイトビハムシ 発生期 やや早 発生量 並

発生経過の概要

・予察ほにおける被害の初発期は、芽室町及び訓子府町で平年よりやや早く、長沼町では平年並であった。
 ・被害程度は、芽室町で平年より高く、長沼町及び訓子府町では平年並であった。

発生原因の解析

・芽室町では前年の被害が平年より多く、越冬密度が高かったものと推測される。

予察ほにおけるテンサイトビハムシの被害発生期

地点	被害初発期		被害最盛期		平年数
	本年	平年	本年	平年	
長沼	5. II	5. II	5. VI	6. I	10
芽室	5. II	5. III	6. I	6. I	10
訓子府	5. II	5. III	6. II	6. I	9

注) ローマ数字は半旬を示す。

予察ほにおけるテンサイトビハムシの被害推移

月半旬	長 沼		芽 室		訓 子 府	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
5. 1	0	1.2	0	0.0	0	0.3
2	4	1.9	1	1.2	0	0.1
3	11	7.2	9	2.1	0	3.9
4	16	17.2	13	4.5	5	8.8
5	21	20.5	12	6.6	12	15.5
6	24	28.8	13	9.0	20	21.2
6. 1	24	29.7	15	12.3	21	22.6
2	24	29.9	9	11.8	23	24.3
平年数	10		10		9	

注) 調査株数は25株。

8 シロオビノメイガ 発生期 早 発生量 多

発生経過の概要

- ・予察灯による誘殺の初発期は、長沼町、北斗市および芽室町で平年より早く、比布町および訓子府町では平年並であった。
- ・誘殺数は長沼町、北斗市、芽室町および訓子府町においても平年より多く、比布町で平年並であった。

発生原因の解析

- ・7月上旬に長沼町および北斗市で早期の飛来があった。8～9月には次世代の発生が認められ、高温経過で増殖が多くなったものと推測される。

予察灯によるシロオビノメイガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
6.	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0
7.	1	0	0.1	0	0.0	0	0.3	0	0.1	0	0.0
	2	1	0.1	0	0.0	1	0.2	0	0.0	0	0.0
	3	2	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.0	0	0.0
	4	2	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.1	0	0.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
8.	1	0	0.1	0	0.0	1	0.2	0	0.1	0	0.0
	2	2	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0
	3	1	0.9	0	0.1	0	0.6	0	0.4	0	0.1
	4	2	0.4	0	0.3	0	0.9	2	0.8	0	0.0
	5	2	0.3	0	0.0	0	1.4	1	0.2	0	0.0
	6	8	0.5	1	0.4	7	2.0	5	1.3	0	0.5
9.	1	12	0.7	1	0.1	17	5.3	3	1.4	0	0.0
	2	11	2.3	0	0.2	23	3.3	7	1.9	2	0.0
	3	4	2.4	0	0.1	5	2.8	5	1.7	3	0.0
	4	0	1.8	0	0.2	1	2.5	5	3.1	0	0.1
	5	0	1.4	0	0.3	2	2.6	1	4.9	0	0.3
	6	-	0.8	0	0.1	5	1.0	4	4.0	0	0.0
10.	1	5	0.7	-	0.0	0	0.5	-	1.0	4	0.2
	2	5	0.2	-	0.7	2	0.4	-	0.0	-	0.0
	3	0	0.1	-	0.0	1	0.2	-	0.0	-	0.0
	4	-	0.1	-	-	0	0.4	-	0.0	-	0.0
	5	-	0.0	-	-	0	0.0	-	-	-	0.0
	6	-	0.0	-	-	0	0.0	-	-	-	-
平年数	10		10		10		10		10		

(IX) たまねぎの病害虫

予察ほにおけるたまねぎの生育期

地点	品種名	移植期(月日)		倒伏期(月日)		枯葉期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	北もみじ2000	4月16日	4月25日	7月22日	7月29日	8月5日	8月15日	10
訓子府	北もみじ2000	4月23日	5月11日	7月29日	8月9日	8月19日	8月29日	10

1 白斑葉枯病 発生期 並 発生量 少
 発生面積 2,367 ha (15.9% : 平年 35.9%) 被害面積 8 ha (0.1% : 平年 3.8%)

発生経過の概要

・予察ほにおける初発期は、長沼町では平年よりやや早く、訓子府町では平年並であった。発生量は、訓子府町では平年より多く、長沼町では平年よりやや多かった。
 ・一般ほにおける発生期は平年並であった。発生面積率は15.9%、被害面積率は0.1%といずれも平年より低かった。

発生原因の解析

・降雨が少ない時期があり、発生に好適な環境とならなかった。適切に防除が実施されたため、発生量が低く抑えられた。

予察ほにおける白斑葉枯病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月.半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼	北もみじ2000	6月12日	6月15日	7.4	7.4	10
訓子府	北もみじ2000	6月28日	6月27日	7.6	7.6	10

予察ほにおける白斑葉枯病の発生状況

調査 月半旬	長沼				訓子府			
	北もみじ2000							
	発病株率(%)		発病度		発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.2	0	0	0	0	0	0	0	0
6.4	22.0	35.2	5.5	8.8	0	0.8	0	0.2
6.6	74.0	83.4	19.0	22.3	4.0	6.4	1.0	1.6
7.2	100	94.2	29.5	33.9	24.0	15.2	6.0	3.8
7.4	100	100	70.0	49.0	88.0	29.2	12.5	7.3
7.6	—	100	—	76.9	100	66.8	51.5	18.2

注1) —は調査不能

巡回調査結果

一般ほにおける白斑葉枯病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病株率(%)		
		6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬
空知	本所	0	0	3.2
	南東部	0	0	0
	南西部	0	0	1.7
	中空知	4.0	42.7	42.7
石狩	北部	0	0	0
上川	富良野	0	0	0
	大雪	0	0	0
	士別	0	7.5	6.5
オホーツク	本所	0	3.3	6.6
	清里	1.0	16.0	38.0
	美幌	0	0	0
	遠軽	7.0	1.0	8.0
十勝	本所	0	0	4.0
	東部	0	0	0

2 軟腐病 発生期 — 発生量 少

発生面積 3,868 ha (26.0% : 平成 43.0%) 被害面積 18 ha (0.1% : 平成 6.7%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける発生量は平成より少なかった。
- ・一般ほにおける発生面積率は26.0%、被害面積率は0.1%と、いずれも平成より低かった。

発生原因の解析

- ・立毛期間中の6月上旬から7月中旬にかけて、降水量は平成並から少なく、日照時間は平成並から多かったため、土壌が乾きやすく、発病に好適な条件ではなかった。
- ・防除が適切に実施されており、発生量が低く抑えられた。

予察ほにおける軟腐病の発生状況

地点	長沼	
品種名	北もみじ2000	
収穫時	本年	平成
発病球率(%)	0.2	5.7

平成数:10年

3 乾腐病 発生期 — 発生量 少

発生面積 1,341 ha (9.0% : 平成 22.2%) 被害面積 0 ha (0.0% : 平成 1.7%)

発生経過の概要

- ・予察ほでの発生は認められなかった。
- ・一般ほにおける発生面積率は9.0%と平成より低く、被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・施肥が適切に行われ、移植が良好な天候により順調に進んだこと、4月下旬以降平成並に降雨があったため、定植後の活着が良好であったことから、本病の侵入門戸となる根傷みの発生が少なかったものと推測される。

予察ほにおける乾腐病の発生状況

地点	長沼	
品種名	北もみじ2000	
収穫時	本年	平年
発病球率(%)	0	0.4

平年数:10年

4 タマネギバエ・タネバエ 発生期 ー 発生量 少
 発生面積 575 ha(3.9% : 平年 5.7%) 被害面積 1 ha(0.0% : 平年 0.4%)

発生経過の概要

- ・一般ほでの発生面積率及び被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

- ・4～5月は高温並雨で移植栽培においては概ね活着は良好であった。
- ・タネバエ・タマネギバエの被害を受けやすい直播栽培が多い十勝地方においては発生が目立った。

5 ネギアザミウマ 発生期 早 発生量 やや少
 発生面積 13,985 ha(93.9% : 平年 91.1%) 被害面積 639 ha(4.3% : 平年 13.5%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける成虫の初発期は、長沼町で平年より早く、訓子府町では平年並であった。幼虫の初発期は、長沼町で平年より早く、訓子府町では平年よりやや早かった。
- ・寄生虫数は、訓子府町で平年並、長沼町では平年より少なかった。被害程度は、訓子府町で平年並、長沼町で平年より低かった。
- ・一般ほでの発生面積率は平年並、被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

- ・5～6月は高温に経過し発生が早まった。夏季は高温に経過し増殖・加害に好適な条件となったものの、多雨となった時期もありやや少ない発生にとどまった。
- ・近年本種に対して効果の高い薬剤の登録が増加しており、一般ほでは防除が適切に行われた。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生期

		長沼		訓子府	
		本年	平年	本年	平年
成虫	初発期	5. IV	6. I	5. VI	5. VI
	最盛期	7. III	7. IV	7. I	7. III
幼虫	初発期	5. IV	6. III	6. II	6. III
	最盛期	7. III	7. IV	7. IV	7. IV
被害	初発期	5. IV	6. II	5. VI	6. I
	最盛期	7. III	7. IV	7. IV	7. IV

注) ローマ数字は半月を示す。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況と被害推移

	月半旬	成虫数		幼虫数		被害程度指数		寄生株率(%)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長 沼	5. 5	0.3	-	5.5	-	0.5	-	2	-	10
	6	0.5	0.0	0.5	0.0	0.8	0.0	3	0.1	
	6. 1	0.3	1.0	0	0.0	0.8	0.3	1	3.7	
	2	0.3	3.5	0	0.1	0.8	1.8	1	11.4	
	3	1.5	6.8	0	1.8	1.3	5.3	6	18.2	
	4	12	16.0	0	11.8	4.8	11.2	11	33.5	
	5	8	20.3	41.5	71.1	11	17.5	44	41.9	
	6	9.5	26.0	31.5	204.8	13.5	23.2	40	50.6	
	7. 1	17	44.9	16	244.4	21	29.3	56	57.4	
	2	60	87.3	19	203.5	29	37.3	100	70.4	
	3	76	139.0	155	444.7	32	47.5	100	75.6	
	4	106	148.3	911	755.5	38	57.1	100	78.8	
5	-	178.0	-	1545.3	-	64.7	-	90.0		
6	-	163.0	-	605.3	-	68.8	-	93.6		
8. 1	-	41.6	-	76.5	-	40.5	-	70.0		
2	-	-	-	-	-	-	-	-		
訓 子 府	5. 5	-	-	-	-	-	-	-	-	10
	6	-	-	-	-	-	-	-	-	
	6. 1	0	0.7	0	0.0	0	1.2	0	2.8	
	2	0	4.7	0	0.0	0	5.2	0	11.2	
	3	1	17.7	0	0.5	2.5	8.9	4	24.4	
	4	6	23.6	1	4.4	7	14.9	20	31.6	
	5	21	49.6	14	32.1	13	22.7	56	52.0	
	6	47	48.1	223	221.4	26	34.9	100	67.6	
	7. 1	12	42.2	346	512.7	36	45.3	96	83.2	
	2	59	42.5	871	844.7	52	55.2	100	90.0	
	3	160	77.9	1057	1077.3	64	65.7	100	96.0	
	4	96	134.9	1068	1102.4	87	76.5	100	98.4	
	5	24	132.1	1165	1419.4	93	86.6	100	100.0	
	6	64	116.3	1581	1448.9	94	92.8	100	100.0	
8. 1	33	89.8	129	941.4	100	95.2	100	98.7		
2	71	72.8	132	1243.9	100	96.6	96	97.2		

注) 調査株数は25株、抽出心葉を含む3葉当たりを調査した数値。

-は倒伏による調査打ち切り。

巡回調査結果

一般ほにおけるネギアザミウマ寄生株率

振興局	普及センター	地点数	寄生株率(%)		
			6月6半旬	7月3半旬	7月6半旬
空知	本所	5	7.2	21.6	64.0
	南東部	3	12.0	52.0	22.7
	南西部	3	18.3	51.0	29.0
	中空知	3	0	0	0
石狩	北部	2	8.5	9.0	7.5
上川	富良野	4	10.0	6.0	8.0
	大雪	1	10.0	15.0	20.0
	士別	2	5.0	5.0	100.0
オホーツク	本所	8	7.0	23.8	20.8
	清里	2	56.0	82.0	98.0
	美幌	4	2.0	5.0	4.5
	遠軽	1	3.0	6.0	5.0
十勝	本所	3	10.7	21.3	12.0
	東部	2	6.0	36.0	0

6 ネギハモグリバエ 発生期 やや早 発生量 やや少
発生面積 1,978ha (13.3% : 平年 17.7%) 被害面積 59 ha (0.4% : 平年 2.5%)

発生経過の概要

- ・一般ほにおける初発期は5月4～6半旬と平年よりやや早かった。
- ・一般ほにおける発生面積率、被害面積率はいずれも平年よりやや低かった。

発生原因の解析

- ・4～5月は高温で経過し発生が早まった。
- ・一般ほでは防除が適切に行われた。

(X) ねぎの病害虫

予察ほにおけるねぎの生育期

地点	品種名	作型	播種期(月日)		定植期(月日)		平年数
			本年	平年	本年	平年	
滝川	元蔵	夏秋どり	4月2日	4月11日	6月20日	6月15日	10

1 さび病 発生期 ー 発生量 並

発生面積 118 ha (20.4% : 平年 11.3%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.4%)

発生経過の概要

- ・予察ほにおける初発期は平年より早く、発生量は平年並であった。
- ・一般ほにおける発生面積率は20.4%と平年より高かった。被害面積率は0.0%と平年並であった。

発生原因の解析

- ・防除が適切に行われ、多発する秋期が冷涼・多湿な条件にならなかったことから、発生面積率は高かったものの被害に至る圃場はごくわずかであった。

予察ほにおけるさび病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月.半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
滝川	元蔵	8月11日	9月10日	10.6	10.2	10

予察ほにおけるさび病の発生状況

地点	滝川			
品種名	元蔵			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
8.2	0	5.4	0.0	1.4
8.4	0	7.2	0.0	1.8
8.6	0	10.6	0.0	3.4
9.2	0	19.6	0.0	7.7
9.4	0	35.2	0.0	13.5
9.6	22	49.8	5.5	23.2
10.2	92	59.0	23.0	30.5
10.4	100	65.2	26.5	35.4
10.6	100	68.2	62.0	35.3

2 べと病 発生期 遅 発生量 少

発生経過の概要

- ・滝川市の予察ほにおける初発期は平年より遅く、発生量は平年より少なかった。

発生原因の解析

- ・高温に推移し、周期的に降雨があったものの9月の降水量が少なかったことから、発生が抑制された。

予察ほにおけるべと病の発生期

地点	品種名	初発期(月日)		最盛期(月.半旬)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
滝川	元蔵	10月26日	9月21日	10.6	10.2	9

予察ほにおけるべと病の発生状況

地点	滝川			
品種名	元蔵			
調査 月半旬	発病株率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
8.2	0	0	0	0
8.4	0	0	0	0
8.6	0	0	0	0
9.2	0	0.6	0	0.2
9.4	0	20.4	0	10.1
9.6	0	36.4	0	25.1
10.2	0	39.8	0	33.3
10.4	0	48.6	0	36.1
10.6	0	51.8	0	41.9

3 ネギアザミウマ 発生期 並 発生量 並
 発生面積 413 ha(71.7% : 平年 73.1%) 被害面積 98 ha(17.0% : 平年 13.4%)

発生経過の概要

・一般ほでの発生面積率、被害面積率はいずれも平年並であった。

発生原因の解析

・6～9月は高温であったため、増殖と加害に好適な条件となった。
 ・近年本種に対して効果の高い薬剤の登録が増加しており、一般ほでは防除が適切に行われた。

4 ネギコガ 発生期 - 発生量 -
 発生面積 0 ha(0.0% : 平年 -%) 被害面積 0 ha(0% : 平年 -%)

発生経過の概要

・発生面積率、被害面積率ともに0%であった。

5 ネギハモグリバエ 発生期 - 発生量 -
 発生面積 39 ha(6.8% : 平年 -%) 被害面積 0 ha(0% : 平年 -%)

発生経過の概要

・一般ほでの発生面積率は6.8%であった。被害に至った圃場は確認されなかった。

(XI) ながいもの病害虫

1 アブラムシ類 発生期 - 発生量 -
発生面積 11 ha (0.6% : 平年 -%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 -%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は0.6%、被害は認められなかった。

発生原因の解析

・6月の多雨で飛来が抑制された。7月は高温で経過し増殖に好適であった。
・一般ほでは防除が適切に行われた。

(XII) にんじんの病害虫

1 黒葉枯病 発生期 - 発生量 少
発生面積 417 ha (9.7% : 平年 26.0%) 被害面積 16 ha (0.4% : 平年 2.2%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率は9.7% (平年：26.0%)、被害面積率は0.4% (平年：2.2%) と平年より低かった。

発生原因の解析

・9月の気温は平年より高かったものの、記録的な少雨で発生に好適な条件とならなかった。

(XIII) だいこんの病害虫

予察ほにおけるだいこんの生育期

地点	作型	品種名	播種期(月日)		発芽期(月日)		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼	春播き	おしん	6月7日	6月2日	6月13日	6月8日	10
	初夏播き	耐病総太り	6月27日	6月30日	7月2日	7月6日	10
	夏播き	耐病総太り	8月2日	7月30日	8月5日	8月4日	10

1 軟腐病 発生期 - 発生量 並

発生面積 827 ha (31.4% : 平年 33.0%) 被害面積 135 ha (5.1% : 平年 6.1%)

発生経過の概要

・一般ほにおける発生面積率、被害面積率はともに平年並であった。

発生原因の解析

・夏季が高温であったものの、多雨となった時期が限られていたため、本病の発生に好適な条件が続かなかった。

2 モザイク病 発生期 - 発生量 並

発生経過の概要

・長沼町の予察ほにおける発生量は春まき作型で平年より少なく、初夏まき作型では平年よりやや多かった。夏まき作型では発生が認められなかった。

発生原因の解析

・媒介虫の発生量は少なかったが、7月中旬まで気温が高く、降雨も少なく推移したため、媒介虫の活動が活発になり、春まき及び初夏まき作型では発生が認められたと推察される。

予察ほにおけるモザイク病発生状況

地点	長沼					
	春播き		初夏播き		夏播き	
品種名	おしん		耐病総太り		耐病総太り	
調査 月半旬	発病株率(%)		発病株率(%)		発病株率(%)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6.6	0	0				
7.2	1.0	0				
7.4	1.0	0.8	0.5	0		
7.6	1.0	1.4	0.5	0		
8.2	1.0	4.7	1.0	0		
8.4			0.5	0	0	0
8.6			-	0	0	0
9.2			-	-	0	0
9.4					0	0
9.6					0	0

注：-は収穫期のため調査不能

3 キスジトビハムシ 発生期 — 発生量 やや少
発生面積 613 ha (23.3% : 平年 23.3%) 被害面積 10 ha (0.4% : 平年 1.6%)

発生経過の概要

- ・一般ほにおける発生面積率は平年並、被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

- ・夏季は高温に経過し、成虫の産卵に好適な条件となった。
- ・一般ほでは防除が適切に行われた。

(XIV) キャベツ・ブロッコリーの病害虫

予察ほにおけるキャベツの生育期

地点	作型	品種名	播種期(月日)		定植期(月日)		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼	7月どり	金系201号	4月26日	4月26日	5月23日	5月22日	10
	8月どり	金系201号	6月1日	6月3日	6月27日	6月30日	10
	9月どり	金系201号	7月3日	7月3日	8月5日	7月30日	10
北斗	7月どり	金系201号	4月16日	4月18日	5月9日	5月13日	9
	8月どり	金系201号	5月22日	5月18日	6月18日	6月12日	9
	9月どり	金系201号	6月15日	6月19日	7月11日	7月14日	9

1 モンシロチョウ キャベツ 発生期 並 発生量 並

発生経過の概要

・7月までの1、2回目は発生量が多かったものの、8月に急減し3回目は発生が少なくなった。4回目の発生により9月後半の発生はやや多くなった。

発生原因の解析

・春季から夏季は高温に経過し発生に好適な条件になったものの、7月下旬に多雨となり密度が急減した。
・近年、高温経過により年4回の発生が認められる事が多い。本年も4回目の発生が認められた。

予察ほにおけるモンシロチョウの発生期

		長沼				北斗			
		産卵		幼虫		産卵		幼虫	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初発期	5. V	5. V	6. I	6. I	5. IV	5. IV	5. V	5. VI
	最盛期	5. VI	6. I	6. IV	6. III	5. V	5. VI	6. II	6. II
第2回	初発期	6. IV	6. V	6. V	7. I	6. III	6. V	6. IV	6. VI
	最盛期	7. I	7. III	7. III	7. IV	7. I	7. I	7. IV	7. IV
第3回	初発期	7. VI	7. VI	8. II	8. II	8. I	7. VI	8. II	8. I
	最盛期	8. II	8. III	8. III	8. V	8. I	8. I	8. II	8. II
第4回	初発期	8. V	8. VI	9. I	9. III	8. VI	8. V	8. VI	8. VI
	最盛期	9. II	9. III	9. VI	9. V	9. IV	9. I	9. VI	9. III

注) ローマ数字は半旬を示す。

予察ほにおけるモンシロチョウの発生状況

作型	月半月旬	長沼				北斗			
		産卵数		幼虫数		産卵数		幼虫数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月どり	5.4	-	-	-	-	35.2	18.2	0	1.2
	5	2	3.5	0	0.0	44.4	15.0	4	5.4
	6	14	6.3	0	0.5	18.8	15.0	25.2	10.2
	6.1	10	6.1	2	3.6	17.2	4.6	26.4	13.3
	2	1	5.0	8	5.8	2.8	5.2	29.2	13.1
	3	0	2.4	8	6.6	21.6	7.1	22.4	14.8
	4	14	1.3	9	7.2	35	4.4	39	13.2
	5	21	6.9	4	4.1	21	12.1	36	10.9
	6	70	22.5	10	5.0	40	29.5	35	11.7
	7.1	134	60.8	32	17.5	66	35.9	54	23.6
	2	0	60.5	26	47.3	7	20.2	62	28.2
	3	6	23.3	64	83.6	4	9.3	47	41.7
8月どり	7.1	99	26.2	2	1.0	71	76.7	28	19.0
	2	56	53.0	51	29.8	30	63.1	45	41.6
	3	11	37.8	78	46.2	139	42.9	48	71.7
	4	2	33.6	72	67.9	30	14.0	96	76.3
	5	2	15.7	8	45.9	6	5.6	55	72.4
	6	6	18.0	12	28.1	4	5.0	8	37.7
	8.1	37	27.6	3	25.7	15	16.8	7	23.4
	2	57	32.0	7	26.4	0	4.3	2	15.3
	3	0	22.4	18	25.7	0	3.4	7	15.0
	9月どり	8.1	-	23.2	-	2.6	12	94.4	4
2	17	17.3	2	10.5	0	62.2	10	87.8	
3	0	12.9	6	14.6	0	19.8	4	80.3	
4	0	6.7	4	12.0	9	3.2	5	49.1	
5	2	3.1	0	8.6	4	9.1	9	18.6	
6	1	12.3	0	8.4	5	11.7	18	15.0	
9.1	8	19.4	3	9.0	3	9.0	14	17.3	
2	22	19.4	4	6.3	11	6.0	15	14.0	
3	12	25.2	1	8.9	5	6.0	17	15.2	
4	18	31.0	6	15.6	13	10.1	9	15.6	
5	6	42.4	26	17.5	3	2.2	18	15.2	
6	0	25.2	31	21.8	0	1.9	27	12.2	

注) 産卵数・幼虫数の調査株数は10株。

2 コナガ	キャベツ	発生期	早	発生量	やや少
		発生面積	562 ha(53.8% : 平年 50.8%)	被害面積	25 ha(2.4% : 平年 4.1%)
	ブロッコリー	発生期	早	発生量	少
		発生面積	2,324 ha(72.0% : 平年 64.8%)	被害面積	170 ha(5.3% : 平年 13.2%)

発生経過の概要

- ・フェロモントラップによる成虫の誘殺開始時期は平年より早かった。春季の誘殺数は平年より多かった。
- ・予察ほでの寄生幼虫数は、6月、7月は高く推移したが、その後は減少した。
- ・一般ほのキャベツにおける発生面積率は平年並、被害面積率は平年より低かった。
- ・一般ほのブロッコリーにおける発生面積率は平年並、被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

- ・春季の飛来開始時期は平年より早かった。春季から夏季は高温に経過し発生に好適な条件になり5～7月にかけて多発したものの、7月下旬多雨となり密度が急減し、以降少発生となった。
- ・一般ほでは防除が適切に行われた。
- ・ブロッコリーでは花蕾を収穫するため、葉の被害はキャベツより許容されやすく、キャベツと比較して薬剤防除回数が少ないものの、一般ほでは防除が適切に行われた。
- ・近年ジアミド剤抵抗性個体群の飛来が確認されている。

フェロモントラップによるコナガ成虫の発生期

		長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
		本年	平年	本年	前年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初	発日	4月8日	4月17日	4月8日	4月16日	3月30日	4月5日	4月8日	4月20日	4月11日	4月26日
最盛期	第一回	5. VI	5. IV	4. III	5. II	5. IV	5. III	5. V	5. IV	5. IV	5. IV
	第二回	6. VI	6. IV	6. II	6. II	6. II	6. III	6. IV	6. III	6. II	6. IV
	第三回	7. III	7. III	7. III	7. I	7. I	7. III	7. I	7. III	7. II	7. IV
	第四回	8. V	8. III	8. IV	8. II	9. II	8. II	9. I	8. II	8. I	8. V
	第五回	9. III	9. III	9. V	9. III	-	9. I	-	9. I	-	9. I
平	年数	10		8		10		10		10	

注) ローマ数字は半旬を示す。
 -は欠測または評価できず。

フェロモントラップによるコナガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	3	0	0.6	-	0.0	0	3.9	0	0.0	-
	4	2	0.2	1	1.0	3	4.0	2	0.4	-
	5	5	1.3	30	3.8	17	7.1	5	1.1	2
	6	1	1.2	16.5	2.6	7	8.1	0	1.1	1
5.	1	1	0.8	4.5	6.1	2	8.6	3	1.7	0
	2	0	2.2	4	18.1	6	13.8	1	1.7	1
	3	4	5.7	18	37.0	11	20.4	0.5	6.0	0
	4	4	8.0	31	37.2	12	21.9	1.5	6.9	0
	5	8	6.9	31	70.2	14	28.3	11	8.3	4
	6	7	8.4	7	62.5	49	30.4	20	6.6	13
6.	1	21	15.3	27	80.3	48	30.9	26	10.4	3
	2	31	19.2	16	52.0	36	41.8	14	8.1	11
	3	21	17.0	27	28.8	24	29.8	3	9.8	2
	4	15	16.5	34	35.2	48	22.0	4	4.9	9
	5	27	30.6	10	23.3	18	26.7	3	5.0	1
	6	19	25.8	22	19.3	41	22.6	6	2.9	0
7.	1	14	31.9	2	14.5	84	20.3	4	3.0	2
	2	63	37.0	11	16.0	249	31.0	9	3.2	5
	3	51	42.3	2	15.6	351	52.5	29	5.1	5
	4	47	70.4	3	20.4	113	54.2	12	3.5	5
	5	126	109.4	1	12.9	172	67.4	10	2.6	4
	6	41	105.0	2	11.3	166	57.4	16	5.0	4
8.	1	36	68.1	4	9.7	73	49.8	18	2.8	3
	2	62	90.9	4	5.9	15	61.3	7	2.1	2
	3	22	45.4	2	8.3	16	52.8	7	3.5	2
	4	11	34.7	0	3.9	10	29.7	5	2.8	2
	5	6	30.9	2	5.8	2	16.6	1	1.6	0
	6	3	33.0	5	2.3	3	25.1	1	1.4	0
9.	1	17	26.3	1	1.4	4	13.0	1	0.8	0
	2	4	23.2	2	0.7	3	6.2	1	1.1	0
	3	10	18.0	0	2.9	2	5.1	2	1.0	1
	4	7	22.5	2	1.1	5	4.5	1	0.1	0
	5	11	13.1	0	1.4	1	5.5	2	0.2	0
	6	5	9.2	1	1.9	2	5.1	0	0.2	0
平年数	10		8		10		10		10	

予察ほのキャベツにおけるコナガの発生状況

作型	月半月	長沼				北斗			
		幼虫数		蛹数		幼虫数		蛹数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月どり	5.4	-	-	-	-	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.8	1.2	0.0	0	0.0
	6	0	0.3	0	0.1	1.6	0.1	0	0.0
	6.1	0	2.7	0	0.7	3.2	1.7	0	0.0
	2	15	5.1	0	0.4	8	4.7	0	0.6
	3	82	13.4	1	3.0	16.4	9.9	3.2	1.9
	4	93	27.6	69	6.4	24	16.8	11	5.5
	5	158	56.6	62	7.9	29	29.0	17	15.6
	6	212	132.0	58	22.7	28	25.3	45	20.8
	7.1	520	109.4	158	44.4	92	35.5	42	23.8
8月どり	2	30	126.3	108	36.7	324	59.8	86	29.4
	3	2	278.0	20	36.0	196	216.1	181	41.5
	7.1	0	0.1	0	0.0	12	8.1	1	2.1
	2	12	7.8	1	0.6	26	16.3	6	4.6
	3	137	27.1	2	2.6	55	58.0	28	11.0
	4	476	105.4	36	11.2	86	101.3	72	35.2
	5	225	133.6	232	21.2	39	125.1	17	60.2
	6	24	83.4	54	42.5	3	90.9	4	79.0
	8.1	0	72.0	47	48.6	4	61.1	2	27.3
	2	1	41.1	6	20.5	3	27.4	1	14.8
9月どり	3	4	20.6	1	10.9	0	7.1	1	6.2
	8.1	-	1.2	-	1.3	9	43.6	0	8.7
	2	0	4.9	0	0.6	4	61.0	0	13.7
	3	0	12.6	0	1.5	1	31.5	1	9.9
	4	0	11.7	0	3.5	4	8.8	0	6.8
	5	6	8.5	0	2.1	1	5.9	0	2.2
	6	3	8.7	0	2.2	1	6.3	1	2.1
	9.1	2	7.2	0	1.1	1	9.2	2	3.6
	2	3	6.9	0	1.8	3	3.4	0	4.3
	3	0	11.2	0	1.6	1	2.3	1	4.7
予察ほ	4	6	8.0	0	2.6	6	7.4	0	3.3
	5	22	13.5	2	1.6	2	5.8	1	3.3
	6	16	12.9	5	3.1	2	5.3	2	4.2

注) 調査株数は10株。

巡回調査結果

一般ほにおける食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

振興局	普及センター	作物	地点数	食害程度					優占種
				6月3半月	6月6半月	7月3半月	7月6半月	8月3半月	
空知	南西部	キャベツ	1	4.0	3.0	2.0	1.0	3.0	
石狩	本所	ブロッコリー	2	0	0	0	0	0	
		キャベツ	2	0	0	0	0	0	
	北部	ブロッコリー	1	0	0	2.5	-	-	
後志	本所	ブロッコリー	2	12.5	45.0	12.5	10.0	10.0	コナガ
胆振	本所	キャベツ	1	-	15.0	22.5	45.0	-	
	東胆振	キャベツ	1	0	0	0	-	-	
上川	大雪	ブロッコリー	2	5.0	10.0	10.0	-	-	コナガ
		ブロッコリー	1	24.0	25.0	3.0	-	-	コナガ
林-ツ	美幌	キャベツ	1	-	8.0	14.0	18.0	-	モンシロ
十勝	東部	キャベツ	1	-	1.0	4.0	18.0	-	コナガ
	北部	ブロッコリー	1	2.0	2.0	23.0	-	-	コナガ
	西部	キャベツ	1	1.0	3.0	1.0	-	-	コナガ

注) 10株調査

3 ヨトウガ	キャベツ	発生期	並	発生量	少
	発生面積	229 ha	(21.9% : 平成 39.1%)	被害面積	4 ha (0.4% : 平成 2.4%)
	ブロッコリー	発生期	並	発生量	少
	発生面積	1,135 ha	(35.1% : 平成 44.5%)	被害面積	45 ha (1.4% : 平成 3.6%)

発生経過の概要

- ・予察ほのてんさいにおける発生期は第1回、第2回ともに平成並であった（てんさいのヨトウガの項参照）。
- ・一般ほのキャベツにおける発生面積率、被害面積率はいずれも平成より低かった。
- ・一般ほのブロッコリーにおける発生面積率は平成よりやや低く、被害面積率は平成より低かった。

発生原因の解析

- ・前年、第2回目の発生量はやや多く、越冬密度はやや高かったと推測される。てんさいでの発生は平成並に推移したが9月に被害が増加した。キャベツにおいても9月下旬に産卵が認められ、夏季の高温による夏眠で産卵時期が長引いたものと推測される。
- ・ブロッコリーでは花蕾を収穫するため、葉の被害はキャベツより許容されやすく、キャベツと比較して薬剤防除回数が少ない。

予察ほのキャベツにおけるヨトウガ卵塊数

作型	月半旬	長沼		北斗	
		本年	平成	本年	平成
7月 どり	5.4	-	-	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0
	6.1	0	0.2	0	0.2
	2	0	1.2	0	0.2
	3	0	1.1	0	0.2
	4	0	0.6	0	0.1
	5	0	0.8	0	0.1
	6	0	0.4	0	0.0
	7.1	0	0.2	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0
	3	0	0.1	0	0.0
8月 どり	7.1	0	0.1	0	0.1
	2	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.0	0	0.1
	4	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.0
	6	0	0.1	0	0.0
	8.1	0	0.3	0	0.0
	2	0	0.4	0	0.0
	3	0	0.7	0	0.0
9月 どり	8.1	-	0.0	0	0.1
	2	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.2	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.1
	6	0	0.1	0	0.0
	9.1	0	0.1	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.1
	3	0	0.2	0	0.0
	4	0.5	0.0	0	0.0
	5	2	0.1	0	0.1
	6	0	0.1	0	0.0

注) 調査株数は10株。

(XV) 野菜類の病害虫

1 タマナヤガ 発生期 早 発生量 少

発生経過の概要

- ・フェロモントラップによる第1回成虫初誘殺期は比布町、北斗市、訓子府町で平年より早く、長沼町では平年並であった。芽室町では誘殺は認められなかった。
- ・第1回誘殺数は比布町及び訓子府町で平年並、長沼町及び北斗市で平年より少なかった。第2回誘殺数はいずれの地点においても平年より少なかった。

フェロモントラップによるタマナヤガ成虫の発生期

		長沼		比布		北斗		芽室		訓子府		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
タ マ ナ ヤ ガ	第一回	初飛来日 (月日)	4月20日	4月22日	4月12日	4月21日	3月29日	4月8日	-	5月2日	5月3日	5月9日
		最盛期 (月日)	5月25日	6月12日	5月22日	6月1日	5月12日	5月22日	-	-	5月31日	6月8日
		終息日 (月日)	6月29日	7月8日	6月26日	6月27日	7月6日	7月2日	-	5月30日	6月10日	6月25日
		総誘殺数 (頭)	13	48.8	129	94.3	41	79.6	0	1.9	13	16.4
タ マ ナ ヤ ガ	第二回	初飛来日 (月日)	7月9日	7月22日	7月1日	7月5日	7月24日	7月13日	-	-	7月25日	7月27日
		最盛期 (月日)	8月8日	8月1日	8月8日	7月28日	7月31日	7月26日	-	-	-	8月8日
		終息日 (月日)	8月10日	9月2日	8月14日	8月27日	8月20日	8月20日	-	-	8月5日	8月10日
		総誘殺数 (頭)	13	21.2	31	43.0	11	20.6	0	0.3	2	6.8

フェロモントラップによるタマナヤガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		比布		北斗		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	-	-	2	1.2	0	0.0	-	-
2	0	0.6	0	2.7	3	2.3	0	0.0	-	-
3	0	1.4	7	6.7	3	4.7	0	0.3	0	-
4	2	1.1	10.5	1.4	6	8.7	0	0.3	0	-
5	2	1.4	9.5	4.6	3	10.7	0	0.8	0	0.0
6	0	0.7	4	4.5	0	4.2	0	0.0	0	0.7
5. 1	0	2.3	1	6.6	0	5.0	0	0.1	1	0.8
2	0	2.3	1	7.1	5	5.1	0	0.3	1	1.0
3	0	3.3	11	10.7	6	4.8	0	0.3	1	0.9
4	0	4.4	20	8.7	5	4.2	0	0.0	2	1.2
5	3	3.5	20	8.0	1	2.6	0	0.1	1	0.8
6	0	1.9	13	8.1	0	3.3	0	0.0	4	0.6
6. 1	0	2.8	8	6.4	0	3.9	0	0.0	2	1.5
2	2	3.6	4	7.5	0	3.3	0	0.3	1	1.8
3	1	3.8	6	8.6	1	4.8	0	0.0	0	2.2
4	2	4.2	8	6.9	0	5.9	0	0.0	0	1.6
5	0	3.1	5	4.6	1	6.3	0	0.1	0	1.2
6	1	3.4	1	3.7	0	5.0	0	0.0	0	0.2
7. 1	0	3.5	2	5.5	3	3.3	0	0.0	0	1.5
2	1	2.3	8	4.2	1	1.6	0	0.1	0	0.3
3	1	1.4	1	5.0	0	3.1	0	0.0	0	1.5
4	0	1.9	2	3.0	0	2.2	0	0.0	0	0.7
5	4	2.1	3	2.4	1	2.6	0	0.0	1	0.5
6	3	1.1	3	2.1	6	2.1	0	0.1	0	0.1
8. 1	0	3.9	3	6.8	2	1.0	0	0.0	1	0.8
2	4	3.3	5	6.5	0	3.4	0	0.1	0	2.6
3	0	4.5	2	2.9	0	2.1	0	0.0	0	0.7
4	0	1.9	0	1.4	2	1.6	0	0.0	0	0.0
5	0	0.7	0	0.3	0	1.6	0	0.0	0	0.1
6	0	0.5	0	0.1	0	1.0	0	0.0	0	0.1
9. 1	0	0.9	0	0.5	0	1.0	0	0.0	0	0.1
2	0	0.5	0	0.3	0	0.3	0	0.0	0	0.0
3	0	0.3	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.1
4	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		9		9		10	

(XVI) りんごの病害虫

予察園におけるりんごの生育期

地点	品種名	発芽期(月日)		展葉期(月日)		開花始(月日)		満開期(月日)		落花期(月日)		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	昂林	4月17日	4月20日	4月26日	4月30日	5月11日	5月16日	5月16日	5月21日	5月24日	5月28日	10
	つがる	4月17日	4月21日	4月27日	5月1日	5月13日	5月18日	5月20日	5月23日	5月29日	5月30日	10
	王林	4月16日	4月20日	4月25日	4月30日	5月9日	5月15日	5月15日	5月20日	5月20日	5月27日	10
	相伝ふじ	4月18日	4月20日	4月26日	4月29日	5月11日	5月16日	5月16日	5月22日	5月24日	5月29日	7
余市B	昂林	4月12日	4月10日	4月18日	4月25日	5月6日	5月12日	5月12日	5月16日	5月16日	5月22日	4

注) 平成30年度から令和4年度に記載されていた品種名「ふじ」は「相伝ふじ」(早生ふじ系)を指す

1 モニリア病 発生期 並 発生量 並

発生面積 3 ha (0.6% : 平年 2.5%) 被害面積 0 ha (0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

- ・長沼町(無防除)及び余市町(慣行防除)の予察園において、葉腐、花腐、実腐ともに発生が認められなかった。
- ・一般園における初発期は平年並であった。発生面積率は0.6%と平年より低かった。被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・前年も発生が少なく、越冬した伝染源は少なかったと推測される。また、融雪期以降の降水量は平年並から少なく、気温は平年並からかなり高温に推移したため、子のう盤の形成量は少なかったと推測される。

予察園におけるモニリア病の発生期

地点	品種名	防除有無	葉腐れ		花腐れ		実腐れ		株腐れ		平年数
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	相伝ふじ	無	未発生	—	未発生	—	未発生	—	未発生	—	—
余市B	昂林	有	未発生	—	未発生	—	未発生	—	未発生	—	—

注) 平年数が少ないまたは発生が認められなかったため平年値なし

予察園におけるモニリア病の発生状況

地点	長沼							
	品種名 相伝ふじ							
	調査 月半月	葉腐花葉そう率(%)		花腐花葉そう率(%)		実腐花葉そう率(%)		株腐花葉そう率(%)
本年		平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5.1	0	0	0	0				
5.2	0	0	0	0				
5.3	0	0	0	0				
5.4	0	0	0	0				
5.5	0	0	0	0				
5.6	0	0	0	0				
落花10日後 (調査月日)					0	0	0	0
落花20日後 (調査月日)					0	0	0	0

注) 本年度から調査樹を「相伝ふじ」(早生)に変更

地点	余市B	
品種名	昂林	
調査	葉腐花葉そう率(%)	
月日	本年	平年
5月1週目	0	—
5月2週目	0	—
5月3週目	0	—
5月4週目	0	—
5月5週目	0	—
6月1週目	0	—
6月2週目	0	—
6月3週目	0	—
平年数	—	

巡回調査結果

一般園におけるモニリア病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	開花直前の一樹当たりの 発病花葉そう数
後志	北後志	0
胆振	本所	0
渡島	本所	0
留萌	南留萌	0

2 黒星病 発生期 並 発生量 少

発生面積 10 ha (2.0% : 平年 33.5%) 被害面積 0 ha (0.0% : 平年 2.3%)

発生経過の概要

- ・長沼町の予察園（無防除）における初発期は平年より早く、発生量は平年よりやや少なかった。余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められなかった。
- ・一般園における初発期は平年並であった。発生面積率は2.0%と平年より低く、被害面積率は0.0%と平年より低かった。

発生原因の解析

- ・春期の高温傾向により開花期が早まり、長沼町の予察園では初発期が早まったが、6月以降の高温傾向と曇雨天が続かなかったこと、一般園では防除が適切に実施されたことにより、発生量は平年より少なかった。

予察園における黒星病の発生期

地点	品種名	防除有無	初発期		最盛期		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼	相伝ふじ	無	5月15日	5月28日	7.3	7.3	7
余市B	昂林	有	未発生	—	未発生	—	—

注) 余市Bは平年値なし

予察園における黒星病の発生状況

地点	長沼			
品種名	相伝ふじ			
調査 月半旬	病葉率(%)		発病度	
	本年	平年	本年	平年
5.5	2.5	0.3	0.6	0.1
5.6	9.9	1.4	2.1	0.6
6.1	21.4	6.2	4.5	2.8
6.2	29.2	14.8	5.9	6.7
6.3	50.6	26.4	10.2	12.7
6.4	64.5	33.0	13.1	16.9
6.5	75.8	41.6	15.4	22.2
6.6	84.8	49.8	18.7	29.4
7.2	87.9	57.0	22.9	35.2
7.4	90.1	70.6	33.4	45.9
7.6	95.4	77.3	37.1	51.2
8.2	97.0	77.7	41.2	54.1
8.4	100	86.5	44.8	59.7
8.6	100	85.5	49.0	60.4
9.2	100	89.3	51.0	64.0
9.4	100	90.5	49.9	66.1
9.6	100	90.1	49.7	65.6

地点	余市B	
品種名	昂林	
調査 月日	病葉率(%)	
	本年	平年
6月1週目	0	—
2週目	0	—
3週目	0	—
4週目	0	—
5週目	0	—
7月1週目	0	—
2週目	0	—
3週目	0	—
4週目	0	—
5週目	0	—
8月1週目	0	—
2週目	0	—
3週目	0	—
4週目	0	—
5週目	0	—
9月1週目	0	—
2週目	0	—
3週目	0	—
4週目	0	—
5週目	0	—
被害果率	0	—
調査時期		
平年数	—	

巡回調査結果

一般園における黒星病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病率(%)				
		6月3半旬	6月6半旬	7月3半旬	8月3半旬	9月3半旬
後志	北後志	0	0	0	0	0
胆振	本所	0	0	0	0.3	0
渡島	本所	0	0	0	0	0
留萌	南留萌	0	0	0	0	0

3 斑点落葉病 発生期 やや早 発生量 少
 発生面積 39 ha (7.6% : 平成 14.5%) 被害面積 0 ha (0.0% : 平成 1.0%)

発生経過の概要

- ・長沼町の子察園における初発期は平成より遅く、発生量は平成より少なかった。慣行防除を実施している余市町の子察園では発生が認められなかった。
- ・一般園における初発期は平成よりやや早かった。発生面積率は7.6%、被害面積率は0.0%と平成より少なかった。

発生原因の解析

- ・夏期間が高温で雨量の多い日もあったが、高温多湿条件は続かず、防除が適切に実施されたことにより、発生量は平成より少なかった。

予察園における斑点落葉病の発生期

地点	品種名	防除 有無	初発期		新梢最盛期		徒長枝最盛期		平年数
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼	王林	無	7月31日	6月25日	9.4	8.6	9.4	8.6	10
余市B	昂林	有	未発生	—	未発生	—	未発生	—	—

注) 余市Bは平年値なし

予察園における斑点落葉病の発生状況

地点	長沼								
	王林								
	調査 月半旬	新梢				徒長枝			
		病葉率(%)		平均病斑数		病葉率(%)		平均病斑数	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
6.2	0	0	0	0					
6.4	0.0	0.6	0.0	0.0					
6.6	0.0	0.8	0.0	0.0					
7.2	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	
7.4	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	
7.6	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	
8.2	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	
8.4	0.3	3.0	0.0	0.1	0.0	2.7	0.0	0.1	
8.6	0.3	3.8	0.0	0.1	0.0	4.9	0.0	0.1	
9.2	0.3	5.1	0.0	0.1	0.0	5.0	0.0	0.1	
9.4	0.6	5.8	0.0	0.1	0.5	6.3	0.0	0.1	
9.6	0.6	5.9	0.0	0.1	0.5	4.4	0.0	0.1	
平年数	10				10				

地点	余市B			
品種名	昂林			
調査 月日	病葉率(%)			
	新梢		徒長枝	
	本年	平年	本年	平年
6月1週	0	—		
6月2週	0	—		
6月3週	0	—		
6月4週	0	—		
6月5週	0	—		
7月1週	0	—	0	—
7月2週	0	—	0	—
7月3週	0	—	0	—
7月4週	0	—	0	—
7月5週	0	—	0	—
8月1週				
8月2週			0	—
8月3週			0	—
8月4週			0	—
8月5週			0	—
9月1週			0	—
9月2週			0	—
9月3週			0	—
9月4週			0	—
9月5週			0	—
被害果率			0	0
調査月日				
平年数	—			

巡回調査結果

一般園における斑点落葉病の発生状況

振興局	普及センター 本所・支所	発病葉率(%)		
		7月3半旬	8月3半旬	9月3半旬
後志	北後志	0	0	0
胆振	本所	16.7	28.0	28.3
渡島	本所	13.9	27.1	28.4
留萌	南留萌	0	2.0	2.0

4 腐らん病 発生期 — 発生量 多

発生面積 512 ha (100% : 平年 76.0%) 被害面積 95 ha (18.6% : 平年 23.0%)

発生経過の概要

・一般園における発生面積率は100%と平年より高く、被害面積率は18.6%と平年よりやや低かった。

発生原因の解析

・発生量が多い状態が続いており、伝染源が多く残っていると推測される。本病に対する防除は削り取りが主体であり予防的な薬剤散布は行われていない地域が多いことから、初期の感染も抑えられていない。

5 ハマキムシ類 発生期 早 発生量 少
 発生面積 20ha(3.9% : 平成 16.5%) 被害面積 0ha(0% : 平成 1.7%)

発生経過の概要

- ・長沼町（無防除）におけるミダレカクモンハマキ越冬卵のふ化時期は平成より早かった。
- ・フェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの第1回成虫の初発期は、長沼町及び余市町B（慣行防除）で平成よりやや早く、余市町A（慣行防除）で平成より遅かった。誘殺数は3地点とも平成並であった。
- ・フェロモントラップによるリンゴモンハマキの第1回成虫の初発期は、長沼町で平成よりやや早かった。誘殺数は長沼町で平成並、余市町A及びBでは誘殺は認められなかった。
- ・長沼町の5月の花叢被害は平成より多かった。
- ・一般園における発生面積率は平成より低かった。被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量は平成より少なく、越冬密度も平成より低かったと推察される。5月の高温で花叢被害が多くなった。6月中の高温で成虫の発生が早まったが、一般園では、防除が適切に行われた。

予察園におけるミダレカクモンハマキ越冬卵の孵化時期

	長 沼	
	本 年	平 年
孵 化 開 始 日 (月 日)	4月19日	5月1日
孵 化 最 盛 日 (月 日)	4月26日	5月8日
50 % 孵 化 日 (月 日)	4月28日	5月9日
孵 化 終 息 日 (月 日)	5月27日	5月21日
孵 化 個 体 数 (頭)	131.0	236.4
孵 化 日 数	39.0	21.8
平 年 数	10	

注) 余市Aは慣行防除園。

予察園におけるミダレカクモンハマキ越冬卵の孵化状況

月日	長 沼		月日	長 沼	
	孵化数	累積率(%)		孵化数	累積率(%)
4. 21	-	0	5. 11	6	90.1
22	2	1.5	12	-	90.1
23	2	3.1	13	-	90.1
24	-	3.1	14	-	90.1
25	-	3.1	15	-	90.1
26	-	3.1	16	4	93.1
27	-	3.1	17	-	93.1
28	64	51.9	18	-	93.1
29	-	51.9	19	-	93.1
30	11	60.3	20	4	96.2
5. 1	8	66.4	21	-	96.2
2	-	66.4	22	-	96.2
3	-	66.4	23	2	97.7
4	11	74.8	24	-	97.7
5	4	77.9	25	-	97.7
6	-	77.9	26	-	97.7
7	-	77.9	27	3	100
8	0	77.9	28	0	100
9	10	85.5	29	-	100
10	-	85.5	30	0	100
			31	-	100

注) 余市Aは慣行防除園。

累積率は、総孵化卵数に対する累積孵化率を示した。

予察園におけるハマキムシ類の発生状況と被害状況

	長 沼	
	本年	平年
越冬卵塊数	0.5	0.8
開花直前被害花叢率 (%)	44.0	29.7
開花直前在虫花叢率 (%)	5.0	17.8
落花直後被害花叢率 (%)	19.0	60.5
落花直後在虫花叢率 (%)	8.0	23.0
8月被害新梢率 (%)	7.0	-
8月在虫新梢率 (%)	1.0	-
8月被害果率 (%)	1.0	-
平年数	3	

注) 余市A・Bは慣行防除園。

卵越冬種はミダレカクモンハマキ。

越冬卵塊数は、5年枝1本当たりの数値を示した。

フェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキ成虫の発生期

		長 沼		余市A		余市B	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	初飛来日 (月日)	6月12日	6月15日	6月26日	6月17日	6月19日	6月22日
	最盛日 (月日)	6月17日	6月23日	6月26日	6月26日	6月26日	6月30日
	50%誘殺日 (月日)	6月19日	6月24日	6月26日	6月24日	6月26日	7月1日
	終息日 (月日)	7月11日	7月16日	7月3日	7月4日	7月17日	7月9日
	総誘殺数 (頭)	52	63.0	5	7.0	8	11.6
第2回	初飛来日 (月日)	7月30日	8月17日	-	8月15日	8月20日	8月15日
	最盛期 (月日)	8月3日	8月24日	-	8月21日	8月20日	8月22日
	50%誘殺日 (月日)	8月4日	8月23日	-	8月17日	8月20日	8月21日
	終息日 (月日)	8月10日	9月8日	-	8月29日	9月12日	9月10日
	総誘殺数 (頭)	9	9.3	0	4.7	3	7.7
平年数		10		10		10	

注) 余市A・Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキ成虫の誘殺頭数

月半旬	長 沼		余 市 A		余 市 B	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	1.4	0	0.3	0	0.2
	3	5.1	0	0.8	1.3	0.9
	4	18.3	1.1	1.8	1.3	1.1
	5	16.5	2.9	1.7	1.4	1.6
	6	6.4	0.7	0.7	0.7	1.0
7. 1	5	6.2	0.3	1.3	0.7	1.4
	2	5.4	0	0.2	0.6	1.2
	3	1.9	0	0.1	1.7	0.5
	4	2.2	0	0.0	0.3	0.8
	5	0.2	0	0.0	0	1.6
	6	0.1	0	0.0	0	0.9
8. 1	4	0.1	0	0.3	0	0.8
	2	1.3	0	1.4	0	1.8
	3	2.5	0	1.4	0.7	0.5
	4	1.6	0	0.6	1.3	0.4
	5	0.8	0	0.6	0	0.4
	6	0.6	0	0.8	0	0.4
9. 1	0	1.7	0	0.5	0.3	0.8
	2	0.0	0	0.3	0.6	0.7
	3	0.3	0	0.2	0.1	0.2
	4	0.2	0	0.1	0	0.1
	5	0.0	0	0.0	0	0.1
	6	0.1	0	0.1	0	0.2
平年数	10		10		10	

注) 誘殺頭数を示す。 余市A・Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるリンゴモンハマキ成虫の発生期

		長 沼		余市 A		余市 B	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
第 1 回	初飛来日 (月日)	6月12日	6月16日	-	6月8日	-	6月6日
	最盛日 (月日)	6月21日	7月1日	-	6月13日	-	6月11日
	50%誘殺日 (月日)	6月28日	7月1日	-	6月13日	-	6月13日
	終息日 (月日)	7月26日	7月23日	-	6月23日	-	11月5日
	総誘殺数 (頭)	55	41.8	0	14.5	0	17.7
第 2 回	初飛来日 (月日)	8月6日	8月16日	-	-	-	-
	最盛期 (月日)	8月9日	8月28日	-	-	-	-
	50%誘殺日 (月日)	8月10日	8月29日	-	-	-	-
	終息日 (月日)	9月6日	9月12日	-	-	-	-
	総誘殺数 (頭)	43	22.3	0	0.3	0	0.3
平 年 数		10		8		10	

注) 余市 A・Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるリンゴモンハマキ成虫の誘殺頭数

月半旬	長 沼		余市 A		余市 B		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
6.	1	0	0.0	0	0.4	0	0.3
	2	0	0.0	0	3.4	0	3.7
	3	1.5	0.8	0	3.9	0	4.5
	4	6.5	3.0	0	4.7	0	2.0
	5	15	9.5	0	1.8	0	1.1
	6	13	5.8	0	0.5	0	0.7
7.	1	8	4.8	0	1.6	0	0.6
	2	7	10.1	0	1.0	0	0.2
	3	1	4.4	0	0.8	0	0.2
	4	0.3	3.0	0	0.0	0	0.1
	5	0.7	1.3	0	0.0	0	0.3
	6	2	0.8	0	0.0	0	0.1
8.	1	0	1.5	0	0.0	0	0.0
	2	32	3.5	0	0.0	0	0.0
	3	7	2.3	0	0.0	0	0.0
	4	0	1.8	0	0.0	0	0.0
	5	1	2.3	0	0.0	0	0.1
	6	1.5	4.2	0	0.0	0	0.2
9.	1	0.5	2.0	0	0.0	0	0.0
	2	1	3.5	0	0.0	0	0.0
	3	0	1.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.3	0	0.1	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.2	0	0.0
平年数		3		3		3	

注) 誘殺頭数を示す。余市 A・Bは慣行防除園。

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキ成虫の誘殺頭数

月半旬	岩見沢		札幌		石狩		壮瞥		七飯		旭川		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6. 1	-	0.0	0.1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	0.0
2	-	0.5	0.7	0.5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	9	1.0	0	0.4
3	-	1.4	2.4	2.2	0.8	0.3	0	0.5	11.1	0.2	20	5.3	2.5	1.7
4	-	3.3	2.0	5.1	3.4	0.5	0	1.1	12.1	2.8	0.4	6.8	1.5	2.1
5	0	2.6	1.3	4.4	0.8	0.6	0	2.0	15.8	1.8	1.6	4.9	0.2	1.9
6	0.4	2.4	3.1	3.5	0	0.7	0	1.1	3.8	2.3	0.2	3.1	0.8	2.6
7. 1	0.7	0.8	1.8	2.4	0	0.2	0	0.4	3.7	3.9	0.8	1.1	0.7	0.4
2	0.7	0.5	0.8	1.8	0	0.5	0	0.2	3.6	1.6	0.4	0.9	0.3	0.2
3	1.1	0.2	0.6	1.2	0	0.0	1	0.1	1.7	0.3	1.6	1.3	0	0.1
4	0	0.4	0.1	0.4	0	0.4	0	0.1	0.3	0.3	0.2	0.7	0	0.1
5	0	0.1	0	0.2	0	0.0	0	0.1	0.7	0.2	1.2	0.1	0	0.1
6	0.3	0.1	0	0.4	0	0.0	0	0.1	1.6	0.4	2.3	0.3	0	0.1
8. 1	0.7	0.1	0	0.5	0.2	0.1	0	0.1	0.7	0.4	1.3	0.9	0	0.3
2	0	0.3	0.6	0.8	0.8	0.0	0.4	0.2	6.3	0.5	0.4	0.7	3.5	1.3
3	0	0.3	0.4	1.4	0	0.7	0.6	0.2	6.8	0.5	1.6	0.9	4.5	1.4
4	0	0.4	0.1	2.3	0	0.2	0	0.1	7.5	0.8	0	0.4	1.9	1.4
5	0	0.1	0.6	2.4	0	0.7	0	0.1	4.8	1.2	0	0.4	2.1	1.0
6	0.5	0.3	0.3	2.5	0	0.9	0	0.6	4.5	1.3	0	0.2	0	0.8
9. 1	0.5	0.2	0	2.9	0	0.4	0.4	0.6	2.4	1.0	0.4	0.4	0.5	0.4
2	0	0.1	0	1.2	0	0.1	0.6	0.2	0.7	0.6	1.6	1.0	0.5	0.3
3	0	0.2	0	1.4	0	0.4	0	0.4	2.9	0.3	0.2	0.4	0	0.0
4	0	0.2	0.4	1.9	0	0.6	0	0.5	5.1	0.6	0.8	0.6	0	0.0
5	0	0.0	0.6	0.7	0	0.3	0	0.3	0	0.4	0	0.3	0	0.0
6	0	0.0	0	0.4	0	0.2	0	0.1	-	0.1	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10		10		10		10		10	

注) 誘殺頭数を示す。増毛は交信攪乱剤使用園の近隣園地

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴモンハマキ成虫の誘殺頭数

月半旬	岩見沢		札幌		石狩		壮瞥		七飯		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6. 1	-	0.0	0	0.0	0	0.0	0.5	-	0	0.0	0	0.1
2	-	1.0	0	0.0	0	0.0	2.5	0.7	0	0.0	0.6	0.4
3	-	0.8	0	0.0	0	0.0	0.8	1.1	0	0.2	0	1.4
4	-	0.5	0.7	0.0	0.2	0.0	0.2	0.9	0.2	0.8	0	1.3
5	0.6	0.6	2.2	0.0	0.8	0.3	2.9	1.0	0.8	0.6	0	0.4
6	1.5	0.6	4.4	1.1	0	0.0	1.1	0.2	2.5	1.1	0	0.0
7. 1	2	0.3	5.3	2.2	0	0.0	0	0.0	2.6	1.5	0	0.1
2	1.4	0.4	3.8	2.5	0	0.5	0	0.2	2.9	0.3	0	0.2
3	0.3	0.1	0.6	2.8	0	0.5	1	0.4	0	0.3	0	0.0
4	0	0.0	0.7	1.2	0	0.5	0	0.5	0	0.8	0	0.0
5	0	0.0	0.4	2.5	0.1	0.3	0	0.0	0	0.1	0	0.0
6	0.6	0.0	0.3	1.0	0.9	0.0	0	0.3	0	0.1	0	0.0
8. 1	1.4	0.1	0.6	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.3	0	0.0
2	0	0.2	0.1	0.2	0	0.3	0.9	0.2	0	0.5	0	0.5
3	1.1	0.4	0.3	0.3	0.2	0.0	1.1	0.3	0.8	1.0	0	0.3
4	2.9	0.2	1	0.7	1.4	0.0	0	1.0	1.9	0.6	0	0.0
5	2.9	1.6	1.7	1.9	2.4	0.3	0	1.6	0.4	0.6	0	0.0
6	2.1	1.5	1	3.5	0	0.6	0	2.9	0.6	1.6	0	0.0
9. 1	1	0.3	0	1.1	3	1.5	0	0.4	0.4	0.5	0	0.0
2	0	0.3	0.1	1.1	0	2.9	0	0.3	0	0.6	0	0.0
3	0	0.3	0.6	0.0	0	2.0	0.8	0.3	0	0.5	0	0.0
4	0	0.2	0.3	0.1	0.2	2.8	0.2	0.2	0	0.4	0	0.0
5	0	0.0	0	0.2	0.8	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	2.3	0	0.0	-	0.0	0	0.0
平年数	4		4		4		4		4		4	

注) 誘殺頭数を示す。増毛は交信攪乱剤使用園の近隣園地

6 モモシクイガ

発生期 やや早 発生量 並

発生面積 43ha (8.3% : 平年 13.6%) 被害面積 1ha (0.2% : 平年 0.8%)

発生経過の概要

- ・予察園のフェロモントラップ調査において、成虫初発期は長沼町（無防除）で平年よりやや早く、余市町B（慣行防除）で平年並、余市町A（慣行防除）で平年よりやや遅かった。
- ・フェロモントラップ誘殺数は、長沼町および余市町Bで平年並、余市町Aでは平年より少なかった。長沼町の予察園における産卵数は平年並であった。被害果率の上昇は7月中は平年より早く、8月以降は平年並であった。
- ・一般園における発生面積率、被害面積率はともに平年並であった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量は平年並で、越冬密度は平年並だったと推察される。
- ・発生期間中は概ね高温で経過したものの、余市町においては7月下旬は降雨で経過し、成虫の産卵および幼虫の食害が抑制された。
- ・一般園では、防除が適切に行われた。

フェロモントラップによるモモシクイガ成虫の発生期

	長 沼		余 市 A		余 市 B	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
初飛来日 (月 日)	6月12日	6月16日	6月18日	6月15日	6月10日	6月12日
最 盛 日 (月 日)	7月17日	7月28日	7月30日	8月6日	7月30日	8月12日
50%誘殺日 (月 日)	7月24日	7月30日	7月24日	8月2日	7月30日	8月2日
終 息 日 (月 日)	9月10日	9月15日	8月20日	9月20日	9月18日	9月20日
総誘殺数 (頭)	1157	1117.0	128	357.0	459	581.9
誘殺日数 (日)	91	91.5	64	97.6	101	100.8
平 年 数	10		10		10	

注) 余市A・Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるモモシクイガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長 沼		余 市 A		余 市 B		
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	
6.	1	0	0.0	0	0.1	0.3	0.1
	2	0	0.0	0	0.2	1.7	0.4
	3	5	2.3	2.5	0.8	2.5	2.0
	4	24	4.1	5.2	2.4	9.2	6.4
	5	69	10.6	9.3	3.5	19.3	9.4
	6	43	25.9	4.3	6.1	17.9	17.0
7.	1	29	32.3	4.0	9.8	23.3	22.8
	2	41	58.8	3.8	11.7	26.9	23.5
	3	68	67.7	18.3	16.3	27.5	27.6
	4	171	137.9	19.1	20.2	40.4	35.2
	5	158	121.9	21.2	28.2	47.5	40.9
	6	89	160.1	23.6	39.1	51.8	59.0
8.	1	100	123.4	10.7	45.8	22.9	56.7
	2	96	89.6	3.1	41.6	21.3	45.5
	3	26	42.8	2.2	35.6	25.8	47.4
	4	124	46.4	0.7	28.5	30.7	42.1
	5	19	56.8	0	17.8	23.3	38.1
	6	41.5	59.7	0	21.2	23.5	49.5
9.	1	42.2	41.6	0	13.9	15.5	24.8
	2	11.3	31.9	0	6.5	15	15.2
	3	0	8.8	0	3.2	9.7	7.5
	4	0	0.7	0	1.5	3.3	3.4
	5	0	0.3	0	1.2	0	0.4
	6	0	0.0	0	0.7	0	0.1
平年数	10		10		10		

注) 誘殺頭数を示す。余市A・Bは慣行防除園。

一般園におけるフェロモントラップによるモモシクイガ成虫の誘殺頭数

月半旬	岩見沢		札幌		石狩		壮瞥		七飯		旭川		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6. 1	-	0.0	0.1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	-	0.0	0.7	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
3	-	0.0	3	0.3	0	0.0	1.7	0.3	0	0.2	0.8	0.5	0	0.0
4	-	0.4	6.5	1.1	0	0.0	5.3	0.4	0	0.0	8.8	2.1	0	0.0
5	1.3	1.3	11.3	3.6	0	0.0	6.4	1.6	0	0.4	28.6	5.1	0	0.0
6	4.4	2.0	13.1	11.0	0	0.0	2.6	3.0	0.6	0.9	30.8	8.6	0	0.1
7. 1	7.1	3.3	24.3	17.4	0	0.0	5.5	4.1	2.4	1.4	30.6	16.7	0	0.0
2	10	7.8	36	25.9	0	0.0	7.5	6.0	5	3.1	32.4	20.2	0	0.2
3	15	10.5	42.5	36.0	0	0.0	8	7.4	5	7.6	27.8	28.9	0	0.2
4	10	15.3	46.2	33.3	0	0.0	4.3	9.5	8.4	18.2	19.8	41.8	0.7	0.3
5	12	19.5	38.0	31.4	0	0.0	5.5	7.3	8.9	37.1	23.2	37.8	1.1	0.5
6	13.4	22.9	31.3	34.8	0	0.0	7.9	8.9	10.7	63.6	40.9	43.6	1.1	0.5
8. 1	8.6	13.2	30	23.7	0	0.0	8.1	9.4	10	73.4	45.3	47.0	0	0.1
2	3.1	6.5	61.4	20.6	0	0.0	8.8	10.8	5.6	59.8	13.8	29.9	0	0.3
3	6.4	2.8	72.6	22.3	0	0.0	11.4	9.2	5.9	53.9	26.8	20.6	0	0.2
4	11.4	2.2	65.9	25.2	0	0.0	20	9.3	6.3	33.2	19.6	19.1	0	0.2
5	0.7	3.5	19.4	20.8	0	0.0	12.7	11.2	3.9	28.6	23.2	15.8	0	0.3
6	11.8	3.6	19.2	22.3	0	0.0	6.7	15.8	17.3	31.2	13.3	16.7	0	0.2
9. 1	13.8	3.3	10.2	9.6	0	0.0	5.0	9.6	13.7	14.4	9.3	10.5	0	0.3
2	9.3	2.6	5.3	4.0	0	0.0	5.6	6.1	4.3	7.2	9	5.7	0	0.2
3	3.5	0.8	0	0.3	0	0.0	1.7	1.7	0	2.7	4.2	1.0	0	0.0
4	1	0.6	0	0.0	0	0.0	0.3	0.7	0	1.3	0.8	0.2	0	0.0
5	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	0.8	0	0.1	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.5	-	0.1	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10		10		10		10		10	

注) 誘殺頭数を示す。石狩は交信攪乱剤使用。増毛は交信攪乱剤使用園の近隣園地。

予察園におけるモモシクイガの産卵期と被害発生期 (長沼)

	本年	平年
産卵開始日 (月日)	6月25日	7月2日
産卵最盛日 (月日)	8月8日	7月17日
被害初発日 (月日)	7月10日	7月10日
被害最盛日 (月日)	7月19日	7月19日
平年数	4	

予察園におけるモモシクイガの産卵状況と被害状況 (長沼)

	産卵粒数		累積被害果率 (%)	
	本年	平年	本年	平年
6. 5	18	1.3	0	0.0
6	26	11.0	0	0.0
7. 1	20	32.3	0	1.0
2	104	39.7	20	10.3
3	58	133.7	45	41.0
4	75	207.3	90	73.3
5	97	156.3	99	96.0
6	84	178.5	100	99.0
8. 1	165	85.0	100	100.0
2	207	50.5	100	100.0
3	177	57.3	100	100.0
4	161	70.5	100	100.0
5	211	67.5	100	100.0
6	121	49.0	100	100.0
9. 1	50	-	100	100.0
2	-	-	-	100.0
3	-	-	-	100.0
平年数	4		4	

注) 産卵粒数は、100果当たりの数値を示した。

7 ハダニ類 発生期 並 発生量 少
 発生面積 29ha(5.7%：平年 28.7%) 被害面積 3ha(0.6%：平年 1.9%)

発生経過の概要

- ・予察園において、リンゴハダニは、長沼町（無防除）、余市町A及びB（慣行防除）いずれの地点においても発生が認められなかった。
- ・予察園において、ナミハダニは、余市町Bで平年より少なく、長沼町及び余市町Aでは発生が認められなかった。
- ・一般園において初発期は平年並であった。発生面積率、被害面積率は平年より低かった。

発生原因の解析

- ・前年の発生量はやや少なく、越冬密度はやや低かったものと推察される。
- ・発生期間中は概ね高温で経過したものの、一般園では、防除が適切に行われた。

予察園におけるリンゴハダニの発生状況

月半旬	長 沼				余 市 A				余 市 B			
	成 虫 数		卵 数		成 虫 数		卵 数		成 虫 数		卵 数	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	2.3
2	0	0.0	0	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.8	0	4.1
5	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.1	0	0.0	0	0.6
6	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.6	0	1.7	0	5.7
8. 1	0	0.0	0	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.7	0	0.3
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.3	0	0.5
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0		0.0		0.0		0.0		6.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.2	0	2.8
9. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	2.8
2	0	0.0	0	0.0		0.0		0.0		0.0		2.8
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	2.4
5	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	2.0
6	0	0.0	0	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
平年数	3				10				10			

注) 余市A・Bは慣行防除園。

成虫数は30葉当たりの雌成虫の数値、卵数は30葉当たりの数値を示した。

予察園におけるナミハダニの発生状況

月半旬	長 沼				余 市 A				余 市 B			
	成 虫 数		卵 数		成 虫 数		卵 数		成 虫 数		卵 数	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	3.2	0	3.2
5	0	0.0	0	0.0		0.8		3.7		2.7		3.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.8	0	1.6
7. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.8	0	0.4	0	5.2	0	1.5
2	0	0.0	0	0.0		0.9		1.9		1.0		2.5
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	2.1	0	6.5	0	4.4
5	0	0.0	0	0.0	0	2.6	0	5.3	0	2.7	0	4.0
6	0	0.0	0	0.0	0	3.9	0	6.6	0	4.0	0	1.7
8. 1	0	0.0	0	0.0		0.9		0.6		5.9		3.6
2	0	0.0	0	0.0	1	6.5	0	13.8	0	2.2	0	3.7
3	0	0.0	0	0.0	0	1.3	0	2.8	0	13.1	0	13.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	1.3	0	22.1	0	23.1
5	0	0.3	0	0.0		3.2		2.0		0.3		6.2
6	0	2.7	0	0.0	0	0.8	0	1.0	0	9.7	0	12.6
9. 1	0	2.3	0	0.0	0	0.8	0	1.4	0	0.2	0	2.0
2	0	1.3	0	1.0		0.9		1.9		14.4		9.4
3	0	1.0	0	1.7	0	0.3	0	0.6	0	1.1	0	6.1
4	0	2.3	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	1.4	0	0.3
5	0	2.0	0	0.0	0	1.4	0	0.4	0	0.4	0	4.2
6	0	0.3	0	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
平年数	3				10				10			

注) 余市A・Bは慣行防除園。

成虫数は30葉当たりの雌成虫の数値、卵数は30葉当たりの数値を示した。

8 キンモンホソガ

発生期 並 発生量 やや少

発生面積 69ha (13.5% : 平年 17.6%) 被害面積 0ha (0% : 平年 0.0%)

発生経過の概要

- ・予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町（無防除）、余市町A及びB（慣行防除）では平年より少なかった。
- ・長沼町における被害葉率は平年より多かった。
- ・一般園における発生面積率は平年よりやや少なかった。被害は認められなかった。

発生原因の解析

- ・ここ数年、少発生傾向にあり、越冬密度は平年並に低かったものと推察される。
- ・一般園では防除が適切に行われた。

フェロモントラップによるキンモンホソガ成虫の発生最盛期

世代	長沼		余市A		余市B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1回	5月5日	5月17日	6月26日	6月22日	6月19日	6月20日
第2回	6月21日	7月5日	7月11日	7月10日	7月3日	7月4日
第3回	7月24日	8月6日	8月6日	8月9日	7月30日	8月2日
第4回	8月31日	9月6日	9月12日	9月9日	8月29日	9月8日
平年数	10		10		10	

注) 余市A, Bは慣行防除園。

フェロモントラップによるキンモンホソガ成虫の誘殺頭数

月半旬	長沼		余市A		余市B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5. 1	1	0.1	-	-	-	-
2	2	0.7	-	-	-	-
3	0	1.0	-	-	-	-
4	0	1.9	-	-	-	-
5	0	0.7	-	1.9	-	-
6	0	0.4	-	1.2	-	0.0
6. 1	0	0.0	0	0.3	0	0.3
2	0	0.2	0	0.2	0	0.5
3	0	0.1	0	1.5	1.3	1.8
4	0	0.7	1.1	5.8	1.6	16.0
5	4	4.1	2.9	11.3	2.1	25.6
6	1	3.2	5	21.6	2.9	30.3
7. 1	1	8.9	27.9	33.4	1.1	49.6
2	0	8.4	43.1	32.9	0	47.9
3	0	7.1	53.3	32.9	5	39.3
4	3	7.8	22.7	40.0	53.6	40.6
5	5	7.9	18.7	34.1	104.8	95.5
6	1	13.9	34.5	64.9	174.4	274.2
8. 1	2	19.0	37.9	85.2	109.3	157.9
2	0	26.5	14.4	69.5	82.5	94.5
3	0	16.5	20.3	71.4	67.2	74.9
4	0	25.0	26.9	70.8	48.3	37.3
5	0	29.6	17.8	53.6	65	31.2
6	3	56.6	37.2	64.4	47	47.1
9. 1	1	53.9	54.3	83.2	13.3	67.7
2	1	67.7	69.4	100.2	13.1	74.2
3	3	44.1	70.5	95.8	4.6	78.3
4	0	12.2	48.5	60.6	3.6	56.3
5	0	4.7	29.9	35.4	3.4	31.7
6	0	1.3	15	12.5	0	12.4
平年数	10		10		10	

注) 余市A・Bは慣行防除園。

一般園におけるフェロモントラップによるキンモンホソガ成虫の誘殺頭数

月半旬	岩見沢		札幌		石狩		壮瞥		七飯		旭川		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6. 1	-	0.3	0	0.0	0	0.1	0	0.3	0	0.1	0	0.0	0	1.6
2	-	0.1	0	0.2	0	0.2	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.2
3	-	0.1	0	0.4	0	0.0	0	0.5	0	0.1	0	0.0	1.3	0.8
4	-	0.3	0	0.6	0	0.0	0	3.3	0.7	2.1	0.2	0.0	4.8	8.0
5	2.5	3.0	0	0.7	0	3.7	0	21.4	3.3	2.7	1	1.1	10.5	61.9
6	4.9	5.6	0	0.5	0	6.5	1	31.4	0	8.2	1.2	0.7	12.5	107.0
7. 1	6.6	14.5	0	0.6	0	17.4	0	41.8	1.1	26.2	2.2	3.3	26.4	129.6
2	7.1	14.6	0	0.5	0	29.7	0	58.5	2.9	22.1	2.4	1.8	23.7	118.1
3	5.4	17.2	0	0.7	0.4	35.2	0	44.7	0	5.8	0	0.7	21.9	88.6
4	5.8	7.5	0	0.4	1.6	40.7	0	37.8	2.9	7.8	0	0.7	22.9	74.7
5	35.2	5.5	0	0.3	0	30.7	0	16.9	2.1	7.5	0.2	0.5	19.4	59.8
6	46	8.0	0	0.8	0	10.8	0	35.3	1.7	19.0	0.8	0.2	29.0	63.4
8. 1	30	12.0	0	1.1	0	9.5	0	95.4	4.3	43.1	0	0.4	64.2	96.3
2	5.6	5.6	0	1.2	0.4	16.0	0	81.4	6.9	64.2	0.2	2.1	82.4	165.6
3	3.7	3.5	0	1.6	1.6	20.9	0	77.9	4.4	47.1	1	1.5	79	219.9
4	0.7	4.1	0	1.5	0.2	17.7	0	100.1	0.6	6.2	0.8	0.5	50.7	289.3
5	2.1	2.0	0	2.0	1.1	30.9	0	68.0	4.8	10.2	0	0.4	29.3	305.9
6	9.4	1.6	0	2.1	1.5	32.1	0	45.6	10.3	11.1	0	1.3	72.8	366.4
9. 1	9.8	2.7	0	3.6	1.9	37.0	0	50.7	7.7	1.3	0	0.8	116.8	296.8
2	6.3	3.1	0.1	1.8	13	95.5	0	92.2	4.3	1.5	0	1.8	113.5	401.3
3	11.5	4.4	0.6	1.3	28.8	65.7	0.8	78.1	3.6	2.1	0	0.5	52.5	354.6
4	11.9	1.6	0.3	0.4	9.6	79.1	0.2	54.8	1.4	1.5	0	0.2	31.1	286.5
5	7.1	0.4	0.2	0.1	0	33.9	0	19.6	0	0.8	0	0.1	19.8	138.8
6	0	0.0	0.8	0.1	0	13.9	0	7.3	-	0.6	0	0.0	8.7	73.7
平年数	10		10		9		10		10		10		10	

注) 誘殺頭数を示した。増毛は交信攪乱剤使用園の近隣園地。

予察園におけるキンモンホソガの被害推移

月半旬	長 沼			
	被害葉率		食害痕数	
	本年	平年	本年	平年
6. 1	0	0.0	0	0.0
2	2	0.0	0.2	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	4	0.8	0.5	0.1
5	3	2.4	0.4	0.3
6	2	0.6	0.2	0.1
7. 1	0	0.5	0	0.1
2	0.5	0.3	0.1	0.0
3	0.3	0.1	0.0	0.0
4	1	0.1	0.1	0.0
5	1.8	0.7	0.2	0.1
6	2.3	0.7	0.3	0.1
8. 1	3.8	1.7	0.4	0.2
2	6.5	2.5	0.9	0.3
3	13.5	3.2	1.5	0.3
4	20.5	6.0	2.5	0.7
5	28.8	10.0	3.2	1.1
6	27.5	14.1	3.1	1.8
9. 1	24.8	15.2	3.0	1.9
2	23.8	15.8	3.1	1.8
3	37.5	17.1	5.1	2.2
4	37.5	22.4	5.3	2.8
5	41	25.7	6.8	3.6
6	60.3	38.7	11.9	5.9
平年数	3			

注) 余市A・Bは慣行防除園。
食害痕数は、10葉当たりの痕数を示した。

(XVII) その他果樹の病害虫

1 コスカシバ 発生期 — 発生量 やや多

発生経過の概要

- ・一般園においてフェロモントラップを設置した6月上・中旬から成虫の誘殺が認められた。
- ・誘殺数は、札幌市、壮瞥町及び増毛町で平年より多かった。

フェロモントラップによるコスカシバ成虫の誘殺頭数

月半旬	札幌		壮瞥		増毛		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
6.	1	9.4	3.4	2.3	-	0	0.0
	2	21.4	6.2	7.5	1.6	0	0.0
	3	20.9	7.7	5	1.2	0.6	0.3
	4	18.1	6.7	2	1.3	0.4	0.2
	5	15.6	11.8	5.7	2.5	0.5	0.0
	6	21.3	22.1	6.3	3.8	2.5	0.0
7.	1	26.5	23.7	5.8	3.2	1.4	0.2
	2	29.8	20.2	9.2	3.9	0.6	0.3
	3	29.4	23.0	5	4.7	0	1.3
	4	36.7	22.0	8.6	2.8	0	0.6
	5	36.1	27.8	11.3	4.0	0.4	0.3
	6	43.5	28.4	14.3	6.7	0.6	0.6
8.	1	43.8	32.3	5.6	8.4	0.6	0.6
	2	41.3	29.7	9.5	8.2	0.4	0.4
	3	42.4	29.1	13.9	7.4	1.5	0.0
	4	42.9	20.0	20.7	11.4	3.5	0.0
	5	34.4	21.1	23.5	12.8	5	0.4
	6	32.7	25.7	12.1	8.7	2.3	0.1
9.	1	15.7	17.1	31.3	15.3	1.8	0.1
	2	8.1	6.5	38.3	8.9	1	0.2
	3	3.8	3.1	10.8	4.8	0	0.3
	4	3.2	1.5	9.6	0.4	0	0.2
	5	2.8	0.7	6.9	0.7	0	0.0
	6	2.5	0.6	2.7	0.7	0	0.0
平年数	4		4		4		

注) 増毛町は本年、平年ともに交信攪乱剤使用。

2 スモモヒメシクイ

発生経過の概要

- ・捕獲した雄成虫はナシヒメシクイとの識別が困難である。後翅後縁（随時観察）はナシヒメよりもスモモヒメに合致するが、現状ではナシヒメ・スモモヒメを含む *Grapholita* 属の一種として示すことにする。
- ・一般園においてはフェロモントラップを設置した5月上・中旬から成虫の誘殺が認められた。1回目の最盛期は5月下旬～6月上旬、2回目の最盛期は7月中旬～8月上旬、3回目の最盛期は8月下旬～9月上旬であった。
- ・誘殺数は、岩見沢市、札幌市、余市町及び壮瞥町で平年並であった。長沼町、七飯町及び旭川市で平年よりやや少なく、石狩市及び増毛町では平年より少なかった。

フェロモントラップによるスモモヒメシクイ成虫の誘殺頭数

月半月	長沼		岩見沢		札幌		石狩		余市		壮瞥(滝之上)		七飯		旭川		増毛	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5. 1	0	0.0	-	-	0	0.0	-	0.0	-	0.0	0.7	0.0	5	0.1	0	0.6	0	0.0
2	0	0.3	-	-	0	0.4	0.4	0.0	-	0.1	2.1	0.1	8.9	2.5	0	4.3	0	0.0
3	0	0.2	-	-	7.9	1.2	1.6	0.0	-	0.5	10.4	0.5	13.7	5.7	0	6.8	0	0.0
4	20	1.3	-	-	20.8	8.2	0.2	0.6	7.1	8.2	11.9	4.0	22.9	20.9	0	11.3	0	0.0
5	16	10.2	-	-	33.3	22.2	1.1	2.5	6.7	14.3	9.0	7.5	11.9	30.8	0	16.1	2	2.5
6	14	28.6	-	-	44.1	52.3	1.9	8.5	16.8	30.7	5.7	14.6	4	34.6	0	23.2	1.7	1.8
6. 1	8	30.0	15.3	24.0	39.9	53.3	1	8.2	24.7	19.4	0.2	14.4	1.7	14.3	0	26.3	1.1	6.7
2	3	35.7	15.5	25.3	50.7	56.6	1	6.2	6.7	15.6	0.8	12.8	0	6.4	4.4	28.4	1.3	9.7
3	1	11.4	13.1	12.1	50.7	63.3	0.8	4.6	8.1	15.4	8.3	7.4	0	3.1	21.6	26.9	1.9	4.2
4	2	8.9	9.8	9.2	44.1	51.1	0	3.7	6.6	10.0	1.7	6.0	0	2.5	19.4	22.7	2.5	2.8
5	3	3.8	3.1	10.4	30.2	38.0	0	4.4	4.3	7.7	2.1	6.2	0	1.3	16.6	21.4	3.3	2.4
6	1	4.8	6.4	10.1	14.4	27.4	0.4	3.8	2.1	11.8	3.9	5.6	0	3.2	15.2	19.6	3.3	2.7
7. 1	2	7.2	7.6	9.6	15.8	22.6	2.2	3.7	8.7	15.0	2	4.6	0.3	3.8	15.2	19.8	0	4.3
2	11	4.1	3.6	12.9	21.5	23.3	2.8	5.3	13.1	14.3	5	2.3	0.7	4.2	14	23.5	0.8	3.4
3	5	7.0	16.7	13.4	28.8	26.9	1.6	4.0	32.5	19.7	8	3.2	5	9.6	22.6	25.4	1.3	4.6
4	18.3	16.9	22.5	13.1	82.9	52.6	1	7.9	28.8	30.9	23.6	12.7	4.4	17.9	27.4	26.4	8.6	3.0
5	7.7	26.1	20.5	19.9	74.2	75.0	4.9	10.6	38.7	44.4	13.2	12.5	4.2	20.7	38.2	32.6	3.9	5.7
6	0	19.1	19.1	25.2	48.4	85.2	5.1	17.9	55.1	63.3	12.8	19.6	6.5	29.2	40.4	35.0	1.9	12.9
8. 1	1	22.3	7.9	23.7	39.4	54.8	1	19.4	27.9	47.5	32.5	25.8	7.9	24.4	15.4	29.7	1.2	13.4
2	10	13.2	15	20.3	35.9	47.2	0.2	15.8	23.1	38.1	20.3	22.5	10.6	29.4	17.8	31.1	2.9	8.1
3	11	9.4	21.6	17.7	39	40.3	1	14.5	40.9	38.5	15.3	19.9	22.1	27.9	20.8	22.3	3.5	3.9
4	17	12.2	31.4	14.6	46.3	38.7	2.6	9.7	66.2	48.0	27.9	22.5	39.4	52.0	19.8	18.6	1.9	3.6
5	7	17.0	48.6	20.3	51.7	38.3	7.6	19.4	61.1	55.8	24.9	21.2	55.2	83.3	18.6	17.0	2.1	6.0
6	11.5	21.7	38.4	20.0	58.5	54.8	2.3	22.9	90.2	94.6	19.3	30.5	59.7	126.3	18.6	14.4	10.5	8.0
9. 1	16.2	12.0	21.5	15.7	35.8	37.3	5.6	10.1	65	59.3	18.8	24.6	37.3	82.3	12.8	9.7	5	7.2
2	1.3	5.7	9	11.0	20.3	22.4	4.8	3.8	28.8	29.1	20.6	13.6	25.7	35.2	13	8.0	1.8	4.5
3	1	2.7	3	4.0	18.1	7.6	0.2	1.2	9.8	20.0	5	5.6	10.7	14.8	7.8	3.2	0.6	2.6
4	0	1.3	1.5	2.0	8.5	3.0	0.8	0.3	4.6	8.9	3.3	1.2	4.7	5.1	2.4	1.1	0.7	1.5
5	0	0.2	0	1.5	2.7	1.3	0	0.2	3.4	4.1	2.4	0.7	0.6	1.4	0	0.0	0.4	0.4
6	0	0.1	0	1.5	5	0.9	0	0.3	0	2.2	1.3	0.3	-	0.3	0	0.0	0	0.0
平年数	10		10		10		9		10		10		10		10		8	

注) 誘殺頭数を示した。増毛の平年値は交信攪乱剤未使用の2005～2012年の8年間に固定。

IV 令和7年度に特に注意を要する病害虫 並びに令和6年度に新たに発生を認めた病害虫

1) 令和7年度に特に注意を要する病害虫

(1) 小麦の赤さび病

近年、秋まき小麦主要品種の「きたほなみ」の他、「キタノカオリ」などの品種でも赤さび病の多発事例が認められ、赤さび病の発生が少ないとされる「ゆめちから」でも防除が実施される状況となっている。令和6年度は、これまで発生が比較的少なかったオホーツク地域や太平洋側地域でも秋まき小麦の赤さび病が多発するとともに、道央地域では春まき小麦「春よ恋」でも多発した。近年の多発要因として越冬菌量の増加が考えられており、令和6年産小麦における多発や令和6年秋まき小麦は種後も高温に経過したことなどから令和7年春の越冬菌量は多くなると推測されるので、令和7年度の発生に注意が必要である。

本病に対する防除対策は、発生リスクが高いほ場では、1回目の散布を次葉展開期から止葉期に効果が高く残効の長いインピルフルキサム水和剤Fあるいはフルキサピロキサド水和剤Fで行い、開花始に2回目の散布として赤かび病にも効果的なキャプタン・テブコナゾール水和剤あるいはプロチオコナゾール水和剤Fを用いることで効率的に防除できる。令和7年度は、令和6年度の発生に応じて、これまで発生リスクが高くなかった地域でも前述の防除を検討する必要がある。また、前述のとおり病原菌の越冬量が多いと考えられる地域では、初発が早まることも想定される。本病は散布タイミングが遅れると、十分な防除効果が得られないので、防除適期を失しないようにする。

なお、1回目散布の薬剤選定に当たっては、フルキサピロキサド水和剤Fは散布時に発病が認められる葉には効果が劣るため、散布時に次次葉（止葉の2葉位下の葉）に発病が認められる場合はインピルフルキサム水和剤Fを使用する。

(2) トマト・ミニトマトのトマトキバガ

侵入警戒有害動植物であるトマトキバガについては、道内では令和5年に初めて飛来が確認された。令和6年度は、フェロモントラップによる調査において全道各地で前年を上回る成虫の誘殺を認め、道内各地のハウス栽培トマトで葉や果実の食害が確認された。特に、令和5年度に本種の発生が認められた地域の越冬ハウスでは、育苗期間中から葉の食害が確認された。令和7年度も早期から発生する可能性があるため、注意が必要である。本種の幼虫は、終齢で約8mm程度と小さく、葉や果実に穿孔侵入する。葉の被害の特徴として、薄皮を残した大ぶりの袋状潜葉痕となり、糞が端に蓄積される。また、幼虫は潜葉痕から脱出後に生長点付近を好んで加害する傾向がある。本種の発生が疑われた場合は、速やかに最寄りの農業改良普及センター、農業試験場、病害虫防除所に連絡し、発生種の確認を行う。

冬期間も展張しているハウス内で越冬する可能性があることから、ハウス内の残さやイヌホオズキを含むナス科雑草などの寄主植物の除去を徹底する。育苗中からハウス内の観察に努め、葉に特徴的な被害を認めたら速やかに薬剤防除を行うとともに、育苗期後半または定植時に灌注剤や粒剤による防除を行う。本種は飛来性害虫であるため前年発生が認められていなかった地域でも今後の発生に注意し、被害が認められた場合には薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋没するなどして死滅させ、適切に処分する。薬剤防除にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統が異なる薬剤のローテーション防除を行う。

(3) ぶどうの晩腐病

ぶどうの晩腐病は主に成熟期の果房に発生し、果実を腐敗させ、収穫直前に降雨が多いと発生が急激に拡大する。病原菌は高温を好み、近年の気象条件下で発生は増加傾向にあり、令和6年、道内の生食加工用や醸造用ぶどうにおいて収穫直前に本病による果実の腐敗が多発し、一部の地域では収量が大きく減少した。本病の病原菌はぶどうの結果母枝や巻きひげに潜伏して越冬し、翌春の降雨時に分生子が分散して第一次伝染が起こる。その後、花穂、幼果、成熟果、および葉でも発病し、これらの病斑上に形成された分生子によって第二次伝染が起こる。多くの場合は潜伏感染しているため症状は認められず、着色期に発病が認められるようになる。令和6年の発生状況から越冬後の一次伝染源が多くなることが推測されることから令和7年は発生に注意する必要がある。

本病による被害を軽減するためには、園地内の越冬病原菌の密度低下を目的とした、巻きひげや前年果梗の切り残し部分などの除去と、第一次伝染源となる結果母枝上の分生子の形成を抑制する休眠期（発芽前）および新梢や果実への感染を防ぐ生育期の防除を実施する事が重要である。本病に対する道内の防除試験事例はないが、休眠期防除においても本病を対象とした薬剤散布が推奨される。府県では6月上旬から8月上旬にかけて生育期散布が行われており、重要な防除時期は落花期および落花10日後頃（果粒がアズキ粒大頃）とされ、多発園地では展葉6～8枚期に本病にも効果の期待できる薬剤を選択するよう指導されている。ただし、降雨が連続する場合には追加散布が必要となり、使用時期に制限がある薬剤も多いことから、本病は薬剤だけで対処する事が困難である。したがって被覆栽培や果実への早めの袋かけ、笠かけ、袋かけはしっかりと口を留めること、こまめな新梢管理、二番成りの除去、排水対策など耕種的防除も含めた総合的な対策が重要となる。

2) 令和6年度に新たに発生を認めた病害虫

令和6年度に、北海道内において、次に示す病害虫の発生が新たに確認された。なお、病害虫名の後に記したかっこ内表記の凡例は次のとおりである。

- 新称：これまで正式な名称（病名、害虫の和名）のなかった新たな病害虫の名称提案。
- 国内新発生：これまで国内での発生事例がなかった病害虫
- 新発生：道内での発生事例がなかった病害、道内に分布が確認されていなかった害虫
- 新寄主：道内に分布することが既知である害虫の、新たな作物への加害記録
- 病原菌の同定：未同定だった病原菌の種名の確定
- 病原の追加：既知病害と病徴に違いのない新たな病原の追加

(1) 小麦および大麦のクビアカクビホソハムシ（国内新発生）

令和5年6月上旬、北海道内の秋まき小麦及び大麦ほ場において、ほ場全体に止葉を中心としてかすり状の短い食痕が認められ、被害葉には体長が2～4mmの洋なし型、泥状の物質を背負った虫が確認された。これらの個体を採集し、室温で飼育したところ体長が4～6mmで前胸が褐色、鞘翅が光沢のある青黒色の成虫が羽化した。本個体および当該ほ場で7月中旬に再度採集した成虫について、横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、7月24日に国内未発生のクビアカクビホソハムシ *Oulema melanopus* (Linnaeus) であることが確認された。海外では本種は穀類および牧草の重要な害虫であり、とうもろこし、ライムギ、エンバクおよびチモシーなどでも発生が報告されている。令和6年においては、5月中下旬から越冬成虫がほ場に飛来し、長径1mm弱の長卵形の卵を葉身に数粒ずつ産卵、幼虫の加害は5月下旬から7月上旬まで継続することが確認された。近縁種で小麦の害虫となるムギクビホソハムシは成虫の前胸の色が鞘翅と同じ青黒色である点で本種と識別可能だが、幼虫の形態から両種を識別することは困難である。

(北見農試)

(2) 大豆のダイズクロハモグリバエ（新発生）

令和6年7月下旬に、石狩地方の大豆栽培ほ場において、大豆の葉の内部を幼虫が食害し、白色袋状の潜葉痕を形成する被害が発生した。被害は散発的ながらほ場内の広い範囲に認められた。潜葉痕は最大時の幅が2～3cm程度で、時間の経過に伴って褐色に変色した。内部には一潜葉痕あたり1頭の双翅（ハエ）目幼虫が認められた。幼虫は老齢時の体長3mm程度で、体色は乳白色である。発育を完了した幼虫は、葉から脱出して土中で蛹化し、蛹（囲蛹）は全長2mm程度の俵状で色は赤褐色である。これらの蛹からは、8月下旬に体長2mm程度の成虫が羽化した。成虫は体色が全体黒色で、平均棍は黒色で末端のみが僅かに白色を呈する。加害種は成・幼虫および囲蛹の形態からダイズクロハモグリバエ *Japanagromyza tristella* (Thomson) と同定された。本種は、本州以南では関東地方を含め比較的普通に発生が認められ、くずや大豆などへの寄生が知られている。

(北海道植物防疫協会・中央農試)

(3) らっかせいのアズキノメイガ（新寄主）

令和6年7月下旬に、石狩地方のビニールハウスにおいて、らっかせいの生長点が萎凋する症状が発生した。当該症状は、ハウス内の一カ所に集中していた。萎凋茎は、地上10cm付近の側面に径2mm程度の穴が開き、ここから褐色の喰いクズや黒褐色の糞粒が排出されていた。茎内には、体長1.5cm程度の鱗翅目の中齢幼虫が認められた。幼虫は、頭部および前胸背楯が黒色で、胸部、腹部は淡褐色を呈した。加害幼虫を被害茎ごと15℃で飼育したところ、8月上旬には体長が2cm程度に達して老齢となり、その後蛹化を経て9月上旬に雄成虫が羽化した。この成虫は、翅の模様や中脚脛節が肥大しているという特徴からアズキノメイガ *Ostrinia scapulalis* (Walker) と同定された。本種は道内では小豆や菜豆を食害することが知られている。発生地では、近接する小豆ほ場において7月中旬以降にアズキノメイガ成虫、8月以降には同種幼虫による小豆莢や茎の被害が認められており、このことから7月中旬にハウス内に入り込んだ雌成虫がらっかせいに産卵したものと推察された。

(北海道植物防疫協会・中央農試)

(4) 大豆、小豆、べにばないんげんのホソヘリカメムシ（新寄主）

令和6年8月から9月にかけて長沼町の大豆、小豆およびべにばないんげん、石狩地方の大豆において、ほ場全体の葉上に多数のカメムシ類成虫およびアリに酷似したカメムシ類の幼虫が確認された。当該ほ場で採取した成虫の外部形態によりホソヘリカメムシ *Riptortus pedestris* (Fabricius) と同定された。また、それぞれの作物で確認されたアリに酷似したカメムシ類の幼虫を採取し大豆および小豆で飼育した結果、ホソヘリカメムシの成虫が得られた。本種は子実を加害し、収穫後の子実に吸汁痕が生じた。大豆では、吸汁された部分が褐変する症状が確認され、被害率は約10%から40%であった。本種は本州においては大豆で問題になっており、防除対象となっている害虫である。北海道においては、令和4年に後志地方において菜豆で初めて作物の被害が報告されており、近年の温暖化にともなって、北海道内において分布域を拡大している可能性がある。

(中央農試・北海道植物防疫協会)

(5) ベにばないんげんのマメノメイガ (新寄主)

令和6年7月下旬に中央農業試験場(長沼町)で栽培していたベにばないんげんの花房および莢にノメイガ類幼虫の寄生が確認された。また、9月中旬には十勝地方のべにばないんげんほ場で、莢に寄生するノメイガ類幼虫が確認され、いずれも羽化成虫の形態からマメノメイガ *Maruca vitrata* (Fabricius) と同定された。本種は道内では越冬しないと考えられる。

道内で莢を食害するノメイガ類にはアズキノメイガが知られるが、本種とアズキノメイガを食害痕のみから区別することは困難であり、令和6年に寄生が確認されたほ場では両種が混発していた。

(中央農試・十勝農試・十勝農業改良普及センター十勝東部支所)

(6) 小豆のマイコセントロスポーラ斑点病 (新称)

平成30年7月、十勝地方の複数のほ場において、小豆の葉に褐色に縁取られた淡褐色不整形の病斑が多数認められた。病斑上には倒棍棒状で先端糸を有する特徴的な形態の分生子を形成した。分離菌を小豆に接種したところ、原病徴が再現され、接種菌が再分離された。分離菌はV8培地上で、倒棍棒状で先端糸を有する分生子および黒色亜球形で複数個連鎖する厚壁胞子を形成し、これらの形態的特徴は *Mycocentrospora acerina* (R. Hartig) Deighton と一致した。分離菌の rDNA-ITS 領域の塩基配列は *M. acerina* と 99-100%一致し、rDNA-ITS 領域および TEF-1 α の塩基配列を用いた系統解析から、既知の *M. acerina* と同一のクレードを形成した。以上のことから、病原菌を *M. acerina* と同定し、病名をマイコセントロスポーラ斑点病 (英名: *Mycocentrospora leaf spot*) とした。病原菌は多犯性であり、本道ではにんじんの黒色根腐病の病原菌として知られている。小豆分離菌は人工接種によりにんじんの他、ささげ、大豆、菜豆、ばれいしょ、てんさい、だいこん、はくさい、およびキャベツに病原性を示した。

(北大院農、十勝農試)

(7) 小豆の茎腐細菌病 (病原菌の同定)

Pseudomonas sp. とされていた本病の病原細菌について、平成19年および21年に分離した菌株が所属する分類学的位置の検討を行った。分離細菌はハウスキープング遺伝子の塩基配列に基づいた系統解析により、ダイズ斑点細菌病の病原細菌である *P. savastanoi* pv. *glycinea* と遺伝的に近縁であることが示唆された。両者は *P. syringae* 群細菌の hrp group IA に所属するが、rep-PCR のバンドパターンに差異があり遺伝的に異なった。さらに、小豆および大豆に対する病原性がそれぞれ異なることから、分離細菌は *P. syringae* 群細菌の新しい病原型とするべきであると結論した。以上のことから、小豆の茎腐細菌病の病原細菌を *P. amygdali* pv. *adzukicola* pv. nov. *Todayi*, Takahashi, Yasuoka, Sato, Abe, Takikawa & Kondo と命名した。

(十勝農試・静岡大学)

(8) かんしょのヒルガオハモグリガ (新寄主)

令和6年9月、道内の露地かんしょほ場において、葉に斑状潜孔を伴う虫害が確認された。葉肉内部には体長8mm程度の幼虫が確認され、九州大学の広渡博士へ同定依頼した結果、ヒルガオハモグリガ *Bedellia somnulentella* (Zeller) と判明した。

本種の1~2齢幼虫はヒルガオ科植物の葉に線状の潜孔を作り、3齢になると葉外に脱出して他の場所に淡褐色半透明の斑状潜孔を作る。幼虫は裏面から葉内に侵入し、糸状の糞を葉外に排出する。摂食時以外は、葉裏に張った糸上で静止している。繭は作らず、蛹は葉裏に張った糸に尾突起をかけてぶら下がる。成虫は体長6.6~7.5mmで、前翅は茶褐色で細長く、後翅は被針形で長い縁毛を持つ。

(中央農試)

(9) ピーマンのガンマキンウワバ (新寄主)

令和6年8月に石狩地方のハウス栽培のピーマンで葉の食害が確認され、当該箇所には体長約3cm程度のチョウ目の幼虫を確認した。当該個体を採取および室温で飼育したところ、ウワバ類の成虫が得られた。羽化した個体の前翅の銀紋が γ 状であり、後翅の外縁部の黒褐色部と内側の明るい部分の境界が明瞭で翅脈が黒いなどの外部形態の特徴から、ガンマキンウワバ *Autographa gamma* (Linnaeus) と同定された。本種はてんさい、キャベツ、レタス、にんじんなどの作物や野菜、アルファルファ、アカクロバなどの牧草等、様々なものを食害する。道内においては、成虫は年3回発生し、ピークは6月、8月、9~10月であるとされている。

(中央農試・住友化学(株))

(10) ねぎの苗立枯病 (病原の追加)

平成30年3月、渡島地方のハウス栽培ねぎ(育苗期・地床育苗・播種1ヶ月後)で、不出芽および出芽後の立ち枯れ症状が発生した。病変部から分離した糸状菌の菌糸幅は7.2~10.4(平均8.7) μ m、核数は4~14個、菌糸は分岐を有し、分岐部がくびれ、分岐部付近に隔壁を有した。分離菌は *Rhizoctonia solani* Kühn AG-1~5の標準菌株のうちAG-2-1と高頻度、AG-2-2 IVと低頻度で融合した。分離菌は5~30°Cで生育し、25°Cおよび30°Cにおける菌糸伸長は11.6~11.7mm/24時間および0.4~0.6mm/24時間であった。分離菌のDNAからはAG-2-1特異的プライマーを用いたPCR法でDNA断片が増幅された。また、分離菌のrDNA-ITS領域の塩基配列を解析し系統解析を行った結果、分離菌株は *R. solani* AG-2-1・Subset1(培養菌叢に基づく分類では培養型II)に所属することが明らかとなった。地床育苗を想定して分離菌を播種と同時にネギに接種したところ、不出芽および出芽後の立ち枯れ症状が再現された。一方、チェーンポット育苗を想定して、分離菌を播種1ヶ月後のねぎに接種したとこ

ろ、葉鞘部の腐敗が生じたものの立ち枯れ症状は発生しなかった。接種による発病部からは接種菌が再分離された。以上のことから本症状をネギ苗立枯病と同定した。接種試験の結果から本症状は、地床育苗でのみ発生すると考えられた。我が国では、ネギ苗立枯病の病原として AG 未同定の *R. solani* が報告されているのみであり、*R. solani* AG-2-1・Subset1 による同病の発生は国内・道内で確認されていない。

(道南農試・(株)ホクサン)

(11) キヌアの苗立枯病 (新称)

令和3年10月、養液栽培ハウスのキヌアに、胚軸が細くなり徒長し、地際から倒伏枯死する苗立ち枯れが発生した。栽培中のキヌアの約10%に発生が認められたが、同ハウス内の同じ養液で栽培されていたあぶらな科やキク科の作物では本症状は見られなかった。病斑部の細胞内には多数の卵胞子が形成され、卵菌類が分離された。PDA培地等での培養形態や生育温度、リボゾーム遺伝子 ITS 領域の塩基配列により、*Aphanomyces cochlioides* Drechsler および *Aphanomyces* sp. と同定された。養液栽培条件及び育苗土を使用したポット栽培でキヌアを播種し分離菌株を接種したところ、原病徴が再現されるとともに罹病部分に卵胞子形成が確認され、接種菌が再分離された。*Aphanomyces* 属菌によるキヌアの病害は国内外の養液栽培および土耕栽培のいずれでも報告がないことから、本病をキヌア苗立枯病 (新称) として提案した。

(道総研・大阪公立大学大学院農学研究科)

(12) せんきゅうのナミハダニ (新寄主)

令和6年8月、十勝地方の露地栽培のせんきゅうにおいて葉がかすり状に退色する症状が発生した。中には葉が褐変・枯死したり、クモの巣のような糸で覆われる株も見られた。葉裏には黄緑色のハダニ類の寄生が認められ、成虫の体色と形態から本種をナミハダニ *Tetranychus urticae* Koch 黄緑型と同定した。本種は各種果樹、野菜、花卉など多数の植物に寄生することが知られている。

(十勝農試)

新たに発生を認めた病害虫

以下の(1)から(12)は4. 新たに発生を認めた病害虫の番号に対応する。

(1)小麦および大麦のクビアカクビホソハムシ



(2)大豆のダイズクロハモグリバエ



(3)らっかせいのアズキノメイガ



(4)大豆、小豆、べにばないんげんのホソヘリカメムシ



(5)べにばないんげんのマメノメイガ



(6)小豆のマイコセントロスポーラ斑点病



(7)小豆の茎腐細菌病



(8)かんしょのヒルガオハモグリガ



(9)ピーマンのガンマキンウバ



(10)ネギの苗立枯病



(11)キヌアの苗立枯病



(12)せんきゅうのナミハダニ



V 令和6年度主要病害虫発生程度別面積及び防除面積

作物名	病害虫名	発生面積		被害面積		発生程度別面積 (ha)					防除面積 (ha)		概評	
		面積 (ha)	率 (%)	面積 (ha)	率 (%)	無	少	中	多	甚	実面積	延面積	初発期	発生量
水稻 93,300 ha	葉いもち	256	0.3	79	0.1	93,044	177	31	48	0	91,199	218,554	並	並
	穂いもち	235	0.3	79	0.1	93,065	156	31	48	0	92,835	227,290	やや早	並
	紋枯病	18,210	19.5	1,218	1.3	75,090	16,992	1,184	34	0	18,966	21,943	並	並
	縞葉枯病	1,638	1.8	23	0.0	91,662	1,615	23	0	0	51,076	74,275	-	やや多
	ばか苗病	720	0.8	45	0.0	92,580	675	17	28	0	93,245	93,394	-	並
	苗立枯病	1,074	1.2	190	0.2	92,226	884	190	0	0	65,121	73,053	-	並
	種子伝染性細菌病	107	0.1	0	0.0	93,193	107	0	0	0	93,256	93,256	-	並
	ニカメイガ	777	0.8	0	0.0	92,523	777	0	0	0	43,738	76,653	並	並
	セジロウンカ	1,940	2.1	0	0.0	91,360	1,940	0	0	0	91,166	183,052	早	並
	ヒメトビウンカ	9,809	10.5	230	0.2	83,491	9,579	230	0	0	87,672	183,312	やや早	やや少
	イネドロオイムシ	2,154	2.3	21	0.0	91,146	2,133	21	0	0	90,056	91,993	並	少
	アカヒゲ ホソミドリ カスミカメ	29,462	31.6	1,139	1.2	63,838	28,323	1,139	0	0	93,190	219,231	やや早	やや多
	イネミギワバエ	248	0.3	0	0.0	93,052	248	0	0	0	27,185	27,185	並	少
フタオビコヤガ	1,049	1.1	0	0.0	92,251	1,049	0	0	0	79,699	104,693	並	少	
秋まき小麦 132,300 ha	赤さび病	59,055	44.6	17,081	12.9	73,245	41,974	14,641	2,108	332	132,152	357,854	早	多
	うどんこ病	10,770	8.1	34	0.0	121,530	10,736	34	0	0	132,152	321,985	並	並
	雪腐病類	19,458	14.7	1,926	1.5	112,842	17,532	1,703	191	32	128,184	131,524	-	少
	眼紋病	8,159	6.2	1,527	1.2	124,141	6,632	1,489	38	0	32,297	32,297	-	やや多
	赤かび病	8,163	6.2	0	0.0	124,137	8,163	0	0	0	132,300	448,792	-	少
春まき小麦 (春まき) 17,660 ha	赤かび病	1,092	6.2	53	0.3	16,568	1,039	53	0	0	17,660	62,617	-	少
	ムギキモグリバエ	1,000	5.7	0	0.0	16,660	1,000	0	0	0	6,954	11,655	早	並
春まき小麦 (初冬まき) 824 ha	赤かび病	20	2.4	0	0.0	804	20	0	0	0	824	2,681	-	少
	ムギキモグリバエ	95	11.5	0	0.0	729	95	0	0	0	558	558	早	多

大豆 45,300 ha	べと病	8,057	17.8	0	0.0	37,243	8,057	0	0	0	22,119	25,880	並	やや少
	わい化病	7,142	15.8	183	0.4	38,158	6,959	175	8	0	45,300	77,637	-	やや多
	マメシクイガ	8,340	18.4	0	0.0	36,960	8,340	0	0	0	45,285	97,198	やや早	やや少
	食葉性 鱗翅目幼虫	10,898	24.1	283	0.6	34,402	10,615	258	25	0	40,602	71,142	やや早	並
	タネバエ	1,372	3.0	68	0.2	43,928	1,304	34	34	0	44,051	44,051	-	多
小豆 20,900 ha	菌核病	1,128	5.4	3	0.0	19,772	1,125	3	0	0	20,490	63,699	並	やや少
	灰色かび病	1,937	9.3	8	0.0	18,963	1,929	8	0	0	20,856	63,885	並	やや少
	茎疫病	248	1.2	41	0.2	20,652	207	41	0	0	3,348	4,583	-	やや少
	落葉病	340	1.6	0	0.0	20,560	340	0	0	0	0	0	-	並
	食葉性 鱗翅目幼虫	4,107	19.7	186	0.9	16,793	3,921	186	0	0	20,900	31,066	やや早	並
菜豆 5,450 ha	菌核病	274	5.0	0	0.0	5,176	274	0	0	0	5,097	15,457	やや遅	少
	灰色かび病	458	8.4	34	0.6	4,992	424	34	0	0	5,450	16,338	並	やや少
	黄化病	85	1.6	0	0.0	5,365	85	0	0	0	5,450	7,558	-	並
	タネバエ	13	0.2	0	0.0	5,437	13	0	0	0	5,450	0	-	少
ばれいしょ 48,500 ha	疫病	1,578	3.3	0	0.0	46,922	1,578	0	0	0	48,500	389,909	やや遅	少
	塊茎腐敗	2,097	4.3	0	0.0	46,403	2,097	0	0	0	48,500	389,909	-	少
	軟腐病	8,547	17.6	970	2.0	39,953	7,577	820	150	0	48,500	179,810	-	並
	黒あし病	1,163	2.4	15	0.0	47,337	1,148	0	15	0	38,475	38,475	-	並
	そうか病	13,787	28.4	3,641	7.5	34,713	10,146	2,656	806	179	38,563	38,563	-	やや多
	粉状そうか病	1,646	3.4	0	0.0	46,854	1,646	0	0	0	3,013	3,013	-	少
	アブラムシ類	6,202	12.8	9	0.0	42,298	6,193	9	0	0	48,500	145,451	早	少
てんさい 51,200 ha	褐斑病	44,511	86.9	15,975	31.2	6,689	28,536	13,068	2,497	410	51,200	355,723	早	多
	根腐病 (黒根病を含む)	2,713	5.3	54	0.1	48,487	2,659	54	0	0	50,999	97,024	-	少
	そう根病	10	0.0	0	0.0	51,190	10	0	0	0	0	0	-	少
	黄化病 (西部萎黄病)	752	1.5	0	0.0	50,448	752	0	0	0	49,932	128,515	-	少
	ヨトウガ (第1回)	10,107	19.7	441	0.9	41,093	9,666	441	0	0	51,200	86,837	並	並
	ヨトウガ (第2回)	9,206	18.0	374	0.7	41,994	8,832	374	0	0	51,200	81,736	並	やや多
	テンサイ モグリハナバエ	468	0.9	0	0.0	50,732	468	0	0	0	49,642	77,333	並	並

たまねぎ 14,900 ha	白斑葉枯病	2,367	15.9	8	0.1	12,533	2,359	8	0	0	14,900	103,855	並	少
	軟腐病	3,868	26.0	18	0.1	11,032	3,850	18	0	0	14,900	116,928	-	少
	乾腐病	1,341	9.0	0	0.0	13,559	1,341	0	0	0	0	0	-	少
	タマネギバエ、 タネバエ	575	3.9	1	0.0	14,325	574	1	0	0	6,020	6,437	-	少
	ネギアザミウマ	13,985	93.9	639	4.3	915	13,346	531	108	0	14,900	110,648	早	やや少
	ネギハモグリ バエ	1,978	13.3	59	0.4	12,922	1,919	59	0	0	14,357	71,136	やや早	やや少
ねぎ 576 ha	さび病	118	20.5	0	0.0	458	118	0	0	0	552	1,976	-	並
	ネギアザミウマ	413	71.7	98	17.0	163	315	89	9	0	576	4,383	並	並
	ネギコガ	0	0.0	0	0.0	576	0	0	0	0	545	1,731	-	-
	ネギハモグリ バエ	39	6.8	0	0.0	537	39	0	0	0	545	2,256	-	-
ながいも 1,790 ha	アブラムシ類	11	0.6	0	0.0	1,779	11	0	0	0	688	3,626	-	-
にんじん 4,281 ha	黒葉枯病	417	9.7	16	0.4	3,864	401	16	0	0	4,088	13,166	-	少
だいこん 2,632 ha	軟腐病	827	31.4	135	5.1	1,805	692	87	48	0	2,385	7,680	-	並
	キスジ トビハムシ	613	23.3	10	0.4	2,019	603	10	0	0	2,632	8,101	-	やや少
キャベツ 1,044 ha	コナガ	562	53.8	25	2.4	482	537	25	0	0	1,044	6,681	早	やや少
	ヨトウガ	229	21.9	4	0.4	815	225	4	0	0	1,044	5,135	並	少
ブロッコリー 3,230 ha	コナガ	2,324	72.0	170	5.3	906	2,154	170	0	0	3,230	14,002	早	少
	ヨトウガ	1,135	35.1	45	1.4	2,095	1,090	45	0	0	3,230	10,784	並	少
りんご 512 ha	モニリア病	3	0.6	0	0.0	509	3	0	0	0	512	1,060	並	並
	黒星病	10	2.0	0	0.0	502	10	0	0	0	512	4,991	並	少
	斑点落葉病	39	7.6	0	0.0	473	39	0	0	0	512	2,534	やや早	少
	腐らん病	512	100.0	95	18.6	0	417	82	13	0	512	1,328	-	多
	ハマキムシ類	20	3.9	0	0.0	492	20	0	0	0	512	2,343	早	少
	モモシンクイガ	43	8.4	1	0.2	469	42	1	0	0	512	2,357	やや早	並
	ハダニ類	29	5.7	3	0.6	483	26	3	0	0	512	1,520	並	少
	キンモンホソガ	69	13.5	0	0.0	443	69	0	0	0	512	1,668	並	やや少

VI 侵入調査事業

近年の気候変動、人やモノの移動の増加を背景として、有害動植物の侵入・まん延リスクが増加しているなか、重要病害虫が万が一国内の未発生地域に侵入した場合、農業生産に重大な損害を与え、農産物の輸出を阻害するおそれがある。こうしたことから、重要病害虫の侵入を早期に発見し、速やかに的確な防除を実施するため、令和4年5月の植物防疫法改正により、全国で斉一的な調査を実施する侵入調査事業が同法に位置づけられ、本道においても令和5年度から調査を開始した。

分類	調査対象有害動植物	作物の種類	調査地点数	確認数		
昆虫類	コドリングガ	りんご	3	0		
昆虫類	トマトキバガ	ばれいしょ、トマト	5	4,092		
線虫類	Meloidogyne enterolobii	トマト	8	0		
ウイロイド*	Columnea latent viroid (CLVd)			0		
ウイロイド*	Pepper chat fruit viroid (PCFVd)			0		
ウイロイド*	トマト退緑萎縮ウイロイド (TCDVd)			0		
ウイロイド*	Tomato apical stunt viroid (TASVd)			0		
ウイルス	Pepino mosaic virus (PepMV)			0		
ウイルス	Tomato brown rugose fruit virus (ToBRFV)			0		
ウイルス	Tomato mottle mosaic virus (ToMMV)			0		
ウイルス	Tomato leaf curl New Delhi virus (ToLCNDV)			0		
線虫類	カンキツネモグリセンチュウ			0		
線虫類	バナナネモグリセンチュウ			0		
線虫類	コロンビアネコブセンチュウ	ばれいしょ	32	0		
菌類	Thecaphora solani			0		
ウイロイド*	ジャガイモやせいもウイロイド (PSTVd)			0		
昆虫類	コロラドハムシ			0		
線虫類	ジャガイモシストセンチュウ			0		
線虫類	ジャガイモシロシストセンチュウ			0		
菌類	ジャガイモがんしゅ病菌			0		
細菌	火傷病菌			りんご	1	0
—	イネミイラ穂病菌その他の日本に産しない各種のイネの検疫有害動植物			いね	6	0
線虫類	テンサイシストセンチュウ			てんさい	16	0
昆虫類	ヘシアンバエ			むぎ	58	0
菌類	Ramularia collo-cygni	0				
細菌	スイカ果実汚斑細菌病菌	すいか	6	0		
細菌	インゲンマメ萎ちょう細菌病菌	だいず	26	0		
ウイルス	ウメ輪紋ウイルス	おうとう、ブルーン	3	0		

VII その他調査

病害虫発生予察事業の円滑な実施に向け次の調査を実施した。

調査名	協力機関	対象作物	対象病害虫名	調査依頼先（普及センター）
発生予察事業に係るりんご定点調査	道総研中央農試	りんご	モニリア病、黒星病、斑点落葉病、ハマキムシ類、ハダニ類、キンモンホソガ	後志農業改良普及センター北後志支所
りんご等のフェロモントラップ調査	道総研中央農試	りんご等	ハマキムシ類、モモシンクイガ、キンモンホソガ、コマスカシバ、スモモヒメシンクイ	空知農業改良普及センター 石狩農業改良普及センター石狩北部支所 後志農業改良普及センター北後志支所 胆振農業改良普及センター 上川農業改良普及センター 渡島農業改良普及センター 留萌農業改良普及センター南留萌支所

F 諸報告、情報連絡、協議会等

I 予察情報の発表状況

1 予報の発表状況

発表回数及び時期

第 1 号 (予察情報第 1 号)	長期予報	3 月 27 日
第 2 号 (" 第 3 号)	5 月予報	4 月 30 日
第 3 号 (" 第 7 号)	6 月予報	5 月 29 日
第 4 号 (" 第 10 号)	7 月予報	6 月 28 日
第 5 号 (" 第 17 号)	8 月予報	7 月 29 日
第 6 号 (" 第 20 号)	9 月予報	8 月 27 日

対象病虫害 指定および指定外のうち、各時期の主要病虫害

2 注意報の発表状況

発表時期及び内容

- 第 1 号 (予察情報第 2 号) 4 月 11 日
「トマトの育苗中からトマトキバガ発生に注意！葉の食害を認めたら速やかに防除を！」
- 第 2 号 (予察情報第 4 号) 5 月 17 日
「秋まき小麦の赤さび病が多発の恐れ！発生リスクの高い地域では次葉展開期からの防除を！」
- 第 3 号 (予察情報第 5 号) 5 月 21 日
「春まき小麦のムギキモグリバエが早発・多発！防除適期を逸しないように注意しよう！」
- 第 4 号 (予察情報第 11 号) 7 月 5 日
「てんさいの褐斑病が早発！防除開始時期が遅れないよう注意しましょう！」
- 第 5 号 (予察情報第 12 号) 7 月 10 日
「あぶらな科野菜のコナガが多発！薬剤抵抗性個体の発生に対応した防除を心がけよう！」
- 第 6 号 (予察情報第 13 号) 7 月 10 日
「小豆でマメアブラムシが急増！発生の多いほ場では、すみやかな防除を！」
- 第 7 号 (予察情報第 15 号) 7 月 23 日
「水稻のアカヒゲホソミドリカスミカメが多発 高温経過で加害が活発化の恐れ！基幹防除を適切に実施しよう！」
- 第 8 号 (予察情報第 16 号) 7 月 23 日
「いもち病が多発する可能性大！！基幹防除を徹底し、状況に応じて追加防除の検討を！」
- 第 9 号 (予察情報第 19 号) 8 月 21 日
「トマトキバガによるトマトの被害が各地で発生しています！葉の食害に注視し、見つけたら速やかに防除を！」

3 警 報 発表なし

4 特殊報

発表時期及び内容

- 第 1 号 (予察情報第 8 号) 6 月 10 日
「クビアカクビホソハムシの確認について」

5 月報の発表状況

発表回数及び発表時期

第 1 号 (予察情報第 6 号)	4 月月報	5 月 21 日
第 2 号 (" 第 9 号)	5 月月報	6 月 14 日
第 3 号 (" 第 14 号)	6 月月報	7 月 23 日
第 4 号 (" 第 18 号)	7 月月報	8 月 16 日
第 5 号 (" 第 21 号)	8 月月報	9 月 17 日
第 6 号 (" 第 22 号)	9 月月報	10 月 17 日

6 主要病害虫の発生概況
主要病害虫の発生概況（予察情報第23号） 10月30日

7 地区報 該当なし

8 発表方法

予察情報は、ホームページ（<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>）にて公表し、一層の周知を図るため、次の送付先にメールにて通知を行った。

なお、ホームページには、「病害虫発生予察情報」の他、「病害虫速報」、「巡回調査結果報告」、「BLASTAMによる葉いもち感染好適日」、「FLABSによるばれいしょ疫病初発予測」、「新発生病害虫」、「本年度特に注意を要する病害虫」、「イネドロオイムシ北の虫見番」、「発生予察用語の基礎知識」、「北海道病害虫防除所の業務概要」を掲載した。

〈送付先〉

国 関係：農林水産省消費・安全局植物防疫課、北海道農政事務所、北海道農業研究センター、横浜植物防疫所札幌支所、北海道開発局、東北農政局、JPP-NET 等

道 関係：道農政部関係各課、各総合振興局・振興局、各農業改良普及センター、道総研各農業試験場

市町村等：各市町村、各農業協同組合

関係団体：ホクレン、JA 北海道中央会、北海道農業共済組合、北海道農産協会、北海道農産物集荷協同組合、北海道植物防疫協会、日本植物調整剤研究協会北海道支部、クロープライフジャパン北海道支部、北海道農薬卸協同組合 等

その他：東北各県病害虫防除所 等

9 利用状況

本情報に基づいて、各地域において病害虫の発生時期・発生量の観察が実施され、防除の判断に寄与している。

II 病害虫防除指導通知

「北海道ジャガイモシストセンチュウ類防除対策基本方針に基づく土壌検診の実施並びに土壌検診及び植物検診の結果報告について（通知）」

（令和6年10月1日北病防第65号）

III 各種会議、研修等（道総研対応分含む）

1 発生予察事業実施計画及び成績検討会議等

以下の会議を開催または出席した。

事業実施計画検討会議	：令和6年 4月15日	web 開催
事業成績検討会議	：令和6年 12月13日	札幌市（第二水産ビル会議室）
農業試験会議害虫部会		
新規課題検討会	：令和6年 7月4～5日	札幌市（TKP 赤レンガ前）
成績会議	：令和7年 1月21日	web 開催
設計会議	：令和7年 3月6～7日	web 開催
農作物病害虫・雑草防除ガイドに関する打合せ	：令和6年 11月 8日	札幌市（プレスト1. 7）
北海道・東北地区植物防疫協議会	：令和6年 12月5～6日	宮城県仙台市（仙台合同庁舎）

2 北海道農業気象連絡協議会

第1回	：令和6年 3月27日	web 開催
第2回	：令和6年 4月26日	web 開催
第3回	：令和6年 5月29日	web 開催
第4回	：令和6年 6月28日	web 開催

- 第5回：令和6年 7月30日 web開催
- 第6回：令和6年 8月28日 web開催
- 第7回：令和6年 9月30日 web開催
- 第8回：令和6年 11月28日 web開催

3 中央研修会及び出席者

令和6年度病害虫防除所職員等中央研修
 令和6年12月17～20日（横浜植物防疫所）
 農政生産振興局技術普及課 上川農業試験場駐在 直井美幸
 農政生産振興局技術普及課 北見農業試験場駐在 飯田麻衣

4 道内研修会・技術指導等

美濃健一、「あたらしいリンゴ黒星病の防除対策について」（余市町）（2023. 8. 29）
 野津あゆみ、「疑似紋枯症状の特徴及び発生動向について」（沼田町）（2023. 12. 1）
 西脇由恵、「本年の病害虫発生状況および近年道内で新たに確認された気になる害虫」（札幌市）（2023. 12. 14）
 西脇由恵、「みどりの食料システム戦略に対応した防除技術」（札幌市）（2024. 2. 14）
 野津あゆみ、「近年道内で発生した新たな侵入病害虫」（札幌市）（2024. 2. 14）
 野津あゆみ、「令和5年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫」（札幌市）（2024. 3. 5）

4 道内研修会・技術指導等

山名利一、「畑作物の発生予察調査と病害虫防除について」（長沼町）（2024. 11. 14）
 西脇由恵、「本年の病害虫発生状況および今後の発生が気になる病害虫」（札幌市）（2024. 12. 16）
 野津あゆみ、「令和6年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫」（江別市）（2025. 2. 19）
 野津あゆみ、「令和6年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫」（札幌市）（2025. 2. 20）
 野津あゆみ、「令和7年に特に注意を要する病害虫」（札幌市）（2025. 2. 25）
 野津あゆみ、「令和6年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫」（web開催）（2025. 2. 26）
 小澤 徹、「令和7年に特に注意を要する病害虫」（訓子府町）（2027. 2. 27）
 東岱孝司、「令和7年に特に注意を要する病害虫」（幕別町）（2027. 2. 27）
 西脇由恵、「令和6年度に新たに発生した病害虫」「令和7年に特に注意を要する病害虫」（栗山町）（2025. 2. 27）
 長濱 恵、「令和7年に特に注意を要する病害虫」（当麻町）（2025. 2. 28）

IV その他情報及び業績報告

1 令和7年普及奨励、普及推進事項、指導参考事項、研究参考事項並びに行政参考事項

(1) 令和6年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫（指導参考事項）

2 研究論文、試験成績

3 口頭発表

(1) 山名利一. 簡易撮影装置と画像分類AIを利用したジャガイモYウイルス発病葉の簡易診断法. 北日本病害虫研究発表会（青森市）（2025. 2. 20-21）

4 専門雑誌記事

- (1) 病虫部予察診断グループ. 令和5年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫. 北農 91 (2), p. 37-52(2024)
- (2) 西脇由恵. 2025作物展望 病害虫. ニューカントリー1月号, p. 58-60(2025)
- (3) 佐々木太陽. 日本におけるクビアカクビホソハムシの新発生報告. 植物防疫 79(3), p. 135-138(2025)
- (4) 野津あゆみ. 令和6年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫. ニューカントリー 4月号, p. 14-15(2025)
- (5) 山名利一. バレイショの病害虫防除. 日本農業新聞
- (6) 野津あゆみ. 2025年要注意の病害虫. 農業共済新聞

5 北海道農薬指導士認定研修

区分	特別研修（新規認定）	一般研修（更新認定）
日程	令和7年2月7日	令和7年2月12日～3月12日
場所	北海道第二水産ビル	研修資料による自主研修
受講者	111名	310名
認定数	109名	310名
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農薬取締法 ・農薬一般 ・農薬の安全性評価 ・散布（施用）技術 ・毒物及び劇物取締法 ・病害概論 ・害虫概論 ・雑草概論と防除及び植物の生育調整 ・認定試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・農薬取締法に基づく規制の現状と今後について ・「みどりの食料システム戦略」KPI達成に向けた取組の進捗状況 ・農薬の安全・適正使用について

6 農薬販売届出件数（病虫害防除所受理分）

（令和6年度分）

区分	新規	変更	廃止
件数	2	75	6

7 マイナー作物等農薬登録試験実施概要
（除草剤）

実施年度	作物名	雑草名	農薬名	農薬種類名	使用量	使用回数
R6 （新規）	とうき	一年生雑草	ゴーゴースン乳剤	ペンディメタリン乳剤	200～300mL/10a	1回
R6 （新規）	せんきゅう	一年生広葉雑草	ベタナール乳剤	フェンメディファム乳剤	600mL/10a・水量80L	2回以内

G BLASTAMによる葉いもちの広域発生期の判定結果

- : 好適条件
- : 準好適条件
- ? : アメダスデータ欠測のため判定できず

振興局	空知										石狩				後志				桧山			渡島							
	沼田	深川	吉野	滝川	芦別	月形	美唄	岩見沢	長沼	浜益	厚田	石狩	新篠津	江別	余市	共和	倶知安	蘭越	黒松内	せたな	今金	うすら	江差	八雲	森	北斗	函館	木古内	
6月	15-16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	16-17	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
	17-18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	18-19	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	19-20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20-21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	21-22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	22-23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	23-24	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	24-25	-	-	●	●	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	●	?	-	-	-	●	-	-
	25-26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	26-27	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	27-28	-	○	-	○	○	●	●	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
29-30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7月	30-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	1-2	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	
	2-3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	
	3-4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	4-5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5-6	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	-	-	○	●	-	-	-	-	-	-	
	6-7	-	●	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
	7-8	●	●	-	●	●	○	-	-	-	○	-	-	-	●	-	-	-	-	-	○	●	-	●	-	●	-	-	
	8-9	○	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	9-10	●	-	-	-	●	-	○	-	●	-	●	○	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	-	
	10-11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	11-12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	12-13	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	13-14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	14-15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	15-16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	16-17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	17-18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	18-19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	
19-20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	●	-	-		
20-21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
21-22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-		
22-23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
23-24	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
24-25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
25-26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
26-27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
27-28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
28-29	●	●	●	●	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-		
29-30	●	-	-	●	●	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	●	?	-	-	-	-	-		
30-31	-	-	-	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
8月	31-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	1-2	●	-	●	-	●	●	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	2-3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	3-4	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	
	4-5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5-6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	6-7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	7-8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	
	8-9	-	-	●	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-	●	-	-	-	-	●	●	●	●	-	-	-	-	-	
	9-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

- : 好適条件
- : 準好適条件
- ? : アメダスデータ欠測のため判定できず

振興局 地点	胆振			日高			留萌					上川										オホーツク									
	伊達	厚真	穂別	鶴川	門別	新和	三石	遠別	初山別	羽幌	達布	留萌	幌糠	美深	名寄	下川	士別	朝日	和寒	比布	旭川	幌加内	江丹別	東川	美瑛	上富良野	富良野	上川	北見	美幌	
6月	15-16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	16-17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	○	-	-	●	○	○	-	-	○	-	-	
	17-18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	18-19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	●	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
	19-20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20-21	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	21-22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	○	○	-	-	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	●	○	-
	22-23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	23-24	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	24-25	-	-	-	-	-	●	●	○	-	-	-	-	●	○	○	○	○	-	-	○	-	●	○	-	○	-	-	-	-	-
	25-26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	26-27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	27-28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28-29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
29-30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7月	30-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	●	●	-	-	○	-	-		
	1-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	
	2-3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	-	-	-	
	3-4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	4-5	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5-6	-	-	●	-	-	●	●	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	
	6-7	-	-	●	-	-	●	○	●	●	●	-	-	-	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	7-8	-	-	-	-	-	●	-	●	●	-	-	-	-	●	-	-	-	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	8-9	-	-	-	-	-	-	-	●	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○	●	●	-	○	●	-	-
	9-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	●	○	-	-	-	-	○	●	-	-	-	○	-	-
	10-11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
	11-12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	○
	12-13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	○
	13-14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	●
	14-15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	15-16	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	16-17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	17-18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	18-19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	19-20	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-	-	●	●	-	-	-	●	-	-	-	-
	20-21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21-22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
22-23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
23-24	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	
24-25	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	
25-26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
26-27	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
27-28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
28-29	-	-	-	-	-	-	●	-	-	●	●	-	●	●	●	-	●	●	-	-	●	●	●	-	-	●	●	●	●	-	
29-30	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	●	●	●	●	-	-	●	○	●	-	●	●	●	-	●	●	●	●	●	-	
30-31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
8月	31-1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	1-2	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	
	2-3	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	3-4	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4-5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5-6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	6-7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	7-8	-	-	●	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	●	●	●	-	●	●	-	-	-	●	●	-
	8-9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
	9-10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

H 北海道農業試験会議において報告された以外の道内における新発生病害虫の記録

北海道で新たに発生が確認された病害虫については、主に道総研農業試験場から北海道農業試験会議（成績会議）において、「北海道において新たに発生が認められた病害虫」として報告しており、この記録を「北海道病害虫防除提要」の編纂作業の基礎資料としている。しかし、農業試験会議の成績書に記載されなくとも、学会などの公的な場で道内における新発生病害虫の確認が報告された場合、それを記録する必要がある。また、道内での発生記録が研究機関のほ場など限定的であった場合、後日一般ほ場での発生が確認されても、既に発生記録があることから「新発生」とならないものの、防除提要に記載できるよう記録しておく必要がある。

このため、農業試験会議の構成機関以外からの新発生病害虫の報告、限定的な記録はあるが一般ほ場での発生が確認された病害虫について、農作物有害動物発生予察事業年報において記載する。

また、病害虫の学名が変更された場合や、病原が追加された場合などについても同様に記載する。

1) トマトのウロコタマバエ（種の同定）

平成 22 年に余市町のハウス抑制作型トマトにおいて、摘心跡や側枝切除跡から茎部が茶から黒褐色に変色し亀裂が入る症状が発生し、新発生が確認されたウロコタマバエ属の一種 *Lasioptera* sp. について、*Lasioptera yoichiensis* Yukawa and Kim であると同定された。トマトの茎部に被害をもたらすタマバエ科の報告は国内では他にない。海外ではトマトやキュウリに類似症状を生じさせている同属の未同定種が報告されており、形態的には本種に似るが、DNA 解析では別のハプロタイプであることが判明した。

(九州大学)

令和6年度（2024年度）農作物有害動植物発生予察事業年報

令和7年（2025年）6月

発行 北海道病虫害防除所

〒069-1395

北海道夕張郡長沼町東6線北15号

（北海道立総合研究機構農業研究本部庁舎内）

Tel. 0123-89-2080

Fax. 0123-89-2082

URL <http://www.agri.hro.or.jp/boujosho>
